

目 次

語学科目

1. 英語	3
2. ドイツ語	14
3. フランス語	17
4. 中国語	19
5. スペイン語	22
6. ロシア語	24
7. 朝鮮語	24
8. イタリア語	25
9. 日本語	25

総合教育科目

1. 人文科学関係	27
2. 社会科学関係	27
3. 自然科学関係	28
4. 系列外科目	30

専門科目

哲学専攻	31
倫理学専攻	37
哲学・倫理学専攻共通科目	41
美学美術史学専攻	45
日本史学専攻	61
東洋史学専攻	67
西洋史学専攻	73
民族学考古学専攻	79
日本史学，東洋史学，西洋史学，民族学考古学専攻共通（選択科目）	83
国文学専攻	87
中国文学専攻	95
英米文学専攻	99
独文学専攻	117
仏文学専攻	123
文学科共通選択科目	131
図書館・情報学専攻	133
社会学専攻	145
心理学専攻	161
教育学専攻	169
人間科学専攻	177

全専攻共通科目	189
---------------	-----

諸研究設置科目

教職課程	219
言語文化研究所特殊講座	220
メディア・コミュニケーション研究所	222
外国語教育研究センター設置講座	239
情報処理教育室設置講座	242
国際センター夏季講座	245
国際センター設置講座	247
体育研究所設置講座	278
知的資産センター設置講座	286
日本語・日本文化教養センター設置講座	288

語 学 科 目

I 英語

英語 第Ⅱ (指定) (2) 木曜 2 限

現代アメリカの諸相を読む

講 師 有 賀 明 子

授業科目の内容：

ヨーロッパ・アジア各国の大学でも広く教科書として採用されている *All About America* のテキストを読む。「概観」、「歴史」に始まり、「経済」「環境」「文化」など全 12 章を読むことによって、アメリカの現状についての知識を得られるばかりでなく、多様な分野の英語表現を学ぶことができる。標準的な英語で記述されているので、全文を日本語に訳すのではなく、段落毎の要約とポイントとなる箇所へのコメントを中心に授業を進める。また、関連記事のプリント、ビデオなどを用いてより深い理解を目指す。

サブテキストに *Extensive Reader* を用いて多読とリスニングの訓練を行う。

テキスト：

- ・Douglas K. Stevenson, *All About America* (Macmillan Languagehouse, 1999)
- ・G. Flaherty ほか, *Extensive Reader Book 3* (成美堂, 2004)

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 3 限

時事関係の記事を読む

講 師 石 田 名 都 子

授業科目の内容：

英字新聞や専門紙の記事を主に読みすすんでいきます。言語表現を正確に読みとる他に、paragraph 構成や様々な reading strategies も同時に学びます。取り上げるトピックは、文化、政治経済、環境、福祉、IT、エネルギー、国際協力、スポーツなど多岐にわたり、up-to-date な情報を扱う予定です。Reading の他にトピックに関連した listening や writing も行います。これらの比率は Reading 関係 70 %, listening 20 %, writing 10 % の予定です。

テキスト：

- ・第 1 回目の授業時に指示します。新聞・雑誌からの切りぬき等もプリントにて配布予定。

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 4 限

時事関係の記事を読む

講 師 石 田 名 都 子

授業科目の内容：

英字新聞や専門紙の記事を主に読みすすんでいきます。言語表現を正確に読みとる他に、paragraph 構成や様々な reading strategies も同時に学びます。取り上げるトピックは、文化、政治経済、環境、福祉、IT、エネルギー、国際協力、スポーツなど多岐にわたり、up-to-date な情報を扱う予定です。Reading の他にトピックに関連した listening や writing も行います。これらの比率は Reading 関係 70 %, listening 20 %, writing 10 % の予定です。

テキスト：

- ・第 1 回目の授業時に指示します。新聞・雑誌からの切りぬき等もプリントにて配布予定。

英語 第Ⅱ (指定) (2) 金曜 5 限

科学を読む

講 師 勝 村 仁 子

授業科目の内容：

「教養」としての科学を英語で読む訓練を行なう。「人文社会系の文献ではあまり用いられない」と思われがちな自然科学の語彙が、最近では境界を越えて頻繁に現れるようになっている。この授業は、自然科学の英語に接することで、語彙の範囲を広げ、応用力のある語彙力、ひいては幅広く柔軟な読解力をつけることを目標とする。

テキスト：

- ・*Journal of the American Medical Association* の総論部分などから抜粋したプリント教材

参考書：

- ・授業内に必要に応じて紹介する

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 3 限

英字新聞を読む

講 師 熊 代 文 子

授業科目の内容：

英字新聞の記事を編纂したテキストを使用して、生きた英語を読むことに慣れることを目標とします。日本語の注釈は無いテキストなので、決して容易な内容ではありません。予習は求められませんが、その代わり、授業中に漫然と座っていることなく集中して取り組むことが要求されます。毎回、英和辞書を持参してください。(第 2 回の授業以降、辞書を持参していない場合、その回の出席点は半分に減らされることに合意してもらうことが、履修の条件となります。) 宿題は、前後期各 3 回、比較的平易なものを予定しています。

テキスト：

- ・Robert Hughes, *On the Record* (National Textbook Company)

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 4 限

英字新聞を読む

講 師 熊 代 文 子

授業科目の内容：

英字新聞の記事を編纂したテキストを使用して、生きた英語を読むことに慣れることを目標とします。日本語の注釈は無いテキストなので、決して容易な内容ではありません。予習は求められませんが、その代わり、授業中に漫然と座っていることなく集中して取り組むことが要求されます。毎回、英和辞書を持参してください。(第 2 回の授業以降、辞書を持参していない場合、その回の出席点は半分に減らされることに合意してもらうことが、履修の条件となります。) 宿題は、前後期各 3 回、比較的平易なものを予定しています。

テキスト：

- ・Robert Hughes, *On the Record* (National Textbook Company)

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 1 限

Sherwood Anderson を読む

講 師 黒 崎 真 由 美

授業科目の内容：

1920 年代のアメリカ文学を代表する重要な作家 Sherwood Anderson の短篇集 *The Triumph of the Egg* を読みます。英文の読解力養成が目標であるのはもちろんですが、文学作品の鑑賞をも心がけます。

テキスト：

- ・Sherwood Anderson, *The Triumph of the Egg* (研究社)

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 2 限

Reading American Nature Writing

講 師 黒 崎 真 由 美

授業科目の内容：

Reading and discussing in English, aiming at understanding the text without translating it.

テキスト：

- ・Gretel Ehrlich, *The Solace of Open Spaces* (Penguin Books)

英語 第Ⅱ (指定) (2) 月曜 2 限

英文読解

助教授 坂 本 光

授業科目の内容：

論説文を中心に、多様なテキストを読む。文の構成、論理の構成を追いつながり、テキストを正確に読み取る練習をする。またテキストの難易度に応じて、速読から熟読まで、柔軟に読み方を選択することも練習する。

テキスト：

- ・原則としてプリントにて配布する。スタート時のテキストは、Margaret Visser, *The Rituals of Dinner: The Origins, Evolution, Eccentricities, and Meaning of Table Manners* (1991)。学生の要望を取り入れながら、随時テキストを追加・変更して行く。

英語第Ⅱ（指定）(2) 火曜3限

BBC World News で学ぶイギリス社会

講師 佐藤 千津

授業科目の内容：

イギリス社会に関する様々な時事問題（歴史、政治、経済、言語、民族、宗教、教育など）について考えるなかで、英語運用能力（特にリスニングとリーディングのスキル）の向上をはかることが、この授業の目的です。授業では、BBC World のニュースを教材化したテキストを使用し、毎回ビデオのニュースを見ます。イギリス社会に関する具体的な事例を様々な角度から見て、いくつかのタスクをこなしていきます。また、異文化コミュニケーション能力としての英語という観点から、異文化理解とそのための教育についても考えてみたいと思います。

テキスト：

- ・ Sakae Onoda & Lucy Cooker, *BBC World: Understanding the News in English* (Kinseido, 2003)
- ・その他、イギリスの文化や社会に関する文献の一部を使います。

英語第Ⅱ（指定）(2) 火曜4限

BBC World News で学ぶイギリス社会

講師 佐藤 千津

授業科目の内容：

イギリス社会に関する様々な時事問題（歴史、政治、経済、言語、民族、宗教、教育など）について考えるなかで、英語運用能力（特にリスニングとリーディングのスキル）の向上をはかることが、この授業の目的です。授業では、BBC World のニュースを教材化したテキストを使用し、毎回ビデオのニュースを見ます。イギリス社会に関する具体的な事例を様々な角度から見て、いくつかのタスクをこなしていきます。また、異文化コミュニケーション能力としての英語という観点から、異文化理解とそのための教育についても考えてみたいと思います。

テキスト：

- ・ Sakae Onoda & Lucy Cooker, *BBC World: Understanding the News in English* (Kinseido, 2003)
- ・その他、イギリスの文化や社会に関する文献の一部を使います。

英語第Ⅱ（指定）(2) 水曜2限

言語と人間の様々ななかかわりを考える

講師 須藤 真季

授業科目の内容：

David Crystal の *English as a Global Language* の最新版を講読します。この著書の中で Crystal は、英語がいかにして世界語として台頭しつつあるかについて、歴史的・政治的・文化的背景などの観点から鮮やかに説明する一方、世界語としての英語の将来についても非常に示唆のある言及をしています。この本は英語にかかわる全ての人にあらゆる関心の扉を開けてくれることでしょう。

本講義の目標は二つあります。まず、語の意味を丹念に追うことによって英語を正確に読む訓練をするだけでなく、著者がなぜ別のではなく「その」語や文形式を用いたのか、そして英語は日本語を比べどのような構成（レトリック）で議論が展開されるのかなどの視点も加えて英文を読みたいと思います。そして、原文の内容とそれに対する自分の理解が等価になる「真の解釈」ができるようになることを目指します。

さらに、著者が主張したいことは何か、そこに問題点はないか、そしてなぜそう思うのか分析し、自分ならどう考えるかという問題意識を常にもちながら読む練習をしたいと思います。「自分のことば」

で考えながら読み、それを相手に伝える能力を身につけることが目標です。

テキスト：

- ・ David Crystal, *English as a Global Language* –Second edition (Cambridge University Press)

参考書：

- ・ David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language* (Cambridge University Press)

英語第Ⅱ（指定）(2) 曜日時限は後日揭示

英国から見た日本

講師 高木 眞佐子

授業科目の内容：

日本について書かれた雑誌の記事やテレビなどを通じて、日本のことについてどのように表現しているのか、或いは文化の違いなどに触れていきます。ディスカッション形式で進め、発表もしていただきますので、リサーチが必要になります。

教科書：

- ・特に指定しません。適宜プリントを配布します。

英語第Ⅱ（指定）(2) 曜日時限は後日揭示

英国の児童文学

講師 高木 眞佐子

授業科目の内容：

より多くのテキストに触れることを目的に、様々な時代の児童文学に目を通し、同時に批評にも触れていきます。

教科書：

- ・各授業の時に、次回までに読んでくるプリントを配布します。

参考書：

- ・瀬田貞二、猪熊葉子、神宮輝夫『英米児童文学史』（研究社出版、1971）

英語第Ⅱ（指定）(2) 水曜1限

「現代イギリスの名作を読む」

講師 高津 昌宏

授業科目の内容：

John Bayley の *Iris* (1998) を読む。*Iris* とはベイリーの妻であり、卓越した小説家であった *Iris Murdoch* のことである。彼女は晩年アルツハイマー病にかかり、夫妻は闘病生活を強いられた。だが、そのなかにあってベイリーは、文章を書くことで精神の安定を保ち、妻への愛を忘れずにいることができた。この書は、闘病の記録であるとともに、アイリスとの出会い、結婚生活を綴った回想録でもあり、何よりもアイリスへの愛の手紙だと言える。多くの有るベイリーの文章を味読していきたい。本年度はアイリスがアルツハイマーを発症する第一部 8 章から読み進めたい。

テキスト：

- ・ John Bayley, *Iris: A Memoir of Iris Murdoch* (ABACUS)

参考書：

- ・ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』（高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス）

英語第Ⅱ（指定）(2) 水曜2限

「現代イギリス小説を読む」

講師 高津 昌宏

授業科目の内容：

映画化された『アイリス』の著書として知られる John Bayley が、フェルメールの『赤い帽子の女』から着想を得て書き上げたポストモダン風中篇小説 *The Red Hat* (1997) を読む。これは軽いタッチの小説だが、「ロマン・ノワール」（暗黒小説）とも「間違いの喜劇」とも言える微妙な作風で、現代人の病理をあぶり出しているようにもみえる。著名な文芸批評家であるベイリーの巧みな小説作法を満喫したい。

テキスト：

- ・ John Bayley, *The Red Hat* (Welcome Rain Publishers)

参考書：

- ・ジョン・ベイリー『愛のキャラクター』（高津昌宏監訳、南雲堂フェニックス）

英語第Ⅱ(指定)(2) 水曜2限
現代イギリス短編小説を読む 助教授 高橋 宣也

授業科目の内容：

現代イギリスを代表する作家 Muriel Spark の代表的な短編を読んでいます。平凡な日常に潜む欲望や心の傷が繊細に描かれていますので、そうした細部を疎かにしないで汲み取ることを目指します。

テキスト：

・Muriel Spark, 『スパーク短編小説選』(朝日出版社)

英語第Ⅱ(指定)(2) 水曜4限
英字新聞を読む 講師 立石 弘道

授業科目の内容：

英字新聞を読めるようにする。英字新聞にはそれなりの文体、文法上のスタイルがあるので、まず前期はそれをマスターすることに重点を置く。次の段階として、政治、経済、社会、文化、スポーツ、天気予報等の各項目を教科書に従って読む。適時に、実際の up-to-date な記事を日本および英米の新聞の記事の抜粋を副教材として使用する。なお、できる限り BBC, CNN の報道番組から5分程度録画したものを、ビデオ使用を使用して聴解能力を高めたい。

テキスト：

・An Introduction to Newspaper English (北星堂)

参考書：

授業で必要に応じて指示する

英語第Ⅱ(指定)(2) 水曜5限
現代のアメリカを知る 講師 立石 弘道

授業科目の内容：

本授業の目的は現代のアメリカの様々な面を理解し認識を深めることである。テキストを読みながら、副教材として、適時新聞、雑誌等からの記事を使用する。またビデオも使用して理解を深める材料にしたい。

テキスト：

・American Customs and Manners (学生社)

参考書：

副教材として適時プリントを配布する予定。

英語第Ⅱ(指定)(2) 月曜1限
ラフカディオ・ハーンを読む 講師 千代田 友久

授業科目の内容：

この授業ではラフカディオ・ハーンの世界を読みしたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は Longman Dictionary of Contemporary English の四訂版を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。ハーンの世界に親しむとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

教科書：

未定

英語第Ⅱ(指定)(2) 月曜2限
サマセット・モームを読む 講師 千代田 友久

授業科目の内容：

この授業ではサマセット・モームの世界を読みしたいと思います。英英辞典を丹念にひきながら精読します。辞典は Longman Dictionary of Contemporary English の四訂版を使用します。授業に必ず持ってきて下さい。モームの世界に親しむとともに英英辞典を使いこなすことができるようにしたいと思います。

教科書：

未定

英語第Ⅱ(指定)(2) 月曜1限
英文の読解力の養成 講師 東田 敏夫

授業科目の内容：

人生、文化、コミュニケーション等を題材とした啓蒙的なエッセイを講読する。教材は比較的平明な英文(初級～中級程度)で書かれたものを使用する。授業は訳読形式で行うが、単なる英文和訳ではなく、内容理解を主眼とし文脈の流れを把握しながら、英文を速く正確に理解する訓練をする。

テキスト：

未定(現時点)

英語第Ⅱ(指定)(2) 月曜2限
英文の読解力の養成 講師 東田 敏夫

授業科目の内容：

人生、文化、コミュニケーション等を題材とした啓蒙的なエッセイを講読する。教材は比較的平明な英文(初級～中級程度)で書かれたものを使用する。授業は訳読形式で行うが、単なる英文和訳ではなく、内容理解を主眼とし文脈の流れを把握しながら、英文を速く正確に理解する訓練をする。

テキスト：

未定(現時点)

英語第Ⅱ(指定)(2) 火曜4限/水曜2限/水曜3限
アイルランド神話・伝説を読む 助教授 邊見 葉子

授業科目の内容：

アイルランドの神話・伝説のアンソロジーを、現代英語訳で読みます。物語の展開を正確かつスピーディーに把握できる英語力を養う一方、初期アイルランド文学の世界への理解を深めます。

テキスト：

・Jeffrey Gantz trans., *Early Irish Myths and Sagas* (Penguin Books, 1981)
けます。

英語第Ⅱ(指定)(2) 水曜1限
今日の世界問題—米国の対外戦略をめぐって
教授 松本 典久

授業科目の内容：

新聞の記事や論説を読みながら今日の世界問題を考えます。グローバリズム時代を生き抜くための国際的視点の形成を目標とします。題材は主として米国の外交および政経・文化問題です。出典は『ニューヨーク・タイムズ』『ワシントン・ポスト』『ウォール・ストリート・ジャーナル』『ロサンゼルス・タイムズ』『ポストン・グローブ』などを予定しています。

テキスト：

・プリント配布。A3, 年間10枚程度(授業の1,2週前までに配布)

参考書：

・拙著『日米比較文化論』(慶應出版), 同『アメリカの少数派芸術家たち』(明石書店)

英語第Ⅱ(指定)(2) 水曜2限
今日の世界問題—米国の大統領選をめぐって
教授 松本 典久

授業科目の内容：

新聞の記事や論説を読みながら今日の世界問題を考えます。グローバリズム時代を生き抜くための国際的視点の形成を目標とします。題材は主として米国の政治・経済・社会問題です。出典は『ニューヨーク・タイムズ』『ワシントン・ポスト』『ウォール・ストリート・ジャーナル』『ロサンゼルス・タイムズ』などを予定しています。

テキスト：

- ・プリント配布。A3, 年間 10 枚程度（授業の 1,2 週前までに配布）

参考書：

- ・拙著『日米比較文化論』（慶應出版），同『アメリカの少数派芸術家たち』（明石書店）

英語第Ⅱ（指定）(2) 月曜2限

イギリス小説講読

講師 三馬志伸

授業科目の内容：

イギリスを代表する女流作家 Jane Austen (1715-1817) の残した 6 篇の小説のうち、最も人気の高い作品である *Pride and Prejudice* (1813) を講読する。

テキスト：

- ・Jane Austen (James Kinsley ed.), *Pride and Prejudice* (Oxford World's Classics)

参考書：

- ・その都度指示する。

英語第Ⅱ（指定）(2) 水曜2限

American Short Stories

助手 吉田恭子(春学期)

助手 宮尾大輔(秋学期)

授業科目の内容：

〔春学期〕

アメリカの特産物、短編小説。20 世紀の名作のうち、さまざまなアンソロジーによく登場する代表作を読んでいきます。ヴァラエティー豊かな短編を選び出し、週におよそ一編のペースで読み進め、読む、書く、聞く能力の総合的向上を目指します。読解力、理解力、レポート構成力、文章力の練成が中心ですが、作品によっては、精読や和訳、および聞き取りの練習も行います。

テキスト：

- ・春学期はコピーテキストを使用。

英語第Ⅱ（選択）(2) 木曜1限

新聞記事を読み世界の問題を考え、映画の台詞も味わう

講師 有賀明子

授業科目の内容：

中級以上の知的な英文を読み、英語の読解力向上を目指すことがこの授業の主たる目的です。ニューヨーク・タイムズ紙から厳選したテキストを読むと、生命倫理、ビジネス、エイズ、環境、刑罰など多様な分野の問題が世界各国でどのように扱われているかが理解できます。テキストにとどまらず、関連記事のプリントも読んで知識を身につけていきましょう。

上記テキストを読了する頃、11 月から 12 月にかけての数週間ハスクリプトを精読した上で映画 *When Harry Met Sally*（邦題は『恋人たちの予感』）を鑑賞します。口語表現に触れ、音声面からも英語を学習しましょう。「男女間に友情は存在するか」というテーマを持つこの映画には気のきいたお洒落な表現が満載です。

テキスト：

- ・喜田、細川 編注、『ニューヨーク・タイムズ・リーダーズ』（英宝社、2004 年）
- ・佐々木恵理 編著、『恋人たちの予感』（松柏社、1997 年）

英語第Ⅱ（選択）(2) 木曜2限

アメリカ社会文化史を読む

講師 池田年穂

授業科目の内容：

テキストは、アメリカ社会について独立以前から 1990 年代に至るまでを歴史的かつ多角的に描いたもので、元々日本の大学の英語の授業用に書き下ろされたものです。アメリカの国家、国民、社会について、英語での情報を得ることが第 1 の目標です。テキストや適宜配布するプリントを読んでゆく中で、時代や国を異にする色々なシチュエーションに使える多様な英語表現や語彙を習得することが、

次の目標となります。

テキスト：

- ・『新版—アメリカ社会文化史』（南雲堂、2001 年、1900 円＋税）
- ・プリント（授業中に適宜配付します）

参考書：

- ・授業中に紹介してゆきます

英語第Ⅱ（選択）(2) 木曜3限

新聞記事 (*The Japan Times Weekly*) を読む

講師 池田年穂

授業科目の内容：

まず、テキスト本文とプリントを用いて、生きた時事的な英語を読めるようにすることが目標です。次に、現代社会の抱える様々な問題を英語で考えるのに必要な語彙力を養うことも目標にします。また、聴き取りや速読も、テキストの exercise や Further Readings の中で学んでゆきます。

テキスト：

- ・Harumi Takada ed., “News Break Advanced-The Japan Times Weekly を読む”（郁文堂、2004 年、1800 円＋税）
- ・プリント（授業中に適宜配付します）

参考書：

- ・授業中に紹介してゆきます

英語第Ⅱ（選択）(2) 水曜1限

ニュースの英語

講師 石黒太郎

授業科目の内容：

この授業では、ABC 放送のニュース番組を題材として作られた教材を用いて、聴きとりを中心に英語の練習をします。また最新の新聞記事を読んで、語彙力の養成も行ないます。

テキスト：

- ・「ABC World News 6」（金星堂、2004 年、1950 円）

英語第Ⅱ（選択）(2) 水曜2限

ヨーロッパ文化論の講読

講師 石黒太郎

授業科目の内容：

Christopher Dawson の著作を精読します。格調の高い英文をきちんと読む力を鍛えます。

テキスト：

- ・C. Dawson, *Understanding Europe*（南雲堂、1956 年、1500 円）

英語第Ⅱ（選択）(2) 水曜2限

リーディング

講師 勝村仁子

授業科目の内容：

通訳の訓練を取り入れたリーディングによって、総合的な読解力をつけることを目的とする。ただし、通訳養成を目的とした授業ではない。

テキスト：

- ・歴史、自然科学、音楽、美術など幅広い内容のものをを用いる予定であるが、最終的には、履修した学生の専攻を配慮して決めたい。

英語第Ⅱ（選択）(2) 金曜4限

音楽における異文化受容

講師 勝村仁子

授業科目の内容：

“music” という単語に “musics” とする複数形を認める辞典が増えつつあることから明かなように、世界には様々な種類の音楽が存在し、それらはグローバリゼーションの中で、複雑に交錯している。

この授業では、ウェールズ地方に入ったブラジルのサンバが、演奏を通してどのように文化的な存在理由を獲得していったかを論じた文献を読みながら、異文化受容について考えてみたい。

テキスト：

- ・ “Samba in Wales : making sense of adopted music”

英語 第Ⅱ (選択) (2) 木曜 1 限

Traveling the World 講 師 ゲーリング, リューベン M

授業科目の内容：

We are going to study about a number of countries around the world, and are going to explore a great many topics relating to life and tourism around the world. Students will be asked to discuss their topics in groups and then explain what they have done to the rest of the class.

教科書：

- ・ The text will be brought by the students.

参考書：

- ・ A good English-English dictionary. A good atlas.

英語 第Ⅱ (選択) (2) 木曜 2 限

Poetry in English 講 師 ゲーリング, リューベン M

授業科目の内容：

This class is for students who want to understand English better and at the same time learn some English pronunciation as well. For this purpose we are going to work with English poetry. We shall learn one long poem and also study a number of short ones.

教科書：

- ・ The teacher will distribute the text.

参考書：

- ・ A good English-English dictionary.

英語 第Ⅱ (選択) (2) 月曜 1 限

短編小説読解 助教授 坂 本 光

授業科目の内容：

基礎的な学力を身につけたのち、さらに英語の読解力をつけなければ、簡単な文章を大量に読み散らすことと、出来のよい文章を綿密に読むことの双方が必要である。多読の方は他の機会（新聞、雑誌、インターネットのウェブ・ページを読むことなど）にまかせるとして、この授業ではすぐれた短編小説を精読する。それによって英文読解力の向上に努めるとともに、卓越した言語表現を理解することの楽しみを実感する一助としたい。また進度に余裕がある場合には、可能な限り発表形式を取り入れる。

テキスト：

- ・ 現代英国を代表する小説家 A. S. Byatt が編纂した短編小説集 *The Oxford Book of English Short Stories* (Oxford University Press, 2003) を中心的なテキストとして用いる。このアンソロジーは作品の選択が秀逸であるだけでなく、編者による序文が極めてすぐれた短編小説論、入門への手引きとなっている。授業中に収録作品を読むだけでなく、加えて夏期休暇中の課題も各自がその中から選ぶことになる（収録作品に関しては <http://www.amazon.co.jp> などで検索し参照すること）。補助的なテキストは随時プリントにて配布する。

英語 第Ⅱ (選択) (2) 月曜 1 限／月曜 2 限

Culture of the English Language 講 師 佐 藤 ジャックリーヌ

授業科目の内容：

“Culture of the English Language”

What is culture? This concept can be defined in many different ways. If we talk about culture and the English language, we have an even broader area to discuss. Some things we say (or write) in America are probably unacceptable in India or the Philippines or even Britain. And yet we all speak the “same” language.

This course will thus concentrate on how English became the language it is today. In order to understand just exactly what English is,

we will study its roots and history. We will also take a look at the kinds of Englishes there are today and see how this could be compared with each other and other languages. And in so doing, we will also be concerned with what language is and how it is learned.

Students will be expected to read, do a bit of research and presentations in English.

テキスト：

No required text

英語 第Ⅱ (選択) (2) 木曜 3 限／木曜 4 限

パラグラフ英作文 講 師 佐 藤 光 重

授業科目の内容：

Academic Writing の基礎となる 8 種類のパラグラフ (Cause and Effect, Comparison and Contrast, Process and Direction など) の書き方を身につける。

テキスト：

- ・ Jimbo Hisatake and Richard B. Murto eds., *Paragraphs That Communicate* (Macmillan, 1990).

参考書：

- ・ Dave Willis and Jon Wright, *Collins Cobuild Basic Grammar* (Harper Collins, 1995).

英語 第Ⅱ (選択) (2) 火曜 2 限／火曜 3 限

Think, Write and Discuss in English! 講 師 佐 藤 理 佳

授業科目の内容：

“Think, Write and Discuss in English!”

‘Are you happy with your English?’ The aim of this class is to help the student enliven his/her English which has been neatly memorized and stored in his/ her brain but has not had an opportunity to be practiced in real life yet. We shall try to achieve this aim in a variety of ways, including group discussion, essay writing and speech making.

受講上の注意：

Assessment will be based on regular attendance, active participation in English, five reports during the year and a final examination.

テキスト：

- ・ Roland Hindmarsh, ed., *Liar! and Other Modern Stories* (Cambridge University Press, 1979)

英語 第Ⅱ (選択) (2) 水曜 1 限

Understanding Current Issues in Japan and the World through the Mirror of the Past 助教授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容：

During this course we will be examining a number of issues related to the news, particularly those involving Japan. In so doing it is expected that students will be able to expand both their understanding of the world as well as extending the use of their English language ability. Students will be expected to give presentations according to a schedule, which I will announce.

テキスト：

- ・ Iwamasa Shinji et al. *Different Voices-Understanding Current Issues in Japan and the World* (日本と世界の情勢を知る 12 の記事) 金星堂 1800円.
- ・ Photocopies will be provided to supplement this text.

参考書：

- ・ A good English-Japanese/Japanese-English dictionary will be required.

英語 第Ⅱ (選択) (2) 水曜 1 限

人間の意識における言葉 助教授 高 橋 宣 也

授業科目の内容：

20世紀半ばに活躍した詩人オーデンの講演録を読みます。言葉と

いうものが人間の意識や世界の把握の中でどういう性格を持っているかを述べたものです。かなり骨のある文章ですが、英語や言葉一般について自覚的な見方をする修練となるでしょう。

テキスト：

- ・ W. H. Auden, *Words and the Word* (鶴見書店)

英語第Ⅱ(選択)(2) 月曜2限

Integrated English 講師 竹中 弥生

授業科目の内容：

語学は読む、書く、聞く、話す、の四つのスキルを其々バランスよく身につけ、充分な語彙と正しい文法に裏付けられて初めて自由に使えるようになる。この授業では、専門課程で必要となる原書講読のために必要な高度な言語表現のドクカイリョクを身に付けると同時に、授業で学んだ表現、単語などを正しい文章(話すときの文章を含む)の中で使えるように、またそれらが使われたときに聞き取れるよう、訓練する。

テキスト：

- ・ *New Headway-Advanced* (Oxford University Press)

参考書：

- ・ Michael Swan, *Practical English Usage* (Oxford University Press)

英語第Ⅱ(選択)(2) 月曜2限

INTERNATIONAL ENGLISH 講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

This course will focus on a variety of topics related to travel and culture in Asia, Europe, Africa, North, South and Central America, Australia and the Pacific. Students will develop practical communication skills through English speaking, listening, reading and writing activities, focussing on travel and cross cultural studies.

Small group presentations each semester will involve worksheet preparation, presenting information and opinions in English about foreign travel destinations and foreign culture.

テキスト：

- ・ All material will be provided by the course instructor.

英語第Ⅱ(選択)(2) 月曜4限

FILM FESTIVAL 講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

This course will focus on social and political issues presented in English language movies. Class activities will include watching movie scenes, focussing on setting, plot, characters, and themes, discussing relevant social and political issues, and reading movie reviews.

This course will also enable students to develop skills for oral audiovisual presentations using English language movie scenes. Presentation skills activities will include data collection, note taking, worksheet preparation, selecting movie scenes, and developing speaking and listening skills.

Student presentations each semester will involve working with a partner in worksheet preparation, selecting movie scenes, presenting information and opinions by speaking naturally using brief notes, and responding to questions from other students.

テキスト：

- ・ All material will be provided by the course instructor.

英語第Ⅱ(選択)(2) 月曜5限

THEME MUSIC 講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

The focus of this course will be popular music from the 1960s to the 2000s, including rock, folk, pop, rap and reggae. We will be listening to the music of many composers, and studying social, political and cultural themes expressed in their songs.

Class activities will include listening, video viewing, discussion, and presenting information and opinions in English. We will also be developing presentation skills, including data collection, note taking, worksheet design, and speaking using brief notes.

Student presentations each semester will involve working with partners in selecting a song, preparing a worksheet, presenting information and opinions in English, and responding to questions from other students.

テキスト：

- ・ All material will be provided by the course instructor.

英語第Ⅱ(選択)(2) 金曜2限

EXPRESS YOURSELF IN ENGLISH

講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

AIM & FOCUS

This course is about expressing oneself in English. The course involves reading, creative writing and multimedia presentation. The aim of the course is to help students improve the way they formulate and communicate their personal ideas. At the end of the course, students should be able to express themselves with ease, logic and clarity.

METHODOLOGY

The course will use a step-by-step method. Students will learn the various elements of creative writing and multimedia presentation through pre-made samples of writing and other sketches.

テキスト：

- ・ The course will use a variety of sources. The instructor will provide materials for class activities.

英語第Ⅱ(選択)(2) 金曜3限

INTERACTIVE COMMUNICATION

講師 ベデロ, サイモン

授業科目の内容：

AIM & FOCUS

This course is about English communication skills. The focus is on speaking, listening and presentation. The course is designed to help students improve the way they can interact with people in English. At the end of the course, students should be able to hold and initiate English conversation with confidence and ease.

METHODOLOGY

The course will use pre-made sketches for the students to learn key language structures. Topics for class discussion are selected to help students feel confident in expressing their own opinion. News articles and video documentaries will also be used.

テキスト：

- ・ There is a textbook for this class. Tadashi SHIOZAWA and Thomas L. SIMMONS. *ACTIVATOR: Building Confidence in Communication*. (KINSEIDO. Price: ¥1900)
- ・ The instructor will also give other materials (handouts).

英語第Ⅱ(選択)(2) 水曜4限

総合英語

講師 星 美季

授業科目の内容：

毎回授業の前半では、Authentic English に慣れるように、社会の様々なトピックを扱ったビデオ教材を使い、リスニング、語彙、表現などの練習問題をしながら進めます。後半は、様々なジャンルの英語を扱ったテキストをベースにしながらリーディングストラテジーを学び、リスニングの向上を目指します。他にもタイムやニューズウィークの記事や、新聞等も補助教材として随時使用します。

秋学期には国際言語としての英語を手段として、自己表現を目的とするパラグラフライティングを加えます。

テキスト：

- ・『マルチプル・ヴォイスー世界の話あれこれ』朝日出版社 九頭見一士、川口悦、夏目博明、北川依子編著

参考書：

- ・初回の授業で提示します。

英語 第Ⅱ（選択）(2) 火曜 3 限
Contemporary Topics to Think About I

講 師 松 原 美智子

授業科目の内容：

The purpose of this course is to improve the students four language skills - reading, writing, listening and speaking - so that they may be better able to express their thoughts in English. Subjects chosen will cover a wide range of interest for all, from social to scientific to humanistic.

テキスト：

- ・Textbook will be announced prior to or at the first class, and may also be supplemented with additional materials, including videotapes, newspaper articles and the like, when appropriate.

英語 第Ⅱ（選択）(2) 火曜 4 限
Contemporary Topics to Think About II

講 師 松 原 美智子

授業科目の内容：

The purpose of this course is to introduce students to various topics of interest and to enable them to express their thoughts in English. Essentially, the content of the course will be similar to that of Contemporary Topics to Think About I, but in this course focus will be placed on listening and speaking rather than reading and writing.

テキスト：

- ・Textbook will be announced prior to or at the first class and may also be supplemented with additional materials when appropriate.

英語 第Ⅱ（選択）(2) 火曜 5 限
Contemporary Topics to Think About III

講 師 松 原 美智子

授業科目の内容：

The purpose of this course is to introduce students to various topics of interest and to enable them to express their thoughts in English. Essentially, the content of the course will be similar to that of Contemporary Topics to Think About I, but in this course focus will be placed on listening and speaking rather than reading and writing.

テキスト：

- ・Textbook will be announced prior to or at the first class and may also be supplemented with additional materials when appropriate.

英語 第Ⅱ（選択）(2) 金曜 2 限
British Studies

講 師 マラバーン、キース

授業科目の内容：

The field of study is British people and aspects of their culture. The class will practise a range of study skills (such as reading, vocabulary building, listening to short lectures and videos, and note-taking) as they are introduced to British life.

テキスト：

- ・Materials to be provided by the teacher.

英語 第Ⅱ（選択）(2) 金曜 3 限
Speaking Up

講 師 マラバーン、キース

授業科目の内容：

This course looks at contemporary issues both global topics and

others closer to home. Many of these topics will be chosen by class members themselves. Students will use all of their language skills, but there will be a clear emphasis on discussion and analysis of the issues. Short comprehension tasks, speaking activities, vocabulary development and project work will form the basis of classwork.

テキスト：

- ・Day & Yamanaka, *Impact Issues*, (Longman, 1999)

英語 第Ⅱ（選択）(2) 木曜 4 限
Intermediate Oral Communication

講 師 ラッセル、ジョン

授業科目の内容：

This course aims to improve the communicative abilities of the students. There will be some listening, reading and grammar based exercises, but the emphasis will be on speaking. The classes will be conducted entirely in English and full participation in group and pair-work activities is expected. Students are required to obtain a copy of the textbook which will form the basis of most lessons.

テキスト：

- ・*English File Upper-Intermediate Student's Book* by Oxenden, & Latham-Koenig. Published by Oxford University Press.

英語 第Ⅱ（選択）(2) 木曜 5 限
Intermediate Oral Communication

講 師 ラッセル、ジョン

授業科目の内容：

This course aims to improve the communicative abilities of the students. There will be some listening, reading and grammar based exercises, but the emphasis will be on speaking. The classes will be conducted entirely in English and full participation in group and pair-work activities is expected. Students are required to obtain a copy of the textbook which will form the basis of most lessons.

テキスト：

- ・*English File Upper-Intermediate Student's Book* by Oxenden, & Latham-Koenig. Published by Oxford University Press.

Ⅱ ドイツ語

ドイツ語第Ⅰ（初級）(2) 月曜 5 限

講 師 中 村 仁

授業科目の内容：

この授業では、初級文法の学習を通して、易しいドイツ語の文章を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりできるようになることを目標とします。

テキスト：

- ・開講時に指示します。

ドイツ語第Ⅱ (2) 木曜 5 限

ドイツ語の今

講 師 板 倉 歌

授業科目の内容：

この授業で最初に扱うテーマは、「ドイツ語の歴史」です。ドイツ語と英語の歴史的な関係にも注目します。

第2のテーマは、「現代ドイツ語の使用状況」です。若者ことばや英単語の濫用、方言について勉強します。可能であれば、ドイツ、オーストラリア、スイスといったいわゆるドイツ語圏の話から飛び出して、EU という観点から、EU 内に点在するドイツ語話者の地域についても触れたいと思います。

なお、毎回 30 分程度、文法・作文練習や聴解練習にあてます。

テキスト：

- ・その都度指示します。

授業の計画：

- ・ドイツ語の歴史（エッセイ等）
 - ・現代ドイツ語の使用状況（エッセイ、新聞・雑誌記事）
 - ・E U 内のドイツ語（雑誌記事等）
- 詳細は授業内で相談します。

ドイツ語第Ⅱ(2) 水曜3限

ベルクのオペラ『ヴォツェック』 講 師 内 田 俊 一

授業科目の内容：

ゲオルク・ビュヒナー (Georg Büchner 1813-37) の原作にアルバン・ベルク (Alban Berg 1855-1935) が曲をつけたオペラ『ヴォツェック』(Wozzeck, 1914-21, 1925 初演) を、教科書用に編集したテキストを読みます。同時に DVD を使って、このオペラを鑑賞します。

テキスト：

- ・Rupprechter/ 須永共編『ヴォツェック』(同学社, 1600円)

ドイツ語第Ⅱ(2) 水曜4限

ドイツ語の歌を歌ってみよう 講 師 内 田 俊 一

授業科目の内容：

ドイツの民謡や簡単な歌曲を鑑賞し、歌詞を原語で読み、できれば歌ってみたいと思います。

ドイツ民謡の歌詞だけを変えて、日本で唱歌として歌われてきたものは、かなりあります。メロディーを聞けば、ああ、あの曲かとわかるでしょう。

また「野ばら」や「菩提樹」、「ローレライ」、シューベルトやブラームスらによる「子守歌」等々のドイツ歌曲は、誰でも知っているでしょう。

そのような歌の数々を、CD やテープ、ビデオ等を使って鑑賞し、ドイツ語の歌詞を読んで味わい、できれば歌ってみることにしたいと思います。取り上げる曲については、なるべく受講者の希望に添いたいと思っています。アンケートをとって、要望のあったものは、可能な限り取り上げるつもりです。

テキスト：

- ・志田他編『ドイツの歌と民謡』(第三書房, 1000円)

ドイツ語第Ⅱ(2) 月曜1限

ドイツ語圏の現代を学ぶ 講 師 鷄 殿 博 喜

授業科目の内容：

ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス)の環境意識、言語問題、宗教問題を学ぶことによって、今の時代についての問題意識を高めたい。

テキストの内容については知りうる限りの説明を行いたい。また読解の基礎になる文法の説明もできるだけ丁寧にするつもりである。

テキスト：

- ・『テーマで学ぶドイツ語圏の社会』第2編(白水社)

ドイツ語第Ⅱ(2) 月曜2限

生きることについて考える 講 師 鷄 殿 博 喜

授業科目の内容：

戦後のドイツ文学のなかに独自の地位を占めた女流作家ルイーゼ・リンザーのエッセイを読みながら、生きることについて考えてみたい。

書かれているドイツ語は平易であるが、必要に応じてできるだけ丁寧に文法的な説明もするつもりである。できれば内容についての積極的な意見交換もしたい。

テキスト：

- ・『いかに生きるべきか』(白水社)

ドイツ語第Ⅱ(2) 木曜4限

フランツ・カフカの世界 講 師 川 島 建太郎

授業科目の内容：

カフカが開示する世界はたいへん異質でこの上なく奥深い。彼の文章は比較的読みやすい。文法を一通り習い終えれば、辞書を使ってそこそこ読んでいける程度のものである。春学期には、カフカの短編小説“Ein Hungerkünstler”を、冬学期には同じく“Josefine, die Sängerin oder das Volk der Mäuse”を読む。初級文法の復習を随所におりまぜながら、着実なペースで進む予定である。ドイツ語を読む力をつけることが第一の目的であるが、折をみて、作品解釈のためのヒントも提供してゆきたい。

上の二編ではいずれも、20世紀における文学の(不)可能性がテーマであるが、文学とそれをとりまく環境としての社会との間の緊張関係が、痛ましいほどに、けれども非常にユーモラスに書き込まれている。そのため、カフカ作品を解釈するためには20世紀初頭のメディア史や社会史の知識が有用である。具体的には、写真、映画、グラモフォン、都市、ユダヤ人コミュニティ、探検制度を、カフカの世界への入り口として紹介するつもりである。そこから、それぞれ自分なりに読解の切り口を見つけていただければ、と願っている。

テキスト：

- ・初回にコピーを配布する

ドイツ語第Ⅱ(2) 月曜1限 講 師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容：

日吉で習得したドイツ語を基礎に、単語・会話力のアップを目指します。授業中にさまざまなシチュエーションを想定して、会話のパターンを練習し、それに必要な文法も復習します。言うまでもありませんが、単語を知らないと話せませんので、毎回新しい単語を覚える必要があります。積極的な参加を求めます。宿題も出ます。

テキスト：

- 未定

ドイツ語第Ⅱ(2) 金曜2限

ドイツと日本の現在を読む 講 師 津 崎 正 行

授業科目の内容：

この授業では、初級文法をひととおり学び終えた学生を対象として、ドイツ語で書かれた文章を読んでいます。現在のドイツや日本の文化に関するテキストを扱います。

テキスト：

- ・最終的には参加者の希望も聞いたうえで決定しますが、今のところ『Prismen』(東京大学出版会)を使うことを予定しています。さほど長くない文章が多数収録されたアンソロジーなので、その中から参加者の専攻分野に近いもの、興味や関心を持ちやすいものを選んで読みたいと思います。

参考書：

- ・必要に応じて紹介し、コピーを配布します。

ドイツ語第Ⅱ(2) 木曜3限

講 師 細 井 直 子

授業科目の内容：

科学、歴史、メルヒェン等、様々なジャンルの比較的平易な文章を読みながら、ドイツ語の読解力を身につけていきます。テキストはいずれもほぼ1回の講義で読み切れる程度の長さです。必要に応じて初級文法の復習を行い、練習問題等も取り入れる予定です。

テキスト：

- ・伊藤眞著：Fakten, Märchen und Geschichten「ドイツ語を読みましょう」(朝日出版社), 2004年, 1900円

ドイツ語第Ⅱ(2)	金曜5限	
「事件」を読む	講師	三ツ石 祐 子

授業科目の内容：

ドイツ語の初級文法を一通り終えた、学部2年生が対象です。この授業では「事件」というテーマで選んだ、複数の種類のテキストを扱います。「事件」といっても、法律的な資料を扱うわけではありませんし、新聞や雑誌類の記事ばかりを読むわけではありません。バラード（物語詩）や笑い話、児童書やグリム童話など、比較的平易な内容のテキストを使い、履修者が、ドイツ語の文章に慣れることを第一の目的とします。その意味で、この授業では音読の練習も、積極的に取り入れたいと思っています。

テキスト：

- ・開講時に教室で配布します。

参考書：

- ・適宜、授業中に指示します。

ドイツ語第Ⅱ(2)	金曜3限	
	講師	ループレヒター、ヴァルター

授業科目の内容：

「Konversation」

Auf der Grundlage von landeskundlichen Materialien (Texte, Fotos, Audiokassetten) werden Übungen zur Ausdrucksfähigkeit, zum Hörverstehen und zur Grammatik angeboten. So sollen mit dem Lernen von Sprache zugleich auch Einblicke in die Alltagskultur, in aktuelle Themen und Probleme der deutschsprachigen Länder (Deutschland, Österreich, Schweiz) vermittelt werden.

テキスト：

- ・プリント

ドイツ語第Ⅱ(2)	金曜4限	講師	渡 邊 直 樹
-----------	------	----	---------

授業科目の内容：

この授業では近代ドイツの歴史を概観するテキストを使用し、ドイツ人とドイツ社会の特質を顧慮しつつ、ドイツ語の読解力を養うことを目的とします。また、適宜関連するビデオ等も参考にしてドイツについての知識の獲得を目指します。

テキスト：

- ・ドイツ100年の歩み・Deutschland — aus der Geschichte von 1848-1945. 小名木榮三郎＝編注 朝日出版社

ドイツ語第Ⅱ(2)	火曜1限	
読み物を読む	講師	渡 邊 徳 明

授業科目の内容：

一通り初級文法を習得した皆さんを対象にドイツ語読本の講読を行います。テキストについては初回にお知らせします。また毎回小テストもあります。予習をきちんとすることが求められます。慣れるまではゆっくりと読んでいきます。

テキスト：

- ・初回に指示

Ⅲ フランス語

フランス語第Ⅰ(2)	水曜5限	
基礎から学び直すフランス語	講師	細 貝 健 司

授業科目の内容：

講義は、原則としてフランス語既習者を対象としますが、履修者にフランス語の知識があることを特には前提とせず進める予定です。

講義の目的は、フランス語がいかなる仕組みから成り立っているのかをきちんと理解し、ゆっくりとながら確実にフランス語初級文法の知識を積み重ねていくことにあります。ですから、原則として、一回の講義で扱う文法項目は一項目に限定されます。しかし、その一項目を完全に身につけることを目指すので、履修者は、単に教師の解説を聴くに留まらず、講義に参加し、自ら相当量の演習をこなすことを要求されます。講義ではできるだけ分かりやすい解説となるよう心がけますから、フランス語文法と聞いて拒否反応を感じるような履修者も、しばらく我慢して講義に付き合ってください。少し辛抱すれば、フランス語が明快な規則にのっとった極めて論理的な言語であることに気づき、全く新しい視点からフランス語を捉えられるようになると思います。

テキスト：

- ・藤田裕二、藤田知子、Sylvie Gillet 著《MON PREMIER VOL TOKYO-PARIS》(Nouvelle édition) (駿河台出版社、2004年、2310円)

フランス語第ⅡA(指定)(2)	助 手	峯 村 傑
	講 師	阿 部 静 子
	講 師	泉 邦 寿
	講 師	岩 崎 洋 介
	講 師	亀 谷 乃 里
	講 師	篠 原 洋 治
	講 師	関 幸太郎
	講 師	高 橋 俊 幸
	講 師	藤 村 均
	講 師	松 村 剛
	講 師	真 屋 和 子
	講 師	宮 崎 康 子

授業科目の内容：

フランス語第ⅡAは、全クラス共通教科書を用います。まずは各課の冒頭にある会話の理解を音声教材を活用して進めながら、1年次に学んだ初級フランス語の定着を目指し、さらに新たな文法事項・表現・語彙を習得していきます。課の後半では、自分で作文し発話する機会を多く設け、履修者が積極的に参加して、実践的なフランス語感覚を磨きます。一年の終わりには中級以上のフランス語力が身につく、「ぜひこのフランス語を実地で使ってみよう」、「さらに上を目指してフランス語の勉強を続けたい」という気持ちが芽生えるはずです。

テキスト：

- ・Tokyo-Paris, vol direct (藤田裕二・Elisabeth Pagot 著、駿河台出版社)

フランス語第ⅡB(選択)(2)	金曜4限	
中級フランス語読本の講読	教 授	立 仙 順 朗

授業科目の内容：

エドガー・アラン・ポーの『盗まれた手紙』(Edgar Allan Poe: La lettre volée)をフランスの詩人シャルル・ボードレールの仏語訳で読みます。この有名な短編を使ってフランス語の読解力を身につけるとともに、知的な推理を愉しみます。

テキスト：

- ・Edgar Allan Poe: La lettre volée, 『盗まれた手紙』, 第三書房。

フランス語第ⅡB(選択)(2)	木曜3限	
映画のシナリオを題材として、フランス語の日常会話表現を学ぶ	講 師	阿 部 静 子

授業科目の内容：

日常使われているフランス語の会話表現を、映画のシナリオを通して学ぶ授業です。日本では遅れて評価されたヌーヴェル・バーグの監督、エリック・ロメルが描いたバリやヴァカンスの土地での恋愛模様や哲学的な会話を、映画のビデオを見ながらシナリオで追っていきます。

更に、こうして学んだフランス語を使って自分で表現する発表の

機会も授業に盛り込んでいく予定です。

テキスト：

- ・プリントを使用します。
- ・

フランス語第ⅡB（選択）(2) 水曜2限
講読とリスニング 講師 泉 邦 寿

授業科目の内容：

文法の確認と練習をしつつ、いろいろな種類のテキスト（歌を含む）を読む予定です。発音、読み方、リスニングの練習も合わせて行います。

テキスト：

- ・プリントにして配布の予定。

参考書：

- ・授業中に指示します。

フランス語第ⅡB（選択）(2) 月曜4限
講師 岩 崎 洋 介

授業科目の内容：

フランスの新聞、雑誌の文体になれるための教科書です。
各テキストにおいて最近のフランスの様々な話題にふれていますのでフランスを多角的に眺める一助にもなりましょう。

テキスト：

- ・「時事フランス語（2004年度版）」（朝日出版）編者 Christian BEAUMELOU, 長谷川公昭

授業科目の内容：

全20課ありますので一回で一課こなす予定でいます。（初回はガイダンス）

フランス語第ⅡB（選択）(2) 金曜3限
ラップミュージックでフランス語を学ぶ 講師 関 幸太郎

授業科目の内容：

- ① “フレンチ・ラップ” は現代のフランス語・フランス文化の宝庫です。その解釈によってフランス語の講読法を学び、またその徹底的な暗唱によって発音やイントネーションを体得します。
- ② それと平行して、文法の復習を兼ねたラップの創作も行ないます。

テキスト：

- ・授業でコピーを配布します。

参考書：

- ・授業中に紹介します。

フランス語第ⅡB（選択）(2) 月曜4限
「三銃士」を読む 講師 高 橋 俊 幸

授業科目の内容：

アレクサンドル・デュマ原作の「三銃士」を読みます。履修者は実質上、フランス語の小説を初めて読む学生であることを念頭に置き、初めは文法事項の復習などを行いながら進めますが、次第にペースを上げて行きます。年間で教科書版を二冊読み終えることを目標にします。

テキスト：

- ・「三銃士」「ミラディの処刑（続、三銃士）」（いずれも朝日出版社）

フランス語第ⅡB（選択）(2) 水曜3限
フランス語の読解力をつける 講師 宮 崎 康 子

授業科目の内容：

初級文法の復習から始めて、より高度な文法事項を習得した後、易しい詩や簡単な新聞記事を読むことから始めて、文学作品の抜粋の講読へと進みます。

テキスト：

- ・プリント教材

参考書：

- ・フランス語の練習帳 朝日出版社

フランス語第ⅡB（選択）(2) 水曜4限
講師 シャルコフ、スヴェトラナ

テキスト：

- ・STUDIO II

フランス語第ⅡB（選択）(2) 月曜2限
講師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

TAXI 2

テキスト：

- ・TAXI 2
ISBN 2011 552 370

フランス語第ⅡB（選択）(2) 月曜3限
講師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

TAXI 2

テキスト：

- ・TAXI 2
ISBN 2011 552 370

フランス語第ⅡB（選択）(2) 月曜4限
講師 ペリセロ、クリスティアン・アンドレ

TAXI 2

テキスト：

- ・TAXI 2
ISBN 2011 552 370

フランス語第ⅡB（選択）(2) 木曜5限
講師 ボダン、エマニュエル

Ⅳ 中国語

中国語第Ⅰ（初級）(2) 水曜5限 講師 表 野 和 江

授業科目の内容：

初級文法を学習します。覚えた文法を用いて会話・作文の反復練習を行い、定着を目指します。

テキスト：

- ・話す中国語－スリム版－（遠藤光暁、朝日出版社）

参考書：

- ・Why? にこたえるはじめての中国語の文法書

中国語第Ⅱ（指定）(2) 水曜3限／水曜4限
講師 伊 藤 晋太郎

授業科目の内容：

一年次に学んだ文法や表現法定着を進めながら、読解を中心とした授業を行ないます。教科書の課文の内容は、いずれも中国人にとっておなじみの故事なので、中国語の勉強と同時に中国の歴史や文化についても理解を深めてもらいたいと思います。

テキスト：

- ・池上貞子・孫玄齡『中国人のこころ』朝日出版社

中国語第Ⅱ（指定）(2)	木曜5限	講 師 吳 敏
--------------	------	---------

授業科目の内容：

中国語の初級学習を終えた学生に対して、会話を中心に授業を行う。中国文化や社会現況に迫りながら、実用的な語彙とセンテンスを増やし、言葉の聞き取る力を育てる。また自分の意思を伝えるため、習った文を活用できるように学習を進めたい。これは本講義の目標です。

「生きた」中国語を気楽に学べるように北京で留学している日本人学生の見聞（ノミの市、映画学院あれこれ…）を教科書にする予定。

授業は主として中国語で行う。時には授業内容に応じるビデオを鑑賞。問答法のほか、グループに分けて対話や討論・ロールプレイといった方法を利用して授業の活発化をはかる。

テキスト：

・話す中国語（北京編3） 著者：薫燕／遠野光暁 朝日出版社 ¥2500（CD付き）

中国語第Ⅱ（指定）(2)	火曜4限／火曜5限	講 師 袁 英 明
--------------	-----------	-----------

授業科目の内容：

会話練習とヒアリングを中心に進めます。初級会話・文法の基礎の上に立ち、呼応表現を身につけ、語彙の増強と活用などにより、口語表現力および応用力を高めます。

テキスト：

・『話す中国語北京篇3』董燕／遠藤光暁 朝日出版社

中国語第Ⅱ（指定）(2)	木曜2限	講 師 小 川 隆
--------------	------	-----------

授業科目の内容：

文章の精読を行います。読解を進めながら初級文法の復習と中級以上の文法・文型の学習、および文脈把握力の習得を目指します。教材は中国の新聞から採られた短い読み物で、ピンインと語注が附されています。教科書用に作られた文章ではないので難しいところもありますが、いかにも中国語らしい活きいきとした表現にであえます。

テキスト：

・董紅俊《当代中国雑文集》（白帝社）

参考書：

・初回に辞書の紹介をします。

中国語第Ⅱ（指定）(2)	木曜3限	講 師 小 川 隆
--------------	------	-----------

授業科目の内容：

文章の精読を行います。教材は主に80年代（いわゆる「新時期」）の文学作品の抜粋で、ピンインと語注が附されています。作品の中からごく短い一段を切り取って来たもので、本物の文学作品ならではの精彩ある表現に目をみはられます。読解の作業を通じて、初級文法の復習、中級の文法・文型の学習、および文脈把握力の養成を目指します。

テキスト：

・牧田・楊《新選中国現代文》（同学社）

参考書：

・初回に辞書の紹介をします。

中国語第Ⅱ（指定）(2)	土曜1限／土曜2限	講 師 松 田 かの子
--------------	-----------	-------------

授業科目の内容：

1年次での学習内容を復習し、さらに高度な表現を学びます。繰り返し練習することでその定着を図り、自分の言いたいことを中国語で表現できるようになることが当授業の目標です。

テキスト：

未定

中国語第Ⅱ（選択）(2)	火曜5限	講 師 浅 野 雅 樹
--------------	------	-------------

授業科目の内容：

学期開始からしばらくは初級レベルで学習した発音、単語、文法の復習に重点を置き、基礎的な能力の定着をはかります。

復習後は中国の時事・現在の人々の生活・社会の変化にともない造られた新語などの紹介をテーマとしたテキストを用いて、文章の読解と中級レベルの文法事項の解説を中心に授業を進めます。そして最終的には中国の新聞や雑誌記事レベルの文章を読めるぐらいの語学力を身につけることがこの授業の目標です。

このほか、授業では、口語表現やヒアリングの練習、作文にも一定の時間を設ける予定です。

テキスト：

・山下輝彦著『今日の中国トピック12』金星堂

中国語第Ⅱ（選択）(2)	水曜4限／水曜5限	講 師 阿 部 順 子
--------------	-----------	-------------

授業科目の内容：

主な目標は、会話や作文の基礎となる表現力を培っていくことです。使用するテキストは表現と聴きとりに重点が置かれています。1年次に学習した中国語の発音、単語、文法、慣用表現などをふまえ、更にやや高いレベルの事項を学習していきます。

また、随時、短くて簡単な文章も読みます。口語と文章の違いを知ると同時に、文章を読む経験を少しでも積むためです。

テキスト：

・塚本慶一監修、劉穎著「2年生のコミュニケーション中国語」（白水社、2003年、2200円）

中国語第Ⅱ（選択）(2)	月曜5限	講 師 池 澤 滋 子
--------------	------	-------------

授業科目の内容：

授業はテキストに沿って1年学んだ重要な文法事項の復習と、自然なスピードの中国語を聞き取る訓練を中心に進めます。適宜プリントを配布し、作文や文法の練習問題を補う予定です。また課文については正しい発音で流暢に読むことができるよう訓練を行います。1課終了するごとに、その課で学んだ表現と単語の定着をはかるため、小テストを実施する予定です。

テキスト：

・300語ワールド版：大事なことはみんなやさしい中国語で言える（朝日出版社）

中国語第Ⅱ（選択）(2)	金曜5限	講 師 小 沢 千代子
--------------	------	-------------

授業科目の内容：

コミュニケーションがとれるようになることを第一目標とします。

教科書は「パソコンで覚える。大事なことはみんなやさしい中国語でいえる」（朝日出版社）を用います。CD-ROMと音声CDもついているので予習、復習も楽しくできるはず。随時、異文化ギャップからくる摩擦例など紹介しコミュニケーションの難しさを考えてもらう。90分中50分は発声してもらうので、ことばが口からついて出てくるようになります。

テキスト：

・「パソコンで覚える。大事なことはみんなやさしい中国語でいえる」（朝日出版社）

参考書：

・「Whyにこたえるはじめての中国語の文法書」相原茂 同学社

中国語第Ⅱ（選択）(2)	水曜3限	講 師 須 山 哲 治
--------------	------	-------------

授業科目の内容：

諸君は一年時において、中国語を運用する上で最も基本となる文法・語彙を、すでに少なからず学習しています。私の授業では、一年次に習った知識の復習をするとともに、さらに高度な中国語を身

につけるべく、新しい語彙・表現形式を学んでいきます。

使用する教科書については、「読み」が中心となっているものを選択する予定です。これは、インターネットを中心とした情報化社会を迎えた現在、中国語の実際の運用においても、「読む」技術の重要性が高まっているからです。

さらにそれだけではなく、文法・語彙を中心とした練習問題を用意する予定です。問題を大量に解くことによって、中国語の基本的なパターンをしっかりと定着させ、表現する力を向上させることを目指します。

テキスト：

・今の所、『読む中国語』（朝日出版社）を予定しています。正式な決定については、第一回目の授業でお話しします。

中国語第Ⅱ（選択）(2) 木曜4限／木曜5限
講 師 陳 風

授業科目の内容：

基本的な文法事項や表現法を学びながら、中国人の生活や都会の最新事情について理解する。読解力の養成を目標とするが、学習した内容について中国語で質問したり、授業での練習などを通じて、会話力・ヒヤリングの向上も期待できる。

テキスト：

・「今日の中国のトピック」山下輝彦著 金星堂

中国語第Ⅱ（選択）(2) 火曜3限 講 師 松 下 淑 子

授業科目の内容：

中級中国語の第一歩として、文法システムに沿って応用を展開していく。会話形式のテキストを使用する。既習の文法や文形を復習しながら、新たなフレーズを覚え、中国語の円滑なレベルアップをはかる。

また、中国旅行などを中心に、いろいろな場面設定をして、授業の中で多くのグループ会話を行う予定。活発な授業を行いたいので積極的に質問したり、会話練習に取り組んでほしい。

テキスト：

・「中国を歩こう」金星堂 陳淑梅・蘇明著

参考書：

・授業中に提示

中国語第Ⅱ（上級）(2) 木曜4限 講 師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中国で話題になった最近の新聞記事や小説などを取りあげて精読する。受講者の読解力の向上と異文化に対する理解を深めるのが目的。

テキスト：

・プリントを使う

中国語第Ⅱ（上級）(2) 火曜5限 講 師 道 上 知 弘

授業科目の内容：

中国語圏文化への理解と、やや高度な中国語の読解力の養成を目的として短編小説やエッセイ、新聞の記事やコラム、映画やドラマの台本などを、受講者の興味に沿いながら選んで読んでいきます。また様々な文体の中国語に多く触れることにより、会話や作文の基礎になるような「中国語らしさ」の感覚を身につけていくことも目指します。

テキスト：

・主にプリントを使用します。

参考書：

・随時指定します。

V スペイン語

スペイン語第Ⅰ（初級）(2) 月曜5限

講 師 敦 賀 公 子

授業科目の内容：

この授業は、既に初級文法を一通り学習した学生や初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として、スペイン語の初級文法の習得に主眼をおき、平易な内容の文章ならば辞書をひきながら訳読できるようになるのを目標とします。スペイン語を既に履修したことのある学生にとっては、文法の総復習となり、また初めて学ぶ学生にとってはスペイン語とスペイン語圏理解の導入となるよう進めていきたいと思っています。

テキスト：

・ギジェルモ吉川、渕上英二共著『わかるスペイン語入門一文法・演習・ラテンアメリカの話題』（芸林書房、2004年、2000円）

参考書：

・宮本博司 著『超入門スペイン語』（大学書林）
・大貫良夫 監修『ラテン・アメリカを知る事典』（平凡社）
・『西和辞典』（小学館、白水社他）

スペイン語第Ⅱ(2) 月曜4限／月曜5限

スペイン語会話（自然なスペイン語で話そう）

講 師 アンドレス・ブラサ、アナ・マリア

授業科目の内容：

1. スペイン語会話の習熟を目指す本講義では、以下を念頭に授業を進めます。

- (1) 相手の話すスペイン語を理解し、自然で正確な表現を使って会話が出来るようにすること。
- (2) 日常話されているスペイン語に親しみ、語彙、文法、表現方法等を豊富にすること。
- (3) スペイン語圏諸国の文化や習慣についても理解を深めること。

テキスト：

・ *Curso Comunicativo de Español para Extranjeros*, PARA EMPEZAR B, Equipo PRAGMA 出版社：Edelsa, Grupo didascalía, S. A.

参考書：

なし

スペイン語第Ⅱ(2) 金曜5限 講 師 井 関 睦 美

授業科目の内容：

この授業は、論理的文章の読解力と表現力を高めることを目標に、講読と作文を中心に進めていきます。これらの作業を通して、スペイン語→日本語、日本語→スペイン語という構文的な置きかえだけでなく、コンテキストを理解し、自分の言葉で説明する訓練をしていきます。講読用のテキストには、スペイン語圏や日本の歴史、文化、社会などに関する短い説明文を数多く取り上げる予定です。

テキスト：

・特に指定しません。講読用プリントを配布します。

参考書：

・西和辞書（小学館西和中辞典、白水社現代スペイン語辞典）、和西辞書（白水社、改訂版）

スペイン語第Ⅱ(2) 金曜5限 助教授 坂 田 幸 子

授業科目の内容：

ブラド美術館の歴史について、子供向けに解説した本を主たるテキストとして使用し、創設から今日に至るまで、2世紀にわたるブラド美術館の歴史を、スペインの政治形態や社会の変化と関連付けながら辿ります。もちろん、スペインの代表的な画家たちについても学びます。テキストのほかに、より難易度の高いスペイン語で書

かれた、美術書や新聞・雑誌からの抜粋も、随時、使用します。

テキスト：

・J. Garcia Padrino 他： *Pequeña Historia del Museo del Prado*

参考書：

・授業中に指示します

スペイン語第Ⅱ (2) 月曜 4 限

ラテンアメリカの文化と社会（読解）

助教授（有期） 禪 野 美 帆

授業科目の内容：

この授業では、スペイン語初級文法を一通り学習した学生を対象に、読解を中心に進めていきます。教材としてラテンアメリカの社会事情を紹介したテキストを使用します。また何回かは世界の時事問題を取り上げた新聞記事等をスペイン語で読みます。毎回予習と宿題を出しますので、必ず準備することが要求されます。

成績評価については、年 4 回の試験成績および、予習を含む授業への参加度によって決定します。出席回数が年間 3 分の 2 に満たない場合は、成績評価の対象外とします。

数回は、スペイン語圏の社会・文化を紹介したビデオを見て、地域事情等についても説明します。

テキスト：

・ *Hispanoamérica : Ayer y Hoy*, SGEL 社

参考書：

・授業中に紹介する

スペイン語第Ⅱ (2) 金曜 4 限

講 師 竹 下 淳 子

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。既に学習した文法事項を徹底的に復習、重要事項を確認、補足し、中級レベルに進みます。

毎回、授業中に配布するプリントを中心に、なるべく多くの文法練習問題をこなしてゆきます。

また、適宜、動詞の活用、語彙、成句、聞き取り等の 5 分間ドリルも取り入れ、総合的な語学能力の向上も目指します。

成績評価は期末試験の成績のほかに、出席、平常点も考慮したいと思っています。

プリント中心の授業になりますが、参考書等については、授業で指示します。

テキスト：

・ Carlos G. Medina Montero: *Sim duda*, nivel intermedio, SGEL. (練習問題集) およびプリント教材

参考書：

・初回の授業で指示します

スペイン語第Ⅱ (2) 金曜 5 限

講 師 竹 下 淳 子

授業科目の内容：

この授業では、主にラテンアメリカの文化・習慣・生活・音楽に関する様々なテキストの講読を通して、スペイン語の文法力を伸ばすことを目的とします。

受講生の文法の習熟度に応じて適宜、文法ドリルなどの補助教材を取り入れ、基礎的な文法力の定着、強化を図りながら、中級レベルに進みます。

また、テキストを通して、ラテンアメリカに対する基礎的な知識を学ぶと同時に、ラテンアメリカ諸国への理解も深めてもらいたいと思っています。

テキスト：

・毎回授業時にプリントを配布します。

参考書：

・初回の授業で指示します。

スペイン語第Ⅱ (2) 月曜 5 限

スペイン語を通じて、メキシコの歴史と文化を通観する。

講 師 前 田 伸 人

授業科目の内容：

この授業は、スペイン語の初級文法を一通り修了した学生を対象に、メキシコの歴史文化に親しみながら、読解力ならびに表現力の向上を通じて、中級スペイン語力の養成を目標とします。情報化時代だからこそ、読む・書く力の有無が他人に勝る鍵だからです。

各回の授業では、歴史文化的背景を説明した後、文法や表現に留意しつつ、テキストを読み進めます。1 回の授業につき 1 課分のベースです。そして読解を 2・3 回続ける毎に 1 回の割合で、文法のポイントを復習します。簡単な例文や作文を通じて、とりわけ、動詞の過去形の区別や接続法の多様な使い方に焦点を当てる予定です。

テキスト：

・小林一宏(著)『メキシコ一世紀から世紀へー』(芸林書房, 1400 円)

参考書：

・授業中適宜指定します。当初扱う古代時代は Nigel Davies, *The Ancient Kingdoms of Mexico*, (Penguin, 1982) など。

スペイン語第Ⅱ (2) 金曜 4 限

講 師 丸 田 千 花 子

授業科目の内容：

フランコ独裁政権以降の現代スペインの様々な面について書かれたテキストを通して、スペイン語の読解力を高めること、スペインの社会、文化への理解を深めることを目的としている。特に独裁政権後の民主化体制への急速な変化は、スペインにどのような変化、または不変化をもたらしたかをテキストを通して読み解いていきたい。読解力を養うとはスペイン語を読み、新しい語彙を習得しながら、その内容を正確に理解することである。正しい理解ができたかをチェックするために履修者には毎回スペイン語を自然な日本語に表現する、またはテキストの内容をスペイン語で表現し直すことに取り組んでもらう。辞書を根気よく引くことを厭わない学生の参加を歓迎する。

テキスト：

・西川喬, セフェリーノ・ブエブラ『スペインを知るために』第三書房

・およびプリント教材

参考書：

・授業中に指示する

Ⅵ ロシア語

ロシア語第Ⅰ (初級) (2)

講 師 佐 野 朝 子

授業科目の内容：

初めてロシア語を学ぶ者を対象とした週一回のクラスです。一年間で基礎文法を終了し、平易なテキストを辞書を使って読んでいきます。

テキスト：

・白水社「ロシア語初級クラス」

・他にプリントを配布します。

ロシア語第Ⅱ (2)

講 師 東 井 ナジェージダ

ロシア語第Ⅱ (2)

講 師 金 沢 大 東

授業科目の内容：

初級で学習した語形変化と基礎単語力を足がかりとして、この中級コースでは、文型を扱う。特にロシア語の複文の内の従属複文を

重点的に学習する。

テキスト：

・『白い金』A. ナコルチュフスキー、金沢大東共著、慶応大学出版

VII 朝鮮語

朝鮮語第Ⅰ（初級）(2)

講師 崔 鶴 山

授業科目の内容：

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語の一つです。発音と文字を覚える1～2ヶ月の苦行の後には、暗号のようなハングル文字を読み書きし（意味はわからなくても）、一年後にはソウルの街角で、韓国語でチャレンジしているあなたの姿がみられるかもしれません。

テキスト：

・崔 鶴山著「はじめての韓国語」白水社 2003年 2100円

朝鮮語第Ⅱ（中級）(2)

教授 野 村 伸 一

授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト：

・慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：

・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版部
・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝鮮語第Ⅱ（中級）(2)

講師 李 泰 文

授業科目の内容：

この中級は、1年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト：

・慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：

・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版部
・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

VIII イタリア語

イタリア語第Ⅰ（初級）(2) 訪問講師 ジョエ、イニャツィオ

授業科目の内容：

初心者向けの会話クラス。

テキスト：

・『エスプレッソEspresso』

参考書：

辞書：プログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

参考書：『イタリア語のABC』（白水社）

『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

『イタリア語を学ぶ』（PHP新書）

イタリア語第Ⅰ（初級）(2)

講師 望 月 一 史

授業科目の内容：

実践的な会話表現をベースにしたテキストで、初級イタリア語文法の概略を系統的に学びます。

テキスト：

・『らくらくマスターイタリア語』（郁文堂）

参考書：

辞書：プログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

参考書：『イタリア語のABC』（白水社）

『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

『イタリア語を学ぶ』（PHP新書）

イタリア語第Ⅱ (2)

教授 白 崎 容 子

講師 望 月 一 史

講師 堤 康 徳

訪問講師 ジョエ、イニャツィオ

講師 フォルミサノ、カルラ

授業科目の内容：

イタリア語第Ⅰにひきつづき、A系列では文法の後半を、B系列では文法項目にそった会話表現を学びます。

テキスト：

・Bravissimo!（「イタリア語Ⅰ」から継続）

IX 日本語

日本語第Ⅱ (2)

留学生と学ぶ日本の歴史（春学期）

留学生と学ぶ日本の社会（秋学期） 講師 戸 所 久 美 子

授業科目の内容：

・文学部専攻の学生として、知っておきたい日本の歴史や社会についての知識を身につける。

・上記内容の理解、発表、討論等を通して、留学生として必要な日本語能力の習得と向上をめざす。

教科書：

・担当者が作成教材

参考書：

・授業中、適宜指示する。

日本語第Ⅱ (2)

講師 菅 野 高 志

授業科目の内容：

ゼミ活動に必要な日本語力を身につけることが目標です。

教科書：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

総合教育科目（系列科目）

I 人文科学関係

研究情報処理（人文科学）(4) 教授 上田 修一

授業科目の内容：

分野を問わず調査研究法を習得することは大学で学ぶ上で基盤の一つとなっています。この科目は各々の専門分野の研究法とは別に、基盤的、一般的な調査方法、情報の探索方法を教えることを目的としています。特に、様々なテーマについてデータベースやウェブ上の情報源を利用することを中心とします。コンピュータ使用法を中心とした「情報処理」科目ではありませんが、授業を進める上で、パソコンの使用法を知っていることと電子メールの利用は必須となります。

この授業は、三田メディアセンターの図書館員の方々の協力を得て行います。

受講希望者は必ず第一回目の授業に出て下さい。なお図書館・情報学専攻の学生の受講は認めません。

この科目は、平成17年度以降は開講しません。

テキスト：

・随時、プリントを配布します。

歴史(4)

江戸時代の社会と文化

講師 田原 昇

授業科目の内容：

江戸時代の実像について、政治・経済・文化など、様々なテーマを設定して解説します。授業では、基本的な史実を時代順に概説するだけでなく、「将軍と大名」「小伝馬町牢屋敷」「宗門人別帳」「江戸の火事」「百姓の婚姻」など、江戸時代に関する具体的なテーマを取りあげ、活字史料や図版をできるだけ多く提示して、生の江戸時代像を実感してもらえようにします。

本講義を通じて、江戸時代が約二六〇年間にわたって安定した社会を謳歌し、ついには近代社会の母胎となった理由とは何か、考えてみたいとおもいます。

参考書：

- ・尾藤正英『江戸時代とはなにか』（岩波書店、1992年、2800円）
- ・竹内誠・編『徳川幕府事典』（東京堂出版、2003年、5800円）

美術(4)

西洋建築様式史

講師 金山 弘昌

授業科目の内容：

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドとプリントを使用します。

テキスト：

・特に使用しません。資料プリントを配布します。

参考書：

- ・『カラー版 西洋建築様式史』熊倉洋介・末永航他。美術出版社、1995。
- ・『ヨーロッパ建築史』西田雅嗣編。昭和堂、1998。

II 社会科学関係

法学（憲法を含む）(4) 講師 小西 飛鳥

授業科目の内容：

法は、人間が社会生活を営む中で生まれてきた規範の一つですが、いざ「法とは何か」と問われても、答えられない人のほうが多いと思います。この授業では、法学の基礎的な知識を身につけて、法についてさらに深く学んでいきたいという気持ちをもてるようにしたいと思います。

テキスト：

・特に指定しません。

参考書：

・必要に応じて随時示します。

近代思想史(4)

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

・使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

・講義の中で紹介する。

経済学(4)

経済学部専任講師 大平 哲

授業科目の内容：

マクロ経済学、ミクロ経済学の内容を展望し、基礎にある考え方を理解することを目的にする。専門的に経済学を学習するためには数学的知識が必要になるが、この授業では数式展開をはじめとした技術的なことは必要最小限しかつかわず、考え方を理解することに重点をおく。マクロ経済学とミクロ経済学とで考え方にどのようなちがいがあるのか、マクロ経済学を用いた政策論ではどのような社会状態を理想と考えるのか、ミクロ経済学の世界観はどのように整理できるか、等々のことを学習する。くわしい説明を<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/economics>に掲載する。

授業終了後、及びメールで日時を約束した上で。

III 自然科学関係

数学(4)

行動科学における数学

講師 松岡 勝男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」

(3) 経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

統計学(4)

統計的「推定」と「検定」の基礎

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

テレビ視聴率の買収問題が報道されたとき、関東地区での視聴率が 600 世帯のモニター調査にもとづいて算出されていることが明らかにされました。本当に 600 世帯程度の調査で、正確な視聴率が分かるのか疑問に思った人も多いことでしょう。

選挙報道では、投票終了後、開票作業が始まって間もなくして「当選確実」が出たりすることがあります。これは、投票所でのいわゆる「出口調査」にもとづくものののですが、どうして早々と投票結果を予測できるのでしょうか。その精度は、はたしてどの程度のものなのでしょう。

こんな日常生活上のトピックを材料にして、統計学におけるものの見方、考え方を説明します。なかでも、「推定」と「検定」の基本的な考え方と手続きを習得することが主な目標です。統計データをコンピュータ処理するための技法について詳しく解説するわけではありませんので、ご注意ください。

テキスト：

・P.G. ホーエル著、浅井晃・村上正康訳『初等統計学 原書第 4 版』培風館、1981 年。

人類学(4)

人類の過去・現在・未来

講師 吉田俊爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっとな環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることであり、そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

・馬場悠男、高山博編：「人類の起源」集英社

参考書：

- (1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版
- (2) 片山一道著「古人骨は生きている」角川書店
- (3) 竹原直道編、坂下・藤田・松下・下山著：「むし歯の歴史」砂書房

生物学(春学期)(2)

命の巧みさを探る一個体の統一を図る三つの制御システム

教授 中島陽子

授業科目の内容：

「転んですりむいたところが化膿して腫れて熱を持ってきて、痛い」といった子供時代の思い出を、多くの人が持っているのではないのでしょうか。またその痛いという記憶があるから、痛い目にあわないように努める。しかしもし痛みを感じられなかったらどうでしょう。

想像したことがありますか。

ここに述べたような「感じる」「腫れる」「熱がでる」「記憶する」「行動する」「想像する」ことをしながら、私たちは生きています。一見嫌な、熱が出たり、痛かったりということも、制御システムとして個体の維持に機能しています。

一方で、すっかり一般にも定着した遺伝子情報分子 DNA、これが私たちの生を規定しているとされています。この化学物質のことがわかれば、私たちのことはすっかり理解できるようになるのでしょうか。

この講義では、この情報分子、および私たちのからだを一つの個体としてハーモニーを保つ制御系；神経系・内分泌系・免疫系について解説し、生命をそれらの関係系として捉えていることとしています。私たちが特別意識することなく【生きている】ことのおかげで営まれている生命活動がいかに巧妙なシステムであるかを感じ取ってもらいたいと考えています。

テキスト：

使用しません

参考書：

・「現代生命科学入門」 小比賀・中島著 慶應大学出版 2001 年 2200 円

化学(2)

教授 大場 茂

授業科目の内容：

周期表をみてわかる通り、この宇宙に存在する元素は高々 100 種類にしかすぎません。そのうち、水素 H、炭素 C、窒素 N、酸素 O など特定のものが重要な働きをしています。化学物質は単体化合物とに分類されますが、化合物の基本単位は一般には分子です。分子中の原子は電子を媒体として結合しています。有機化合物などについて、この原子と原子の結合の様式を端的に表わしたものが化学構造式です。これは化学を語る道具として非常に重要です。この講義の到達ゴールは、化学構造式の意味（原子間の結合様式や分子の立体構造）がわかるようになることです。また、環境問題やエネルギー問題についても解説します。

テキスト：

・講義では毎回プリントを配布します。

参考書：

・「生命科学のための基礎シリーズ、化学」太田・岩村・大場・西山著・実教出版（2002 年）

IV 系列外科目

基礎情報処理 (M) (春学期) (2)

講師 池内 淳

授業科目の内容：

本講義では、半年間で、情報リテラシーの入門レベルを一通りマスターできるよう講義と演習を行います。具体的な講義内容は、ワープロ・ソフト (MS Word)、電子メール (Becky)、表計算ソフト (MS Excel)、サーチエンジンによる情報探索、ホームページの作成 (HTML, CSS)

専 門 科 目

○哲学専攻

必 修 科 目

哲 学 概 論 (4)

哲学入門 教 授 西 脇 与 作

授業科目の内容：
哲学とはどのような学かを概略説明した上で、哲学で扱われてきた主題について複数の立場から出来るだけ具体的に説明したい。哲学に関する常識しか前提しないので、哲学への入門と考えてよい。
扱う主題はテキストに従って説明する。

テキスト：
・『現代哲学入門』西脇与作、(慶應義塾大学出版会)

西洋哲学倫理学史 I (4)

西洋古代哲学史概論 助教授 納 富 信 留

授業科目の内容：
古代哲学（前六世紀初～後六世紀前半、ギリシア・ローマ）は、その後の西洋哲学の展開に、基本的な問題枠組みや概念・理論を提供するという意味で、決定的に重要な役割を果たした。他方、古代哲学はそれ以上に、正に「哲学（フィロソフィア）」という営みそのものの成立という意味で、今日にいたるすべての哲学的営みの源泉となっている。本講義では、古代哲学について、「ソクラテス・プラトン・アリストテレス」という三大哲学者に偏って扱われてきたこれまでの研究状況を反省し、資料の扱い、伝承や学派、時代区分といった哲学史の方法論的な問題から考察を加えていく。その中で浮かび上がる問題点を再考するために、「初期ギリシア哲学者の思考スタイル」「ソフィスト・自然学・哲学・詩・弁論の拮抗」「ソクラテス文学」「アカデメイアの哲学活動」「ヘレニズム期哲学諸派の関係」といった個別論点を検討していく。

テキスト：
・必要なテキストがあれば、授業時に指示する。

参考書：
・内山勝利・中川純男編『西洋哲学史〈古代中世編〉』（ミネルヴァ書房）
・その他の文献は、授業時に適宜紹介する。

西洋哲学倫理学史 II (4)

倫理学専攻参照。

論理学入門 (4)

講 師 弓 削 隆 一

授業科目の内容：
現代の記号論理学の基礎である、命題論理・述語論理について解説する。具体的内容としては、推論の妥当性を前提・結論の真理条件から規定しようとする方法（意味論）、「証明」の概念に基づいて規定しようとする方法、およびこの両者の関係（完全性定理）についての解説が含まれる。上記の内容の的確な理解のためには問題演習が不可欠なので、通常の講義科目よりは演習に近い授業形式をとることになると思われる。

テキスト：
・授業時にプリントを配布する。

原典講読（独）(2)

教 授 小 松 光 彦

授業科目の内容：
ドイツ語の読解力を養うことに主眼を置いた授業を行う。下記の

テキストを使用する。講読する部分をコピーして履修者に配布する。

参考書：
・ Gernot Böhme, *Einführung in die Philosophie*, Suhrkamp Taschenbuch 1142, 1994

原典講読（仏）(2)

教 授 岡 田 光 弘

授業科目の内容：
哲学・思想関係のテキストをフランス語で講読する訓練を行う。内容については初回授業のときに説明する。使用するテキストはプリントして配布する。

テキスト：
・プリントして配布

参考書：
・授業時に指定

原典講読（露）(秋学期集中) (2)

教 授 谷 寿 美

授業科目の内容：
受講者の語学力に応じたテキストを講読します。
受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト：
・語学力に応じて選択します。

知識の哲学（行為の哲学）(4)

教 授 飯 田 隆

授業科目の内容：
知識の哲学の中心をこれまで占めてきたのは、懐疑論をめぐる議論です。それに対して、懐疑論の論駁にこだわることはむしろ、知識の哲学にとって正しい方針ではないという議論が最近力を得てきました。この授業では、知識の哲学において懐疑論が占めるべき位置について再検討したいと思います。

テキスト：
・とくにありません。

参考書：
・戸田山和久『知識の哲学』（産業図書）が第一に挙げられます。
・ほかの参考書については、必要に応じて紹介します。

科学の哲学（自然の哲学）(4)

科学哲学入門 教 授 西 脇 与 作

授業科目の内容：
科学の哲学の基本的な事柄を講義する。今年はテキストを使いつつながら、必要に応じてプリントを活用して授業したい。20 世紀の知識の重要な部分を占める科学的知識の本性について、現在活潑に議論されている事柄を概説する。

テキスト：
・『科学の哲学』西脇与作、(慶應義塾大学出版会)

中級論理学（哲学倫理学特殊）(4)

数理論理学の基本定理の証明

(春学期) 講 師 佐々木 昭 則
(秋学期) 講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：
本講義は、論理学中級の講義である。主な内容としては、現代論理学における主要定理のうち、ゲーデルの完全性定理及び自然演繹の正規化定理 (normalization theorem) の証明を解説する。また、その応用として、簡単な算術の無矛盾性証明についても解説したい。証明系としては自然演繹か式計算 (sequent calculus) を用いる。時間があれば、他の話題も取り上げたい。

これらの重要な基本定理の証明手法を理解することを通して、論理学のより高度な技法・知識を習得してもらうのが、本講義の狙いである。

テキスト：

- ・教場でプリントを配布（前年度後期の講義ノートは、web サイト <http://research.nii.ac.jp/~terui/class.htm> よりダウンロード可）

参考書：

- ・Gaisi Takeuti, *Proof Theory* (2nd. Ed.) North-Holland, 1987
- ・松本和夫『数理論理学』共立出版 1970.（2001 年復刊）

現代論理学の諸問題 (4) 教 授 岡 田 光 弘

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通。
線形論理を中心に、現代論理学の観点や手法を分析する。その上で、論理哲学及び数学の哲学の伝統的な諸問題に対して現代論理学がどのような新しい考え方を提出し得るかを検討する。

中級論理学（述語論理の完全性定理及び説明の正規化定理）程度の知識を前提とする。

テキスト：

- ・プリントして配布

参考書：

- ・授業時に指定

形而上学 (4) 教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

紀元前 387 年から紀元後 529 年まで断続的に続いたアカデメイア最後の学頭ダマスキオスの名著『第一の諸始原についてのアポリアと解』を読み解くことを通じて、古代ギリシア思想最後の精華を見届けたい。古典ギリシア語一年以上の既習者もしくは同等の実力がある者が理想だが、仏訳で参加しても構わない。前年度は仏文学専攻 2 年生 2 名の進歩が著しかった。

テキスト：

- ・Damascius, *Traité des premiers principes*. tome 1 De l'ineffable et de l'un, texte établi par L. G. Westerink et traduit par J. Combès, Paris, 1986

心の哲学（人間の哲学）(4) 講 師 室 田 憲 司 講 師 木 原 弘 行

〔春学期〕

授業科目の内容：

春学期は、室田が心身関係の諸理論（心身二元論、行動主義、心-脳同一説、機能主義など）について概説します。存在論的枠組に注意を払いつつ、心的現象と物的現象との関係について考えていきたいと思います。

テキスト：

- ・特に指定しません。プリントを配布する予定です。

参考書：

- ・必要に応じて授業中に紹介します。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

秋学期は木原が担当します。前期に学習した諸理論をもとに、心的因果 (mental causation) について議論したいと思います。物理主義、複数実現性、また行為者性などの理解に関する問題が中心になります。

テキスト：

- ・特に指定しません。プリントを必要に応じて配布します。

参考書：

- ・内容にあわせて紹介しますが、ここでは、J. Kim, *Mind and Physical World* (1998, MIT) を挙げておきます。

言語の哲学

休 講

現象学（哲学倫理学特殊）(4)

講 師 村 田 純 一

授業科目の内容：

〔春学期〕現象学の基本問題

フッサール現象学の基本概念（志向性、知覚、時間、他者、生活世界など）を取り上げながら現象学的哲学の基本問題について考える。

〔秋学期〕色彩現象をめぐる様々な問題を、おもに現象学の観点から説明することを試みる。

参考書：

秋学期：村田純一『色彩の哲学』岩波書店

宗教の哲学 (4)

宗教性の再検討 教 授 中 川 純 男

授業科目の内容：

宗教への主体的な関わりを信念や倫理の問題であると考え、形而上学や哲学から追放するのは近世的な理性であるが、この授業においてはこのような近世的理性批判を行う。そのために昨年度につづき、カントのいう「理論理性」の正当性について検討することから始める。理性とは何か、超越性とは何かを、古代中世の哲学文献を用いて考える。受講者は授業に主体的に参加するとともに、授業内容についてのレポート提出を求められる。秋学期にはレポートの発表を含めて授業を行う。

テキスト：

- ・用いない。

参考書：

- ・授業中に紹介する。
- ・<http://phil.flet.keio.ac.jp/person/nakagawa/courses/> の当該科目の項でも公開する予定である。

原典研究 I（独）(4) 教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

現代ドイツの代表的碩学ヴェルナー・バイアーヴァルテスの『一者の思惟』(Werner BEIERWALTES, *Denken des Einen*, Frankfurt a. M., 1985) を講読する。同教授の講義は明快だが、著書は冠飾句を多用した複雑な構文が多く難解である。したがって、大学院をめざす者の語学力の向上にはもってこいである。テキストは初回に参加者の人数を確認のうえ、コピーを配布する。必要に応じて辞書を携帯すること。履修者の実力次第だが、毎回 2, 3 頁くらいの速度を予想している。できれば毎回訳文を配りたいと思っている。

テキスト：

- ・Werner BEIERWALTES, *Denken des Einen*, Frankfurt a. M., 1985

原典研究 II（仏）(4) 講 師 荒 金 直 人

授業科目の内容：

フランス語原典の読解力を身に付けることが授業の目的です。

2002 年 8 月に行われたジャック・デリダの講演 «Le “Monde” des Lumières à venir» を読み、語学的及び哲学的見地からの理解を図ります。

テキスト：

- ・Jacques Derrida, «Le “Monde” des Lumières à venir», in *Voyous*, Éditions Galilée, 2003.

参考書：

和訳の刊行が予定されているようなので、刊行されればそれを参考にして下さい。

原典研究 III（英）(4) 教 授 飯 田 隆

授業科目の内容：

David Hume (1711-76) の *Enquiry concerning Human Understanding*

(1748) を読みます。Hume と言うと、わが国ではもっぱらその処女作 *A Treatise on Human Nature* (1739-40) が取り上げられますが、より簡潔なこの後年の著作はヒューム哲学の通俗的解説もしくは入門書以上の価値をもつものです。

テキスト：

さまざまなテキストがありますが、現在最良のものはつぎです。でも、他のテキストでもかまいません。

・Tom L. Beauchamp (ed.), *David Hume: An Enquiry concerning Human Understanding*. 1999, Oxford Philosophical Text, Oxford University Press.

原典研究Ⅳ（古典）(4)

ラテン語哲学文献講読

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

ドゥンス・スコトゥスを始め、中世後期のラテン語哲学文献を講読する。本年度は、昨年に続き、存在の一義性を中心にテキストを選定する。ラテン語そのものは簡単なので初心者も受講可能である。

テキスト：

・授業時に配布する。

参考書：

・必要に応じて紹介する。

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(2)

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

議論の題材として、熊野純彦『カント―世界の限界を経験することは可能か』を取り上げます。この本は、カントの哲学について論じている本ですが、必ずしもカントにとらわれない哲学の議論を始めるきっかけに満ちた本でもあります。この授業の目標は、哲学の議論を行うとはどういうことなのかを実際に体験してもらうことです。みなさんの積極的な参加を希望します。

テキスト：

・熊野純彦『カント―世界の限界を経験することは可能か』（シリーズ・哲学のエッセンス、NHK出版）

参考書：

・必要に応じて紹介します。

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(2)

教授 岡田 光 弘

授業科目の内容：

論理学的手法を用いて意味論、認知科学、人工知能論、ロボット工学、情報科学、計算機科学基礎論、数学基礎論などに関わる哲学的問題を議論する。

研究会の詳しい進め方については初回に参加者と話し合って決定する。

テキスト：

・プリントして配布する。

参考書：

・授業時に指定する

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(2)

西洋中世哲学についての文献研究、および発表と討論

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

トマス・アクィナスの『真理論』をテキストとして分析する。テキストは英訳あるいは邦訳を配布する。秋学期は、三・四年生の研究発表を行う。

テキスト：

・トマス・アクィナス『真理論』第一問第七項を読む。初回の授業で配布する。

参考書：

・<http://phil.flet.keio.ac.jp/person/nakagawa/courses/> の当該科目の項に掲載。

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(2)

心とは何か

教授 西脇 与 作

授業科目の内容：

20世紀後半から現在まで多くの人が関心を持つ「心の哲学」を扱ってみたい。物質、生命、精神の中で精神が一番謎を秘めたものとして活潑に議論されている。本研究会では自然主義的な立場から、幾つかの論文を読んでみる。テキスト等は最初の時間に話し合って決めたい。

参考書：

・『現代哲学入門』（慶應義塾大学出版会）

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(4)

プラトンの知識論―『テアイテトス』を読む―

助教授 納 富 信 留

授業科目の内容：

プラトン過渡期の対話篇『テアイテトス』は、「知識とは何か」をめぐる、感覚主義、相対主義、流動説等の立場を批判的に検討する作品である。その議論は現代の知識論とも直接関係を持ち、とりわけ第3部で提出される定義が“justified true belief”という知識定義の原点であると解釈されてきた。

本演習では、この難解な対話篇の全体を日本語訳と英訳を中心に読み進め、哲学的な議論を行っていく。

テキスト：

・渡辺邦夫訳、プラトン『テアイテトス』（ちくま学芸文庫、2004年）J. McDowell, *Plato, Theaetetus* (Oxford)

参考書：

・授業時に適宜紹介する。

哲学研究会Ⅰ・Ⅱ(2)

【カバラ】から【レヴィナス】へ

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

昨年度は *Encyclopaedia Judaica* 所収のショーレムの解説を通じてカバラの歴史的発展、十のセフィエロート体系、流出/創造論、悪の問題などを概観し、ゼミ合宿では最初の基本文獻『形成の書』（セーフエル・イエツィーラー）を読み合わせた。今年度は、ついで取り上げるべき基本文獻『清明の書』（セーフエル・ハ・バーヒール）はいずれ補うこととして後回しにし、中世カバラの頂点『光輝の書』（セーフエル・ハ・ゾーハル）を繙きたいと考えている。またそれと並行して、エマニュエル・レヴィナスの国家博士論文『全体性と無限』を輪読し、レヴィナスの思想とカバラとの関係を探るという欲張った心積もりでいる。しかしじつは、両者を媒介する接点として、『ゾーハル』をユダヤ人の流説と救済の壮大な神話へと展開したイツハーク・ルーリア（1534-1572）の三つの象徴（1. 霊的空間を発生させるために深く隠された内へと収縮する神の自己限定ツィムツーム、2. 器の破壊シェビラー、3. 器の破壊によって生ずる世界の欠陥の修復ティクーン）に習熟する機会も模索する必要があるだろう。

テキスト：

・Emmanuel Lévinas, *Totalité et Infini. Essai sur l'extériorité*, La Haye, 1961; *Totality and Infinity*, trans. by Alphonso Lingis, Pittsburg, 1969; *Totalität und Unendlichkeit*, übersetzt von Wolfgang Nikolaus Krewani, München, 1993; エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限―外部性についての試論―』（合田正人訳）、国文社、1989年。『ゾーハル』については、参加者の習得語学を勘案してテキストを決定する。

参考書：

・ヨセフ・ダン「ユダヤ神秘主義―歴史的概観―」（市川裕 訳）、岩波講座 東洋思想第二巻『ユダヤ思想2』、1988年、115～217頁
・井筒俊彦『意識と本質―精神的東洋を求めて―』、岩波文庫、1991年、235～292頁
・永井晋「神名の現象学―レヴィナスとカバラの言語神秘主義―」

『思想』874, 1997年4月号, 193～212頁
・永井晋「神の収縮—レヴィナスにおけるカバラのメシアニズム—」
『仏蘭西の智慧と藝術』（掛下栄一郎・富永厚 共編），行人社，1994
年，169～188頁。

選 択 科 目

中国哲学(4)

倫理学専攻参照。

日本倫理思想(4)

倫理学専攻参照。

印度哲学(4)

インド的「知」の諸相 講 師 齋 藤 直 樹

授業科目の内容：

『リグ・ヴェーダ』というインド最古の文献の題名にある「ヴェーダ」は知識を意味する語である。その書物は多彩な神々への讃歌を主要部としつつ、宇宙開闢にかんする思弁的な詩節などをも盛りこんだ、祭祀のための韻文の集成であり、そこにはその後さまざまに展開していくインドの宗教的思想の萌芽がちりばめられている。『ヴェーダ』の聖典としての権威をみとめるか否かによって、インドの宗教的学派はバラモン正統派と非正統派とにわけられ、仏教やジャイナ教は非正統派に属するものと見なされることになるが、「知」へのつよい志向をその教理の基盤のうちにもつという点において、両学派もインド思想の大きな流れからはずれるものではない。本講義ではおもに正統派バラモンの思想の系譜をたどることになるが、インドの諸学派における「知」の重要性を意識しつつ、それぞれの学派の教説を哲学的、宗教学的、あるいは社会学的など、いくつかの観点から批判的に論じてみたい。

テキスト：

なし

参考書：

・授業中に適宜紹介する。

宗 教 学 (4)

現代社会と宗教 講 師 弓 山 達 也

授業科目の内容：

本講義では「宗教ブーム」「心の時代」と称せられる現代の社会・精神状況に対して、宗教学的なアプローチを試みる。そのために宗教学、社会学、精神医学などの諸理論を学びつつ、現代宗教の現状を探っていきたい。ポストモダンの社会変動のなかで宗教をとらえつつ、カルト、自分探し、ファンダメンタリズム、女性教祖、スピリチュアリティ、癒しなどの多岐に渡る現象を、その社会的・心理的背景を踏まえながら、扱うこととなる。

テキスト：

未定

参考書：

未定

○倫理学専攻

必修科目

倫理学概論 (4)

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

今日、人間生活のさまざまな領域において「倫理」が求められている一方で、学としての倫理学の危機ないし懐疑が広く深く浸透していることもまた事実である。ここでは人間存在における倫理の問題のそもそもの成立根拠と、西洋思想史、とくに近代における倫理についての学問的探求（「倫理学の基礎づけ」）の企てに対する反省と再検討を通じて、今日倫理の問題に有意義な仕方であプローチしうする方法を模索する。

テキスト：

・特定の教科書は使用しない。適宜資料プリントを配布する。

参考書：

- ・E・フィンク『人間存在の根本現象』千田義光訳、哲書房 1982 年。
- ・U・グッツォーニ『変革する思考』拙訳、慶應義塾大学出版会 2000 年。
- ・その他、必要に応じて随時指示する。

西洋哲学倫理学史 I (4)

哲学専攻参照。

西洋哲学倫理学史 II (4)

西洋近代の哲学・倫理学

助教授 柘植 尚則

授業科目の内容：

この講義では西洋近代の哲学・倫理学の歴史を概説する。哲学・倫理学専攻の学生を主たる対象とし、学生が専門の研究に必要な近代西洋思想の基礎を習得することを目標とする。受講者は、上級年次に開講される専門科目に備えて、西洋近代哲学・倫理学史に関する幅広い知識を身につけ、それを自らのテーマに活かせるように努めてもらいたい。

テキスト：

・宗像恵・中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルヴァ書房、1995 年、2600 円）

参考書：

・授業の中で紹介する。

倫理学の基礎 I（春学期）(2)

助教授 石井 敏夫

倫理学の基礎 II（秋学期）(2)

助教授 石井 敏夫

授業科目の内容：

春学期、秋学期を通じて、倫理学の基礎となるような事柄を、お話しします。授業が一方通行にならないように、演習形式や討論会もまじえるつもりです。

なお、この科目は倫理学専攻の学生のための授業ですので、原則として他学部、他専攻の学生諸君は履修できません。

テキスト：

なし

参考書：

なし

自然と倫理（春学期）(2)

生命倫理

教授 樽井 正義

授業科目の内容：

生命倫理学という学際的領域に、倫理学がどのような貢献ができるのかを検討することが、この時間の課題です。はじめに、この領域が成立する歴史的過程と、そこで確認されてきた倫理的原理、さ

らにその原理を支える倫理学理論を明らかにします。そのうえで、HIV/AIDS という病気によって提起された倫理的問題に即して、診療と実験における自己決定権、プライバシー権、健康権、コミュニティの利益、公共財などの概念を考察します。

テキスト：

・Thomas Pogge: Realizing Rawls. Cornell University Press 1989

参考書：

- ・米本昌平『先端医療革命 その技術・思想・制度』中公新書 1988
- ・加藤尚武『現代倫理学入門』講談社文庫 1997
- ・エイズ&ソサエティー研究会編『エイズを知る』角川書店 2001

生活と倫理（秋学期）(2)

情報倫理

教授 樽井 正義

授業科目の内容：

人間の生活において情報を集積し伝達する手段の変遷によって、つまり活字情報に電子情報が加わることによって、私たちが接する情報の量と質は飛躍的に変化しつつあります。これにともなって情報に関して倫理的に検討すべき対象も、古典的問題からさらに多様で複雑な問題へと広がっています。この時間では、知識と情報の私的所有に関わる問題（プライバシー、知的所有権）と公的利用に関わる問題（説明責任、情報へのアクセス、公共財）を中心に、倫理問題の所在とこれを整理する倫理的原理とを検討します。

参考書：

・越智貢他編、情報倫理学、ナカニシヤ出版 2000

社会と倫理 (2)

休 講

文化と倫理 (2)

休 講

哲学概論 (4)

哲学専攻参照。

哲学的人間学 (4)

休 講

日本倫理思想 (4)

徂徠・真淵・宣長—近世の倫理思想

講師 菅野 覚明

授業科目の内容：

近世日本を代表する三人の思想家をとりあげ、原典テキストに添いつつその倫理思想を概観する。近世思想史の流れについても、一定の理解が得られるようにする。

テキスト：

・特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書：

・講義時にその都度指示する。

東洋倫理思想 (4)

中国思想のなかの倫理観

講師 森 由利亚

授業科目の内容：

中国において人の行為や判断の正しさは一体何を基準として決定されてきたのだろうか。このような関心から中国の倫理思想を、時代を追いながら概説する。中国の思想は基本的に倫理思想に重点をおくものであるため、この講義はほぼそのまま中国思想史の話にもなる。単に思想家やその思想を羅列するのではなく、中国の思想家たちが感じていた倫理上の矛盾や問題をより身近に感じられるよう

に工夫しながら話を組み立てたい。

テキスト：

- ・プリントを配布する。

参考書：

- 授業中に必要に応じて指示するが、全体にかかわるものとして、
 - ・日原利国著『中国思想史』[上・下]（ぺりかん社）
 - ・戸川芳郎・蜂屋邦夫・溝口雄三『儒教史』（山川出版社）
 - ・赤塚忠 他編『中国文化叢書 3・思想史』（大修館書店）
- を挙げておく。

キリスト教概論 (4)

キリスト教の思想内容を聖書的なナラティブ（語り）を通して顧みる
講 師 芳 賀 力

授業科目の内容：

春学期は創造から墮罪、救済へと至る歴史の展望を扱う。秋学期は現代の倫理的諸問題に対するキリスト教の考え方を扱う。聖書の成り立ちといった基本的な事柄にも触れながら、キリスト教の常識を身につける。

テキスト：

- ・芳賀 力著『大いなる物語の始まり』教文館，2001 年，2000 円

仏教学概論 (4)

休 講

原典講読（独）(2)

教 授 小 松 光 彦

授業科目の内容：

ドイツ語の読解力を養うことに主眼を置いた授業を行う。下記のテキストを使用する。講読する部分をコピーして履修者に配布する。

テキスト：

- ・Gernot Böhme, *Einführung in die Philosophie*, suhrkamp taschenbuch 1142, 1994

原典講読（仏）(2)

哲学専攻参照。

原典講読（露）(秋学期集中) (2)

教 授 谷 寿 美

授業科目の内容：

受講者の語学力に応じたテキストを講読します。受講希望者は必ず初回講義時に出席すること。

テキスト：

- ・受講者の語学力に応じて選択します。

原典講読（英）(2)

近代イギリスのモラリストたち 助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この授業では、近代イギリスのモラリスト（道徳思想家）のうち著名な人物をいくらか取り上げて、その思想を紹介しながら原典（抜粋）を講読する。

テキスト：

- ・プリントを配布する。

参考書：

- ・授業の中で紹介する。

倫理学会 I・II (2)

「カントと現代」 教 授 小 松 光 彦

授業科目の内容：

「カントと現代」という問題枠の中で、とくに倫理的な意味で重

要であると思われる諸主題をとりあげる。今年度はカントの著作のほかに下記のテキストを使用して、広義の哲学のうちにおける人間学と倫理学との関係という視角から、実存哲学の果たした役割ないし意義を検証してみたいと考えている。本研究会では原典重視と自立的思考との両立を目指すつもりであるが、そのためには履修者諸君の授業への積極的参加が不可欠の条件となるので銘記されたい。

テキスト：

- ・H. Fahrenbach, *Existenzphilosophie und Ethik*, Frankfurt am Main 1970（邦訳：H・ファーレンバッハ『実存哲学と倫理学』上妻精監訳，哲書房 1983 年）

参考書：

- ・必要に応じて随時指示する。

倫理学会 I・II (2)

社会哲学研究 教 授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

ロールズの社会哲学で展開されている主要概念の中から、とくに憲法として示される社会の「基礎構造」と、ロールズの正義の第二原理（格差原理）が求める「もっとも不利な立場の最大優遇」という二つの概念を検討します。

テキスト：

- ・Thomas Pogge: *Realizing Rawls*. Cornell University Press 1989

参考書：

- ・川本隆史：ロールズ，講談社 1997

倫理学会 I・II（秋学期集中）(2)

教 授 谷 寿 美

授業科目の内容：

10 月からの秋集中ということで、受講者は 2003 年度春集中を履修した 4 年生が中心となると思います。従って、10 月からすぐに卒論の中間発表を行い、各自提出した卒論テーマに即しての討論を重ねていきたいと考えています。卒論制作に向けてのプロセスが一段落して、時間的余裕があれば、履修者と相談の上で、何らかテキストを選択し、講読、討論を進めたいと考えています。

テキスト：

- ・選択肢の一つとしては“Sophia: The Wisdom of God” S. Bulgakov 1993

倫理学会 I・II (2)

近代イギリス道徳哲学研究 助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容：

この研究会では近代イギリス道徳哲学について考察する（学生による報告と討論という形で進める）。本年度はホブズ『リヴァイアサン』を取り上げる。

また、この研究会は近代イギリス道徳哲学の個人研究を最終の目標とする。受講者は各自でテーマを決めて思想家を選び、原典を読んで研究し、その成果を研究会で発表して論文を作成する（テーマは自由であるが、思想家については原則として近代イギリスに限る）。なお、必要に応じて個別指導も行う。

テキスト：

- ・初回の授業で指示する。

参考書：

- ・授業の中で紹介する。

倫理学会 I・II (2)

助教授 石 井 敏 夫

授業科目の内容：

この研究会は、フランス語のテキストの講読と、講読した箇所についてのディスカッションを中心に行います。テキストについては相談に応じますが、参加を希望する学生は、フランス語の初歩を学習しておいて下さい。

選 択 科 目

中国哲学(4)

無為あるいは消極主義哲学の系譜 講 師 森 由利亚

授業科目の内容：

中国には古来、無為を尊ぶ思想がある。無為を説いたのは『老子』にはじまるが、『老子』によれば、無為とは最小限の消極的な行為によって保身を得ようとする知識人の智慧であったようだ。しかし、無為はそれだけでは成り立たない。無為を有効なものにするには、しかるべき世界観が必要である。この授業では、中国の伝統的ななかでユニークな位置をしめる消極主義の哲学がどのような論理にもとづいて働くかを検討し、その展開を追ってみたい。春学期は、『老子』と『莊子』を中心に論じる。秋学期には、消極主義の哲学が中国思想の展開の中でやがて仏教へと受け継がれて行く経緯と、その帰結ともいべき禅のロジックについて見てみたい。

テキスト：

- ・金谷治『老子』講談社学術文庫
- ・金谷治『莊子』(1) 岩波文庫
- ・西村恵信『無門関』岩波文庫
- ・井筒俊彦『意識と本質』岩波文庫

参考書：

- ・授業中に指示する。

洋書講読(2)

助教授 石 井 敏 夫

授業科目の内容：

フランス語原典のテキストを丹念に読みます。テキストを何にするかは聴講者の顔ぶれを見てから決めることにします。

哲学・倫理学専攻 共通科目

哲学倫理学特殊（歴史の哲学）(4)

講 師 浅 見 昇 吾

授業科目の内容：

歴史哲学についての基本的な知識を身につけてもらうための講義です。「歴史哲学とは何か」からはじまり、「歴史哲学の対象」「歴史哲学の方法論」「歴史哲学の形而上学」「現代の歴史哲学の課題」などについて講義していきます。単なる過去の知識を習得してもらうことが目標ではなく、現代の歴史的問題や哲学的問題に対する考察への手掛かりを見つけてもらうことが目標です。

哲学倫理学特殊 (4)

カント『純粋理性批判』の読解と分析

講 師 大 橋 容一郎

授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作の読解と分析。本年は『純粋理性批判』の「超越論的方法論」を読みます。この「方法論」は、弁証論的誤謬に陥らないための理性の訓練と規準を扱っていますが、同時にまた、カントが思い描いていたさまざまな客体世界（数学の世界、経験の世界、理念の世界、道徳の世界、宗教の世界など）が立ち現れている興味深い箇所もあります。

テキスト：

- ・ドイツ語原典 Immanuel Kant, *Kritik der reinen Vernunft* (PhB 版, Akademie 版, Suhrkamp 版, Reclam 版などのいずれか)
- ・英語訳 *Critique of Pure Reason* (Cambridge 全集版, N. K. Smith 訳版などのいずれか)
- ・日本語訳 カント『純粋理性批判』(高峯一愚訳, 天野貞祐訳, 篠田英雄訳などのいずれか)
- ・その他 フランス語訳などでも可

参考書：

- ・高峯一愚『カント純粋理性批判入門』論創社
- ・H. Heimssoeth, *Transzendente Dialektik. IV: Die Methodenlehre*, 1971.

哲学倫理学特殊（秋学期集中）(4)

エコロジカルな心の哲学

講 師 河 野 哲 也

授業科目の内容：

この講義では、心の哲学と認知哲学の最先端の議論を紹介し、エコロジカル（生態学的）な心の哲学の確立を試みます。

心の哲学とは、「心とはそもそも何か」、「心身はどのように関係しているのか」、「心は脳にあるのか」、「知覚世界は意識のつくりだしたものか」、「わたしとは何か」、「クオリア（感覚質）問題」、「意志の自由は存在するか」、「他人の心はどのように理解されるか」など、人間の心にかかわる根本的問題について考察する哲学の分野です。

本講義では、これまで「心の哲学」とは無縁だった J.J. ギブソンのエコロジカル・サイコロジや、デリダやフーコーなどのフランスのポストモダン思想の観点を取り入れ、従来の「心イコール脳」と考える生理学やコンピュータ科学とは異なった心の理論を展開します。

テキスト：

- ・河野哲也『エコロジカルな心の哲学』（勁草書房、2002 年）
『心は主体だろうか（仮題）』（勁草書房、近刊予定）

参考書：

講義のなかで紹介します。

哲学倫理学特殊 (4)

チベット仏教入門

講 師 齋 藤 直 樹

授業科目の内容：

日本への仏教伝来から二世紀ほどおくれ、チベットでは八世紀後半に仏教が本格的に受容されはじめた。そのさいチベット人はインドからもたらされる諸典籍のすべてを自国のことばに翻訳するという壮大な事業に取りかかる。三百余巻に五千を超える数の著作を収めるチベット大蔵経として、その翻訳事業は結実することとなる。チベット語の海のなかではぐくまれ、かの地で独自の発展をとげるようになった仏教の特色や意義を、本講座では、チベット語原典の講読を軸としながらさぐっていく。また原典の理解の充実を図るため、講読に平行して、インド仏教思想における諸問題にかんする解説をくわえていく。

テキスト：

- ・受講生の関心を考慮のうえ選定し、授業中にコピーを配布する。

参考書：

- ・授業中に適宜紹介する。

哲学倫理学特殊 (4)

ライブニッツの実践哲学

講 師 佐々木 能 章

授業科目の内容：

ライブニッツの普遍学の理念を、実践哲学を軸にしながら考察する。

テキスト：

- ・プリントを配布する

参考書：

- ・佐々木能章『ライブニッツ術』（工作舎）

哲学倫理学特殊 (4)

集合論入門

講 師 照 井 一 成

授業科目の内容：

公理的集合論の解説を行う。ZF 集合論の初歩から始めて、ゲーデルによる連続体仮説の整合性証明まで到達することを一応の目標とする。時間があればコーエンによる強制法 (Forcing) の解説も行いたい。講義と演習を併用する形で授業を進める。

テキスト：

- ・田中尚夫著「公理的集合論」（培風館、1982 年）より必要箇所をコピーして使用する予定。

哲学倫理学特殊（春学期集中）(4)

開闢の哲学

講 師 永 井 均

授業科目の内容：

私、今（現在）、現実、神、そして言語について、世界の開闢という視点から論じます。デカルト、ライブニッツ、カント、マクタガード、ワイトゲンシュタインが論じた問題と彼らの考察を利用します。独我論、時間の非実在性、可能世界、存在論的証明、私的言語といったテーマが関連を持ちます。

テキスト：

- ・現在私が『本』という雑誌に連載しているものをコピーして配布します。

参考書：

- ・永井均『転校生とブラックジャック』岩波書店

哲学倫理学特殊 (4)

言語哲学の諸問題

言語文化研究所 教授 西 山 佑 司

授業科目の内容：

自然言語にまつわる現代哲学的な諸問題を検討する。この講義を通して、人間言語なるものが、世界、知識、論理といかに関係しているかを理解していただく。

テキスト：

- ・当方でハンドアウトを用意するが、特定のトピックについては英文のモノグラフを読んでいただく。

参考書：

- ・授業中に随時指示する。

哲学倫理学特殊 (4)

古代哲学入門

助教授 納 富 信 留

授業科目の内容：

プラトン、アリストテレス、プロティノス。古代ギリシアの哲学書を日本語訳で読んで魅力を感じた人は多いはずだ。彼らの著作は、しかし、原書で読んで初めて味わえる深い意味や刺激に満ちている。ギリシア語の初歩を習得して、それらの原典に挑むことは、哲学の新たな世界を披いてくれることだろう。

この授業では、ギリシア語の基礎を解説し、それを学びながら原典で哲学者の論述を少しづつ読み進める。原典講読の基礎訓練をつみながら、哲学的な議論を行うことが、その目的である。

テキストは、アリストテレスの『形而上学』第1巻を予定している。ギリシア語未習者には、初めの数回で文法の概要を説明するので心配はいらないが、ギリシア哲学を本格的に勉強したい者は、平行して「古典ギリシア語（初級）」の授業をとって文法をしっかりと学ぶ必要がある。

テキスト：

- ・田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）

参考書：

- ・アリストテレス、出隆訳、『形而上学』（岩波文庫）

哲学倫理学特殊 (4)

教 授 堀 江 聡

授業科目の内容：

ゲルマン民族大移動で数世紀に亘り文化的に低迷したヨーロッパ大陸を蘇生させる一翼を担ったのはギリシア・ローマの学芸が却ってよく保存されていたアイルランドからの学者であった。9世紀、カール二世の宮廷学校で活躍し、カロリング・ルネサンスに華を添えたヨハネス・エリウゲナもその一人である。西洋中世が生んだ最初の独創的哲学体系とも評される名著『ペリフェュセオン（自然について）』（全五巻）は、存在と非存在を包括する自然の四区分から始まる。(1) 創造するが創造されない自然（第一巻）、(2) 創造され創造する自然（第二巻）、(3) 創造されるが創造しない自然（第三巻）、(4) 創造せず創造されもしない自然（第四、五巻）の四種は、イデアの原因を通じて万有として顕在し、再び自己へと還帰する神の円環運動の諸契機である。今年度は全巻からのアンソロジーを読む。テーマに興味があれば、ラテン語を零から始める場として利用することも可能であろう。独訳、英訳、部分的に邦訳もある。

哲学倫理学特殊 (4)

哲学的知識論と科学

講 師 三 浦 謙

授業科目の内容：

従来の知識論・認識論は、一方で数学のような演繹的・論理的体系を典型・理想としつつ、さらに経験による基礎付けも要請するという、アリストテレス以来の方向性に基づき、現在もその基本線を基に論じられる場合が多い。しかし、この枠組みの中で、知覚や帰納などの問題が論じられており、見通しの良い状態にあるとはいえない。その一方で、科学が現実的な方法論として、一定の成功を収めているのは事実である。この授業では、後者の科学的方法論からの示唆を受けながら、伝統的な知識論の構成と問題点を検討し、論理・数学・知覚・経験・一般法則の位置づけについて再考しながら、哲学の枠にとらわれずにより広い観点による現代的な知識論のありかたを追求する。

参考書：

- ・プリントなどで紹介する。

哲学倫理学特殊 (4)

ニーチェ・ハイデガーの思想

講 師 村 井 則 夫

授業科目の内容：

現代思想の理解にとって前提となるニーチェとハイデガーの思想を、テキストに即しながら考察する。

テキスト：

- ・プリントを配布すると同時に、適宜、必要な文献を指示するので、そのたびごとに各自用意するように要望する。

参考書：

- ・適宜指示する。

○美学美術史学専攻

必修科目

美学概論(4)

助教授 大石昌史

授業科目の内容：

前期（春学期）には、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲルの美学・芸術哲学について、後期（秋学期）には、十九世紀以降の心理学的、社会学的、現象学的、存在論的、解釈学的、記号論的な美学・芸術哲学について入門的な講義を行う。

テキスト：

・特に指定しない。

参考書：

・授業中に指示する。

芸術研究基礎(4)

教授 前田富士男

授業科目の内容：

この授業は、3年間の専門領域の勉強を開始する2年生に、将来の各自の関心領域の如何を問わず、本専攻学生として必要不可欠な基礎知識、基本的技術を修得してもらう必修科目である。その内容は、以下のような課題にわかれる。専門研究への取り組み方、研究方法、文献の種類と検索、論文作成法。作品資料（絵画・彫刻・工芸）の実際的な調査作業と調査書の作成。作品の時代様式の判別と確認。作品の題材や内容に関するイコノグラフィ（図像学）の理解、作品解釈の方法。「芸術作品とは」、「美しいとは」といった美学的基礎概念の検討。作品の展示や上演に関する実践的知見の習得、など。調査作業時にはクラスを分割して演習形式をとる。

テキスト：

・毎時間にプリントを配布する。

参考書：

・旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

芸術学(春学期)(2)

作品分析の方法(1)

教授 前田富士男

講師 一條和彦

授業科目の内容：

作品の解釈をめぐる、まず形式分析や様式論の方法、ヴェルフリンの基礎概念を紹介する。ついで、意味論の分析に入り、イコノグラフィ、イコノロジー、またパノフスキーの著作を検討する。作品の制作論的側面も重視し、実際の作例に即して考察を進める。さらに、作品の持つ諸機能に運用論的視点から照明をあてる。つまり、個別作品の社会的、政治的、記念の、宗教的、感性論的な諸機能で、こうした機能によって形式や意味内容が変化する事態を取りあげる。美術にとどまらず、他の芸術領域の問題も考察する。また美術教育などの側面も重視したい。

テキスト：

・特に指定しない。講義時に指示する。

参考書：

・講義時に指示する。

芸術学(秋学期)(2)

作品分析の方法(2)

教授 前田富士男

講師 一條和彦

授業科目の内容：

作品の解釈をめぐる、まず形式分析や様式論の方法、ヴェルフリンの基礎概念を紹介する。ついで、意味論の分析に入り、イコノグラフィ、イコノロジー、またパノフスキーの著作を検討する。作品の制作論的側面も重視し、実際の作例に即して考察を進める。さらに、作品の持つ諸機能に運用論的視点から照明をあてる。つま

り、個別作品の社会的、政治的、記念の、宗教的、感性論的な諸機能で、こうした機能によって形式や意味内容が変化する事態を取りあげる。美術にとどまらず、他の芸術領域の問題も考察する。また美術教育などの側面も重視したい。

テキスト：

・特に指定しない。講義時に指示する。

参考書：

・講義時に指示する。

東洋美術史概説 A(4)

作品を見て学ぶ日本美術史

教授 河合正朝

授業科目の内容：

飛鳥・奈良時代から江戸時代までの日本美術史を絵画史を中心に概観します。その際、それらの美術の成立や展開に関わりの深かった外国（中国・朝鮮・西欧など）の美術との関係についても、視野にいれて考えることに努め、日本美術の特質やその研究方法について論述します。講義は、毎回二台のスライドプロジェクターを使用し、スライドで具体的に対象となる作品を紹介し、さまざまな角度からの比較、分析をこころみること、その造形的な特徴や美術作品のもつ機能などについて明らかにしてゆきます。

テキスト：

・特にない。必要に応じてスライドリストなどを配布する。

参考書：

・必要に応じて授業中に指示する。

東洋美術史概説 B

休講

西洋美術史概説 A(4)

イタリア・ルネサンス彫刻史

助教授 遠山公一

授業科目の内容：

イタリア15世紀から16世紀初めにおける彫刻の歴史を見ていく。彫刻の見方から始め、主要なルネサンス彫刻家による作品群を、なるべく大きなテーマやモニュメントに従って概観する。特にドナテッロやミケランジェロの初期といったフィレンツェを舞台とした彫刻史を中心とする。

テキスト：

・特に定めない。毎回、資料やスライド・リストを配布して授業を行う。

参考書：

・J. Pope-Hennessy, *An Introduction to Italian Sculpture*, vol. I *Italian Gothic Sculpture*, vol. II *Italian Renaissance Sculpture*, vol. III *Italian High Renaissance & Baroque Sculpture*, 4th ed., London, 1996.

西洋美術史概説 B(4)

教授 前田富士男

授業科目の内容：

フランスの印象主義の時代から第二次世界大戦後の1950年代にいたる美術の諸問題を考察する。この時代に、絵画では物語表現や自然主義の否定により、フォーヴ、キュビズム、表現主義、抽象絵画、ダダなどが生まれたほか、彫刻や建築でも現代美術の多様なアスペクトが浮き彫りにされた。自然把握、生命形態、人間表現はじめ、コンポジションの展開、色彩論など、作品に即して問題を検討してゆく。概説の講義なので、作品解釈、美術史学における基本概念も適宜、解説・紹介する。スライド使用。

参考書：

・講談社『名画への旅』第19～24巻ほか。

・旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

西洋音楽史概説 A (4)

アメリカの音楽 (1820-1920) 教授 美山良夫

授業科目の内容:

ジャクソン大統領 (在位 1829-37) 時代は、先住民 (チェロキー、セミノール) の強制移動、モンロー主義など強力な政治主導のもと、経済活動の推進、移民の増加が、また各種の改革運動 (禁酒、奴隷制度即時廃止) が進められた。この時期 (ジャクソニアン・デモクラシー) 以降、アメリカ音楽は、移民や黒人の民衆音楽、ヨーロッパの芸術音楽など多様な音楽の異種混交がすすんだ。それとともに、とくに南北戦争を機に、音楽はビジネス化の過程を反復試行、産業化への道をたどった。一方、マイノリティの音楽は長く「埋もれた」音楽のままであったが、今日アメリカの音楽として最も独自性をもつと評価されている。

このような複雑な様相は、音楽の自立的様式変遷としては捉えがたい。講義では、前史を概説後、標記の 1 世紀のなかで重要なフェーズをしめす作品、ジャンル、作曲家をとりあげ、検証することになる。

参考書:

- ・グラウト+パリスカ「新西洋音楽史」とくに (下巻) 22 章 20 世紀のアメリカ
- ・ザスロー編「啓蒙時代の都市と音楽」14 章 フィラデルフィア
- ・リンガー編「ロマン主義と革命の時代」9 章 アメリカ合衆国: 進歩の探求
- ・ファン＝デル＝マーヴェ「ポピュラー音楽の基礎理論」(ブルースについての多角的な検討)
- ・シュラー「初期のジャズ」
- ・アンチオーブ「ニグロ、ダンス、抵抗 17-19 世紀カリブ海地域奴隷制史」
- ・アメリカ・クラシック音楽関係のリンク集
<http://mailer.fsu.edu/~ataniguc/links-ame.html>
- ・アメリカ文学資料関係資料案内 <http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/>
- ・ほかにワシントン国会図書館の American Memory 内の音楽関連サイト

西洋音楽史概説 B (4)

ワーグナー《ラインの黄金》 教授 三宅幸夫

授業科目の内容:

リヒャルト・ワーグナー (1813- 1883) の舞台祝祭劇《ニーベルングの指環》4 部作から、今年度は序夜《ラインの黄金》を主たる対象として、台本と音楽の関係を読み解き、音楽が音楽外の思想・文学・美術・演劇等といかに関わっているかを明らかにします。

テキスト:

- ・ワーグナー《ラインの黄金》(日本ワーグナー協会監修, 1992 年, 白水社)

参考書:

- ・授業時に適宜指示します。

美学特殊 A (4)

イメージの修辞学 講師 西村清和

授業科目の内容:

ことばとイメージ (想像的イメージ、画像、映像) の関係をめぐる議論は、古典的な格言「詩は絵のごとく」や近代のレッシング『ラオコーン』に見られるようにさまざまである。そこで問題となるのは、言語メディアと視覚メディアのちがいによる表現や了解、経験のちがいである。さまざまな視覚メディアがあらたな文化環境となりつつある現代にとって、この古典的な問題は再考を要する。講義では、読書とイメージ、視覚的隠喩、物語る絵 (歴史画、挿絵) のナラトロジーといったテーマをあつかうことで、ことばとはちがったイメージに特有の表現方式について学ぶ。

テキスト:

- ・特になし

参考書:

- ・授業中に指示する

美学特殊 B (4)

フィギュールの美学的考察 講師 松尾大

授業科目の内容:

レトリック (修辞学) の中心主題であるフィギュール (文彩, 言葉のあや) について、最初に概説します。

次に、主として古今東西の文学作品を資料として、そこに含まれたフィギュールを見つけだし、それを理論化する作業を練習します。言語感覚を鋭くするとともに、藝術について理論化する力の養成も目指します。

特に予備知識は必要としません。フィギュールの理論化には、修辞学や言語学、文藝理論や論理学などの知識も必要ですが、それらは授業の進行に従って身に付くことと思います。

テキスト:

- ・コピーを配布します。

参考書:

- ・授業の進行に応じて適宜紹介します。

美学特殊 C (4)

現代芸術論 講師 村山康男

授業科目の内容:

現代芸術 (特に美術) を美学の視点から 3 つのテーマに従って概観する。第 1 は自然との関わり (自然との共生、乖離、自然の再生)、第 2 は芸術家のあり方 (自己の記録、超越、根絶、犠牲、神聖化)、第 3 は複数の帰属を持つ自我の問題 (アフリカ系アメリカ男性、メキシコ系アメリカ女性...)。更に制作過程、メディア、社会との関わりといった様々な観点から、多様な現代芸術の動向を読み解いていく。

テキスト:

- ・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・Linda Weintraub: Art on the Edge and Over, Art Insights, Inc., 1996
- ・川俣正『アートレス—マイノリティとしての現代美術』フィルムアート社, 2001 年

美学特殊 D (4)

演劇論/演技論 理工学部 助教授 小菅隼人

授業科目の内容:

本講義では、「演劇は、演技によってイベント化されるドラマである」という基本認識にたつて、演劇をめぐる諸問題を「ドラマ性」、「イベント性」、「演技性」を常に視野に入れつつ講義します。春学期は演劇の基本 4 要素 (俳優、観客、戯曲、劇場)、アリストテレスの基本概念の確認に続いて、戯曲論および観客論について講義します。秋学期は演技術の歴史の変遷を中心に、演技論について講義します。

テキスト:

- ・プリント配布

参考書:

- ・講義中指示します

美術史特殊 A (4)

飛鳥〜天平の彫刻 名誉教授 紺野敏文

授業科目の内容:

日本の古代彫刻史について講義します。飛鳥・白鳳・天平時代を中心に、美術史上重要な作品についてその様式・技法・イコノグラフィなどの視点から論じるのは勿論ですが、日本が国際交流を重ねて学んだ寺院の建立や造像を通して外來の宗教思想と固有の造形法をどのように受容し独自に形成していったのかという考察が重要になります。近隣諸国の動向と照らし合わせて進行する意味でアジアの比較美術・文化史ともなるはずです。

この授業を通して日本の文化芸術の原点とその歴史的営みを学び、そこから現在と将来に向かっての思考と感性を養うための時間と場が共有できればと思います。

テキスト：

なし

参考書：

- ・水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 01年
- ・そのほか授業中で紹介

美術史特殊 B (4)

建築の歴史

政策メディア研究科 教授 三宅 理一

授業科目の内容：

広く「建築」全般を理解するため、建築に関わるさまざまな領域について横断的に講義を行う。歴史的な系譜を把握するための建築史的理解、その技術的な仕組みを知るための工法的理解、都市の成り立ちと実態を掌握するための都市史・都市論的理解、環境との関わりを論ずるための環境論的理解など、この授業で求められる建築への視点は幅広い。前期は主として歴史軸に沿って講義を行い、後期はさまざまな分野や対象に応じて講義を行う。文化論的な解釈とともに若干の力学的な思想も必要である。授業に平行して各地で行われている展覧会やイベントを訪れ、また実際の建築を訪れる機会を設ける。

テキスト：

- ・授業中に指示する。

参考書：

- ・授業中に指示する。

美術史特殊 C (4)

戦後美術の諸問題を考える

理工学部 助教授 近藤 幸夫

授業科目の内容：

本講義は、主として第二次大戦後の美術を日本の事象なども交えながら様々な角度から考えようとするものである。すでに日吉の「美術」概説において、ヨーロッパにおける歴史的な基本事項についてはある程度説明してあるので、本講義では、それ以降の動きについて、さらに各論的、個別的テーマへと踏み込むと考えてもらいたい。そこでは、必然的にモダニズムの考え方や歴史観が相対化されてくるはずである。

テキスト：

- ・適宜授業中に指示

参考書：

- ・同上

美術史特殊 D (4)

工芸史

講師 西田 宏子

授業科目の内容：

修士の学生と、一緒ですが、入門をゆっくりと進めます。作品にふれ、見る楽しさを、学んでもらえることを目的にします。

美術史特殊 E (4)

江戸浮世絵の世界

講師 内藤 正人

授業科目の内容：

江戸時代の絵画のうち、浮世絵について論じる。

浮世絵とは、十九世紀以降の欧米世界にあまねく知れわたった、日本近世期の絵画・版画作品のことである。西洋絵画では風俗画に相当するとされるこの浮世絵の研究については、明治期以降の欧米や日本でおこなわれてはきたが、残念ながらその蓄積はいまだしの感がある。たとえば、歌麿や北斎といった著名な浮世絵師でも、版画や版本、それに肉筆画をも含めた総作品目録（カタログレゾネ）の底本ができてはならず、基礎的な研究は今後に多くが委ねられて

いる。さらに、従来の浮世絵研究では、多分に趣味的な言説も多く含まれていたことの反省も多い。

こうした視点からすれば、浮世絵研究とは、まさに未開の豊穡なる沃野であると評することができるだろう。今後もさまざまな学問的アプローチが可能な所以である。

本講義では、まず前期は著名な浮世絵師ひとりを選んでとりあげ、その人と作品について考察する。ついで後期は、最新の浮世絵研究におけるトピックスのなかから興味深いテーマを選んで、深く掘り下げていく予定である。

テキスト：

- ・授業時に指示する

参考書：

- ・『浮世絵の歴史』、小林忠監修、美術出版社、1998、2500円

美術史特殊 F (4)

曼荼羅の歴史的発展

講師 田中公明

授業科目の内容：

インドで成立した仏教は、その長い歴史の中で、多様なアイコン（聖像）をつくりだし、仏教の図像とそのシンボリズムは、わが国の文化全般にも大きな影響を与えた。本講義では、インドにおける仏教図像の成立から説きおこし、仏教図像の集大成ともいえるべき曼荼羅の歴史的発展を概観する。本年は、本学における従来の講義をまとめた著書『両界曼荼羅の誕生』を準備中であり、刊行と同時に教科書に指定したい。前年度の『仏教の図像学』とは異なり、インド・シルクロード地域における仏教図像の歴史的発展や、図像の哲学的・思想的解釈にも触れることになるので、美学・美術史だけでなく、哲学・宗教系の学生諸君の受講も歓迎したい。

教科書：

- ・田中公明著『両界曼荼羅の誕生』（春秋社・近刊）

テキスト：

- ・田中公明『両界曼荼羅の誕生』（春秋社・近刊）

美術史特殊 G (4)

ブリュゲルとその時代

講師 幸福 輝

授業科目の内容：

16世紀フランドル絵画を代表する画家ピーテル・ブリュゲルを取り上げ、16世紀フランドル絵画という大きな枠組において、その作品を再検討する。「農民画家ブリュゲル」とか「民衆画家ブリュゲル」などさまざまな形容詞がこの画家に冠せられてきたが、ブリュゲルが生きた時代の主要な美術の流れがロマネスム（イタリア主義）であったことを見逃すならば、ブリュゲルの作品がもつ意味を十分に理解したことにはならないだろう。このような視点から、ブリュゲルを単にネーデルラントの伝統を守った画家と見なすのではなく、ロマネスム全盛の時代にあつて、なぜ、この画家がネーデルラント主義に立ち返ろうとしたのかと発想を変えることにより、ブリュゲルとその時代の美術についての理解を深めていきたい。ブリュゲルについては日本語でも読むことのできる多くの文献があり、また、美術全集などには、ブリュゲルの作品や15世紀から17世紀の重要なオランダ・フランドル絵画に関する解説もあるので、ある程度理解を深めておくことが必要である。

テキスト：

- ・特になし

参考書：

- ・特になし（当然ながら、美術全集の中のブリュゲルの巻、ブリュゲルの画集などはこの授業の参考になる）

美術史特殊 H (4)

フランス古典主義絵画の成立と変容

講師 大野 芳材

授業科目の内容：

フランス17世紀のいわゆる古典主義絵画の成立と発展の過程をたどりながら、フランス美術の底を流れる特質を明らかにしたい。国

王や教会が美術の制作にいかにかかわったか、当時の美術品の収集はどのように行われたかなど、広い視点から美術とそれとをとりまく社会の問題点も考えたい。

テキスト：
・授業時に指示。

参考書：
・授業時に指示

美術史特殊 I (4)	
芸術における先端技術	講 師 内 田 まほろ

授業科目の内容：
美術分野の研究、仕事におけるデジタルメディア利用方法の解説と実践的な技術習得。
「デジタル」「メディア」「テクノロジー」「サイエンス」を利用した芸術の研究。
テキスト：
・特に指定しません。
参考書：
・授業の中で紹介

美術史特殊 J (4)	
スペイン近現代美術	講 師 木 下 亮

授業科目の内容：
前期はまずスペイン王家の芸術擁護とプラド美術館について講じ、スペインの歴史ならびにスペイン絵画史成立について理解を深める。続いてゴヤについて詳述する。
後期はピカソおよびスペインの 20 世紀美術の展開について考察する。
テキスト：
・特になし
参考書：
・ジャニス・A・トムリンソン『ゴヤとその時代』昭和堂，2002，¥3,800

美術史特殊 K (4)	(春学期) 教 授 河 合 正 朝 講 師 荒 川 正 明 (秋学期) 教 授 林 温
--------------------	---

[春学期]
日本近世の装飾美術

授業科目の内容：
日本美術の特徴の一つとしては、しばしばその「装飾性」について論じられる。遺品の多い近世においては、おそらくそれを容易に確認できるだろう。絵画と工芸の接近。この授業では、ことにそのことに留意し、主として江戸時代に活躍した宗達光琳派の作家やその作品を対象に日本近世美術史の一側面について考察をこころみたい。
テキスト：
・必要に応じてプリントコピーを配布する。
参考書：
・授業中に適宜紹介する。

[秋学期]
日本古代絵画史

授業科目の内容：
日本における絵画の起源から奈良時代、そして平安時代にいたる絵画史の流れを、各時期における代表的な遺品を中心に取り上げ、絵画以外の同時代の美術遺品、あるいは中国・朝鮮の美術状況などとの関わりの中で理解する。
テキスト：
・特になし
参考書：
・特になし

音楽史特殊 A (4)	
「国民音楽」の社会史	講 師 渡 辺 裕

授業科目の内容：
音楽史の「近代」は、ともすると、芸術の「自律性」の確立とともに花開いた時代であるかのように思われがちである。だが、その歴史は国民国家成立の歴史の裏返しでもあり、国家アイデンティティや共同体意識のあり方と深く関わっている。この講義では「国民音楽」という「補助線」を引くことによって、音楽史がどのような新しい相貌をみせるようになるかを、日本の近代音楽史を中心に考えてみたい。
テキスト：
・特に指定しない
参考書：
・授業内で適宜指示するほか、比較的入手しやすい一般的な文献については初回授業時に文献リストを配布する。教官の著書としては『日本文化 モダン・ラブソディ』（春秋社，2002）が関連する内容を含んでいるので一読されたい。

音楽史特殊 B (4)	
バロック時代のフランス音楽	講 師 今 谷 和 徳

授業科目の内容：
17, 18 世紀のバロック時代のフランス音楽について概観する。ヨーロッパの音楽は、一般にドイツを中心に展開されたと認識されているが、それは誤りで、実際には遠く中世の時代からフランスを中心に展開されてきた。とくに 17, 18 世紀のフランスでは、国王の宮廷を中心に独自のバロック文化が繁栄し、ドイツをはじめとする他の地域に大きな影響を与え、音楽もその中で重要な役割を担った。ここでは、その時期のフランス音楽を、当時の政治的、宗教的、社会的な背景を踏まえながら眺めてゆきたい。
テキスト：
・使用しない。
参考書：
・開講時に紹介する。

音楽史特殊 C (4)	
20 世紀および 21 世紀の音楽	講 師 岡 部 真一郎

授業科目の内容：
本講座では、20 世紀、および 21 世紀の音楽を様々なテーマから考察します。本年度は、特に、20 世紀音楽の一つの集約点であったともいべきアントン・フォン・ヴェーベルンの音楽を参照点として、同時代音楽の諸相を読み解いて行きます。
テキスト：
・岡部真一郎著『アントン・フォン・ヴェーベルン』（春秋社）
参考書：
・授業時に随時、指示します

音楽史特殊 D (4)	
ピアノ協奏曲の歴史	講 師 平 野 昭

授業科目の内容：
厳密に言えば、ピアノ協奏曲は楽器としてのピアノが成立した後の時代の音楽ジャンルということになる。しかし、ドイツ語で言う「クラヴィーア協奏曲」の「クラヴィーア」は鍵盤楽器であり、チェンバロも含むことになる。その意味で、今年度のピアノ協奏曲の歴史の導入にはバッハのチェンバロ協奏曲を扱う。以後ハイドン、モーツァルトを中心とする古典派のピアノ協奏曲の様式を春学期に見てゆく。
秋学期にはベートーヴェンの 5 曲に見られる協奏様式の変化を確認しながら、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス等のロマン主義ピアノ協奏曲、さらには民族主義的ロマン主義の観点からグリーグ、チャイコフスキー、バルトーク、ラフマニノフ等の名曲に

ついて見てゆく。

テキスト：

- ・特に指定しないが、その都度予告する作品のポケット・スコア（楽譜）を準備できると望ましい。

参考書：

- ・講義中に洋書を中心として解題的に紹介する。

音楽史特殊 E (4)

日本人の音楽的感性を追う ― 日本近代音楽史序説

講 師 千 葉 優 子

授業科目の内容：

明治以後の日本近代音楽史をその背景にある社会的状況を含めて考察する。

開国とともに西洋音楽という価値感も美意識も全く異なる音楽と日本が向き合わざるをえなくなった時、政府がとった対応策、また音楽界の混乱、そして人々が受容して行く過程を追うことによって、現在の日本の状況、すなわち多くの日本人が西洋音楽あるいは、そのイディオムによる音楽を身近なものとし、自国の伝統的な音楽に違和感を感じるという状況がなぜ生まれたかを、和洋両方の音楽状況から、また芸術音楽のみならず民衆の音楽をも含めて、CD やビデオ等で実例を示しつつ立体的に解き明かす。

テキスト：

- ・講義資料のプリントを配布します

芸術運営論（アート・マネジメント）(4)

教 授 美 山 良 夫

講 師 岩 淵 潤 子

講 師 南 條 史 生

授業科目の内容：

全専攻共通科目「アート・マネジメント参照」

芸術運営論（アート・プロデュース）(4)

教 授 美 山 良 夫

講 師 川 又 啓 子

授業科目の内容：

全専攻共通科目「アート・プロデュース」を参照

原典講読 I (英) A (2)

教 授 前 田 富士男

講 師 加 藤 明 子

授業科目の内容：

美術史研究の英語論文を講読し、あわせて美術史学の基本的概念の理解と研究方法の習得をめざす内容です。テキストの読解とともに、毎時間ごとに参加者が小レポートを発表し、討議を行います。

テキスト：

- ・ John Golding, Introduction of “Matisse, Picasso” 2003, New York MOMA.

原典講読 I (英) B (2)

助教授 大 石 昌 史

授業科目の内容：

美学あるいは芸術理論に関する文献の講読を通じて、学問研究の基本的な方法の習得を目的とする。授業形態は、テキストの輪読（翻訳）、注釈的解説、問題点の指摘、それに対する参加者の討論という形をとる。

テキスト：

- ・ W. Tatarkiewicz: A History of Six Ideas.

原典講読 I (英) C (2)

助教授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

今年度は、Frederick Hartt, “Art and Freedom in Quattrocento

Florence”という論文を読む予定。この論文は、15 世紀初頭におけるルネサンスの興り、および彫刻の絵画に対する優位について、社会的コンテキストから説明しようと試みた基本文献である。ここでは、次年度からのゼミにおける研究方法、心得を学ぶことが目的である。

テキスト：

- ・ Frederick Hartt, “Art and Freedom in Quattrocento Florence”, *Marsyas: Studies in the History of Art, Suppl. I, Essays in Memory of Karl Lehmann*, Institute of Fine Arts, New York University, New York, 1964, pp. 114ff. 最初の授業にコピーを配布する。コピー代を徴収。

参考書：

- ・ 授業中に指示。

原典講読 I (英) D (2)

講 師 藤 井 孝 一

授業科目の内容：

カルチュラル・スタディーズやテキストの問題など、変わりゆく知の枠組における音楽批評について書かれた論文の講読を通して、音楽学研究の視座について考える。Scott, D. B. (ed.) *Music, Culture, and Society: A Reader* (2000) に収録されたものの中からいくつか選んで講読する。

同時に、外国語の音楽関係の文献を読み解くために必要な基礎知識についても随時補足する。

テキスト：

- ・ Scott, D. B. (ed.) *Music, Culture, and Society: A Reader*. New York: Oxford University Press. 2000.
- ・ 初回授業時に初出雑誌論文を配布する。

参考書：

- ・ 『ポケット音楽辞典』音楽之友社 1998 年、その他授業中に一覧を配布する。
- ・ 授業の計画：
 - 前期は下記の 2 つの論文の講読を予定している。
- ・ Scott, D. B. Introduction: *Music, Culture, and Society: Changes in Perspectives*. pp. 1-19.
 - (初出: *Music and Sociology for the 1990s: a Changing Critical Perspective*. The Musical Quarterly 74(3), 1990: 385-411.)
- ・ Goodwin, A. On Popular Music and Postmodernism. pp. 221-24. (初出: *Popular Music and Postmodern Theory*. Cultural Studies 5(2). 1991: 174-90.)
 - 後期に講読する論文は、前期の進行状況を考慮し、学生諸君と相談の上決定する。

原典講読 I (英) E (2)

著作権からみる 19 世紀前半のドイツ音楽

講 師 福 田 弥

授業科目の内容：

19 世紀前半のドイツにおける、音楽の著作権に関する英語文献を読む。音楽作品だけでなく、美学、社会学などのさまざまな観点から、この時代の音楽観について理解を深めてもらいたい。また、このテキストを通じて芸術研究の方法論を身に付けることも目標のひとつである。

テキスト：

- ・ Friedemann Kahl, “Music Copyright and the Prussian Copyright Act of 1837”, in: *Nineteenth-Century Music Selected Proceedings of the tenth International Conference*, ed. Jim Samson and Bennett Zon, Aldershot, Ashgate, 2002, pp. 281-295.

参考書：

- ・ 適宜、授業時に指示する

原典講読 II (日) (2)	
「江戸名所図会」をよむ	教授 河 合 正 朝 講師 樋 口 一 貴

授業科目の内容：

テキストの講読を行い、そこに記述されている名所の現地を見学する。これにより現存する造形作品や変化する景観の状況を把握することで歴史や文化財の保存について考える。また、テキストに現れる名所と関連する諸作品について解説を加えるとともに、履修者に随時、発表やレポートを行ってもらうことで、問題の具体的理解を促したい。

『江戸名所図会』全七巻二十冊は、江戸時代末期の天保5年(1834)と同7年(1836)に出版された、江戸およびその近郊の名所・旧跡について記された地誌である。この書は、江戸神田の名主であった斉藤幸雄、幸孝、孝成(月岑)が、三代にわたり、江戸市内の随所をはじめその近郊にいたるまで、実際に歩いて回り名所旧跡に関する事跡を書留め、編集したものである。書中には、絵師・長谷川雪旦による各名所の豊富な挿絵が描きこまれており、往時の江戸の街の様子が生き生きと写しとられている。

テキスト：

- ・プリントコピーを配布する。(有料)

参考書：

- ・鈴木栄三, 朝倉治彦校訂『江戸名所図会』角川書店, 1966. 市古夏生, 鈴木健一校訂『新訂・江戸名所図会』筑摩書店, 2000. 『日本名所風俗図会』角川書店, 1989. 川田寿『江戸名所図会を読む』東京堂出版, 1990. など
- ・そのほか適宜に授業中に紹介する。

原典講読 II (独) (2)	教授 前 田 富士男
-----------------	------------

授業科目の内容：

美術史研究のドイツ語論文を読む演習。初級中級文法と芸術学的基础概念や理論的背景を説明する。講読にととまらず、参加者による小レポート発表や討論をおこない、少人数によるプロゼミ(初級ゼミ)形式で運営する。1年間で、ドイツ語の美術史論文の読み方を身につけ、基本的概念のニュアンスを理解できるようにしたい。本年のテキストは、2001年に刊行された興味深い美術史学論文集『美術の材料——もうひとつの近代美術史』(M.Wagner)から選んだ「材料としての色彩」の章で、ターナー、ピカソ、フォトリエらを論じる。

テキスト：

- ・M.Wagner, Das Material der Kunst, eine andere Geschichte der Moderne, München 2001.

参考書：

- ・『美術史を語る言葉』ほか。
- ・旧図書館内リザーブブック・コーナー(前田)の前田研究会分。

原典講読 II (仏) (2)	講師 原 田 操
-----------------	----------

授業科目の内容：

テキストの読解を通して、フランス語文献を読むための基礎的な力を身につけることを目標とします。

20世紀の芸術運動であるシュルレアリスムとその周辺をテーマとします。

テキスト：

- ・プリントを配布します。

参考書：

- ・最初の授業で指示します。

原典講読 II (伊) (2)	
原語で読むイタリア美術の歴史	講師 金 山 弘 昌

授業科目の内容：

イタリア語論文の読解力養成を主目的に、美術史・建築史に関する

る文献を訳読する。一年間をかけて、少なくとも十数ページの短いテキスト二本程度は読みたい。テキストは未定だが、15 - 17世紀のイタリア美術に関するものを予定している。なお参考までに、昨年度は以下の文献を読んだ。

- ・André Chastel, “Leonardo architetto”, in AA. VV., *Leonardo*, Giunti(Firenze), 1987.
- ・Claudio Strinati, *Raffaello Giunti* (Firenze), 1995.

テキスト：

- ・特に指定しない。授業でコピーを配布する。

参考書：

- ・授業で指示する。

美学美術史学演習 (2)	
日本美術史に関する基礎演習	
(春・秋学期) 教授 河 合 正 朝	
(秋学期) 教授 林 温	

授業科目の内容：

日本美術史の通史的理解とともに、史資料の読解、作品の見方や解釈の仕方など日本美術史研究に必要な基礎的方法を学ぶ。時代の様式基準となる作品の把握。それにとともなう文字資料の読解等を履修者とともに行う。授業は履修者による発表および討議を中心に進めることで基礎演習の実をあげたい。したがって、履修者は、出席が常であり、授業中に出される課題や作業に積極的に参加する意欲が求められる。

テキスト：

- ・必要に応じてプリントコピーを配布する。(有料)

参考書：

- ・赤井達郎ほか編「資料日本美術史く増補改訂く」(京都松柏社, 1993)
- ・辻惟雄編「カラー版日本美術史」(美術出版社, 1995), 「日本美術館」(小学館, 1997)
- ・田中日佐夫監修「すぐわかる日本の美術」(東京美術, 1999)
- ・そのほか授業中適宜紹介する

美学美術史学演習 (2)	
音楽学の基礎訓練	教授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

本演習では、西洋の芸術音楽を研究する際に避けて通れない作品を具体例として、楽譜を読み解く基礎的な能力を養います。作曲技法や時代様式の把握が主たる目的ですが、さらに音楽をその時代の文化のなかに位置づけることも試みます。音楽の基礎知識(「楽典」程度)を有していることが前提となりますので、これが欠けている受講生は遅くとも連休明けまでに「楽典」を自学自習しておく必要があります。

テキスト：

- ・毎回、楽譜資料のプリントを配付します。

参考書：

- ・授業時に適宜指示します。

美学美術史学演習 (2)	
(美学)	助教授 大 石 昌 史

授業科目の内容：

同一担当者による美学概論と内容的に連動して、前期(春学期)には、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲルの美学・芸術哲学について、後期(秋学期)には、十九世紀以降の心理学的、社会学的、現象学的、存在論的、解釈学的、記号論的な美学・芸術哲学について、美学事典、哲学事典等の項目を参照しつつ、やや詳しく解説する。

テキスト：

- ・特に指定しない。

参考書：

- ・授業中に指示する。

授業科目の内容：

専門性の高い各論に至る前に必要な西洋美術史の基礎知識（建築・彫刻・絵画）を一通り身につけることを目的とする。ゴシック美術から19世紀近代美術までの通史を、駆け足で見えていくことになる。様式史が基本とはなるが、図像学の知識、図像解釈学の実例、作品の社会的機能やパトロンについてなど社会的コンテクストにおける美術の役割にも言及する。これによって、各時代についての一定の知識と問題意識が得られるはずである。

テキスト：

・毎回、プリントを配布する

参考書：

・ゴンブリッチ『美術の歩み』美術出版社、高階・三浦編『西洋美術史ハンドブック』新書館、『新潮世界美術事典』、小学館『世界美術大全集』、ジェームズ・ホール『西洋美術解説辞典』河出書房新社など。その他、毎回指定する。

授業科目の内容：

造形芸術作品（絵画・彫刻等）についての調査、文献史料の取り扱い法、美術作品の鑑識など、美術史学の研究を行うためにはどのような方法があるかを、種々の演習を通して学ぶことを目的とする。卒業論文を作成する者には、個別指導を行う。また、上記の目的を遂げるために履修者には、3.4年生とも適宜研究発表を行ってもらう。この授業を履修する者は、東洋・日本美術史に関心を持つ者であることが望ましい。

テキスト：

・特に定めないが、必要に応じてプリントコピーを配布する。

参考書：

・マルシア・ポイント著／木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア刊、1995）
・Sylvan Barnet: *A short Guide to writing about Art*, Boston, 1995

授業科目の内容：

近現代の芸術論・芸術史研究を中心に、卒業論文の指導をおこなう。春学期は4年生の、秋学期は3年生の口頭発表と討論によって授業を進める。秋学期は統一テーマを設け、参加者と相談のうえ各自の発表内容を決める。レポートやグループ発表、美術館見学を随時おこなう。

参考書：

・『美術史を語る言葉』ほか。
・旧図書館内リザーブブック・コーナー（前田）の本科目該当のもの。

授業科目の内容：

音楽、および音楽をともなった舞台芸術諸分野（オペラ、パレエなど）を対象とする研究会。内容が多岐にわたるために、自発的に多くのジャンルについて、体験を重ねる努力が必要。また上演芸術の研究資料は我が国では探索が困難なことが多く、相当の時間と熱意が欠かせない。

春学期は論文の講読を最初におこない、次に4年生が卒業論文の概要ないし研究計画を発表する。秋学期は3年生による研究の発表。口頭発表に対しては、全員がコメントし、調査研究の対象や方法について討論する。そのなかで、自分の研究に資する情報や課題の明確化をすすめる。個々の発表については、個人面談を行うと共にレジュメ等の作成を課している。そのなかで、卒業論文構成のポイントを学ぶことが求められる。また共通の問題については、研究会のなかでた点をレポート課題にすることがある。

研究したいテーマや問題意識をもっていることが必須だが、研究

しようとする対象については、できる限り自主性を重んじる。ただし研究や発表については、ある水準を満たす必要がある。そのためにジャンルと歴史に関する概説書の知識やその学習を前提とする。研究会の運営や付帯する計画については、第1回目の研究会のときに説明する。なお文献検索について、前年度までに「音楽学Ⅱ」で平尾行蔵講師の指導を受けている必要がある。

参考書：

・「音楽の文章術」（春秋社）

授業科目の内容：

美ならびに芸術一般に関する原理的研究を主題とする研究会。個々の作品解釈や作家研究ではなく、芸術思想・芸術理論の研究を行う。それ故、哲学者（美学者）や芸術理論家の著作が研究対象の中心となる。

授業形態は、講読および討論演習の形をとり、問題提起となるテキストや参加者の口頭発表に対して、全員で討論する。

授業科目の内容：

卒論作成のために必要な知識や方法を学ぶ。

担当者の専門は、ルネサンス美術の特に絵画と彫刻であるが、なるべく専門にとらわれずに指導を行いたい。卒論作成のために発表を4年生だけでなく全員に課す。また、作品のディスクリプション、参考文献表を全員に提出してもらうほか、3年生には学期末にレポートを出してもらう。

テキスト：

・授業中にプリントを配布

参考書：

・授業中に指示

演劇学／演劇史 理工学部 助教授 小 菅 隼 人

授業科目の内容：

上演芸術のうち、特に演劇を対象とする研究会。演劇芸術の境界内であれば、各自の関心による対象・テーマの自由度を最大限に認めます。演劇上演の実践に携わる諸君の参加を歓迎しますが、アカデミズムの立場から演劇研究を志す学生諸君のための研究会ですから、資料調査・資料批判・論文作成のための地道な作業を覚悟して参加して下さい。本研究会においては、参加者による報告と討論を通して、問題点を明確にしてゆく作業の積み重ねを授業の中心にします。1回程度、一緒に観劇をします。春学期に早稲田大学演劇博物館を見学します。

テキスト：

・『ベスト・プレイズ』（白鳳社、2000）

参考書：

・授業中指示します。

授業科目の内容：

現代美術ならびに20世紀美術を制度的な側面も視野にいれながら研究しようとする学生のための研究会。卒業論文作成のための指導に主眼をおくが、また一方で各自が自分のテーマだけではなく近・現代美術研究全体への知見を広げることも目的とする。

卒業論文のテーマの選定にあたっては作家研究が望ましく、時間をかけて丁寧に文献資料を調査する基本的作業を重視したい。卒業論文作成にあたっては、レポート、口頭発表などにより段階的に論点を明確にしていく方法をとりたい。

テキスト：

・適宜授業中に指示

参考書：
・ 同上

美学美術史学研究会 I・II (2)	
(春学期) 教 授	河 合 正 朝
(秋学期) 教 授	林 温

授業科目の内容：
造形芸術作品（絵画・彫刻等）についての調査，文献史資料の取り扱い法，美術作品の鑑識など，美術史学の研究を行うためにはどのような方法があるかを，種々の演習を通して学ぶことを目的とする。卒業論文を作成する者には，個別指導を行う。また，上記の目的を遂げるために履修者には，3・4 年生とも適宜研究発表を行ってもらう。この授業を履修する者は，東洋・日本美術史に関心を持つ者であることが望ましい。

テキスト：
・特に定めないが，必要に応じてプリントコピーを配布する。
参考書：
・マルシア・ポイント著/木下哲夫訳「はじめての美術史」（スカイードア刊，1995）
・Sylvan Barnet: *A short Guide to writing about Art*, Boston, 1995

博物館学実習 II A (3)	教 授	前 田 富士男
	講 師	名 子 耶 明
	講 師	平 野 千枝子
	講 師	吉 岡 明 美
アート・センター 助 手		柳 井 康 弘

授業の内容：
博物館学の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来，学芸員として要求される博物館・美術館業務に関する知識，資料の扱い方など現物の美術品を用いて実習を行う。
なお，この博物館実習 II A・B は，平成 16 年度より開設され，本年度に新 2 年生となった者からのみ必修科目となる。平成 15 年度以前に 2 年生に進級した者は履修する必要がある。この博物館学実習 II は，履修者の調整を行い，II A を履修する者と II B を履修する者とに分ける。博物館学実習 I と同 II の履修の仕方や振り分けの説明は，4 月の最初の授業で行うので，希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書：
・『美術館と語る』日比野秀男編著，ベリかん社，1999 年。
・『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優，昭和堂，1999 年。
・『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編，改訂版，町田市立国際版画美術館，1991 年。
・K. ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳，美術出版社，1985 年。

博物館学実習 II B (3)	教 授	河 合 正 朝
	講 師	名 子 耶 明
	講 師	平 野 千枝子
	講 師	吉 岡 明 美
アート・センター 助 手		柳 井 康 弘

授業の内容：
博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来，学芸員として要求される博物館業務に関する知識，資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。
なお，この博物館実習 II A・B は，平成 16 年度より開設され，本年度に新 2 年生となった者からのみ必修科目となる。平成 15 年度以前に 2 年生に進級した者は履修する必要がある。この博物館学実習 II は，履修者の調整を行い，II A を履修する者と II B を履修する者とに分ける。博物館学実習 I と同 II の履修の仕方や振り分けの説明は，4 月の最初の授業で行うので，希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

参考書
・『美術館と語る』日比野秀男編著，ベリかん社，1999 年。
・『現代美術館学』並木誠士・吉中充代・米屋優，昭和堂，1999 年。
・『版画の技法と表現』町田市立国際版画美術館編，改訂版，町田市立国際版画美術館，1991 年。
・K. ニコラウス『絵画学入門』黒江・大原訳，美術出版社，1985 年。

○日本史学専攻

必修科目

史学概論 (4)

教授 神田 順 司

西洋史学専攻参照。

古文書学 (4)

近世武家文書を中心に

講師 鶴 田 啓

授業科目の内容：

歴史を研究し再構成するための材料を史料と呼ぶが、日本史の場合、その中心をなすのが文字史料（文献）であ、とりわけ古文書（差出人と受取人を備える）や古記録（日記など）である。古代中世と比較して、日本近世の古文書学は未確立だと言われる。たしかに、古代中世文書と比較して量的に膨大な、また近代文書と比較すれば体系化されていない近世文書は、分析の対象としてやっかいな存在である。しかし、既存の説を批判したり新しい説をたてたりする際に、文書（古文書）に対する理解が重要であることには変わりがない。

この授業では、近世古文書学のいわば基礎として、武家文書を中心に、主な古文書について分類、様式、機能、読解などの面から説明して行く。なお授業では、狭義の文書だけでなく、個人や組織がそれぞれの目的のために作成した日記や記録、編さん物についても取り上げる予定である。

参考書：

- ・日本歴史学会編『概説古文書学 近世編』（吉川弘文館 1989）
- ・高木昭作『日本文化研究』（放送大学教育振興会 2002）

古文書学 (4)

助教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

日本史の研究を進めるにあたって、その材料となるのが、古文書を初めとする様々な史料です。したがって、ある時代の歴史を学び、研究するには、その時代の史料の特色を知っておくことが、不可欠の前提となります。本講義では、主に古代～中世における古文書の様式の移り変わりについて、当時の政治や社会の動向と関連させながら、解説していきます。

テキスト：

- ・佐藤進一『新版古文書学入門』法政大学出版局

参考書：

- ・伊木寿一『古文書字』慶応義塾大学出版会

日本史特殊 (4)

近代日本人形成史

教授 柳 田 利 夫

授業科目の内容：

「日本人になる」「日本人である」ということについて、近現代の日常生活における様々な場面を想像しながら、参加者と一緒に考えてゆけるような授業を行いたいと思っています。歴史学や関連する諸分野での最近の研究成果を確認しながら、現在私自身が扱っている近代日本人移民の事例を紹介してゆくことになります。古典的な歴史学の手続きに拘泥しながら、両者の摺り合わせを通じて「国民としての日本人」形成のプロセスをイメージしてゆこうというのがここでの目標になります。

扱われ得るテーマは私たちのまわりにある／った（と思っている／た）、日常生活のありとあらゆる「ことがら」ということになります。が、今年度は村と家、移動、スポーツ、墓などをテーマに講義をしてみようと思っています。

参考書：

広範にわたるので、講義の時に指示する。

日本史特殊 (4)

古代の神々の世界を探る

教授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

律令国家は七世紀後半から各地の官社（式内社）に常設の神殿を設けるようになり、これにより神々は神社に常住したかにみられる。しかし、古代の諸史料には、神が落雷・噴火・暴風雨・疫病などを通して、人々の前に示現したり、神異を現したことが記録されている。神異の例としては、神の霊力で青山が枯山になったり、一夜にして植物が繁茂したり、女性（巫女）が一夜にして孕むなどの例があり、そこには「奇（あや）」しき世界が広がっていた。あるいは悪ぶる神が道行く人の半分を生かし、半分を殺すという伝承も風土記にみえる。本講義ではこのような古代の神々の示現、神異の世界を史料に即して紹介していくことから始める。そして、それを通して、改めて古代の神々や神社とは何であったのかを検討してみたいと思う。

参考書：

- ・益田勝実『秘儀の島』（筑摩書房）

日本史特殊 (4)

近世思想史講義 ― 社会通念・常識から時代を読む

講師 若 尾 政 希

授業科目の内容：

本講義は、「社会通念・常識」という視角から、日本近世史を考えようとするものである。近年、私が取り組んでいる、「太平記読み」研究、領主層の思想史的研究、安藤昌益研究、在村・在町の知識人研究、百姓一揆物語研究などを講義していきたい。

テキスト：

- ・若尾政希『「太平記読み」の時代』平凡社選書

参考書：

講義中、適宜紹介する。

日本史特殊 (4)

講師 我 部 政 男

授業科目の内容：

この日本史特殊講義では、日本史の本流から大きくかけ離れた沖縄近現代史に焦点を絞って扱ってみたい。琉球・沖縄史を日本史の文脈の中で統一的に把握することは、日本史学にとっても大きな課題である。特に近世以前の日本社会にとっては、困難な課題であろう。近代の国民国家の形成期に際しても、課題の究明は、そう簡単ではないはずだ。幕末から明治の初期にかけては、日本と中国との間で、琉球の処分をめぐる帰属問題が派生する。また、アジア太平洋戦争後の沖縄の地位をめぐる日米間で外交交渉が行われた。今日でも基地と安全保障の問題をめぐる、国の内外で議論が沸騰している。日本近代史における沖縄地方（地域）の問題を日本国家の中央地方関係の視点と日本を取り巻く周辺との国際関係のありの中で考えてみたい。とかくこのような野心的な試みは、数多く研究者によって試みられているが、十分な成果を上げているとは言えない。

日本史特殊 (4)

平安時代の儀礼 ― その準備と挙行 ―

講師 藤 森 健太郎

授業科目の内容：

平安時代の儀礼について論じる。ただし、儀礼そのものの歴史だけではなくて、いわゆる平安時代の各時期がどんな時代であったのかを、儀礼を通じて考えていくものとした。具体的には、今年度も昨年度に続き、長和五年正月・二月の三条天皇譲位・後一条天皇即位の儀礼について、その準備から挙行までを、主に同時代の記録を読解しながら考察していく。

テキスト：

- ・『小右記』『御堂関白記』（以上大日本古記録）
- ・『左経記』（史料大成）

参考書：
・飯田瑞穂『『常陸国風土記』解題・校訂』（『飯田瑞穂著作集』2、吉川弘文館）

日本史演習 (2)	教 授 長 谷 山 彰
-----------	-------------

授業科目の内容：
弘仁・貞観・延喜の三代の格を集大成した『類聚三代格』を講読する。
特に巻 19 禁制事に収められた格を対象として、京内外で起こるさまざまな社会事象について律令国家がどのような対応を示したのかを明らかにすると共に、政策決定の背景について考察してみたい。

テキスト：
・新訂増補国史大系『類聚三代格』（コピーを配布する）
参考書：
・日本思想大系『律令』（岩波書店）
・『国史大系書目解題』上（吉川弘文館）

日本史演習 (2)	教 授 柳 田 利 夫
-----------	-------------

授業科目の内容：
近代の原史料を扱い、史料解説の初歩を学習する。
授業の計画：
1. 変体仮名の学習（近代初頭の新聞等を利用）
2. 近代公文書の解説（東京府文書を利用）
3. 近代私文書の解説（個人書翰を利用）

履修者へのコメント：
予習・復習が不可欠です。

日本史演習 (2)	助教授 中 島 圭 一
-----------	-------------

授業科目の内容：
古文書の写真版を用いて、中世史料の解説／読解能力を身に付けてもらいます。
テキスト：
授業中に適宜指示・配布します。

日本史演習 (2)	名誉教授 坂 井 達 朗
-----------	--------------

授業科目の内容：
書簡を通じてみた福沢諭吉とその時代

日本史演習 (2)	近世古文書講読（初級コース）	講 師 倉 持 隆
-----------	----------------	-----------

授業科目の内容：
近世古文書講読の初級クラスである。初めは「ひらがな」の読み方からはいり、漢字交じりの平易な文章からさらに難度の高いものへと進んでいく。史料はできるだけ書体の異なったものを選び、初心者が古文書に慣れることに主眼をおきたい。この間、解説辞典のひき方を指導し、さらに近世史への関心を深めるために、講読史料と関連するテーマについての、討論や発表もあわせておこなう。第一回目の授業でテキストの配布と使用辞書の説明等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。

テキスト：
授業中にプリントを配布します。
参考書：
・辞書：『くずし字解説辞典』（東京堂出版）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

日本史演習 (2)	『吾妻鏡』の講読	講 師 川 合 康
-----------	----------	-----------

授業科目の内容：
鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』を講読する。『吾妻鏡』は、鎌倉時代の日本の政治・社会・文化を考察するうえで絶好の史

料であるだけでなく、中世古文書や古記録の文体に慣れるテキストとしても最適なものの一つである。本演習では、『吾妻鏡』の条文を順に読みながら、中世前期の史料の読み方、調べ方を学ぶとともに、史料から何を読みとるかという点を討論のなかで検討していきたい。テキストとして、『寛永版影印本吾妻鏡』と『新訂増補国史大系吾妻鏡』のコピーを最初の時間に配布する。演習の進め方としては、条文を音読したのち、あらかじめ割り当てられた条文について、報告者が読み下し文・語句・人名・地名・解釈・考察などを解説し、それについての質疑応答・討論という形式で行うことにしたい。最初は丁寧に読んでいくので、全くの初心者でも履修は可能である。成績は平常点重視。

テキスト：
プリントを配布します。
参考書：
授業中に適宜紹介します。

日本史演習 (2)	近世対外関係史	助教授 浅 見 雅 一
-----------	---------	-------------

授業科目の内容：
近世史料の講読を行なう。
テキスト：
受講者と相談のうえで決めたい。

日本史研究会 I・II (2)	名誉教授 坂 井 達 朗
-----------------	--------------

授業科目の内容：
受講者と相談の上、決定する。

日本史研究会 I・II (2)	江戸時代の国際関係	教 授 田 代 和 生
-----------------	-----------	-------------

授業科目の内容：
この研究会の目的は、江戸時代の政治・経済・文化など多方面にわたる課題と取り組みながら、近世史研究を行なうための基礎能力を養うことにある。具体的な研究方法としては、年度ごとの共通テーマ（今年度は「江戸時代の国際関係」）を設定し、グループでの発表・討論を中心に、専門文献や史料への接近の仕方、あるいはそれらの評価・活用法などを学ぶ。またこれと並行して、四年生の卒業論文指導、三年生の個別テーマのレポート作成指導を行なう。なお三年生は、近世古文書講読の初級クラス（日本史演習：倉持）を必ず履修すること。

テキスト：
・田代和生『倭館』（文芸春秋社、2002 年）

日本史研究会 I・II (2)	教 授 三 宅 和 朗
-----------------	-------------

授業科目の内容：
4 年生については卒業論文の指導を行う。3 年生については春学期にいくつかの共通のテーマを定めて共同研究を行う。

日本史研究会 I・II (2)	教 授 柳 田 利 夫
-----------------	-------------

授業科目の内容：
近代日本史に関する文献講読と卒業論文指導

日本史研究会 I・II (2)	教 授 長 谷 山 彰
-----------------	-------------

授業科目の内容：
4 年生については卒業論文の指導を行う。
3 年生も各自のテーマについて報告を予定しているが、そのほかにも共通のテーマを決めて史料の講読も行いたい。
テキスト：
適宜コピー史料を配布する。

授業科目の内容：

中世史料の講読に、適宜、各自のテーマに基づく報告を交えながら、研究と論文執筆の能力を養ってもらいます。

テキスト：

初回の授業で提示します。

授業科目の内容：

中世末期から近世にかけての対外関係史を中心としたテーマで、参加者には卒業論文を視野に入れながら各自の関心に沿った研究報告をしてもらう。それと同時に、対外関係史に関する研究論文を参加者と一緒に読み、それを素材としてひとつのテーマについて自由に議論することも考えている。

休 講

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○東洋史学専攻

必修科目

東洋史特殊 A (4)

イランの映画と社会

講 師 鈴 木 均

授業科目の内容：

イラン映画の名作（ビデオ）を、春学期・秋学期それぞれ3本ずつ選んで現代イラン社会との関わりを考えつつ鑑賞し、議論していく。取り上げる映画は字幕付きのものを選び、最初の授業の際に発表する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

東洋史特殊 B (4)

講 師 石 丸 由 美

授業科目の内容：

オスマン帝国において19世紀は、新たな帰属意識として「民族」や「国家」といった概念がもたらされ、自他を分ける境界線が大きく変化した時代であった。本講義ではオスマン社会伝統のセルフ・アイデンティティの有り様を、そしてそれが様々な要因で変化していく有り様を概観する。特にオスマン社会における「トルコ人意識」と「アルバニア人意識」の形成に焦点を当て、新たな意識形成に貢献した文化活動を中心に見ていこうと思う。

テキスト：

特にありません

参考書：

授業の中で提示します。

東洋史特殊 C (4)

公正不偏の視点から歴史をとらえる

講 師 山 口 洋 一

授業科目の内容：

明治期の文明開化以来、日本では西洋的価値観の尺度で世界を眺め、西洋史観の色めがねを通して世界の歴史を受けとめる風潮が根づいている。この風潮は、敗戦にともなうアメリカの占領政策とそれに続く日教組主導の戦後教育により、一段と強まった。ことに近・現代史についてはマスメディアの強い影響力もあって、西洋的価値観に立って歪んだとらえ方をする傾向が顕著となり、われわれは知らず知らずの内に西洋的視点からの〈思いこみ〉に陥っていることが多い。これでよいのか。トルコ、ミャンマー、ベトナムに焦点を当て、公正不偏の歴史認識を問いたです。

参考書：

- ・『トルコが見えてくる』山口洋一著、サイマル出版会
- ・『ミャンマーの実像』山口洋一著 勁草書房
- ・『〈思いこみ〉の世界史』山口洋一著 勁草書房

東洋史特殊 D (4)

漢代の官吏制度と漢魏交替に伴うその変容

講 師 小 嶋 茂 稔

授業科目の内容：

魏の曹氏政権が採用した「九品中正」制は、漢代の所謂「郷举里選」の制度をその基礎としつつも、官吏の登用方法やその序列の示し方に関して大きな変更を加えたものでした。

この講義は、漢代において官職の上下の等級を表した「官秩」制度と、九品中正制の創始に伴って導入された同じく官職の上下の等級を表す「官品」制度とに着目し、「官秩」制から「官品」制へと移行した歴史的要因を探り、あわせて魏晋南北朝期の所謂「貴族制」の理解についても再検討を行うものです。

なお講義にあたっては、講義内容と関係のある出土資料研究の現

状などについても講述し、受講者が漢代を中心とする中国古代史の研究を独力で進めていくための一助となるように努める予定です。

テキスト：

特に指定しない。必要に応じて資料プリントを配付します。

参考書：

講義の理解に資する参考文献については、授業中に紹介します。

東洋史特殊 E (4)

知識人の誕生とその世界

講 師 伊 原 弘

授業科目の内容：

中国宋代になると、それまでの貴族の時代から、教育と試験によって登場した知識人が登場してくる。また、かれらの出身地である地域の問題も登場する。ここでは、宋以後の中国世界をになった知識人と地域の問題を論じる。

テキスト：

・伊原弘・小島毅編『知識人の諸相』（勉誠出版、2800円）

参考書：

- ・『アジア遊学』7特集「宋代知識人の諸相」（勉誠出版）
- ・その他は適宜紹介する。

東洋史特殊 F (4)

東アジアの地域秩序と近代中国

講 師 村 田 雄二郎

授業科目の内容：

近代東アジア地域秩序の変容プロセスを、中国ナショナリズムの展開を軸に、思想史的角度から考察する。国民国家と王朝体制、周辺統合／分離問題、少数民族と「中華」という想像体、日中関係、台湾・チベット問題、などのトピックを扱いつつ、グローバル化の時代における地域や国家のあり方について展望したい。

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

開講時に指示する。

東洋史特殊 G (4)

タイの国際関係史

講 師 柿 崎 一 郎

授業科目の内容：

この授業では、東南アジアのタイから見た国際関係史を理解することを目標とします。タイは東南アジアで唯一独立を守り通した国であり、第2次世界大戦時には日本の「同盟国」となりながら終戦後は敗戦国としての扱いを受けずに済み、戦後は西側各国の援助の下で順調な経済発展を遂げてきた歴史を持っており、国際関係をうまく利用しながら今日に至るまでほぼ順調な国家運営を行ってきました。そのタイの国際関係史に焦点を当てることで、「世渡り上手」なタイの素顔に迫りたいと思います。

テキスト：

指定しませんが、毎回簡単なレジュメを配布します。

参考書：

初回時に提示します。

東洋史特殊 H (4)

中国社会の諸相 ― 文化人類学的観点からみた中国の社会と文化

講 師 西 澤 治 彦

授業科目の内容：

中国の社会と文化の諸相を、文化人類学の立場から講義する。内容は、受講生の関心なども考慮に入れて決めたいが、予定としては、前半は、中国社会学史、都市 ― 農村関係、単位、国内移住と海外移住、大躍進と飢餓、文化大革命、中華民族論、回族コミュニティ、風水、東北地方のカン（朝鮮語ではオンドル）などといった、担当者がこれまで研究してきたことを毎回、トピックスを変えて講義し、後半は、一つのテーマに絞って、体系的な話しをしたい。予定としては、中国の食事文化を考えている。具体的には中国料理の変遷の

みならず、家庭やフォーマルな宴席での作法の変遷など、食事方法そのものの歴史人類学的な研究を紹介したい。

テキスト：

特に指定しませんが、講義資料は毎回配布の予定。

参考書：

その都度、授業で紹介します。

東洋史特殊 I (4)

北米における華人社会の歴史と社会組織

教 授 吉 原 和 男

授業科目の内容：

アメリカ合衆国における中国系移民のコミュニティ形成の歴史を概観した後、華僑華人団体の発達史と社会的機能について考察する。主にカリフォルニア州における現地調査によって入手した資料を用いて事例分析をする。

テキスト：

なし

参考書：

- ・塚田ほか編『流動する民族：中国南部の移住とエスニシティ』平凡社，2001 年
- ・五十嵐武士 編『アメリカの多民族体制：「民族」の創出』東京大学出版会，2000 年
- ・吉原和夫責任編集『アジア遊学』第 39 号（移民のエスニシティと活力），勉誠出版，2002 年
- ・ユエンフォン・ウーン著，吉原和男監修・解説，池田年穂訳『生寡婦：グラスウィドウ』風響社，2003 年

東洋史特殊 J (4)

東南アジア史の諸問題

言語文化研究所 専任講師 嶋 尾 稔

授業科目の内容：

東南アジアの歴史について、様々な視座から実証的に検討する。マクロなスケールで地域世界の成り立ちを考える一方で、ムラの世界まで降りてより具体的に人々の実践に迫って見る。切り口も一つには限定しない。「農業・農村」「交易ネットワーク」「国家・政体」「病気・治療」「女性」「歴史認識」など。《特殊》の講義枠ではあるが、まずは概論的・導入的な話から始めたい。素材はなるべく広く取りたいと思うが、専門に研究しているベトナムにやや偏るかもしれない。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・上智大学アジア文化研究所編『新版・入門東南アジア研究』（めこん，1999 年）

東洋史特殊 K (4)

アラブ史詳説

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

本年度は、7 世紀のイスラーム成立から 19 世紀末までのアラブ地域の歴史について講義する。概論的な説明と掘り下げた各論を組み合わせるかたちで各回を構成し、独自の視点からマシュリク（東アラブ地域）とマグリブ（西アラブ地域）の政治的展開，社会史，文化史をできる限り鮮明に描き出してゆきたいと考えている。

参考書：

- ・佐藤次高編『新版世界各国史 8 西アジア史Ⅰ アラブ』山川出版社，2002 年

史学概論 (4)

教 授 神 田 順 司

西洋史学専攻参照。

東洋史概説 I (4)

中国古代史概説

講 師 鶴 間 和 幸

授業科目の内容：

中国文明の誕生から中華帝国の形成（秦漢），分裂（魏晉南北朝），再生（隋唐）までの歴史を，考古学的な成果を取り入れながら概観していく。王朝交替史ではなく，地域から中国古代史を概説する。

東洋史概説 II (4)

中国近世近代史

教 授 山 本 英 史

授業科目の内容：

この講義では中国の歴史全体を「伝統の形成・発展・変容」という観点から論じていく。この講義を通して過去から現在に至るまでの中国の苦悩の歴史の一端に触れていただければ幸いである。

テキスト：

- ・山本英史『現代中国の履歴書』慶應義塾大学出版会 2003 年

参考書：

- ・尾形勇・岸本美緒『中国史』山川出版社 1998 年

東洋史概説 III (4)

宗教・民族からみるイスラーム世界史

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

イスラーム世界とは多様な民族とエスニック集団からなる広大な歴史的世界である。宗教的にもイスラームのみならずそれと兄弟関係にあるセム的一神教たるユダヤ，キリスト教を内に含みつつ共存をはかってきたところだ。この講義ではこうしたイスラーム世界の多様性と複合性を春学期においてはアラブ，トルコ系諸民族の 15 世紀あたりまでの歴史を軸に焦点をしばらくながら話をしていく。ついで秋学期では 16 世紀から近代の時期にかけてのオスマン帝国の歴史を例にトルコ，アラブ，バルカンの人びとがいかにして民族の意識をもつようになってきたのか，その文化的，政治的ナショナリズムの過程について国際関係を視野に入れながら考えていくことにしたい。他専攻，他学部の学生でも理解できるようにできるだけみくだいて話すつもりである。また，政治史に偏らずに社会史，文化史にも重点をおいていく。イスラーム世界についての知識はこれからますますグローバル化する国際社会で生きていく上で絶対に必要な分野である。

テキスト：

とくに指定せず。春秋それぞれの学期に一回ずつまとまった文献目録を配布。

原典講読 (2)

東洋史研究入門

教 授 坂 本 勉

教 授 山 本 英 史

教 授 吉 原 和 男

助教授 長谷部 史 彦

商学部 教 授 湯 川 武

授業科目の内容：

東洋史ほど間口が広く，かつ奥行きの深い分野は少ないのではないだろうか。それだけにどの地域，どの時代，いかなる方法で歴史を学んでいくかについて思い悩んでいる人も多いはずである。こうしたことを考慮して設けたのがこの授業である。原則としてゼミを持つ教員が担当し，オムニバス形式ですすめられていくが，その蘊蓄を傾けた話のなかから将来の道をさぐるよすがを見つけてもらいたい。講義は，以下のように東アジアから西のイスラーム世界へ，時代は古い方から新しい方へという順で組み立てられている。「華僑華人の研究史」

日本における中国移民の研究についての主要文献を紹介しながら，アジア移民研究における方法と課題を論じる。（吉原和男）「中国近世近代史研究法」

中国の近世近代史を中心に①なぜ中国の歴史を学ぶのか、②中国近世近代史研究の過去と現在、③中国近世近代史のための史料、④実践：史料読解―歴史はどのように作られるのか、という4つのテーマで講じる。(山本英史)

「イスラーム世界史研究法」

イスラーム世界史の研究方法についての基本的な説明からはじめ、続いてイブン・バットゥータ著『大旅行記』(家島彦一訳、平凡社東洋文庫)の部分的な講読を試みることで、学生諸君をイスラーム世界史研究へと誘うことにしたい。(長谷部史彦)

「イスラーム文化史入門」

イスラームとイスラーム文化の歴史をテーマとする。イスラームという宗教と、その価値観に基づいて形成されたイスラーム文化・文明を理解するためのもっとも基本的な知見を得る目的で、井筒俊彦博士の著作の中から『イスラーム文化』(岩波書店)などをテキストとして使いたい。(湯川武)

「巨視のイスラーム史理解にむけて」

イスラーム世界の歴史はしばしば時代も地域も輪切りにされて研究されていく場合が多い。しかし、ここではそれとはちがった地域横断的な視点からする歴史の切り口について次の順序で話していくことにしたい。

1. イスラーム世界のイメージ
2. 統合のシンボル―メッカ巡礼
3. トルコ民族史の世界
4. モノを通してみる社会史(坂本勉)

東洋史研究会 I・II (2) 教授 坂本 勉

授業科目の内容：

まず最初に共通のテキストとして生活観にあふれた社会史、文化史について扱う本と一緒に読んでいながら中東イスラーム世界についての認識を深めていきたい。これが済んだ後、出席者にそれぞれ自由課題を与え、その結果をレジュメにして発表していくという形式で授業をすすめていくことにする。このゼミに出席する者は、まず自分が何をやろうとしているのか、徹底的に考えてほしい。そして、しかるのちにやるべき事柄にかんする周到なビブリオグラフィをつくりそれにもとづく意欲的な発表を期待する。

テキスト：

・初回の授業で指示する。

東洋史研究会 I・II (2)

中国近世・近代史研究の方法と課題

教授 山本 英史

授業科目の内容：

この研究会は、受講者にとっては中国史―特に文献を史料として用いた10世紀以降の政治史および社会経済史―についての研究を行うための基礎能力を養うことに、また特に4年生にとっては卒業論文作成の準備をすることに目的があります。

本年度は上記の目的に沿い、前期は3年生を中心とする自分に関心がある自由なテーマにもとづく報告をひとりずつ行ってもらいそれを批判・討論していくという形態で進めます。また、後期は4年生を中心に卒業論文の中間報告とその検討を行います。

発表とレポートを重視した研究会ですが、出席は当然のものと考えてください。中国およびその歴史に強い興味がある方、主体的かつ積極的な勉学に努力を惜しまない方、中国について自分の言葉で語り、意見が述べられる方を歓迎します。

参考書：

- ・山根幸夫編『中国史研究入門』(増補改訂版)山川出版社、1995年。
- ・小島晋治・並木頼寿編『近代中国研究案内』岩波書店、1993年。
- ・『世界歴史大系・中国史』4明清、山川出版社、1999年。
- ・山本英史編『伝統中国の地域像』慶應義塾大学出版会、2000年。

東洋史研究会 I・II (2)

中国古代史の諸問題

教授 山本 英史

講師 原 宗子

授業科目の内容：

卒業論文作成の指導を主眼とします。

方法は受講生と相談の上、決定しますが、春学期は、「論文の読み方」を点検する作業を中心とし、随時、史料の扱い方にも触れてゆく予定です。

夏休み中に下書きが完成するよう、準備してゆきましょう。

秋学期には、夏休み中に作成した下書きをもとに、各自に発表してもらいます。説得力のある論理構成になっているかどうか、検討する機会になります。

テキスト：

・特に設けません。

東洋史研究会 I・II (2)

中東・イスラーム世界史研究

助教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

アラブ地域、地中海世界、インド洋世界を中心に、中東・イスラーム世界の社会史と文化史について多面的な考察を試みてゆきたい。卒業論文作成に向けての参加者各自の研究発表とディスカッションを適宜織り交ぜながら、日本語や英語で書かれた注目すべき研究文献を取り上げて講読する。時代的には7世紀から19世紀前半までを主たる対象とする。キーワードを挙げるならば、「都市」、「信仰」、「政治文化」、「生活世界」、「ウラマー」、「聖者」、「スーフイズム」、「スーク経済」、「アフリカ」、「貧困と慈善」、「地域社会」、「視覚文化」などである。これらのうち少なくとも1つに興味を持ち、自主的に調査・研究を進められる人であれば歓迎する。

テキスト：

参加者と相談の上決定する。

東洋史研究会 I・II (2)

中国人ならびにアジア人の国際移動

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

- (1) アジアにおける、あるいはアジアから他地域への国際人口移動の歴史人類学的研究を行う。中国人だけではなく、日本人、韓国人、タイ人、マレー人、ビルマ人、インド人なども視野にいられて比較研究する。移民の故郷、移民に関する法制、プロセス、適応と文化変容、エスニシティなどについて総合的に考える。たとえば、グローバリゼーション、トランスナショナルリズム、華僑華人、香港、チャイナタウン、移民の宗教、外国人労働者、難民などがキーワードである。
- (2) 中国の近・現代史において中国人の国際移動と関連する事象の研究
- (3) 北米、東南アジア、オーストラリアそして日本などにおける中国系以外のアジア移民の研究。

テキスト：

- ・岩波講座文化人類学第7巻『移動の民族誌』岩波書店、1996年
- ・岩波講座世界史第19巻『移動と移民』岩波書店、1999年
- ・五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会、2000年
- ・吉原ほか編『＜血縁＞の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社、2000年
- ・吉原ほか編『アジア移民のエスニシティと宗教』風響社、2001年
- ・吉原ほか編『拡大する中国世界と文化創造』弘文堂、2002年

東洋史研究会 (2)

商学部 教授 湯川 武

授業科目の内容：

本研究会は、中東、広くはイスラーム世界の歴史と文化という枠内で、卒業論文を書こうとする学生を対象とする。授業の目的は、

まず第一に中東およびイスラーム世界の歴史や文化についての知識と理解を広げ深めることにある。そして第二に、その学習を通じて、自らテーマを選択し、調べ、整理・分析し、卒業論文にまとめる、というプロセスを学ぶことにある。その過程で発表を繰り返すことにより、プレゼンテーション能力を高めることも含まれる。

卒業論文は「論文」であるから、それなりの内容と形式をきちんと備えていなければならない。その準備の過程を通じて、中東やイスラーム世界について、より幅広く、より深く学ぶことができることを期待する。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

初回の授業で参考文献リストを配布する

選 択 科 目

東洋史演習 A (2)

講 師 石 丸 由 美

授業科目の内容：

19 世紀末のオスマン文化をジャーナリズム史や文学の側面から考察していきたいと思う。

本演習では、Ahmet Ihsan の自伝 Matbuat Hatıralarım を中心に、講読していくが、場合によっては、他の文学者の手による自伝等をも講読していきたいと思う。

また必要に応じて、19 世紀オスマン文学史についてもふれていくつもりである。

テキスト：

テキストはこちらで準備します。

東洋史演習 B (2)

中東世界におけるシーア派イスラーム

言語文化研究所 助教授 野 元 晋

授業科目の内容：

イスラーム史の問題を宗教を軸として、政治、社会、経済や様々な文化現象から多角的に考えていく演習です。本年度は中東世界の宗教的マイノリティーの問題を扱うサイクルの二年目でシーア派イスラームに焦点をあてます。イラン・イスラーム革命から現在のイラク問題に至るまでシーア派は様々な機会に注目を浴びてきました。しかし多数派であるスンナ派との相違、さらになぜ政治権力との対立が生じるかなどシーア派の基本的問題についてはまだ一般に知られていません。この演習ではシーア諸派のイスラーム内分派としての成立と教義や儀礼形態の発展、前近代のイスラーム社会や政治権力との関係を考察し、さらには近代における思想を中心とした展開をも取り上げて行きます。

テキスト：

当方でコピーを用意し、配布します。

参考書：

授業中に適宜、指示します。

東洋史演習 C

項羽と劉邦の戦い——『史記』秦漢交替期関連史料を読む——

講 師 水 間 大 輔

授業科目の内容：

紀元前 221 年に中国全土を統一した秦は、わずか 15 年で滅亡します。その後、項羽との戦いに勝利を納めた劉邦が漢を建国するわけですが、漢は当初こそ秦の苛酷な法律を否定したもの、その後はむしろ秦の制度・法律を継承し、中央集権体制の確立に努めます。そういう意味で、このいわゆる「秦漢交替期」は中国古代史の中でも注目すべき時期といえます。そこで、この講義では前漢の司馬遷が著した『史記』のうち、秦の滅亡から前漢の建国に至るまでについて記した史料を読むことによって、漢文読解力のさらなる向上を

目指すとともに、秦末～前漢早期の国家・社会・制度・法律などについて、受講者と一緒に考えてみたいと思います。

テキスト：

・中華書局標点本『史記』を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません。資料は毎回配布します。

参考書：

講義の中で適宜提示します。

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○西洋史学専攻

必修科目

西洋史特殊 (4)

16 C ドイツとスイスの宗教改革運動について

講 師 野々瀬 浩 司

授業科目の内容：

16 C 初のドイツとスイスの歴史を中心に講義する。まず、当時の時代的背景について概観し、その次にルター、ツヴィングリ、ミュンツァー、再洗礼派などの神学思想に関して、カトリックと比較して、言及する。夏休み以後は、社会史的な視点から、その思想がどのような形で受容され、どの階層に受け入れられ、どのような影響を社会や歴史に与えたのかについて、説明する。通時的な事件史よりも、共時的な社会史や思想史的な叙述になるので、ある程度内容上は難しいテーマとなるであろう。

テキスト：

- ・なし
- ・授業中に資料を配布する

参考書：

- ・野々瀬浩司『ドイツ農民戦争と宗教改革』（慶大出版会）
- ・ブリックレ『ドイツの宗教改革』（教文館）
- ・メラ『帝国都市と宗教改革』（教文館）

西洋史特殊 (4)

1920 年代の欧米諸国

講 師 原 信 芳

授業科目の内容：

第一次世界大戦とロシア革命により、古き良きヨーロッパは終わる。1920 年代は、政治、社会、経済、文化のあらゆる分野で大衆社会状況が進行した。その意味で、この時代は現代史の出発点と言える。本講義は 20 年代の欧米諸国をとりあげ、現代史の意味を考える。具体的な授業計画は、下記に示すとおりである。

テキスト：

一冊のテキストにしません。講義の進行に合わせてその都度、参考書を指示します。

参考書：

とりあえず概論的なものとして、木村靖二『世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社、1997 年、494 頁、2524 円）

西洋史特殊 (4)

東欧とロシアの宗教と社会

講 師 黒 川 知 文

授業科目の内容：

東欧、特にロシアの宗教と社会について歴史的に考察する。春学期には、東欧とロシアのユダヤ史について、秋学期にはロシア正教史について扱う。歴史映画や記録フィルムも上映する。

テキスト：

- ・拙著『ロシア社会とユダヤ人』（ヨルダン社、2003 年）
- ・『ロシア・キリスト教史』（教文館、1999 年）

参考書：

- ・拙著『ユダヤ人迫害史』（教文館、1997 年）

西洋史特殊 (4)

西洋中世社会経済史

講 師 舟 橋 倫 子

授業科目の内容：

中世全般に関する知識に基づいて、自分なりに中世像が描けるようになることを目標としています。約一千年間継続し、ヨーロッパの本質を形成した中世の重要性を理解すべく、都市、農村、市場、教会、修道院、巡礼、聖人、食料、衣服、等の具体的なトピックを取り上げ、多面的な検討を行います。又、史料という材料を提示

して、多様な分析視角を紹介し、共に考えることによって各人の問題意識をかきたてることを心がけて授業を行います。

西洋史特殊 (4)

Propaganda and Power in Roman War, Politics and Society: Caesar and Pliny

法学部 教 授 マクリン、ニール B.

授業科目の内容：

We shall read (in Japanese translation) and analyze two important Latin texts which will introduce the social and political background to the Late Republic and Early Empire, Caesar's *Gallic War* in the spring semester and Pliny's *Letters* in the fall. The class will be a discussion class, where students must present their own interpretations of these texts and the events they describe, and will be assigned the task of criticizing or defending the self-presentations of the two authors.

The purpose is not only to expand the students knowledge and understanding of Roman History, but also to help develop their skill at arguing a case.

Students will conduct their discussion in Japanese, but must be capable of understanding the teacher's English.

テキスト：

- ・「春」ガリア戦記 カエサル 近山 金次（訳）（岩波書店）
- ・「秋」プリニウス書簡集 — ローマ帝国一貴紳の生活と信条 国原 吉之助（著）（講談社学術文庫）

西洋史特殊 (4)

スペイン近現代史と移民

経済学部 助教授 八 嶋 由香利

授業科目の内容：

コロンブスのアメリカ大陸発見以来、新世界を求めて旧世界から多くの人々が大西洋を渡った。そして人やモノの流れは今日まで絶えることなく続き、その規模と量はグローバル化する現代社会において加速度を増している。アメリカへの移住は 300 年に及ぶスペイン帝国の植民地支配から 19 世紀の植民地独立をへて、19 世紀末の近代大量移民の時代へと、時の経過とともにその形態や性格を変え、スペインおよび各地域の経済社会に影響を及ぼし続けた。また、移民はホスト社会でエスニック・アイデンティティの形成という新たな問題に直面しつつ、出身社会との心理的紐帯を維持しようとする。そして今日、彼らの末裔が経済成長をとげ EU メンバー国となったスペインへ向けて逆に大西洋を渡るという現象が起こっている。この授業では「人はなぜ、どのように移動するのか」をテーマに、15 世紀から今日に至るまでのスペインの歴史を繙きながら、そこに移民の残した痕跡を追う。

参考書：

授業時間内に配布

史学概論 (4)

教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

歴史の「事実」とは何か。それは揺るぎなき真実として発見されるのか、それとも歴史家の解釈によって作られるのか。そしてもし歴史家によって作られるとすれば、その「事実」認識の客観性はいったいどこに求められるのか。歴史の個別研究から一歩退いて、歴史がどのように認識されるのかを考えてみる時、我々は様々な理論上の問題に直面する。本講義では、そうした歴史学における認識論の諸問題を取り上げ、それらを実証研究との連関において考察する。

テキスト：

- ・E. H. カー、『歴史とは何か』岩波新書

参考書：

授業の中で指示する。

西洋史概説 I (4)	
西ヨーロッパ世界の形成	助教授 吉 武 憲 司
授業科目の内容： 古代末期から中世盛期までの時代を制度史・政治史を中心に概観します。 テキスト： なし 参考書： ・山本茂他『西洋の歴史（古代・中世編）』（ミネルヴァ書房 1988年）	
西洋史概説 II (4)	
絶対主義期の西ヨーロッパ	助教授 藤 田 苑 子
授業科目の内容： 時間的には 16 世紀から 18 世紀を、空間的にはフランスを中心として、西ヨーロッパの歴史を概観する。 参考書： ・『世界歴史体系ドイツ史 1』『世界歴史体系フランス史 2』『世界歴史体系イギリス史 2』山川出版社 ・ピエール・グベール『歴史人口学序説』岩波書店	
西洋史概説 III (4)	
イギリス領植民地期北アメリカ史	教 授 大 森 雄 太 郎

授業科目の内容：
 概説Ⅲは北米アメリカ史を扱います。ジェイムズタウン（1607 年）からフィラデルフィア（1776 年）に至るイギリス領植民地期アメリカ史を、政治史、社会史、経済史、宗教史、思想史等、多角的な観点から概観します。「アメリカ」はたかだか 200 年余の歴史しか持っていないとしばしば言われます。しかしこれは間違いであって、合州国が成立する以前に 170 年にわたる植民地期の歴史があります。そしてこの間に、北アメリカに特有の諸条件によって、特殊アメリカ的な特性が形成され、合州国の歴史は多分にこの特性の上に成り立っています。その意味で、イギリス領植民地期アメリカ史（前半）の知識は、合州国の歴史（後半）の理解にとって不可欠であると言えます。授業はまず、後の独立時に 13 のステイツとなる個別植民地の成立の事情と歴史を概観します。その後 17・18 世紀全植民地を通じての、いくつかのトピックスをとりあげて検討します。最後に、イギリス本国からの分離・独立にいたる、アメリカ革命前中期を簡単に見てゆきます。

参加希望者は第 2 週の授業日までに、生協購買部でこの授業の「コピー教材」を購入して、授業に持ってきて下さい。

成績評価は学年末に行う完全持ち込み不可のエッセイ・テストによって行います。テストを完全持ち込み不可とするのは、個別的事象にこだわるよりは、全体としての歴史の理解を重要視し、よりよく授業を理解している参加メンバーに、よりよい成績がつくようにしたいからです。従って、他人のノートを借用してテストに対応しようとしても無駄です。また、出席を強要するような方策はとりません。本来なすべきことの外見だけで、何らかの成績が保証されるのは合理的ではない、と考えるからです。テストは試験期間ではなく、最終授業日の 1 週間前に行い、成績評価と簡単なコメントをつけて最終授業日に返却します。欠席回数が 5 回以内であれば（自己申告）、成績に疑問のある場合は、クレームを申し出て下さい。クレームが正当か否かを判断せずに、成績を教務に提出することはしません。欠席が 6 回以上であれば、もはや授業に参加したとは見なせないで、クレーム権を認めません。

なお、この科目と法文学部設置の「アメリカ政治史」ⅠおよびⅡとの重複履修は認められていないので、注意して下さい。

原典講読 (2)	教 授 大 森 雄 太 郎
授業科目の内容： Jack P. Greene, <i>Understanding the American Revolution; Issues and Actors</i> (Charlottesville and London: University Press of Virginia, 1995)の中から、いくつかの論文を選んで読みます。本書は初期アメリカ史の碩学であるジャック・グリーンが、長年にわたって発表してきた多数の論文のうち、アメリカ革命を扱い、かつ影響力の大きかったものを選んで一冊にまとめた論文集です。「原典講読」では、多くの人の関心にとって公平であるように、概説書ないし総合研究をテキストとすることが多いようです。しかし、担当者（大森）は、無味乾燥な概説書でなく、むしろあえて個別的な問題を扱った文献を用いることで、英語（この場合はアメリカ語）で展開される論理をたどる訓練を行った方が、学生諸君の将来の役に立つ、と考えております。本書の研究対象はたまたまアメリカ革命です。しかし授業の目的は、ジャック・グリーン明晰な論理展開を読み解くことを通じて、英語で書かれた歴史のモノグラフを独力で読むための基礎を作ることにあります。なお、技術的には、高校英文解釈的なセンテンス読みから、パラグラフ全体を最小単位とするパラグラフ読みへの転換を目指します。	

出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで何らかの成績が保証されるのは合理的でないと考えるからです。各学期末に 1 回ずつ、合計 2 回のテストを行い、その合計点のみで成績評価を行います。テストは採点后参加メンバーに必ず返却し、採点に疑問のある場合は担当者にクレームをつけることができますようにします。担当者がクレームを無視して教務に成績を提出することはしません。

本書のうちテキストとして用いる論文は、担当者がコピーを作って配布します。特に本書の内容に関心のある人は、ペーパーバック版が \$24.50 で入手可能なので、個人で購入して下さい。

原典講読 (2)	助教授 吉 武 憲 司
-----------------	-------------

授業科目の内容：
 Patrick J. Geary, *The Myth of Nations: The Medieval Origins of Europe* (Princeton U.P., 2002) を講読します。履修に先だって、以下の参考書を読み基礎的な知識を身につけておいて下さい。
参考書：
 ・ピエール・リシェ『蛮族の侵入』（白水社 1974 年）

西洋史演習 (独) (2)	教 授 神 田 順 司
----------------------	-------------

授業科目の内容：
 ドイツ近代史に関するドイツ語テキストの講読を通してドイツ近代の基本的性格を学ぶ。
テキスト：
 ・Rürup, Reinhard, *Deutschland im 19. Jahrhundert 1815-1871*. (Deutsche Geschichte, hrsg. von J. Leuschner, Bd.8) Göttingen 1984.

西洋史演習 (仏) (2)	助教授 藤 田 苑 子
フランス語文献講読	

授業科目の内容：
 フランスのアンシャン・レژیーム社会にかんする文献を講読します。
テキスト：
 コピーを配布します。
参考書：
 ・辞書を指定します。：大修館『新スタンダード仏和辞典』

西洋史演習 (露) (2)	講 師 田 辺 三千広
ロシア中世史に関する文献講読	

授業科目の内容：
 ロシア史に関するロシア語文献の講読を行います。今年度は、А. А. Змиин, Россия на рубеже XV — XVI сто

летний（15 世紀から 16 世紀への転換期におけるロシア）をテキストとして使用します。本著の講読をすすめると共に、その内容について解説を加えます。

なお、テキストはこちらで用意します。

西洋史演習（西）(2)	講 師 北 田 よ志子
-------------	-------------

授業科目の内容：
スペイン語のテキストの講読を中心に授業を進めます。文献に当たりながら、スペイン史を学ぶ上での基礎的な知識の習得をめざします。また、取り扱う時代の特徴を把握し、さらにそれをヨーロッパ史の視点から考えてみたいと思います。

テキスト：
プリントを配布します。

西洋史演習（伊）(2)	講 師 三 森 のぞみ
-------------	-------------

授業科目の内容：
中世・ルネサンス期のイタリア史に関する文献を講読します。

テキスト：
プリントを配布します。

参考書：
授業中に適宜紹介します。

西洋史研究会 I・II (2)	教 授 清 水 祐 司
-----------------	-------------

授業科目の内容：
(3 年生)
卒業論文のテーマを決め、文献を読み、「卒論概要」を書く。

(4 年生)
個別指導により、「卒論概要」に肉づけして卒業論文を完成する。

テキスト：
・「日本人論」「日本文化論」に関する複数の文献（1回目の授業で「文献リスト」を配布）

授業科目の内容：
(3 年生)
〔春学期〕
研究蓄積の有無、利用可能な文献の有無などを踏まえてテーマを考える。それと平行して「日本人論」に関する複数の文献を読み、アカデミックに読み考えることを学ぶ。

〔夏休み〕
テーマに関する複数の文献を読む。

〔秋学期〕
テーマについての認識を深めるために、より専門的な文献を読む。夏休みの読書をもとに発表する。

〔3 月末〕
「卒論概要」を提出する

西洋史研究会 I・II (2)	北米アメリカ史・リサーチ・セミナー
	教 授 大 森 雄太郎

授業科目の内容：
北米アメリカ史を中心とする、西洋史学専攻・学部上級のリサーチ・セミナーです。セミナー・マネージメントは下記のとおりです。

1) 徹底的にリサーチ・セミナーであって、いわゆる「文献講読」は行いません。ゼミから「文献講読」的な要素を完全に排除します。この点が他のゼミとは違っているので注意して下さい。なお、いわゆる「サブゼミ」も行いません。

2) メンバー各自が自分の扱う問題（テーマ）で書いて来るペーパーと、そのペーパーについてのディスカッションによって、セミナーの時間が成り立ちます。各自が自分に固有の勉強を持つことと、ディスカッションでの発言を通じて、他のメンバーの勉強にも貢献することが要求されます。

3) (2)のペーパーを書くための下作業として、3 年生には各自の扱

う問題での文献リストの提出を義務づけます。3 年生の 1 月に、このリストに基づいて個別の口頭試験を行います。

4) (2)のディスカッションを支える方策として、他のメンバーのペーパーに対するコメントの提出を義務づけます。この点での最低限の義務は、全ペーパーの約四分の一程度に対してコメントを書く事です。コメントは事前に E メールで大森に送信することになっています。

5) 成績評価基準は前もって大森が示します。この点は完全にガラス張りです。従って、成績はメンバー各自が選り取るものになります。更に、教務に成績を提出する前に、成績評価案をメンバーに示して、クレームを受け付けます。クレームが正当であれば、成績が変わります。なお、出欠はとりません。本来なすべきことの外見だけで、なんらかの成績が保証されるのは合理的ではないからと考えるからです。

西洋史研究会 I・II (2)	教 授 神 田 順 司
-----------------	-------------

授業科目の内容：
本年度は 1848 年までのマルクスの思想発展を取り上げ、それを同時代のコンテクストに沿って歴史的批判的に考察する。研究会では下記文献の講読を前提に、関連テーマについての学生諸君の自主的研究にもとづいた報告が中心となる。三月前期の政治状況や社会問題、思想家集団や職人の結社などについて、できるだけ多面的に考察し、そのような歴史的社会的、思想的ならびに運動史的文脈の中で、マルクスの思想的発展を位置づけ、その思想の虚構性と現実性について共に考えてゆきたい。

テキスト：
・ David MacLellan, Marx before Marxism ,London and Basingstoke: Macmillan 1980.

参考書：
・ 良知 力『マルクスと批判者群像』平凡社 1971.
・ 良知 力『資料ドイツ初期社会主義－義人同盟とヘーゲル左派』平凡社 1974.
・ 他の参考文献については、授業のなかで指示する。

西洋史研究会 I・II (2)	助教授 吉 武 憲 司
-----------------	-------------

授業科目の内容：
授業中に、R.R.Davies, *The First English Empire: Power and Identities in the British Isles 1093-1343* (Oxford U.P.,2002)を講読しつつ、個人的に卒業論文作成のための指導をします。

西洋史研究会 I・II (2)	助教授 藤 田 苑 子
-----------------	-------------

授業科目の内容：
日本語および英語の文献や論文を読むかわら、各自が卒論の準備をします。

執筆の進捗状況に応じて、数回の報告をします。

テキスト：
・ そのつど指定します。

西洋史研究会 I・II (2)	助教授 神 崎 忠 昭
-----------------	-------------

授業科目の内容：
よりよい卒業論文が書けることを目的にします。3 年生には、テーマを絞って、文献検索のイロハを習い、「読むこと」を学び、発表することを経験してもらいます。それらを基礎にして、4 年生には卒業論文を仕上げてもらいます。「青春のモニュメント」になるような卒業論文を期待しています。

西洋史研究会 I・II (2)	ルイ 14 世時代史
	商学部 教 授 宮 崎 洋

授業科目の内容：
今年のテーマはルイ 14 世時代史です。その時代に関する英語の論

文を講読し、さらに出席者各人が選択したルイ 14 世時代のさまざまなテーマについて調べて報告をしてもらいます。出席者は講読、研究報告、討論と積極的に取組んでもらうことになります。テキストはこちらで用意します。

テキスト：

・ P. Sonnino, The Reign of Louis XIV, 1990, New Jersey

参考書：

その都度紹介します。

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○民族学考古学専攻

必修科目

民族学考古学特殊 A (4)

休 講

民族学考古学特殊 B (4)

考古学, 民族学, 人類学における数値処理とその実際

教 授 高 山 博

授業科目の内容：

考古学, 民族学, 人類学への応用を前提に, 統計とその適切な使い方について演習形式で進める。

パソコン上でのソフトウェア (表計算, スライド作成, 統計など) の動かし方も実習していく。統計学そのものの講義ではないので, パソコンのいろは, 統計学の基礎知識などはすでに充当していることが前提となる。

民族学考古学特殊 C (4)

レヴァントの考古学

助教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

石器時代からローマ時代のレヴァント (シリア・パレスチナ) 考古学を概観する。各時代の文化を考古学的に復元することはもちろんのこと, 旧新約聖書をはじめとする文献資料も活用する。できる限りトピカルなテーマ (古代オリエントの神々, 死海文書等) も取り上げたい。またレヴァントの歴史とエジプト文明, メソポタミア文明, ギリシア・ローマ文明との関わりについても随時触れるようにする。

参考書：

・A. マザール (杉本・牧野訳) 『聖書の世界の考古学』(リトン, 2003 年)

民族学考古学特殊 D (4)

動物考古学概論

助教授 佐 藤 孝 雄

講 師 姉 崎 智 子

授業科目の内容：

遺跡から出土する動物遺体から過去の人々の活動や行為, 心性を読み解く「動物考古学 (Zooarchaeology)」の方法論を概説する。主に前期を資料の採集や同定・分析法の説明に, 後期をそれらを経て展開される個別・具体的な調査・研究事例の紹介に当てたい。

講義に際しては, 実物を含めた標本資料と画像を数多く提示し, また時折, 実習的な内容を盛り込むことも考えている。ともすれば, “ゴミ扱い” されかねない骨や貝殻も, 扱い方次第では貴重な文化財となり得る。この点を理解してもらうことが本講義の狙いである。

民族学考古学特殊 E (4)

助教授 山 口 徹

授業科目の内容：

オセアニア (南太平洋) の島々はしばしば「楽園」として語られる。しかし, 今見るその景観は, 島に備わる自然の営力と, 人間の到来以来数千年のあいだに加えられてきた人為的改変の産物である。講義ではオセアニアの島嶼世界を紹介しながら, 自然と人間の狭間ともいえるこうした現象の具体例に焦点をあててゆく。また, 考古学・自然地理学・地形学・民族誌・人文主義地理学の多分野に渡る成果や議論を通して, 「環境史」の視点から空間・場所・文化景観といった普遍的なテーマにアプローチしたい。

参考書：

講義にて適宜指示する。

民族学考古学特殊 F (4)

比べ考える

斯道文庫 助教授 大 沼 晴 暉

授業科目の内容：

日本の民俗学の中で, 一見傍流に見える南方熊楠・渋沢敬三・山中共古の著作を取上げ, 皆さんにレポートしてもらいながら, 民俗・博物の諸問題や面白さを考えてゆこうと思います。その前にガイダンスとして, 日本の民俗学の歴史について話すつもりです。

民俗学考古学特殊 G (4)

弥生時代集落遺跡研究の方法

助教授 安 藤 広 道

授業科目の内容：

南関東地方を中心とした弥生時代集落遺跡研究の事例を紹介しつつ, 集落遺跡研究の方法と今後の課題について考えていきます。講義の後半期には, GIS (Geographic Information System) を応用した最新の研究成果についても解説したいと思っています。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介します。

民族学考古学特殊 H (4)

考古学理論を読む

講 師 桜 井 準 也

授業科目の内容：

考古学において重要と思われる理論から方法論に関する論考の輪読を行ないながら日本考古学の理論的基盤がどこにあり, 最先端の理論では何が問題となっているのかを理解してもらう。具体的には型式論, 様式論, 層位論, 堆積論, 遺跡形成論, サンプリング理論, 機能論, 実験考古学, 民族考古学, プロセス考古学, ポストプロセス考古学, 社会考古学, 認知考古学, 近現代考古学といった多様な内容である。

輪読形式であるので毎回学生が発表することが前提となる授業である。

参考書：

毎回指定する

民族学考古学特殊 I (4)

理論考古学と物質文化研究

講 師 朽 木 量

授業科目の内容：

近年, 物質文化への注目が高まっている。本講義では人文・社会科学と比較しながら理論考古学の流れを理解し, それらを物質文化研究という新たな形に発展させていきたいと考えている。より具体的なテーマとしては, 近現代考古学や欧米の Material Culture Studies を取りあげ, モノと人の関わりを多角的に論じていく。モノから生活文化をいかに読むかという問題は考古学・民俗学・民族学・民具学・社会学など様々な学問で論じられてきた。本講義ではこうした諸学の成果を踏まえつつ, 我々の身の回りのモノ (植木鉢やランプなどの生活財, 家の構造など) の実態を具体的に検討する。ともすれば定式化しがちな考古学や民俗学の解釈を物質文化研究という形で「脱構築」していきたいと考えている。

テキスト：

・Arthur Asa Berger, 1992 “Reading Matter” Transaction pub. (後期授業で一部使用, コピーで配布予定)

参考書：

詳細なリストを初回授業時に提示する

民族学考古学特殊 J (4)

休 講

民族学考古学特殊 K (4)

休 講

考古学(4)	教授 阿部 祥人
--------	----------

授業科目の内容：

考古学の基礎的な講義を行う。
特に、日本列島における先史考古学な研究の流れや特殊性に触れる。また、自然界におけるヒトの歴史の研究という視点から、この分野の研究の枠組みや方法について述べる。

民族学(4)	助教授 山口 徹
--------	----------

授業科目の内容：

民族学は、人間や文化の総合的な理解を求める学問である。前期は、民族学と関連諸学とのつながりに目配りしながら、文化研究における「歴史」の取り扱いについて複数のアプローチを解説する。次いで後期は、さまざまな事象の背後にある「目に見えないもの」への視座として「文化の諸理論」を解説する。

参考書：

講義にて適宜指示する。

人類学(4)	教授 高山 博
人類進化学概説	

授業科目の内容：

ヒト (*Homo sapiens*) の進化について、実際の標本（骨格標本、化石模型、生体など）を用いて考えてゆく。講義は隔年で、「人体各器官から見たヒトの成り立ち」と、「化石人類の発見史から見たヒトの進化」とを行っている。本年度は、後者の「化石人類発見史とヒトの進化」をテーマに講義を進める。18世紀半ばに、進化論とともに現代人とは異なる化石人類が確認され始め、種々の化石人類の発見により、21世紀に至る150年の間、人類進化の解釈はつぎつぎと書きかえられてきた。新たな化石の発見と再評価によって、進化論と人類進化がどのように変化してきたのか、を追いつつながら、ヒトの進化とヒト科、ヒト属、ヒト（種）の特異性について学ぶ講義としたい。

参考書：

指定しません。適宜プリントを配布します。

民族学考古学研究法(4)	(春学期) 助教授 安藤 広道
	(秋学期) 助教授 山口 徹

[春学期]

授業科目の内容：

考古資料を用いて過去の人々の諸活動を理解するために必要な、基本的な方法について解説する。

参考書：

・鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会

[秋学期]

授業科目の内容：

文化研究において問題発見・情報収集の手法となるフィールドワークを取り上げる。講義では、フィールドワークの理論と技（アート）を解説しながら、我々の身近に「現場（フィールド）」を見い出すことを目的とする。

参考書：

・講義の中で随時紹介する。

史学概論(4)	教授 神田 順司
---------	----------

西洋史学専攻参照。

原典講読(2)	(春学期) 助教授 佐藤 孝雄
	(秋学期) 助教授 杉本 智俊

授業科目の内容：

主に、考古学の基本に関わる英文の文献を講読する。学術英語を

読みこなせるよう英語力の向上をはかるとともに、考古学・民族学の基本概念について日英両語で理解できるようになることを目指す。履修者全員が毎回の分を読んだ上で授業に臨んでもらう。中型以上の辞書を座右に用意すること。

テキスト：

授業内において指示する

参考書：

授業内において指示する

民族学考古学研究会 I・II(2)	教授 阿部 祥人
-------------------	----------

授業科目の内容：

4年生に関しては卒業論文の指導を行う。3年生以下については、各自の目ざす専門分野で特に注目すべき内容や興味のある分析方法などを含む最近の論文を取り上げてもらい、それに対するコメント等を土台として演習を行う。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

民族学考古学研究会 I・II(2)	助教授 杉本 智俊
-------------------	-----------

授業科目の内容：

古代オリエント世界及び地中海世界の考古学に関心のある学生を対象に卒業論文作製の指導を行う。最初にテーマの設定、論理の組み立て、調査の仕方等方法論を簡単に解説する。その後、各自に自分の研究テーマについて発表してもらい、4年生は卒業論文の中間発表、3年生以下はそれぞれ関心のある分野の研究の紹介と評価を行い、それについて履修者全員で検討を加える。積極的な議論参加を期待する。

参考書：

各人の必要に合わせて適宜紹介する

民族学考古学研究会 I・II(2)	助教授 佐藤 孝雄
-------------------	-----------

授業科目の内容：

4年生に対しては卒業論文作成に向けての指導を行う。3年生以下の諸君には、卒業論文で扱うテーマを絞り込んでもらうために、それぞれ関心の分野の先行研究を整理・批判する作業を課す。履修者には順次、自らの調査・研究成果を報告してもらう。また、毎回各人の発表を受け、皆で討論を行う形をとるので、積極的な発言を期待する。

民族学考古学研究会 I・II(2)	助教授 安藤 広道
-------------------	-----------

授業科目の内容：

2年生： それぞれの興味・関心を考慮した課題を与えます。1年間その課題に取り組み、成果を発表してもらいます。
3年生： それぞれの興味・関心に基づき、半年程度取り組むのに相応しい課題を自ら設定し、やはり成果発表をしてもらいます。
4年生： 卒業論文の指導をします。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介します。

民族学考古学研究会 I・II(2)	助教授 山口 徹
-------------------	----------

授業科目の内容：

卒業論文に向けた実践的な研究指導を軸に据える。受講生にとって文化研究にかかわる多様なテーマの設定が可能だが、研究会における議論のための共通基盤として、フィールドワーク、ブックワーク、調査報告が各人に求められる。報告に際しては、自らが記録した写真等の映像資料を提示することが望ましい。

民族学考古学実習 (2)	助教授	佐藤孝雄
	助教授	山口徹
	助教授	安藤広道

授業科目の内容：

民族学考古学の研究に必要不可欠な物質資料の記録，取り扱いの実際を室内外で体験してもらう。欠席・遅刻は許されない。また，なるべく2年時に履修を済ませること。

○日本史学・東洋史学・西洋史学 民族学考古学専攻共通 選 択 科 目

博物館学 (4) 講 師 渡 辺 妙 子
講 師 坪 井 則 子

授業科目の内容：

博物館の基礎的理解力をつけるのがこの講座の目的です。バーチャルの世界が蔓延している現代、実物を観たり触れたりして、体験できる施設が博物館です。人類は有史以来自然から「もの」の本質を学び、人類に必要な諸々の「もの」をつくってきました。「ものづくり」は人に叡智をもたらしました。いま、「ものづくり」は大きな転換期を迎えています。私たち地球人はどこへ行くのか、振り返ることにより未来が見えてくるでしょう。博物館・美術館の社会的意義を実践的立場から説き明かしていきます。

東京は国公立・私立の各種博物館・美術館が林立しています。ほぼ週一回、テーマに沿って博物館・美術館を見学し、レポートを提出することになります。

博物館学実習 I A・B (各 3) 教 授 阿 部 祥 人
助教授 佐 藤 孝 雄
講 師 桜 井 準 也
講 師 西 田 宏 子

授業科目の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習 A を履修する者と同 B を履修する者とは分ける。この振り分けの詳細な説明は 4 月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外は履修は認められない。

博物館学実習 C・D (各 3) 助教授 杉 本 智 俊
講 師 桜 井 準 也
講 師 西 田 宏 子

授業の内容：

博物館の学芸員の資格を得ようとする人のために置かれた博物館学講座の必修科目である。将来、学芸員として要求される博物館業務に関する知識、資料の扱い方などを現物を用いて実習を行う。従って、既に博物館学の講義を履修していることが望ましい。実習は毎時間連続した内容であるため、欠席はもちろん、遅刻も絶対にしないことが要求される。

なお、この講義は履修者の調整を行い、博物館学実習 C を履修する者と同 D を履修する者とは分ける。この振り分けの詳細な説明は 4 月の最初の授業で行うため、希望者はこれに必ず出席すること。そこで振り分けられた者以外の履修は認められない。

博物館学特殊 I (資料論・有形) (4) 講 師 桜 井 準 也

授業科目の内容：

考古資料や民俗資料を中心に、博物館資料の性質や特性を理解してもらうとともに、資料の収集法や登録・管理法・理化学的分析法について解説する。また、その結果をいかに企画や展示に生かしてゆくか実例をあげながら説明する。

1. 博物館資料の分類
2. 博物館資料の収集と管理

3. 博物館資料の分析法
4. 博物館資料の企画・展示

参考書：

必要に応じて指示する。適宜プリントを配布する。

博物館学特殊 II (資料情報処理) (4)

講 師 桜 井 準 也

授業科目の内容：

博物館学芸員として習得すべき調査法、グラフや統計資料を用いた表現法、それに伴う基礎的な統計処理の方法について概説する。また、博物館におけるデータベースやマルチメディアの利用状況について解説する。

1. 調査と統計処理
2. 博物館とデータベース
3. 博物館におけるマルチメディアの利用

参考書：

必要に応じて指示する。適宜プリントを配布する。

博物館学特殊 III (展示・普及) (4)

休 講

博物館学特殊 IV (企画・運営・教育) (4)

(春学期) 講 師 齊 藤 泰 嘉
(秋学期) 講 師 平 野 千 枝 子

〔春学期〕

良き学芸員になるための実践的博物館学

授業科目の内容：

・美術館・博物館における常設展・企画展などの企画・運営について、多面的に検討する。とくに、近年注目されている美術館教育の実状や課題、展望なども考察したい。春学期は西洋現代美術史系の問題に、秋学期は日本美術史系の問題に重点をおく。

・春学期には、博物館の 3 大機能を「団子 3 兄弟」にたとえて解説することから始め、「保存」と「展示」の矛盾 (2 男団子と 3 男団子の喧嘩) の解決役としての学芸員 (クラトール=ケアする人) の役割について考察します。展覧会出品交渉術や真贋問題への対応などを説明し、問題解決能力のある学芸員養成を目指します。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・石森秀三著「博物館概説」(放送大学教材 85551-1-9911, 1999 年)

授

〔秋学期〕

美術館・博物館の役割と課題

授業科目の内容：

作品の収蔵・管理、展覧会の企画・運営、教育普及事業など、美術館・博物館における学芸員の基本的な活動について学ぶ。さらに、近年の新しい環境に対応する様々な試みについて考える。

洋書講読 (2)

合衆国における多民族状況とその歴史

講 師 丸 山 悦 子

授業科目の内容：

アメリカ合衆国の多民族・多文化状況についての文献を講読し、英文読解力をつけると共に、非白人マイノリティの歴史が主流社会との対比の中でどのように描かれてきたかを考察します。前期では「人種の構築」を論じた理論書を読んでいきます。この本は英語が比較的読みやすく、多くの文献に引用されており、現代史を扱ったものですが、アメリカ史の一考察として有効な著書です。後期では具体的なエスニック・グループの歴史、例えば日系やメキシコ系アメリカ人等の経験を扱った文献を取り上げる予定です。

テキスト：

・ Michael Omi and Howard Winant, *Racial Formation in the United States: From the 1960s to the 1990s*. 2nd ed. (Routledge, 1994).

洋書講読 A (2)

中東・イスラーム史研究文献講読

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

下記のテキストを精読する予定であるが、初回の講義で相談の上最終的にテキストを決定する。

テキスト：

・ Carl D. Petry ed., *The Cambridge History of Egypt: Islamic Egypt, 640 - 1517*, Cambridge University Press, 1998

洋書講読 B

漢文（中国古典）を読む

講 師 水 間 大 輔

授業科目の内容：

漢文を読むことは、中国はもちろんのこと、日本・朝鮮・ヴェトナム・モンゴル・チベットなど、中国の周辺地域の歴史・思想・文化・宗教などを知るうえでも必要不可欠です。特に、卒業論文の課題としてこれらの地域を選ぶのであれば、漢文は避けて通ることができません。そこで、この講義では主に漢文の初心者・初級者を対象として基礎から学習させ、漢文の読解力を身につけさせることを目指します。また、漢文を読むうえで必要な中国の歴史・思想・文化・宗教などに関する知識についても、適宜講義する予定です。

テキスト：

なし。毎回資料を配布します。

参考書：

講義の中で適宜提示します。

洋書講読 C

休 講

洋書講読 D

アメリカ西海岸の華人社会史

教 授 吉 原 和 男

授業科目の内容：

1965 年の新移民法以降は在米華人の出身地が多様化したことが、現在でも広東省の珠江三角州地帯からの移民とその子孫は多数派をなしている。彼らに移民史と現地化のあり方を、出身地の歴史および社会構造との関連で理解する。

テキスト：

・ Yong Chen, *Chinese San Francisco, 1850 - 1943: A Trans - Pacific Community*. Stanford University Press, 2000

参考書：

最初の授業で紹介する予定。

洋書講読 E

休 講

○国文学専攻

必修科目

国語学 A (春学期) (2)

音韻・文字 講師 半沢 幹一

授業科目の内容：
現代日本語を中心として、その特質と歴史について、具体例に即しながら検討してゆく。とくに日本語の音韻・文字を取り上げる。

テキスト：
・『ケーススタディ日本語の歴史』（おうふう）

参考書：
・必要に応じてその都度紹介する。

国語学 B (秋学期) (2)

語彙・文法 講師 半沢 幹一

授業科目の内容：
現代日本語を中心として、その特質と歴史について、具体例に即しながら検討してゆく。とくに日本語の語彙・文法を取り上げる。

テキスト：
・『ケーススタディ日本語の歴史』（おうふう）

参考書：
・必要に応じてその都度紹介する。

国文学 I (4)

源氏物語講義 講師 日向 一雅

授業科目の内容：
源氏物語はどのような作品か、その特色について平安時代の文学史と歴史との関わりの中で多角的に検討する。源氏物語が先行文学をいかに摂取したか、どのような物語世界を達成したか、物語の方法、構造、主題、表現の検討、典拠や準拠の問題について、研究史や享受史を踏まえながら講義する。また源氏物語がそれぞれの時代にどのように受け止められ、古典としての価値を確立してきたかという問題についても解説する。

テキスト：
・授業時に資料プリントを配布する

参考書：
・日向一雅『源氏物語の準拠と話型』至文堂、1999年

国文学 II (4)

藤原定家論 講師 中川 博夫

授業科目の内容：
院政期に生を享け中世初頭に活躍した藤原定家について考えてみたい。定家は文学史・和歌史にとどまらず文化史上に大きな足跡を残した。定家を考えることは即ち、中世の和歌史・文学史・文化史の諸々の問題を考えることである。定家の日記『明月記』を中心にいくつかの資料を併せ読み、定家の人物像に迫りつつ、歌壇のあり方や撰集の成立過程、歌学や古典学の位相、あるいは宮廷社会の実態等々について考察する。

テキスト：
・プリントを配布する。

参考書：
・教室で適宜指示する。

国文学 III (4)

歌謡研究 教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：
催馬楽研究をなす。平安時代に盛んに行われた饗宴歌謡であるが、

万葉時代の歌と関わりが強い歌が含まれている。その歌々の検討をする。

テキスト：
・特に指定しない

参考書：
・授業内指示

国文学 IV (4)

「和歌」とは何か 教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：
日本古典文芸の基軸のひとつとしての「和歌」につき、その全体の構造と原理を整理してはなす。季節歌論を中心とする。

テキスト：
・『堀河百首』（『新編国歌大観』第四巻 26 を複写すればよい）

参考書：
・久保田・川村『合本 八代集』（三弥井書店、'86 年）
・樋口・後藤『定家八代抄 ― 続王朝秀歌選』上・下（岩波文庫、'96 年）

国文学 V (4)

山東京伝『四季交加』を読む 講師 大高 洋司

授業科目の内容：
『四季交加』（しきのゆきかい 寛政 10 年刊）は、江戸戯作の第一人者山東京伝の手になる絵本（北尾重正・画）で、江戸の町の四季がウィットに富んだ美しい文章で綴られており、1800 年前後の政治と文化について考えるべき点を含んでいる。本作の読解を通じ「江戸」を楽しみ、学んでほしい。

テキスト：
・プリント配布

参考書：
・講義中に指示

国文学 VI (4)

慶応義塾図書館蔵御伽草子講読 助教授 石川 透

授業科目の内容：
慶応義塾図書館が所蔵する御伽草子を活字本で講読し、挿絵を鑑賞する。

テキスト：
・慶応義塾図書館蔵図解御伽草子（慶應義塾大学出版会）

参考書：
・魅力の御伽草子（三弥井書店）

国文学 VII (4)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：
人はどう生きたか、そして私たちはどう生きるか。かつて日本人はどう生きたのだろうか。また私たちは、それから何を学ぶことができるのだろうか。この講義では、日本の文学者（古典、近代を問わず）を中心として、さまざまな生のありようを学び、この混迷の時代を生きる私たちの指標を探してみたい。話題はいきおい、近代社会や現代社会をどう捉えるかという点にも及ぶので、しばしば文学の域を脱することがあるが、あらかじめ了解せられたい。

テキスト：
なし

参考書：
・必要に応じてふれる。

国文学 VIII (4)

読むための理論 講師 高橋 修

授業科目の内容：
『それから』『こころ』『薔の中』等の近代の小説のみならず、ディ

ズニーアニメ、山口百恵神話、ファミコンゲーム、コミックなど、非＝文学的な様々なメディアの表現も積極的に取り上げながら、テキストを<読む>ための基礎となる方法を考える。授業は『読むための理論』（世織書房）に即しながらすすめることにする。

テキスト：

・高橋修他『読むための理論』（世織書房）および授業時配布のプリント。

参考書：

・授業時に指示。

国文学Ⅸ (4)

秋成の浮世草子と『雨月物語』 講師 長島弘明

授業科目の内容：

上田秋成の『諸道聴耳世間狙』『世間姿形氣』の2作の浮世草子と、読本の『雨月物語』の表現・主題・人物造型の方法を比較し、その共通点と相違点について詳細に解説する。江戸時代小説の作品構成方法について、様々な観点から分析を進め、学ぶ。

テキスト：

・特に指定しない。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・『上田秋成浮世草子評釈』、森山重雄、国書刊行会
・『雨月物語の世界』長島弘明、筑摩書房（ちくま学芸文庫）

国文学Ⅹ (4)

近代日本文学における〈他者〉表象と想像力

教授 松村友視

授業科目の内容：

ひとは〈他者〉をどのように認識し表象するかという問題は今日の意味において重要だが、近代的な認識の問題として近代日本文学の根幹にも関わっている。本講義では、主として他者認識をめぐる想像力を視座として、何人かの作家たちとその作品を横断的にとらえてみたい。その場合の〈他者〉は、自分以外の他人の意だけでなく、異なる価値・組織・領域に属する集団、あるいは、人間にとっての他者たる自然をも含意する。

対象となる作家として、尾崎紅葉・国木田独步・柳田国男・泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・宮沢賢治などを予定しているが、変更の余地がある。

テキスト：

・適宜コピー資料を配布する。

参考書：

・講義中に示す。

国文学Ⅺ

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

『和漢朗詠集』は平安時代中期、藤原公任によって編纂された上下二巻から成る詩歌のアンソロジーである。日本の伝統的美意識を具現する書として近代に至るまで広く愛読された。授業では本書の内包する様々な問題（例えば項目の立て方、依拠資料、書式など）について詳細に考察を加え、新たな視点から文学史上の位置づけを試みたい。

テキスト：

・こちらで用意する。

参考書：

・教室で適宜指示する。

国文学Ⅻ (4)

近代小説〈都市〉を読む 講師 須田喜代次

授業科目の内容：

〈近代文学と都市〉を大きなテーマとして、都市空間と文学の関わりを、時代状況を踏まえつつ、さまざまな角度から照明をあててみたい。作品の舞台となった時空間に実際に降り立つ気持で、その時

空間を照らし出す光源を資料として使いながら近代短編小説を読んでいきたい。

テキスト：

・東郷克美他編『近代小説 都市を読む』（双文社出版）

国文学Ⅻ (4)

休 講

国文学Ⅻ (4)

近代日本の演劇 講師 神山 彰

授業科目の内容：

近代日本のさまざまな文化現象との関連のなかで、「演劇」というイメージがどのように成立し、変容してきたかを考えます。江戸以来の歌舞伎が新時代のなかで変質していく過程、多くの人気を集めた新派や新国劇の重要性、それらの運動のなかから生れた「新劇」と総称されたジャンルそれらを関連する隣接領域とからめて、とりあげていきます。

テキスト：

・特に指定しません。講義用プリントを配布します。

国文学Ⅻ (4)

日本芸能論 講師 神田 より子

授業科目の内容：

芸能は時間と空間が限定され、それを超越できない。表現するそばからその表現が消滅してしまう。それ故に感動の度合いも大きい。芸能の起源は、人間の感情表現の洗練に求めることもできるが、選ばれた者の行う宗教的な行為にその発生を求めることもできる。ここでは日本人にとって、そして日本文化にとって芸能とはなにかを考える。そこで自分たちの身近な音楽、芸能、パフォーマンスを取り上げ、人はなぜ自分とは異なる役割を演じるのか、他者を演じるとはどういうことか、議論してゆきたい。

テキスト：

・特に指定しない。

参考書：

・池田弥三郎『芸能』岩崎美術社 1955
・池田弥三郎『芸能と民俗学』岩崎美術社 1972
・池田弥三郎『池田弥三郎著作集』第2巻 角川書店 1980
・宮家準編『山の祭と芸能（上下）』平河出版社 1984
・芸能史研究会編『日本芸能史』（全7巻）法政大学出版局 1981～1990
・網野善彦他編『大系日本歴史と芸能』（全14巻）平凡社 1990～1992

国文学史 A（春学期）(2)

環境文学史 教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学から近代文学に至る各時代の文学作品は、おのずとそれぞれの時代の自然環境を、意識的にまた無意識的に映し出している。そうした文学作品の内容に触れつつ、自然環境と人間との関係がいかなるものであったかを考察し、さらにそこから現代の両者の関係のありようについても言及したい。

テキスト：

なし

参考書：

・必要に応じてふれる。

国文学史 B（秋学期）(2)

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

国文学史 A（春学期）の続きです

テキスト：
なし

参考書：
・必要に応じてふれる。

国文学史 C（秋学期）(2)

古事記教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

古事記の中巻を上巻との関りの中で読む。

テキスト：

・特に指定しないが、原文、訓み下しののもの

国文学史 D（春学期）(2)

近代日本文学の成立と展開教授 松村友視

授業科目の内容：

日本の近代文学は、古典文学の伝統の上にヨーロッパ近代の思想や文学観がにわかに導入されることによって成立した。それゆえ、同時代の社会状況、文化状況と同様、その本質において綜綜した性格をもっている。明治文学を対象に、近代日本文学の成立と展開をさまざまな観点からとらえ、その文化史的な意味を考える。

テキスト：

・適宜コピー資料を配布する。

参考書：

・講義中に示す。

国文学史 E（春学期）(2)

「わらい」の中世文芸史教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

院政期から室町末までを中心に、和歌・連歌、歌謡、物語、説話集、縁起・法語・談義、軍記、狂言、初期俳諧、お伽草子、歌論、連歌論、道歌等々から、哄笑・冷笑・失笑・憫笑など諸種の「わらい」をとりあげる。この面から、中世文芸のながれがどのようにとらえられることになるかをのべてゆく。

テキスト：

・講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

・講義の中であげてゆくが、柳田国男「不幸なる芸術」はよんでおくといふ。

国文学史 F（秋学期）(2)

「いくさ」の中世文芸史教授 岩松研吉郎

授業科目の内容：

院政期から室町末までを中心に、文芸の中の「いくさ」をたどってゆく。軍記物語にかぎらず、諸分野で、戦争言説という文化がどのように展開してゆくか、神話的暴力や法的・日常的暴力と区別される暴力がどうとらえられるか、についての話だ。

テキスト：

・講義の中で逐次しめす。一部は資料コピーをくばる。

参考書：

・講義の中であげてゆく。

原典講読 I A (2)

(春学期) 教授 藤原茂樹
(秋学期) 教授 佐藤道生

〔春学期〕

万葉集の歌しらべ

授業科目の内容：

万葉集巻九の歌から発表担当者ごとに歌をえらび、諸注をしらべつつ報告する。

テキスト：

・授業内指示

参考書：

・同上

〔秋学期〕

授業科目の内容：

平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行なうことは例年どおり。

原典講読 I B (2)

(春学期) 教授 佐藤道生
(秋学期) 教授 松村友視

〔春学期〕

授業科目の内容：

平安・鎌倉期の文学作品をいくつか取り上げ、古写本を用いて講読する。毎回、翻字の小テストを行なうことは例年どおり。

〔秋学期〕

樋口一葉の短編小説

授業科目の内容：

樋口一葉の主要な短編小説に詳細な注釈をほどこしながら、同時代における性差の問題や女性表現のありようについて考察する。取り上げる作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：

・開講時に指示する

参考書：

・開講時に示す。

原典講読 I C (2)

(春学期) 教授 松村友視
(秋学期) 助教授 石川透

〔春学期〕

樋口一葉の短編小説

授業科目の内容：

樋口一葉の主要な短編小説に詳細な注釈をほどこしながら、同時代における性差の問題や女性表現のありようについて考察する。取り上げる作品および担当分担については開講時に指示・決定する。

テキスト：

・開講時に指示する

参考書：

・開講時に示す。

〔秋学期〕

短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本か影印版で講読する。

テキスト：

・最初の授業時に指示する

原典講読 I D (2)

(春学期) 助教授 石川透
(秋学期) 教授 藤原茂樹

〔春学期〕

短編室町物語講読

授業科目の内容：

室町物語（御伽草子）は、室町時代から江戸時代前期に制作された物語の総称である。そのうちいくつかの作品を取り上げ、写本か刊本か影印版で講読する。

テキスト：

・最初の授業時に指示する

授業の計画：

いくつかの室町物語を演習形式で翻刻し、さらには、注釈・現代語訳を付して鑑賞する。

成績評価方法：

・授業内での発表、学期末試験等による総合評価

〔秋学期〕
万葉集の歌しらべ
授業科目の内容：
万葉集巻九の歌から発表担当者ごとに歌をえらび、しらべ報告する。
テキスト：
・授業にて指示
参考書：
・同上

国語学演習 (2)	教授 関 場 武
往来物の世界	

授業科目の内容：
貴族や僧侶の子弟のための模範往復書簡文例集として中古に成立し、とくに江戸時代から明治にかけて盛んに印刷・書写、制作された往来物の中から何点かを取り上げ、国語史学・書誌学的な面から考察を加える。春学期はその概観に始まり、最も流行した「庭訓往来」や「実語教」「童子教」を取り上げ、秋学期にはその他各種の往来物や近代に至る手紙文例集も題材として読み進める。
テキスト：
・原本や活字翻刻本より採ったコピーを適宜使用。
参考書：
・平凡社・東洋文庫 242 「庭訓往来」(1973 年)ほかその都度適宜紹介する。

日本語文法 (2)	講師 半 沢 幹 一
品詞	

授業科目の内容：
現代日本語を中心として、今年度はとくに品詞に重点を置き、その分類概念方法や各品詞ごとの特色・問題点を、具体的に取り上げてゆく。
テキスト：
使用しない
参考書：
・必要に応じてその都度紹介する。

漢文講読 (国文) (2)	教授 佐 藤 道 生
---------------	------------

授業科目の内容：
漢語文献を読解するに必要な基礎知識を修得することを目的とする。漢語文法と漢文訓読法とについて講義する。
テキスト：
・こちらで用意する。
参考書：
・教室で適宜指示する。

国文学演習 I (2)	教授 藤 原 茂 樹
日本文学の素材 (古代散文)	

授業科目の内容：
日本文学の素材論。
古代文学の散文 (古事記, 風土記を対象とする) から、その素材を選び、調査、考察し、報告をなす。

国文学演習 II (2)	助教授 石 川 透
長編室町物語講読	

授業科目の内容：
約四百編現存する室町物語 (御伽草子), あるいは、その周辺の作品のうち、長編のものを、影印版で講読する。
テキスト：
・最初の授業時に指示する

国文学演習 III (2)	教授 岩 松 研吉郎
中世文学評論読解	

授業科目の内容：
近代以前の文学批評・文芸論は、和歌についてとりわけ蓄積されてきた。いわゆる「歌学」「歌論」である。これを丁寧によみとくことは、古典文芸とその場の理解のためだけでなく、古典研究法の体得にも有益な筈だ。そこで、歌学・歌論の概観をおこなった上で、具体的に数種のテキストから適宜の章段をえらんで、調査・分析・発表・討論をすすめる。
テキスト：
・逐次影印等を配布する。
参考書：
・初回に指示する。

国文学演習 IV (2)	教授 川 村 晃 生
--------------	------------

授業科目の内容：
日本文学を対象として、自然環境について考えたい。素材としては、山河などの風土、動植物、天象などが考えられるが、それらから各自の考察したいもの (野, 狸, 月等々) を自由に選択し、最終的にレポートにまとめてもらう。演習の進め方や、テーマの設定などは、履修者数にもよるので、開講時に相談したい。できれば、開講時までにテーマを絞っておいてほしい。
テキスト：
なし
参考書：
・必要に応じてふれる

国文学演習 V (2)	教授 松 村 友 視
森鷗外『青年』	

授業科目の内容：
『青年』(明治 43 ~ 44) は、作家志望のために上京した一青年を視点人物としながら、執筆当時の鷗外の思索を反映して同時代の文化・思想・社会に関する幅広い視野をもつ作品である。本演習では、作中の語句や事項に綿密な注釈をほどきながら、決してわかりやすいとはいえないこの作品を可能な限り具体的に読解していくことを目指す。
テキスト：
・岩波文庫『青年』
参考書：
・開講時に示す。

国文学演習 VI (2)	教授 佐 藤 道 生
--------------	------------

授業科目の内容：
『詩序集』(宮内庁書陵部蔵。平安後期の詩序四十六篇を収める) を講読する。
詩序は詩宴開催の趣旨を叙べる文体であり、その多くは大学寮の紀伝道に学んだ者が執筆した。絢爛たる四六駢儷文によって書かれ、詩宴に於いては詩の披講に先立って読み上げられた。当時の公家日記や説話集やに閱しても明らかなように、その出来映えによっては文人としての名声が得られる絶好の機会であったから、序者は自らの持てる力を出来得るかぎり駆使してその執筆に当たった。詩序はまさに王朝漢文学の真髄と言っても言い過ぎではない。授業では履修者の会読というかたちで本書を読み進め、詩序の文学的意義を考察する。
テキスト：
・こちらで用意する。
参考書：
・教室で適宜指示する。

国文学研究会 I (2)		
古代文学と民俗の研究	教 授	藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

卒業論文作成のために各自興味ある課題をいくつか探し、前期 2 回後期 2～3 回程度の発表を行う。

テキスト：

・特になし

国文学研究会 II (2)		
	教 授	川 村 晃 生

授業科目の内容：

古典文学、近代文学の別を問わず、文学作品の中に見られる自然環境、人権・差別、戦争・平和といった、いわば人間や社会の根本的な問題をとり上げ、そうした問題に先人たちがどう関わってきたか、またそれについて私たちが何を考えるべきなのか、といった点を中心的なテーマとして論文を書かれることに共感します。

国文学研究会 III (2)		
	教 授	佐 藤 道 生

授業科目の内容：

卒業論文指導。諸芸道を含め、古典文化に関わるテーマで執筆しようとする者を対象とする。論文指導は授業時間外に個別に行ない、授業では文献資料の調査方法について教授する。

国文学研究会 IV (2)		
卒業論文ゼミナール・日本中世文芸	教 授	岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期から、鎌倉・南北朝・室町時代まで、つまり中世の諸作家・諸テキスト・諸テーマについて論文をかこうとおもう学生のための研究会であるが、近現代等のテーマでも、言語文化としての分析をおこなうものならかわない。

はじめの時間に、すでによんだテキスト、参考文献の提示・報告をもとめるから準備しておくこと。

なお、論文の作成のための指導は、何回かの発表・討論をのぞき、原則として時間外の面接ですすめ、授業時間には、中世のテキストひとつないし数篇の全部または一部を演習形式で、学年末までよみすすめる（何をよむかは、参加者の希望をきいてきめる）。夏の合宿では、他にもひとつテキストをよむ。

国文学研究会 V (2)		
卒業論文指導	助教授	石 川 透

授業科目の内容：

古典文学の散文を中心に論文を書こうとする者を対象とする。これら以外では、絵巻物等の絵画資料と文学との関わり、昔話等の伝承資料と文学との関わり、古典と現代文化との関わり、等の異文化と文学との接点について書こうとする者も対象とする。

国文学研究会 VI (2)		
	教 授	関 場 武

授業科目の内容：

卒業論文の指導。学生諸君が自己の責任に於て選択したテーマに沿って、論文作成のための助言と指導を行なう。本来は中世近世文芸、国語学が守備範囲であるが、担当者自身の研究テーマ辞書史がそうであるように、時代や分野には必ずしも拘泥しない。広く日本語、日本文化に関わるものなら、都市論であろうとオペラや比較文化、漫画論、児童文学、被服史・食物史・科学史であろうと真面目に取り組んでくれればこたわらない。但し最新の文芸評論・理論等については指導できる程読み切れていないので御遠慮願いたい。

国文学研究会 VII (2)		
近・現代の文学・文化を対象とする卒業論文指導	教 授	松 村 友 視

授業科目の内容：

テーマの決定、資料調査、参考文献の整理、研究方法の選択、論の構築等、卒業論文作成にいたるまでの基本的な手続きについて、各自のテーマ方法を相互に検討しながら学んでいく場としたい。

選 択 科 目

仏教学概論

休 講

日 本 語 学 I (春学期) (2)		
国際センター	専任講師	岬 里 美

授業科目の内容：

日本語の母語話者である我々が外国語として日本語を教えることには、予想以上の困難が存在している。本講義では日本語学の概説を通じて、母語を外国語の視点から客観化する作業を紹介し、後期の「日本語教授法」への導入としたい。

テキスト：

・開講時に指示する

日本語学II (春学期) (2)		
国際センター	教 授	長谷川 恒 雄

授業科目の内容：

近年、「第 2 言語教育としての日本語教育」という分野が専門領域として確立してきた。これは、主として日本語を第 1 言語（母語）としない人々に対する日本語習得活動の支援、あるいは教授活動のことであるが、そこには従来の国語教育・国文法とは違った観点からの日本語発見がある。

たとえば、「さあ、食べた、食べた！」は過去のことを言いたいのだろうか。文法的にはどう考えればよいのだろうか。このような点を踏まえ、どのように日本語・日本語によるコミュニケーションを再整理していけばよいのか、日本語教育の立場から考えていきたい。

参考書：

・『日本語概説』森田良行他 おうふう社

日本語教授法 I (秋学期) (2)		
国際センター	教 授	長谷川 恒 雄

授業科目の内容：

・この科目は、日本学 I あるいは II を履修した者を対象とする。
・授業は、第 2 言語教育の諸法の紹介、および、日本語教授活動の実践についての考察を行う。
・この授業は、日本語・日本文化教育センター設置「日本語教育学講座」につながる内容を扱う。

参考書：

・『タスク日本語教育法』日本語教育学会編 凡人社

日本語教授法 II (秋学期) (2)		
国際センター	教授	村 田 年

授業科目の内容：

日本語教育とは、日本語を母語としない学習者に対して行われる日本語の教育のことである。日本語教育を行う場合、国語教育（日本語を母語とする者に対する教育）とは異なる視点が必要となる。本講義では、日本語教授法を概観し、さらに主要な教授法による文

法の扱い方を通じて、国語教育の視点とは異なる日本語文法の教育方法を学ぶ。

テキスト：

- ・担当者作成教材（コピーにて配布）
- ・『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

参考書：

授業時に指示します。

※**共通科目**については、後述の「**全専攻共通科目**」を参照

○中国文学専攻

必修科目

中国文学史 I (4)

中国古典文学の概説と作品選読 教授 八木章好

授業科目の内容：

先秦から清代に至るまでの中国古典文学を詩・文・小説・戯曲に分けて、各ジャンルの主要な項目を時代順に概説する。概説に加えて、代表的な個々の作品を原典で読む。取り上げる項目は以下の通り。

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 詩経 | (11) 宋代以後の詩 |
| (2) 楚辞 | (12) 論語 |
| (3) 漢代の詩 | (13) 孟子・荀子 |
| (4) 魏晉の詩 | (14) 老子・莊子 |
| (5) 陶淵明 | (15) 史記 |
| (6) 南北朝の詩 | (16) 十八史略 |
| (7) 初唐・盛唐の詩 | (17) 辞賦・駢文・古文 |
| (8) 李白 | (18) 文言小説 |
| (9) 杜甫 | (19) 白話小説 |
| (10) 中唐・晩唐の詩 | (20) 戯曲 |

テキスト：

・八木章好編著『中国古典文学二十講』（白帝社，2003年，2000円）

中国文学史 II (4)

助教授 杉野元子

授業科目の内容：

前期は清末から中華人民共和国建国以前までの時期、後期は建国以後から現在までの時期を対象として、主だった文学者の経歴や作品、文学思潮や論争などについて講義する。

テキスト：

・中国文芸研究会編『図説中国20世紀文学』（白帝社）

近代中国文学（中国文学史 II(A)）(4)

休講

中国語学概論 (4)

教授 山下輝彦

授業科目の内容：

声調言語である中国語は、シナチベット語族に属し、皆さんが勉強してきた英語や日本語とかなり異なる性質を持つ言語です。この授業では、中国語の音韻、文法、語彙の三つの面について概説します。音韻については、現代語の音韻体系のみならず、中国語の音韻の歴史についても触れたいと思っています。

参考書：

・藤堂明保・相原茂「新訂・中国語概論」1985年大修館

中国文学特殊 (4)

『楚辞』を朱子の注釈によって読む

商学部 助教授 種村和史

授業科目の内容：

中国の古典学においては、古典に注釈をつけるというかたちで自身の研究成果を世に問うことが、歴代の学者によって広く行われてきました。現代の我々が古典を研究するときには、先人の成果を咀嚼した上で自己の考察を展開しなければなりません、そのためには、まず代表的な注釈を読み解き、先学が古典をどのように解釈しているかを正しく理解することが基礎作業として求められます。

本授業では、古典文学に対する注釈の典型例として、南宋・朱熹の『楚辞集注』をとりあげ、中国古典解釈学の概要を知ると同時に、注釈に基づいて古典を読みすすめる訓練をしたいと思います。

あわせて、中国古典文学およびその関連分野に関する基礎的知

識・研究方法についての講義を随時行います。

テキスト：

・朱熹『楚辞集注』（テキストは準備します）

中国語学特殊 (4)

総合政策学部 助教授 田島英一

授業科目の内容：

本年度は、主に中国語諸方言と少数民族言語に焦点を置きます。中華人民共和国領内の分布する各言語の諸特徴、歴史的背景と現代の使用状況、国による言語政策との関連などが主なトピックになる予定です。

授業形式：講義、文献講読、プレゼンテーションの複合型。

テキスト：

追って連絡します。

参考書：

下記の拙著に目を通していただくと、どのような話をするのかイメージがつかめると思います。

・「中国の言語政策」（KEIO SFC REVIEW No.5 所収）

・「後発国民国家のナショナリズムとガバナンス」（梅垣理郎編『総合政策学の最先端』所収、慶応義塾大学出版会）

原典講読 I（中国文学演習 I）(2)

中国古典詩を読む

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典詩の基本知識を習得することを目的として、有名作品を選んで精読します。春学期は中国語で注釈、現代語訳、解説、鑑賞の付された作品のプリント教材を用いて講読します。今年度は『詩経』、『楽府』、陶淵明、陳子昂、杜甫、李白、王維、李商隱、杜牧等の作品を読む予定です。秋学期は各自が適当な作品を選び、語句の解釈、翻訳、鑑賞等を発表してもらいます。また、年間を通して隔週に中国文学関連書の書評、夏期休暇には中国古典詩史の基礎術語についてのレポートを課題として提出してもらいます。課題についての詳細は最初の授業時に伝えます。

テキスト：

・プリント教材。開講時に配布します。

参考書：

・松枝茂夫『中国名詩選』（上・中・下）岩波文庫。

受講者は開講時に入手しておいてください。その他の参考書や工具書等は随時紹介します。

原典講読 II（中国文学演習 II）(2)

『論語』講読

教授 岡 晴夫

授業科目の内容：

『論語』の原典に接し、儒教とは何かについて考えながら、漢文に馴れ親しむようにしたい。

前年度の続きで、今年は「憲問」篇の途中から読む。受講生には、割り当てられた章句について、あらかじめレジュメを準備することが要求される。

テキスト：

・『論語集注』（簡野道明補注・明治書院）

中国古典演習 II (A)（中国文学演習 III）(2)

易経

斯道文庫

助教授

高橋

智

授業科目の内容：

「易経」という中国古典の原理と読み方を中国語で学ぶ。

テキスト：

・授業時に指示

参考書：

・同上

中国古典演習 II (B) (中国文学演習 IV) (2)
古典作品講読 教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

文言文（漢文）の読解力向上を目指し、古典作品を適宜選んで講読する。

テキスト：

・プリント使用

中国古典演習 II (A) (中国文学演習 V) (2)
思索する文学 教授 関 根 謙

授業科目の内容：

- ① 中国当代の作品の中から、全体主義的社会を拒否して「個」の尊厳を追求した小説・戯曲を取り上げる。
- ② 前期は高行健の戯曲『野人』を読む。
- ③ 後期は史鉄生の小説『宿命・原罪』を読む予定。
- ④ 大「中華意識」から離脱した「個」のあり方、「個」の可能性について討論を深めていきたい。

テキスト：

・前掲

参考書：

・特になし

中国古典演習 III (B) (中国文学演習 VI) (2)
中国女性文学とジェンダー 講師 白 水 紀 子

授業科目の内容：

春学期は、新旧制度・規範が混在する民国時期の女性文学を対象に、秋学期は最近10年間の女性文学を対象に、ジェンダーの視点で作品分析を行ないます。具体的には、蓄妾制、旧式結婚、近代家族、女性と仕事、セクシュアリティ、国家とジェンダーなどテーマごとに作品を取りあげます。この授業は、文学研究にジェンダーの視点を導入する有効性について理解を深めることを目標としています。

参考書：

・丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説3 女性作家選集』（二玄社、2001年、1800円）

中国古典演習 I (A) (中国語表現演習 I) (2)
講師 松 下 淑 子

授業科目の内容：

ある話題について自分の意見や見解を自由自在に述べることを練習する。コトバのみならず中国文化にも多く触れていく。

比較的難度の高い文章を聞き、それについて議論を展開していく。また定期的にテーマを決め、討論会を行う予定。テキストは『中国は今』という中国の現在を外国人の視点で紹介する文章を扱っているもの。

ヒアリングと会話を中心とする授業なので積極的に発言したり、質問したり、討論に参加してほしい。

テキスト：

・「中国は今」白水社 孟広学他

参考書：

・授業中に提示

中国古典演習 I (B) (中国語表現演習 II) (2)
講師 余 文 青

授業科目の内容：

本课の教学目标是培养学生熟练掌握汉语基本词汇和基本句型，以及这些词汇和句型在生活中的实际适用，培养学生口语表达能力。教材以北京语言文化大学编的《说汉语》为主，兼用一些自编课文。

教学步骤如下：

- ・理解力训练 让学生听语言片段，训练学生提炼话题主题的能力。
- ・表达训练 通过各种问答训练，培养学生快速反应能力和对白能力。
- ・叙述训练 当学生掌握课文内容以后，训练学生把会话转换成独白，用以训练学生成段表达能力。
- ・应用训练 训练学生灵活应用课上所学的知识 and 技能于实际生活，培养学生交际能力。

成绩评价方法：出席情况，平时作业，期末考试综合评定。

テキスト：

プリント

中国古典演習 I (中国語表現演習 III) (2)
講師 余 文 青

授業科目の内容：

本课的教学目标是培养训练学生在不同场合对不同对象进行得体恰当的交际，并能对某一话题进行客观分析和主观评价。教材以《桥梁》为主，并从报刊、杂志、网络中选取一些学生感兴趣的，与中国文化、国情相结合的话题作为教学参考资料。教学步骤如下：

- ・理解训练 通过训练学生理解话题的基本意思来帮助学生建立汉语思维的方式。在此基础上结合自己的情况初步展开话题。
- ・成段表达训练 从话题中抽取一系列口语表达框架及常用格式对学生训练，注重句式一句群一段落的规范化表达及口语技巧的训练。
- ・综合运用所学的知识进行模拟实践的口头表达训练。如辩论、采访、演讲、解说等等。

テキスト：

プリント

中国語学演習 II (中国語表現演習 IV) (2)
教授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語の特質や言語と文化との関わりを理解する上で必要と思われる中国語の文献を講読します。今年度は、前期は音韻論に関する文献を、後期は、文法や中国語の本質について書かれた文献を読みます。順番と範囲を決めて、一人ずつ当ててやってもらいます。

テキスト：

- ・董同和「漢語音韻学」1972年 台湾書局
- ・趙元任「語言問題」1980年 商務印書館

中国古典文学研究会 I (3 年) (2)	教 授 岡 晴 夫
中国古典文学研究会 II (4 年) (2)	教 授 八 木 章 好
	教 授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

中国古典文学を中心に学ぶ者を対象とした研究会。学生による研究発表と討論を主とし、兼ねて卒業論文指導を行う。

中国現代文学研究会 I (3 年) (2)	教 授 関 根 謙
中国現代文学研究会 II (4 年) (2)	助教授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

- ① 20世紀の中国文化について多角的に検討する。
- ② 小説・詩歌・戯曲などの文学作品を中心とする。
- ③ 中国に関するものであれば、映像芸術や舞台芸術などの文化現象一般も対象に含める。
- ④ 授業を通して口頭発表の仕方、論文作成の技術などを学ぶ。

中国語学研究会 I (3 年) (2)	
中国語学研究会 II (4 年) (2)	教 授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語という言語について様々な角度からその特質を検討し、次にあげるテーマの中で各々が興味のあるものを選択し、さらに理解を深め研究することを希望する場合、資料収集の方法、文献の扱い方などについて指導する。

- (1) 文法。現代文法，歴史文法，日中対照研究など
- (2) 語彙(外来語など)の特徴や文化と関係の深い問題など
- (3) 音声。特に現代語の発音の諸問題
- (4) 方言。豊かな中国の方言に関する諸問題

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・出席を重視する。発言の頻度なども評価の参考となる。

質問・相談：

授業終了後に受付ける。

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○英米文学専攻

必修科目

英語史 (4) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

A knowledge of the history of English is important for understanding the vocabulary, grammar and pronunciation of Present-Day English. The course will begin by considering the varieties of English found around the world today, and their historical relationships. This will lead to a survey of the history of Modern English, back to the time of Shakespeare. In Semester Two the lectures will look at the earlier stages of the language and its origins: Middle and Old English, and the Germanic and Indo-European language families.

テキスト:

・Myers & Hoffman, *The Roots of Modern English* (Kinseido)

参考書:

・7 class tests + 1 examination

英文学史 I (4) 教授 高宮 利行

授業科目の内容:

〔春学期〕

主に英米文学専攻の2年生を対象に、春学期は中世から17世紀までの英文学の歴史の流れを追う。できるだけヴィジュアルな資料を用いて、立体的な講義を心がけたい。

〔秋学期〕

18世紀から20世紀に至る英文学史。各時代の代表的作家、及び作品を中心に取り扱い、英文学の歴史的な輪郭と特質を述べる。

テキスト:

・Abrams, M.H, et al., eds., *The Norton Anthology of English Literature* Vols. 1 & 2, W.W.Norton, 2000. (教室で販売する)

参考書:

・教室で指示する。

英文学史 I (4)

18世紀から現代までのイギリス文学史

助教授 河内 恵子

授業科目の内容:

18世紀から21世紀のイギリスの歴史を理解しながら、文学の流れを把握してほしい。

テキスト:

・教室で販売する

・Abrams, M. H, et al., *The Norton Anthology of English Literature* vols. 1 & 2 (London: Norton, 2000)

参考書:

・教室で指示する

授業の計画:

9月～10月 18世紀及び19世紀前半のイギリス文学史。

11月～12月 19世紀後半から20世紀前半のイギリス文学史。

1月 20世紀後半から現代までのイギリス文学史概観。

成績評価方法:

・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

春秋とも学期末試験を実施する

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

米文学史 I (4) 教授 異 孝之

授業科目の内容:

ピューリタン植民地時代からポストモダン文学の時代へ至る

「アメリカ文学史の常識」をふまえながら、その準拠枠からはこぼれ落ちかねない多様な「非常識の文学史」をも考察していく。

テキスト:

・Peter High, *An Outline of American Literature* (Longman, 1986)

・George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River Prentice Hall, 2001) .

参考書:

・異孝之『アメリカ文学史のキーワード』(講談社現代新書, 2000年)。

現代英語学 (4)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容:

一般言語学の枠組で英語の共時態をとり扱います。

テキスト:

・電子掲示板(私のホームページ)に示してあります。

参考書:

・電子掲示板(ホームページ)に示してあります。

原典講読 A (2)

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

We will develop and practice skills in the reading of non-literary and academic English by reading a book on how human language developed.

テキスト:

・Jean Aitchison, *The Seeds of Speech* (Cambridge)

原典講読 B (2)

テニソンのアーサー王詩

教授 高宮 利行

授業科目の内容:

19世紀英国詩人テニソンのアーサー王物語を扱った短篇詩を詳しく分析しながら、英文テキストの読み方、図書館利用法と文献収集の方法、研究発表と質疑応答の仕方を訓練します。

テキスト:

・プリントで配布します。

参考書:

・高宮利行著『アーサー王物語の魅力』、『アーサー王伝説万華鏡』

原典講読 C (2)

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容:

英語を正確に読む力を養うと同時に英語学に関する導入も行う。

テキスト:

・*Language Myths*. Trudgiled. Penguin

原典講読 D (2)

イギリスの短編小説

助教授 河内 恵子

授業科目の内容:

現代の英国を代表する女性作家、A. S. Byatt が編集した短編集を読みながら「英国小説の面白さ」を体験してほしい。すぐれた作品を読みながら、英語の読解力を身につけてほしい。また、読むことによって見えてくる「英国性」を理解するのもこの授業の目的である。

資料の収集・整理方法、レポート作成、研究発表の方法についても指導する。

テキスト:

・教室で販売する

・A. S. Byatt, ed., *The Oxford Book of English Short stories* (Oxford: Oxford up, 1998)

参考書:

・教室で指示する。

原典講読 E (2)	教 授 巽 孝 之
------------	-----------

授業科目の内容：

ワシントン・アーヴィングからジョン・アップダイクに至るアメリカの代表的短篇を精読し、各作家研究の基礎固めをする。

テキスト：

・George McMichael, ed., *Concise Anthology of American Literature* (Upper Saddle River: Prentice Hall, 2001).

参考書：

・巽孝之『アメリカ文学史のキーワード』（講談社現代新書、2000年）、生協入荷。

原典講読 F (2)	教 授 松 田 隆 美
------------	-------------

授業科目の内容：

19～20世紀のイギリス詩を中心とした講読演習。詩の精読をすると同時に、一編の詩をめぐる、その文学史的な文脈や関連事項についていろいろと調査することで、文学研究における資料調査の方法も学習する。

テキスト：

・*Norton Anthology of English Literature*, vol. 2 およびプリント。

古代中世英語学 (4)	教 授 松 田 隆 美
-------------	-------------

授業科目の内容：

この講義の目的は、Old English, Middle English のテキストに実際に触れることで、イギリス中世の文学とその思想的背景について具体的に学ぶことである。春学期には、Old English への導入をするとともに、アングロ・サクソン期のイギリス文学についてテキストを実際に読みつつ解説する。秋学期には、Middle English の特徴を説明し、チョーサーなどの作品を通じて、中世後期イギリスの文学とその背景について、さまざまな角度から考察する。

テキスト：

・春学期は主にプリントを使用。秋学期は、L. D. Benson, gen. ed., *The Riverside Chaucer*, 3rd edn (Oxford, 1988) を使用する予定。

英語音声学 (4)	教 授 スカヒル, ジョン・デミエン
-----------	--------------------

授業科目の内容：

This course will introduce the fundamental concepts of phonetics and phonology, and analyse the vowels, consonants, stress, rhythm and intonation of English.

テキスト：

・ピーター・ローチ著『英語音声学・音韻論』（大修館書店）

英語学演習 A (2)	
-------------	--

Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* の書誌学的研究

教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

大学院修士課程の中世英語英文学特殊講義と共通科目。Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* を Winchester MS と Caxton 版の比較研究によって、書誌学的に解明する。中世英語、古写本学、書誌学、本文校訂学の基礎からはじめて、Caxton 版『アーサー王の死』を中心に取扱う予定である。2 学期に行われる個人発表には、綿密な予習が必要である。

テキスト：

・ロッテ・ヘリング著『キャクストン印刷の謎』（雄松堂・1991 年）

英語学演習 B (2)	
-------------	--

Elementary Old English

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

Students will learn the elements of Old English, and read simple texts against the background of Anglo-Saxon culture.

テキスト：

・Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

英語学演習 C (2)	
-------------	--

Authorized Version の原典を精読する

講 師 橋 本 功

授業科目の内容：

聖書を英語学の観点から読む授業です。英訳聖書の中で原典にもっとも忠実な訳は Authorized Version（欽定訳聖書）です。一方で、その訳は「英語散文の金字塔」とまで賞され、1611 の出版以来英語散文の発達に大きな影響を及ぼしてきたと言われていています。この聖書の旧約を 1) 文章構成法、2) 文体、3) 統語法、4) メタファーなどに注目しながら精読して、これらを検証します。

テキスト：

・1611 年版の原典のゼロックス・コピーを配布します。

参考書：

・橋本 功著『聖書の英語：旧約原典からみた』第三版 英潮社
・David Norton, *A History of the Bible as Literature*, 2 vols, CUP. 1993

英語学演習 D (2)	
-------------	--

社会言語学

講 師 阿 部 圭 子

授業科目の内容：

Gumperz によって提唱された相互作用社会言語学は「言語と社会の相関を見るマクロ社会言語学」と「個人レベルのコミュニケーションからその関係性を分析するミクロ社会言語学」の融合を唱えている。

本講ではこの Gumperz の視点から文化の異なる人々（国、民俗、人種その他性別、年代、職業などの下位概念も含む）のミスコミュニケーションの要因をその背景となる社会や文化とのかかわりにおいて考察する。

テキスト：

・授業開始時に指示する。

参考書：

1) 唐須敦光（編）『英語学文献解題言語学Ⅱ』（研究社、2000）
2) 小池生夫（編）『応用言語学事典』（研究社、2003）

授業の計画：

初回の授業で提示する。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・提出物、発表、授業内での討論などを総合的に評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

英語学演習 E (2)	
-------------	--

認知文体論研究 認知言語学と文学テキスト

講 師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

認知言語学のこれまでの成果と文学テキストの分析の接点を基本文献の再読と最新の論文集を読みすすめることで理解を深め、認知文体論と呼ばれる分野の概観を試みる。最終的には各自の関心の文学テキストを認知言語学の観点から分析できるようになることが目標となる。認知言語学に関してはある程度の理解が望ましいが、受講者によっては基本に立ち戻っていくことも考える。

テキスト：

- ・ Elena Semino and Jonathan Culpeper eds. *Cognitive Stylistics. Language and cognition in text analysis.* (Amsterdam: John Benjamins, 2002)

参考書：

- ・ 大堀壽夫著「認知言語学」(東京大学出版会, 2002)

英語学演習 F (2)

翻訳理論と演習

講師 成瀬 武史

授業科目の内容：

日本語から英語へ、英語から日本語への翻訳過程で避けがたい「問題領域」に注目し、さまざまな具体的な問題に対処する方途を探る。そのために原文の分析から訳文の構想までの道中を言語と文化の両面から多くの誤訳と名訳の例を観察・検討してゆく。

授業であつかう主なテーマは、原文読者と翻訳読者の間の理解内容の等価、翻訳読者の脳裏に喚起すべき認知の枠組み、原文より「分かりやすい」訳文の提供、有用な辞書の種類と内容、日英語間の発想と表現の対照的な特徴（「相話」的構成と対話的構成、語順、文の拡大、記憶への負担、「ある・なる」と「する・作る」）、「とりあえずの」解釈、頭の中の辞書と文法、「意味を作り出す」前提と推論、原文の解体と再構、「係り・受け」の対応、流れる文体と留まる印象、訳文評価の標尺。

テキスト：

- ・ 成瀬武史 (1996). 『英日・日英 翻訳入門 — 原文の解釈から訳文の構想まで』. 研究社.

参考書：

- ・ Bell, Roger T. (1991). *Translation and Translating-theory and practice.* Longman.
- ・ Gutt, Ernst-August (1991) *Translation and Relevance-cognition and context.* Blackwell.
- ・ 小池生夫 (編 2003). 『応用言語学事典』(VI, 3). 研究社.

英語学演習 G (2)

講師 ドネガン, パトリシア

授業科目の内容：

“Write from the marrow of your bones.” — Matsuo Basho

A workshop course in creative writing (poetry/prose) taught by published American writer/Poet. Practice English rhythms & feel the sacred, passionate power of words. Get in touch with feelings & let your inner voice out. Read love poems, American beat poetry, haiku poetry, haibun, & modern imagist poetry. Using these samples for our writing, we will write our memories, dreams & visions. We will share our work followed by feed-back from the teacher. Feast on your creativity! Materials for the class provided — bring only an English to English dictionary, pen & paper & an open heart.

*limited to 20 students.

英語学演習 H (2)

英語の国語化、帝国言語化をめぐる諸問題

講師 吉野 利弘

授業科目の内容：

辺地の一地方の土着語にすぎなかった英語の国内的には国語化、対外的には帝国の言語化はどのような歴史的、文化的、社会的状況下に展開したのか、それにより、Modern English はどのような特質を備えるに至ったのか、さらにそれを支える英語学はどのように生じ、どのような identity を備えるに至ったか、そこにはどのような問題が内在するかなどを日本語の国語化を参考にしながら考える。

テキスト：

- ・ N.F. Blake. *A History of the English Language.* Routledge, 1996 or more recent ed. 生協扱い。
- ・ 他適宜プリント。

参考書：

- ・ Dick Leith. *A Social History of English*, 2nd ed. Routledge, 1997 or

more recent ed.

- ・ 小森陽一『日本語の近代』岩波書店, 2001.
- ・ 他適宜教室時呈示。

英文学演習 A (2)

英文学と映画—『フランス軍中尉の女』『抱擁』『めぐりあう時間たち』
教授 高宮 利行

授業科目の内容：

本年度はヴィクトリア朝およびエドワード朝と現代を錯綜させるハイパーテキスト的に書かれた3つの現代小説を取り上げ、その映画化作品を通じて、小説と映画の技巧の比較を試みたい。取り上げるのは以下の作品である。

1. John Fowles, *The French Lieutenant's Woman*, 1969. 映画『フランス軍中尉の女』は Karel Reisz 監督, Harold Pinter 脚本, Meryl Streep と Jeremy Irons の共演で, 1981 年アカデミー賞5部門で候補となった。舞台は1860年代と1980年のイギリス。
2. A. S. Byatt, *Possession: A Romance*, 1990. 同年のブッカー賞受賞。映画『抱擁』は Neil LaBute 監督・脚本, Gwyneth Paltrow と Aaron Eckhart の共演で2002年製作。舞台は1860年代と現代のイギリス。
3. Michael Cunningham, *The Hours*, 1998. 1999年のピューリッツァ賞受賞。映画『めぐりあう時間たち』は Stephen Daldry 監督, David Hare 脚本, Meryl Streep, Julianne Moore, Nicole Kidman の共演により2003年アカデミー賞九部門で候補に上がり, 主演女優賞 (Kidman) を受賞。舞台は1923年のイギリス, 1951年のロサンゼルス, 2001年のニューヨークを交錯させ, その元に Virginia Woolf が意識の流れの手法で書いた小説 *Mrs Dalloway* (1925) がある。

テキスト：

上記4小説の英語版（ペーパーバックでも初版ハードカバーでもよし）を、各自インターネットなどの方法で安価に入手すること。なおこれらには邦訳があるが、授業ではあくまでも英語版を用いる。

英文学演習 B (2)

Jean Rhys の世界

助教授 河内 恵子

授業科目の内容：

Jean Rhys (1894-1979) は、現在、最も高い評価を受けているイギリス女性作家のひとりである。

クレオール、ポストコロニアリズム、モダニズム、フェミニズム etc. とさまざまな角度から研究されるこの女性作家の作品を読むことによって、20世紀のイギリス小説の複雑な面白さの一端をつかんでほしい。

テキスト：

- ・ 教室で販売する
- ・ Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (Harmondsworth: Penguin, 1968)

参考書：

- ・ 教室で指示する。

英文学演習 C (2)

イギリス・ルネサンスの詩の世界 教授 松田 隆美

授業科目の内容：

Spenser, Shakespeare, Donne, Marvell, Milton など, 16 ~ 17 世紀を代表する詩人の短詩を精読することで、ルネサンス期の詩の主題的特徴、詩的コンベンション、視覚芸術との密接な関連などについて考察する。

テキスト：

- ・ プリントを使用。

履修者へのコメント：

精読には時間をかけますが、履修者には毎回、丁寧な予習が求められます。

英文学演習 D (2)

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する
講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀の文学作品の精読・演習を通じて、まず、当時の英文学作品の原典を正確に読みこなせる実力を培うこと、そしてその上で、文学研究の基本的な方法や論点を整理し、作品解釈の可能性についての思考力を養ってもらうことが本演習の目標です。18 世紀は、詩、小説、伝記、批評などのさまざまな文学ジャンルが変化、分化、確立してくる時期であり、また印刷出版文化（ジャーナリズムや著作権論争を含む）が今日の相貌を帯び始める時期でもありますから、履修者の皆さんは、本演習を通じて、英語力の向上とともに、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

テキスト：

・ Daniel Defoe, *Robinson Crusoe* を教材とします。使用する版については、開講時に指示します。

参考書：

・ 開講時に詳しく説明します。

英文学演習 E (2)

英国ロマン派の詩を読む 講 師 阿 部 公 彦

授業科目の内容：

この授業では William Wordsworth, S.T. Coleridge, John Keats, P. B. Shelley といったロマン派の代表選手の作品を少しずつ取り上げます。ふだんあまり英詩に親しんだことのない人も含めて、ロマン派詩への入門を果たすことができれば、という趣旨です。

テキスト：

・ ハンドアウトを用意しますが、財政的に余裕のある人は
Romanticism: An Anthology with CD-Rom 2nd ed. ed. by Duncan Wu (Blackwell, 1998) を手に入れると良いでしょう。

参考書：

・ 授業の初回に知らせます。

英文学演習 F (2)

『カンタベリー物語』を読む 講 師 小 林 宜 子

授業科目の内容：

ジェフリー・チョーサーの代表作と言われる『カンタベリー物語』の中から、春学期に「尼僧付司祭の物語 *The Nun's Priest's Tale*」、秋学期に「尼僧院長の物語 *The Prioress's Tale*」を取り上げ、そのもともなった文学的伝統や作品が書かれた社会的背景を考察しながら精読します。二篇の物語詩はともに比較的短い作品でありながら、聖書のみならず、例話集、動物寓話、哲学書など、古代末期から中世にかけて書かれた種々の著作を典拠としています。またその一方で、14 世紀末に起こった政治的・社会的事件や同時代の文化的状況にも直接・間接に言及しており、簡潔さと奥深さをあわせ持った読み応えのある作品となっています。この授業では、そうした歴史的文脈にも十分に注意を払いながら、チョーサーの作品への理解を深めていきたいと考えています。

テキスト：

・ 春学期は Oxford Student Texts のシリーズに収められている
Geoffrey Chaucer: The Nun's Priest's Tale (ISBN 0-19-831987) を使用。
秋学期のテキストはプリントで配布します。

参考書：

・ 授業内に指示します。

英文学演習 G (2)

初めて読むシェイクスピア 講 師 井 出 新

授業科目の内容：

この演習では前・後期を通して『十二夜』を講読し、シェイクス

ピア等のエリザベス朝の台本を読むための基礎力習得を目指します。テキストは本文校訂と学問的注釈がきちんと施されたものを選ぶので、本文は勿論、注釈についても丁寧に目を通してもらう予定です。

テキスト：

・ Roger Warren and Stanley Wells, ed. *Twelfth Night* (Oxford Univ. Pr., 1994)

英文学演習 H (2)

19 世紀イギリスを訪れた外国人たちの所業
助教授 高 橋 宣 也

授業科目の内容：

繁栄を謳歌していた 19 世紀ヴィクトリア朝のイギリスは、多くの外国人が訪問する地でもあった。そうした人たちの行動を通して、イギリス社会の姿を新しい角度から浮かび上がらせたテキストを読む。画家のジェリコー、作曲家のワーグナー、哲学者のエマソンらが登場する。

テキスト：

・ Rupert Christiansen, *The Visitors: Culture Shock in Nineteenth-Century Britain* (London: Chatto & Windus, 2000)

英文学演習 I (2)

Virginia Woolf, *Mrs Dalloway* (1925) を精読する
講 師 遠 藤 不比人

授業科目の内容：

Virginia Woolf (1882 ~ 1941) の *Mrs Dalloway* (1925) を精読します。難解、晦渋で知られるこのテキストをまずは語学的に正確に読み、同時にそれを前提にして卒業論文レベルの（読書感想文程度ではない）「解釈」を各自試みましょう。その為に必要な知識として、このテキストを巡る歴史的コンテキスト、先行研究、また最近の文学理論などを適宜紹介します。（後期の後半には論文を数本読む予定です。）ウルフの言語の濃密なテクスチュアリティを官能的に享受しつつ、アカデミックな「批評」をも目指しましょう。

テキスト：

・ Penguin 版を使用する予定。開講時に指示します。

参考書：

・ 複数を適宜紹介します。

英文学演習 J (2)

19 世紀英国小説演習 講 師 高 橋 和 久

授業科目の内容：

19 世紀末より顕著な女性表象として目立つことになる《新しい女》の原型を掲出したとも言われる Olive Schreiner の *The Story of an African Farm* (1883) を読む。ポストコロニアリズム批評的関心からもしばしば言及される作品であるので、さまざまなアプローチを試みたい。

テキスト：

・ 当初、プリント配布し、後に一括して購入する。

参考書：

・ 授業中に指示する。

英文学演習 K (2)

吸血鬼小説 助教授 坂 本 光

授業科目の内容：

Bram Stoker による小説 *Dracula* (1897) を中心に、主としてヴィクトリア朝の吸血鬼小説を読む。吸血鬼は古くから伝承などにその姿を見出すことができるが、いま我々がよく知る姿が形成されたのは十九世紀のことであり、それを「確立」したのが *Dracula* である。以来、吸血鬼は怪物の典型的類型として、文学にとどまらず演劇、映画、音楽、コミックスなどの領域で、際限なく再生産されてきた。この演習では、まずその原型となった *Dracula* を読み、それを前提

として吸血鬼に投影されてきた恐怖と魅惑について考える。

テキスト：

・Bram Stoker, *Dracula* (New York: Norton, 1988).

参考書：

・丹治愛『ドラキュラの世紀末：ヴィクトリア朝外国恐怖症の文化研究』（東京大学出版会，1997）

米文学演習 A (2) 教 授 巽 孝 之

授業科目の内容：

アメリカン・ルネッサンスを代表するとともに世界文学的名作とも呼ばれる Herman Melville の *Moby-Dick* (1851) を，1 年間かけて読み通す。

テキスト：

・Herman Melville, *Moby-Dick* (Norton, 2002).

参考書：

・巽孝之『ニュー・アメリカニズム』（青土社，1995 年）
・『リンカーンの世紀』（青土社，2002 年）。

米文学演習 B (2) エミリー・ディキンソンの詩を読む
商学部 助教授 朝比奈 緑

授業科目の内容：

19 世紀アメリカの女性詩人エミリー・ディキンソンの詩を読む。19 世紀の歴史・文化のなかでの位置づけを考えるとともに，現代の詩人たちがどのようにディキンソンを読んでいるのかを検証する。

テキスト：

・プリントによる。
・『色のない虹 ― エミリー・ディキンソン対訳詩集』（野田寿編）ふみくら書房

参考書：

・授業時にリストを配布。

米文学演習 C (2) 翻訳講座 講 師 鈴 木 淑 美

授業科目の内容：

「うまい英文和訳」と「翻訳」はどこが違うでしょうか。似たようにみえるかもしれませんが，この二つは決定的な点でまったく異なります。この演習では，実際に翻訳の練習を重ねながら「翻訳」のエッセンスをおのおのが（少しでも）つかむことをねらいとします。

テキスト：

・プリント（エッセイ，批評，小説，ノンフィクション，学術論文など様々なジャンルの文章を扱う予定）

米文学演習 D (2) ジョン・アッシュベリーを中心とするニューヨーク派詩人の研究
講 師 飯 野 友 幸

授業科目の内容：

ジョン・アッシュベリー (John Ashbery, 1927～) は，現代アメリカ詩を代表する詩人のひとりで，いわゆるニューヨーク派に属する。作品は難解だが，その世界を様々な面から掘り下げ，解説する。それによって，現代文学・文化・芸術の伝統，さらには冷戦以来のアメリカの社会・歴史・思想的背景を学ぶ。これが春学期で，秋学期は，同世代のニューヨーク派の詩人 3 人，オハラ，コーク，スカイラーの詩について解説し，第二次大戦後のアメリカ詩への理解を広め，また深める。

テキスト：

・John Ashbery, *Selected Poems* (Penguin)

参考書：

・プリントを配布する。

米文学演習 E (2) 19 世紀末 20 世紀初めの女性作家とその作品
講 師 松 川 祐 子

授業科目の内容：

19 世紀末 20 世紀初めに活躍した様々なバックグラウンドをもつアメリカの女性作家の作品を読み，ディスカッションを通して解釈を深めます。違った人種，民族，階級，宗教，教育，出身地やセクシュアリティの作家たちとその作品を通して，世紀転換期のアメリカの文学と文化，特に multiculturalism について考えます。

主に短編小説と中編小説を読みます。扱う作家は Rebecca Harding Davis, Louisa May Alcott, Sarah Orne Jewett, Mary E. Wilkins Freeman, Charlotte Perkins Gilman, Kate Chopin, Edith Wharton, Sui Sin Far, Onoto Watanna, Zitkala-Sa, Maria Cristina Mena, Djuna Barnes, Zora Neale Hurston, Nella Larsen, Susan Glaspell, Constance Fenimore Woolson, Pauline Hopkins 等を含みます。

テキスト：

・Candace Ward, ed. *Great Short Stories by American Women*. Dover, 1996. (教室で販売。) その他に評論，エッセイ，短編小説のプリントを授業中に配る。

米文学演習 F (2) 日系アメリカ人の「記憶」 講 師 村 上 由 見 子

授業科目の内容：

日米開戦とともに強制収容された日系アメリカ人の歴史を軸に，この体験を日系アメリカ人はいかに「記憶」したか，文学作品とドキュメンタリー映画をテキストに探っていきます。前期は戯曲をみなどで訳して演じてみます。後期はみなどで映像作品に「日本語字幕」を付ける作業をしながら，このテーマの深さを検証していきます。戦争勃発によるヒステリア，人権侵害は今のアメリカにも通じる重要な問題であることを考えていきましょう。

テキスト：

・コピー教材として各自購入の予定。

参考書：

・植木照代他著『日系アメリカ文学三世代の軌跡を読む』（創元社，1997，2300 円）

米文学演習 G (2) レズビアン文学 講 師 渡 部 桃 子

授業科目の内容：

「女を愛する女」は，ギリシア時代から存在していたが，医師や弁護士，性科学者などによって「レズビアン」というカテゴリーが「発明」されたのは，19 世紀末であった。この授業では，その後の文学，つまり「レズビアン」が「女を愛する女」たちのアイデンティティとなった後の「レズビアン文学」を読んでいく。

テキスト：

・ *The Well of Loneliness* by Radclyffe Hall
・ *Orlando: A Biography* by Virginia Woolf
・ *Journey to a Woman* by Ann Bannon
・ *Desert of the Heart* by Jane Rule
・ *Rubyfruit Jungle* by Rita Mae Brown
・ *Loving Her* by Ann Allen Shockley

米文学演習 H (2) (春学期) 法学部 助教授 奥 田 暁 代
(秋学期) 法学部 教 授 鈴 木 透

授業科目の内容：

この授業では，総合的なアメリカ研究という視点の下に，アメリカ文学のみならず，広く他の社会現象・文化現象に目を向け，最新のアメリカ研究の動向をふまえながら，どのような形のアメリカ論が新たに構築可能なかを考えていきます。今年度は，特に昨今のアメリカ史をめぐる講論の中で顕著に表れてきている，大西洋世

界／太平洋世界／南北アメリカ世界といった、より広い地域的枠組みの中でアメリカを捉え直そうとする考え方の持つ意味を検討するとともに、そうした枠組みを通じて、アメリカ文学を含むアメリカ文化のどのような特質が新たに浮かび上がってくるのかを中心に考察します。できるだけ履修者の卒業研究と関連する題材を選びたいので、扱う文献については、最終的には履修者と相談の上、決定しますが、以下の3冊に収められている論文の中から、その一部を抜粋して読むことを考えています。なお、これらの本には、歴史、文学、文化研究などの様々な領域を横断的に扱った興味深い論考が数多く含まれているので、本格的にアメリカを研究対象としたい人は、是非この機会に触れておくことを勧めます。

・ John Carlos Rowe, ed., *Post-Nationalist American Studies* (2000)
・ Thomas Bender, ed., *Rethinking American History in a Global Age* (2002)
・ Donald E. Pease and Robyn Wiegman, eds., *The Futures of American Studies* (2002)

テキスト：
扱う文献については、履修者と相談の上、追って指示します。できるだけプリントを使用します。

英語学研究会 I・II (2) 教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：
英語で卒業論文を書くためのクラスです。

英語学研究会 I・II (2) The Human Condition 教授 アーマー, アンドルー

授業科目の内容：
This course is for students majoring in British/American literature and related fields. There are no special restrictions on subject choice, but all instruction and discussion will be in English so students must have confidence in both speaking and writing English.
テキスト：
Students will be presented with materials in class or via a website (to be announced).

英語学研究会 I・II (2) 教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：
This seminar will look at examples of change in English, mainly over the last century, and study methods for describing and explaining such changes.
テキスト：
・ Laurie Bauer, *Watching English Change* (Longman)

英文学研究会 I・II (2) 卒業論文指導 教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：
英文学関係で卒業論文を執筆するか卒業制作を行う学生のためのゼミナール演習
参考書：
・「MLA 英語論文の書き方」最新版北星堂

英文学研究会 I・II (2) 教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：
イギリス文学に関する卒業論文を英語で執筆する学生を対象として、研究発表を主体とした論文指導を行う。

英文学研究会 I・II (2) イギリス文学 (18世紀～現代) 助教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：
18世紀から現代にいたる英文学に関する卒業論文を提出する学生のためのゼミナール演習。
研究発表を中心とした論文指導を行う。
参考書：
・ 教室で指示する。

米文学研究会 I・II (2) 教授 巽 孝 之

授業科目の内容：
春学期はアメリカ文学研究の基礎理論修得に費し、4年の卒論制作経過報告に重点を置く。
秋学期より3年の卒論制作準備段階に入る。英語圏学術誌を含め少なからぬ文献を読むことになるため、相当の覚悟が必要。
テキスト：
・ *PMLA*
参考書：
・ 巽孝之 & 渡部桃子編『物語のゆらめき—アメリカン・ナラティブの意識史』(南雲堂, 1998年)。
・ ジョナサン・カラー『文学理論』(岩波書店, 2003年)
ほか MLA 論文作成の手引など。

米文学研究会 I・II (2) (春学期) 法学部 助教授 常 山 菜穂子 (秋学期) 法学部 教授 鈴 木 透

授業科目の内容：
アメリカ文学／アメリカ文化に関する卒業論文を書く予定の学生を対象とする研究会です。授業では、卒業論文の指導のほか、著名な研究書をテキストに用いて、
① 文学研究の方法を広く社会現象・文化現象の解説に応用すること
② 総合的なアメリカ研究という観点から、既存の学問的枠組みにとられない、領域横断的なアメリカ研究のあり方を考えること
の二点を中心に勉強します。
今年度は、T. J. Jackson Lears の *No Place of Grace: Antimodernism and the Transformation of American Culture, 1880-1920* (1981) をテキストにします。この著作は、優れたアメリカ文化論の一つとして知られているもので、先進国中の先進国たるアメリカにおいて、実はいかに「反近代的」なイマジネーションが流布してきたか、そして、それが特に20世紀初頭の段階でいかにアメリカ文化のあり方を方向づけたのかを論じたものです。説教や日記や手紙など、意表をつく資料を駆使しながら、宗教、工芸、文学、消費社会など様々な事象を領域横断的に扱ったユニークなアメリカ論です。
テキスト：
・ T. J. Jackson Lears, *No Place of Grace: Antimodernism and the Transformation of American Culture, 1880-1920* (1981)
なお、入手方法については、追って指示します。

英語学特別演習 I・II (2) 教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：
英語の運用能力を高めることを目指します。今年度は「読むこと」に重点を置きます。
テキスト：
・ 電子掲示板 (ホームページ) に示してあります。
参考書：
・ 電子掲示板 (ホームページ) に示してあります。

英語学特別演習 I・II (2)	教授 アーマー, アンドルー
The Human Condition	

授業科目の内容:

This course is for students majoring in British/American literature and related fields. There are no special restrictions on subject choice, but all instruction and discussion will be in English so students must have confidence in both speaking and writing English.

テキスト:

Students will be presented with materials in class or via a website (to be announced).

英語学特別演習 I・II (2)	教授 スカヒル, ジョン・デミエン
Old English	

授業科目の内容:

This course will introduce Old English language and read a variety of texts. Each student will give two presentations on the culture of Anglo-Saxon England.

参考書:

・ Peter S. Baker, *Introduction to Old English* (Blackwell)

英文学特別演習 I・II (2)	教授 高宮 利行
英文学と映画—『フランス軍中尉の女』『抱擁』『めぐりあう時間たち』	

授業科目の内容:

本年度はヴィクトリア朝およびエドワード朝と現代を錯綜させるハイパーテキスト的に書かれた3つの現代小説を取り上げ、その映画化作品を通じて、小説と映画の技巧の比較を試みたい。取り上げるのは以下の作品である。

1. John Fowles, *The French Lieutenant's Woman*, 1969. 映画『フランス軍中尉の女』は Karel Reisz 監督, Harold Pinter 脚本, Meryl Streep と Jeremy Irons の共演で、1981 年アカデミー賞5部門で候補となった。舞台は 1860 年代と 1980 年のイギリス。
2. A. S. Byatt, *Possession: A Romance*, 1990. 同年のブッカー賞受賞。映画『抱擁』は Neil LaBute 監督・脚本, Gwyneth Paltrow と Aaron Eckhart の共演で 2002 年製作。舞台は 1860 年代と現代のイギリス。
3. Michael Cunningham, *The Hours*, 1998. 1999 年のピューリッツァ賞受賞。映画『めぐりあう時間たち』は Stephen Daldry 監督, David Hare 脚本, Meryl Streep, Julianne Moore, Nicole Kidman の共演により 2003 年アカデミー賞9部門で候補に上がり、主演女優賞 (Kidman) を受賞。舞台は 1923 年のイギリス, 1951 年のロサンゼルス, 2001 年のニューヨークを交錯させ、その元に Virginia Woolf が意識の流れの手法で書いた小説 *Mrs Dalloway* (1925) がある。

テキスト:

上記4小説の英語版 (ペーパーバックでも初版ハードカバーでもよし) を、各自インターネットなどの方法で安価に入手すること。なおこれらには邦訳があるが、授業ではあくまでも英語版を用いる。

英文学特別演習 I・II (2)	教授 松田 隆美
------------------	----------

授業科目の内容:

演習内容は「英文学演習 C」と共通。加えて個別指導をおこなう。

英文学特別演習 I・II (2)	助教授 河内 恵子
Jean Rhys の世界	

授業科目の内容:

「英文学演習 B」と共通。
加えて個別指導をおこなう。

米文学特別演習 I・II (2)	教授 巽 孝之
------------------	---------

授業科目の内容:

「米文学演習 A」と共通。

テキスト:

・ Herman Melville, *Moby-Dick* (Norton, 2002)

参考書:

・ 巽孝之『ニュー・アメリカニズム』(青土社, 1995年)
・ 『リンカーンの世紀』(青土社, 2002年)。

米文学特別演習 I・II (2)	(春学期) 法学部 助教授 奥田 暁代
	(秋学期) 法学部 教授 鈴木 透

〔春学期〕

授業科目の内容:

アメリカ文学を社会・文化・歴史のより広い文脈の下に位置づけ、テキストに現れる表象や語り方や比喩の持つ意味を、文化史・社会史との関連において分析し、アメリカ文化研究という枠組みの中で文学と他の分野を接合していくことで、どのような新たなアメリカ文化論を構築できるのかを考えるのがこの授業の主眼です。今年度は、アフリカ系アメリカ人の作家たちの作品が、いかにブルースと呼ばれる音楽形式と密接につながっているのか、また、そうしたブルースの形式がアフリカ系アメリカ人の感覚表現／文化創造のいかに根幹をなしているかを論じた、昨今のアフリカ系アメリカ文学研究の古典というべき研究所、Houston A. Baker, Jr. の *Blues, Ideology, and Afro-American Literature: A Vernacular Theory* (1984) を取り上げます。音楽と文学という、領域を超えて現れる表現形式の根底には、アフリカ系アメリカ人をとりまくどのような歴史的・経済的背景が関わっているのか、そして、そうした「ブルース感覚」とでもいうべきものは、アメリカ文化史においていかなる意味を有しているのか考えていきます。

テキスト:

・ Houston A. Baker, Jr., *Blues, Ideology, and Afro-American Literature: A Vernacular Theory* (Chicago: University of Chicago Press, 1984)

〔秋学期〕

授業科目の内容:

この授業では、総合的なアメリカ研究という視点の下に、アメリカ文学のみならず、広く他の社会現象・文化現象に目を向け、最新のアメリカ研究の動向をふまえながら、どのような形のアメリカ論が新たに構築可能なのかを考えていきます。今年度は、特に昨今のアメリカ史をめぐる講論の中で顕著に表れてきている、大西洋世界／太平洋世界／南北アメリカ世界といった、より広い地域的枠組みの中でアメリカを捉え直そうとする考え方の持つ意味を検討するとともに、そうした枠組みを通じて、アメリカ文学を含むアメリカ文化のどのような特質が新たに浮かび上がってくるのかを中心に考察します。できるだけ履修者の卒業研究と関連する題材を選びたいので、扱う文献については、最終的には履修者と相談の上、決定しますが、以下の3冊に収められている論文の中から、その一部を抜粋して読むことを考えています。なお、これらの本には、歴史、文学、文化研究などの様々な領域を横断的に扱った興味深い論考が数多く含まれているので、本格的にアメリカを研究対象としたい人は、是非この機会に触れておくことを勧めます。

- ・ John Carlos Rowe, ed., *Post-Nationalist American Studies* (2000)
- ・ Thomas Bender, ed., *Rethinking American History in a Global Age* (2002)
- ・ Donald E. Pease and Robyn Wiegman, eds., *The Futures of American Studies* (2002)

テキスト:

扱う文献については、履修者と相談の上、追って指示します。できるだけプリントを使用します。

選 択 科 目

英文学史 II (4)

J. R. R. Tolkien の神話世界

助教授 邊 見 葉 子

授業科目の内容：

The Lord of the Rings (『指輪物語』)を中心に、J. R. R. Tolkien の神話世界への理解を深めます。*The Hobbit* (『ホビットの冒険』)から始めて『指輪物語』、そしてこれと一体として読まれるべき *The Silmarillion* (『シルマリルの物語』)へと視野を広げてゆきます。原作を朗読した CD や映画も取り入れながら、トールキンの神話体系の理解に必要なトピックを、レクチャー形式で解説します。授業では原則として原文テキストを使います。

テキスト：

・J. R. R. Tolkien, *The Lord of the Rings*

参考書：

・初回の授業で参考文献リストを配布

米文学史 II (4)

ポスト・モダニズム小説概論

講 師 麻 生 享 志

授業科目の内容：

1960年代以降のアメリカ文学の歩みをポスト・モダニズム小説に焦点をあて、検討していく。とくに John Barth, Thomas Pynchon ら '50年代後半から '60年代前半にかけ登場した小説家が、ポスト・モダニズムという 20世紀後半を代表する文化・文学現象の形成にいかに関与したかを考察する。加えて、'80年代以降に蔓延した商業主義の中で、思想的先鋭さを失ったポスト・モダニズム小説が、多文化主義的コンテクストの中でその姿を変えていった様子もたどっていきたい。

テキスト：

・プリント等を配布する。

参考書：

・適宜指示する。

英語学 A (4)

コミュニケーション行動への社会言語学的アプローチ

法学部 助教授 井 上 逸 兵

授業科目の内容：

「自律性」を旨とする言語研究からある意味で逸脱した形で発展してきた語用語、社会言語学等の系譜を学びながら、いわゆる「コミュニケーション」とよばれる様々な現象に対する言語学、英語学のアプローチの意義を考える。

参考書：

・授業中に指示する。

英語学 B (4)

社会言語学

講 師 阿 部 圭 子

授業科目の内容：

本講では社会言語学の起源と定義、研究方法、変異研究、言語行動、社会的ステレオタイプ、多言語主義、相互作用社会言語学、言語と文化などに関する諸論文を取り上げ考察する。

テキスト：

・授業開始時に指示する。

参考書：

・Ronald Wardhaugh 著『社会言語学入門』(リーベル出版, 1994)

・小池生夫(編)『応用言語学事典』(研究社, 2003)

英語学 C (4)

教 授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

英語で書かれた内容のある読み物の深読みの訓練。最低でも丸一

日の予習が要求されます。それが出来る人のみ受講可。

テキスト：

・電子掲示板(ホームページ)にあります。

参考書：

・電子掲示板(ホームページ)にあります。

英語学 D (4)

現代英語の確立の実態と諸条件 講 師 吉 野 利 弘

授業科目の内容：

Modern English の基本的特質は cosmopolitan vocabulary, inflectional simplicity, natural gender といわれる。このような特質を英語が獲得するのには、どのような歴史的、文化的、社会的状況がかかわるのかを考える。併せて、辺地の一地方の土着語にすぎなかった English の国語化、帝国言語化とそれを支えるイデオロギーとはどのようなものか考える。

テキスト：

・Thomas Pyles and John Algeo. *The Origins and Developments of the English Language*, 4th ed.

・Heinle, 1993 or more recent ed. (あれば paperback ed.), (生協扱い)

・他適宜プリント。

参考書：

・Dick Leith. *A Social History of English*, 2nd ed. Routledge, 1997 or more recent ed.

・N.F.Blake. *A History of the English Language*. Routledge, 1996 or more recent ed.

・他適宜教室で呈示。

英語学 E (4)

休 講

英語学 F (4)

応用言語学入門 英語学と英語教育

講 師 奥 聡一郎

授業科目の内容：

英語教育を考える上で必要となる英語学の知識を再確認し、理論的基盤となる応用言語学の全体像をテキストの講読を通して概観していく。実際に中高の教育現場で英語学、英文法の知識がどれだけ必要となるのか、英語教育の諸問題とテキストの課題について、演習形式をとりながら受講者と議論することで理解を深めていきたい。また、英語教育学との関連や教育メディアの活用、カリキュラムの変遷など付随する問題も考察していく。英語力の向上という観点からテキストの語彙、専門用語など毎回の小テストで理解度を測るので欠席は極力しないこと。

テキスト：

・Alan Davies. *An Introduction to Applied Linguistics. From Practice to Theory*. (Edinburgh: Edinburgh U.P, 1999)

参考書：

・小池生夫編「応用言語学事典」(研究社, 2003)

授業の計画：

1. オリエンテーション (1回)
2. Chapter 1 ~ 7 (各 3 回 計 21 回) 細かい内容については受講者と相談して決定します。
3. Presentation (1回)

英語学 G (4)

『旧約聖書』の言語と英訳

講 師 橋 本 功

授業科目の内容：

主に次の点について理解を深めます：旧約聖書の成立、聖書の英訳史、旧約原典の文字と英語アルファベットとの関係、宗教とことばの伝播、旧約原典の文字と音価、旧約原典の言語、英訳聖書の翻訳について

テキスト：

・プリント配布

参考書：

- ・橋本 功著『聖書の英訳：旧約原典からみた』第三版 英潮社
- ・橋本 功著『聖書の英語とヘブライ語法』英潮社
- ・永嶋大典著『英訳聖書の歴史』
- ・田中三輝夫著『英語アルファベット史』開文社
- ・David Norton, A History of the Bible as Literature, 2 vols. CUP. 1993

英文学 A (4)

休 講

英文学 B (4)

休 講

英文学 C (4)

テキストとしての芸術 講 師 横 山 千 晶

授業科目の内容：

講義要綱

20 世紀にはって私たちの芸術は加速度的に「共感覚」化しています。文学作品は数多くの絵画や音楽を生み出してきたことは、皆さんもご存知のとおりです。では音楽は、といういまや単に「聴く」のみならず MTV などの出現とともに、可視化されたストーリーやイメージとタイアップして見るものとなり、クラブやコンサートでの体験のように身体全体で感じるものとなっています。同じように音楽は、さまざまな絵画や舞踊のインスピレーションを提供し続けています。私たちは五感を駆使して芸術を作り出し、鑑賞する時代に入ったのだといえるでしょう。もちろんその前提には、単なるひとつの感覚を越えて、複数の知覚を使いながら、芸術を文字化された、あるいは文字化されないひとつのテキストとして読み解くという私たちの行為が前提となっているはずで、そのテキストの意味は、社会思想であったり、階級的なアイデンティティであったり、人々をひとつの思想へと傾かせるプロパガンダであったりするわけです。今年の授業では、19 世紀以降のイギリスを中心にして、このようなテキストとしての多感覚融合型芸術の発展を、文学、絵画、デザイン、音楽の世界の中に跡付けてみたいと思います。

テキスト：

・使用しません。必要に応じてコピーやハンドアウトを配布します。

参考書：

・授業の中でその都度紹介いたします。

英文学 D (4)

二十世紀イギリス詩演習 講 師 富士川 義 之

授業科目の内容：

二十世紀イギリス詩のアンソロジーを読む。トーマス・ハーディ、W. B. イエイツ、T. S. エリオット、D. H. ロレンス、W. H. オーデンなどの代表作を精読しながら、二十世紀イギリス詩の歴史を概観するとともに、詩の面白さ、魅力を少しでも伝えられるような授業にしたいと考えている。

テキスト：

・ *Modern English Poetry: A Selection* (金星堂)

参考書：

・随時指示する。

英文学 E (4)

書物史から見た英文学 教 授 高 宮 利 行
三田の英米文学専攻の専任教員ほか

授業科目の内容：

昨今アメリカを中心に、書物の社会史ともいえるべき書物史が盛んとなり、例えばペンシルヴァニア大学には書物史学部が誕生し、書

物史学会 (SHARP) や初期書物学会は定期的に国際会議を主催、研究所の数も増大の一途にある。

そこで今回、三田の英米文学専攻の教員を中心として、英米文学における書物史をオムニバスで展開することとした。なお、デジタル書物学に関心ある諸君は HUMI プロジェクトのメンバーによる「英文学 I」も履修することをお奨めしたい。

参考書：

・教室で適宜指示します

英文学 F (4)

Sir Ganain and the Green Knight 講読
教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けた中英語アーサー王ロマンズの傑作を講読します。この難解な詩の原典を丹念にグロッサリーを引きながらひもときましょう。

テキスト：

・ E.V.Gordon & J.R.R.Tolkien, eds, *Sir Ganain and the Green Knight* 2nd edition revised by Norman Dlivis, Oxford: Oxford U.P., 1967.

参考書：

・適宜指示します。

英文学 G (4)

Oscar Wilde 研究 助教授 河 内 恵 子

授業科目の内容：

イギリスの 19 世紀を代表する作家 Oscar Wilde について研究する。後期ヴィクトリア朝文学を概観してから、Wilde の文学をじっくりと読んで、その本質を探ってみたい。

唯義主義、芸術至上主義、デカダンス、ダンディズム、ホモセクシュアリズム、etc. と多くの視点から論じられるこの天才作家の世界を、その類まれなる美文とともに、楽しんでほしい。

テキスト：

・ Oscar Wilde, *Complete Works of Oscar Wilde* (London: Collins, 2000)

参考書：

・教室で指示する。

英文学 H (4)

イギリス文学・絵画・イタリア 教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

以下の 2 つのテーマを通じて、イギリス文学を広くヨーロッパ文化の文脈のなかで考える。

(1) 「イギリス文学と絵画」

ルネサンス期には、詩は 'speaking picture' で絵画は 'dumb poesy' であるという表現があるが、文学と絵画はしばしば題材を共有し、またテキストと挿し絵は相互補完的な関係を保ってきた。文学研究の方法論においても、美術史における図像学的アプローチは、ときに文学テキストの斬新な読みを提供してくれる。この講義では、中世から近代のイギリスを中心に様々なジャンルのテキストを取り上げ、文学と絵画との主題の共有、作品中に登場する美術品の役割、書物 (中世写本を含む) における挿し絵とテキストの関係、図像学的アプローチの文学研究への有効性など、さまざまなトピックについて考える。

(2) 「イギリス文学とイタリア」

中世以来、イギリス文学にとって、イタリアは様々な意味でインスピレーションであり続けてきた。イギリスにとって、14 世紀のイタリアはダンテやペトラルカを輩出した文芸の先進国であったが、宗教改革の 16 世紀になると、その爛熟した文化は、カトリシズムやマキャヴェリズムのような「危険思想」の温床ともみなされるようになった。17, 18 世紀には、イタリアは「グランド・ツアー」の最終目的地となり、また 19 世紀のロマン派以降はノルタルジックな憧憬の対象となる。イギリス文学にあらわれるイタリアのイメージ、イタリア文学や絵画の影響について、いくつかのトピックを取り上げて考察する。

(1) を春学期、(2) を秋学期に取り上げる予定だが、この 2 つのト

ピックは関連性が高いので、並行して論じることも多い。

テキスト：

・主にプリントを用いる。

英文学 I (4)

HUMI プロジェクトのデジタル情報処理

教授 高宮利行

教授 松田隆美

教授 アーマー、アルドルー

斯道文庫 特別研究助手 櫻村雅章

授業科目の内容：

本講座の目的は、人文科学系情報の「収集」「整理」「公開」の手法を、実習を通して学ぶことである。思想、芸術、文学、歴史などの分野における網羅的な専門情報を収集し、整理し、公開することは、文学部が社会から要請されている活動であるという認識のもとに、担当スタッフと学生諸君の共同作業を一年間通じて行いたい。具体的な内容は以下の通りである。

研究対象： 慶應義塾図書館が所蔵する西洋中世、近代の歴史的書物

ステップ1： 対象とする個々の歴史的書物に関する背景知識の習得と情報の収集方法の習得（担当：高宮利行）

ステップ2： オンライン・データベース等の資源を用いた情報収集方法の習得（担当：松田隆美）

ステップ3： 収集した情報の整理方針に関する研究（高宮、松田）

ステップ4： 収集した情報のコンピュータ上での整理手法に関する研究（担当：アーマー・アルドルー、櫻村雅章）

ステップ5： インターネットを利用した情報の公開手法に関する研究（松田、アーマー、櫻村）

教室は新図書館地下1階にある「HUMI プロジェクト稀観書研究室」を用いる。定員に限りがあるため、希望者が多い場合は、ガイダンス（第一回目の授業）を行ったのちに、レポート・面接などによって10名程度まで人数を絞る予定である。履修者はコンピュータ上でワープロ・電子メール、Webサイト閲覧程度のことがすでにできることを前提とする。ガイダンスを受けない者は履修希望の申請をすることができない。

本年度一年間だけではなく在学期間を通じて、人文科学情報の生産を自ら行い、それを社会に対して発信したいという意欲を持つ諸君に参加してもらいたい。

なお、本講義に関する情報は以下のURLを参照のこと。

<http://www.humi.keio.ac.jp/workshop/2004/>

米文学 A (4)

アメリカ文学における自然

講師 佐藤光重

授業科目の内容：

春学期は17～18世紀の植民地時代におけるピューリタン文学を中心にして、入植・開拓史における自然の捉え方を考える。秋学期は19世紀以降を扱い、H.P. ソロー『ウォールデン—森の生活』を読み進めながら、ネイチャー、ライティング（レイチェル・カーソン、ジョン・ミュアー、アルド・レオポルド、エドワード・アビーなどの作品）や、最近話題を集めるエコ・ツーリズムを通して、アメリカ文学における自然の問題を考える。

テキスト：

・春学期は配付資料を用い、秋学期の資料は追って指示する。

参考書：

・スコット・スロヴィック、野田研一編『アメリカ文学の〈自然〉を読む』ミネルヴァ、1996年。

米文学 B (4)

アフリカ系アメリカ文学

法学部 助教授 奥田 暁代

授業科目の内容：

各学期一冊ずつ小説を丹念に読んでいきますが、アフリカ系ア

リカ人の辿ってきた悲惨な歴史や現在おかれている過酷な状況などを理解してもらうために、アメリカ史あるいは文化に関する講義をしたり、映画を部分的に上映したり、学生による発表を取り入れたりしていきます。

アフリカ系アメリカ文学の流れをつかむために、まず初期の詩、小説や奴隷体験などの抜粋から読んでもらいます。扱う作家として、Phyllis Wheatley, Frederick Douglass, Harriet Jacobs, Francis E.W. Harper, Booker T. Washington, Charles W. Chesnutt, W.E.B. DuBois, Langston Hughes, Jean Toomer, Zora Neale Hurston などを検討しています。彼らの作品をとおして、アフリカ系アメリカ文学という枠組みやアメリカ主流文学との関わりについて考察します。そのうえで、現代作家の作品を読んでいきます。

テキストとして、前期はアーネスト・ゲインズの小説 *The Autobiography of Miss Jane Pittman* (1971)、後期はオーガスト・ウィルソンの戯曲 *The Piano Lesson* (1990) を考えています。

テキスト：

・（春学期）Ernest Gaines, *The Autobiography of Miss Jane Pittman* (1971)

・（秋学期）August Wilson, *The Piano Lesson* (1990)

米文学 C (4)

オリエンタリズム再考

講師 村上 由見子

授業科目の内容：

昨年と同様、今再び「オリエンタリズム」を考え、私たちを取り巻く状況を併せて考えていきます。サイードの著書をテキストにし、授業では特に「アラブ・ムスリムをめぐる表象」について、文学、絵画、写真、ハリウッド映画など欧米の表象史から具体的に検証していく予定です。私たちの知らないアラブ・ムスリムを探る機会とし、夏休みのレポートは個人のテーマを深めるのを目的とした上で、学んだことを広く共有していく場としましょう。

テキスト：

・エドワード・W・サイード『オリエンタリズム（上）（下）』（平凡社ライブラリー、各1500円）

参考書：

・村上由見子『イエロー・フェイス』（朝日選書、1993、1600円）

米文学 D (4)

ピューリタニズムとアメリカン・ナラティヴ

講師 難波 雅紀

授業科目の内容：

17世紀ニューイングランドに根付いたピューリタニズムが、後のアメリカ文化の形成にどう関わっていったか考えます。ピューリタニズムの神学を理解した上で、その宗教言説が精神的自叙伝という文学ジャンルに変容していく経緯を中心に考察します。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・秋山健監修『アメリカの嘆き—英文学史の中のピューリタニズム』（松柏社、1999年）

米文学 E (4)

モダニズム・モダニズム後のアメリカ詩

講師 渡部 桃子

授業科目の内容：

日本におけるアメリカ合衆国の文学が、マイナーな存在であるかどうかについては、様々な意見があるだろうが、日本に「輸入」されるアメリカ文学というもので、もっともマイナーなのは、詩ではないかと思われる。この演習では、アメリカ詩の流れと現在のアメリカ詩の状況を概観した後、モダニズム・モダニズム以降の詩人たちの作品を読んでいく。

テキスト：

・現代アメリカ詩／N.H. ピアソン、金関寿夫編注 東京：英宝社

米文学 F (4)

カール・サンドバーグを通してアメリカ大衆音楽を研究する
講 師 飯 野 友 幸

授業科目の内容：

アメリカの詩人、カール・サンドバーグ (Carl Sandburg, 1878 ~ 1967) に焦点を当て、背景となるアメリカ文化（特に大衆文化）を考察する。詩も読むが、むしろこの詩人が長年かけて編纂した *The American Songbag* (1927) を主な材料として、そこに収められた種々雑多なアメリカの俗謡 (folk song) の背景を徹底的に調べ、分析し、さらに音源が手に入るものは聴いてみる。

テキスト：

・ Carl Sandburg, *The American Songbag* (Harcourt Brace)

参考書：

・ 適宜紹介する。

アカデミック・ライティング A (2)

Academic Writing A 助教授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容：

The aim of this course is to introduce and develop skills in academic written English for students who are required to complete their graduation thesis in that language.

テキスト：

・ A. Armour, 河内恵子, 松田隆美, W. Snell 「アカデミックライティング応用編 文学・文化研究の英語論文作成法」慶應義塾出版会 発行年：1999 年 本体価格：2,000 円。
・ In addition to this text, photocopied materials will be used.

参考書：

・ To be announced at an early stage in the course.

アカデミック・ライティング B (2)

(春学期) 助 手 大 串 尚 代

(秋学期) 助 手 高 橋 勇

授業科目の内容：

英語で卒業論文をはじめとしたアカデミックな論文を書く学生のために、論文執筆の準備方法、図書館の使用法、書式 (MLA)、論理構成などを、基礎から詳しく指導する。

春学期はパラグラフ・ライティングを中心に、秋学期はワークショップ形式の議論を中心に授業を進めたい。

テキスト：

・ Gibaldi, Joseph. *MLA Handbook for Writers of Research Papers* 5th ed. New York; MLA, 1999.

参考書：

・ 授業中に適宜指示する。

アカデミック・ライティング C (2) 講 師 松 川 祐 子

授業科目の内容：

どのようにして自分の意見を明確な英語で文章にして読み手を説得するかを勉強し、練習します。与えられたテーマについての自分の意見や主張を探るためのアイデア引き出し方法から始めます。その次に意見と分析方法を示す thesis statement の書き方、段落の構造、論理の組み立て方、conclusion の書き方等を学びます。その他には読者説得術、引用方法や参考文献リストの作成法、自分のライティングの手直し方法なども取り上げます。授業は、ディスカッションに加え、個人及びグループでの作業が行われます。

テキスト：

・ Diana Hacker, *A Pocket Style Manual* (3rd Edition) を教室で販売します。その他に毎回教材のプリントを配ります。

アカデミック・ライティング D (2)

Writing with Reason 教 授 アーマー, アンドルー

授業科目の内容：

This is an advanced course in the writing of research papers in English. Emphasis will be placed on clear reasoning, style and presentation, assuming a good knowledge of basic syntax. Frequent assignments will be set, and steady attendance is expected. There is a limit of fifteen, and normally a placement test is given.

テキスト：

・ Writing Academic English (3rd edition) by Alice Oshima & Ann Hogue

参考書：

・ アカデミック・ライティング（応用編）慶應義塾大学出版会

アカデミック・ライティング E (2)

論文を英語で書く 講 師 狩 野 み き

授業科目の内容：

英語で論文を書くためのクラスです。もともとの英語力の高低は問いませんが、とにかくやる気のある人のみ受講して下さい。各々、ある程度の長さのエッセーを毎回提出してもらい、皆でその内容を詳しく検討し、どうすればより良いものができるかを考えていきます。まな板の上のコイになることは決して気持ちのいいものではありませんが、他人の発表する内容を批判的に見ることで、自分の英語力・構成力を自分なりのペースで高めていって下さい。

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○独文学専攻

必修科目

ドイツ文学史Ⅰ(4)

Germanistik の方法と基礎概念 助教授 桑 川 麻里生

授業科目の内容：

「ドイツ文学研究」の入門クラスです。①文学史記述のための基礎的概念の理解と、各時代の代表的著作家・作品の紹介、②文学研究の各種アプローチと、そこで用いられる重要概念の理解、③ドイツ文学研究をアクチュアルな問題意識と結びつける発想の獲得。以上3点をねらいとして、講義形式で進めます。

テキスト：

・ドイツ文学案内（岩波文庫）

参考書：

・教室で指示する

ドイツ文学史Ⅱ(4)

メルヘンの子どもたち、映画の子どもたち

教 授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容：

ドイツ文学には実に魅力的な子どもたちが登場します。グリムのメルヘンだけを取り上げても、さまざまな子どもにあふれていますね。まずはスクリーンの子どもたちと友達になりましょう。

「点子ちゃんとアントン」「ブリキの太鼓」「ふたりのロッテ」「エーミールと探偵たち」「ビヨンド・ザ・サイレンス」「飛ぶ教室」「はてしない物語」などなど……

ドイツの子どもたちとほかの国の子どもたちとを比較しながら子ども像の変遷を考えていきます。

いったい文学や映画や絵画の子どもたちはわたしたちに何を語りかけているのでしょうか？

- 1 子ども論の諸相
- 2 メルヘンの子どもたち
- 3 映画の子どもたち
- 4 文学の子どもたち
- 5 絵画の子どもたち

テキスト：

・『文学の子どもたち』（柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2004年）

参考書：

・『ミッキー・マウス』（柴田陽弘監訳 現代思潮新社 2002年）

ドイツ語学(4)

ドイツ語に特徴的な現象を知る

経済学部 教 授 鈴 村 直 樹

授業科目の内容：

授業形式は講義＋講読。対象言語はドイツ語です。各学期とも授業内試験があります。

テキスト：

・なし。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

・なし。必要に応じて指示します。

授業の計画：

この授業ではおもに受動態・再帰代名詞・心態詞を扱います。このうちとくに受動態と再帰代名詞は不可分の関係にあります。まずは平易な文法書を正確に読む作業を通してそれぞれの項目を各論として学び、さらに時間が許せばドイツ語のヴォイス体系全体を考えていくつもりです。他方、心態詞はゲルマン語に特徴的な現象です。法副詞などの名称で呼ばれることもあります。その研究は（少なくとも日本国内では）ドイツ語がもっとも進んでいるといっても過言ではありません。さまざまな副詞を持つニュアンスを日独両

方の文献を使ってみていきましょう。

ドイツ文化論(4)

マンガの子どもたち、マンガのドイツ

教 授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容：

「マンガ」や「アニメーション」にはさまざまな子どもたちが登場します。時代背景は中世から現代まで、ドイツ語圏の国々を舞台に物語は進行していきます。取り上げる作家たちを順不同で挙げると、手塚治虫、大友克洋、萩尾望都、池田理代子、加藤知子、氷栗優、名香智子、森川久美、あずみ暎、ディズニーなど……

- 1 中世のドイツ ニーベルンゲン
- 2 十八世紀のドイツ グリムのメルヘン
- 3 フランス革命とドイツ
- 4 エリーザベトとハーブスブルク家の人びと
- 5 現代のドイツ ギムナジウムの世界
- 6 ドイツの自然

テキスト：

・『文学の子どもたち』（柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2004年）

参考書：

・『自然と文学』（柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2001年）

・『ミッキー・マウス』（柴田陽弘監訳 現代思潮新社 2002年）

ドイツの文学理論(4)

文学をめぐる様々な言説

助教授 大 宮 勘一郎

授業科目の内容：

「文学」ではなく「文学を論じたテキスト」をいくつか紹介し、その抜粋を読みながら「言説としての文学」について考える。

テキスト：

・コピーにて配布

ドイツの文学と中世(4)

講 師 一 條 麻美子

授業科目の内容：

ドイツ中世の文学について時代背景を含めて解説し、さらには後の時代における中世受容の有り様を追いつつ「ドイツにとっての中世」を考えていきます。

テキスト：

・講義資料プリントを配布します。

ドイツの文学と近代Ⅰ(4)

世に知られた話からドイツ語圏文化と文学の深い意味を探る試み

名誉教授 宮 下 啓 三

授業科目の内容：

グリム童話、バンビ、ハイジ、ウィリアム・テル。どれもドイツ文学の領域に属する話題です。児童書やアニメ映画あるいは音楽を通じて日本人のほとんどが知っているこれらのものが、ドイツ人の歴史、ドイツ語文化圏に属するスイスとオーストリアの自然と歴史と国民性、さらにはユダヤ人問題にまでいたる深く重要な意味を秘めています。これらを手がかりにしてドイツ文学の歴史への入門ばかりでなく、専門的な研究への道筋を示したいと思います。まずグリム童話と児童教育およびメルヘン文芸の歴史との関係を探り上げて、メルヘン（昔話）とは何かを考えながら、創作文芸としてのメルヘンの世界に入ります。その上で視野をスイスとオーストリアに広げます。ビデオ映像をまじえた講義となります。予備知識をもたない人々へのドイツ文学入門の性格を帯びる講義とします。

テキスト：

・特定のテキストの購入は必要ありません。毎時間プリントを配布します。

参考書：

・宮下啓三『メルヘンの履歴書』『ウィリアム・テル伝説』他。

ドイツの近代と文学 II (4)

ドイツ・ロマン派のことども 教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容：

本年度は、ルートヴィヒ・ティークの生涯とその作品の解説を縦糸にしなが、ドイツ・ロマン派をめぐる多様なトピックについて話すつもりです。ロマン派入門といった意味合いももっています。ティークはドイツ・ロマン派の誕生からその消滅にいたるまで立ち会った唯一の人物であり、その意味でかれの生涯とその作品、そしてその周辺を探ることは、同時にドイツ・ロマン派の生成と消滅のダイナミズムに立ち会うことになるでしょう。ロマン派といっても、初期ロマン派から後期ロマン派、そしてその周辺のロマン派的な作家や画家、音楽家にいたるまでそうとう広い領域をカバーしています。この講義では、ティークの生涯を語りながら、ロマン派の理論的概念、作家論、作品論、庭園論（空間論）、サロン制度、政治、童話・童謡蒐集、中世論、絵画論、象徴論などを織り交ぜていくつもりです。講義を理解するための課題読書が毎週ありますので、本を読むのが好きな人、ロマン派と同時代の文化的モメントに関心のある方に参加していただければと思います。受講者のなかから有志を募って、作家の生涯などを報告してもらいたいと考えています。義務ではありませんが、一年間、ドイツ・ロマン派にどっぷり浸ることを目標に進めていきたいと思っています。

参考書：

- ・ドイツ文学史をどれか一冊。そのつどの参考文献は講義中に指示します。

ドイツの文学と現代 (4)

Der Kölner Dom als Nationaldenkmal. Sein Schatten in der deutschen Literatur 教授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：

Im Jahre 1248 legte der Kölner Erzbischof Konrad von Hochstaden den Grundstein zum heutigen Kölner Dom, doch mußte der Bau 1560 eingestellt werden, so daß bis zum Weiterbau 1842 die Dom-Ruine 300 Jahre lang aus dem Mittelalter grüßte. Die Dommvollendung zwischen 1842 und 1880 wurde die größte deutsche Bauunternehmung im 19. Jahrhundert. Der Dom wurde dabei zu einem nationalen Denkmal der Befreiungskriege gegen Napoleon und zu einem romantischen Erinnerungssymbol für die im Mittelalter verloren geglaubte deutsche Reichs- und Kircheneinheit umgedeutet, welche durch einen überkonfessionellen deutschen Nationalstaat ersetzt werden sollte. Nicht die Baugeschichte des Doms und seine politischen Implikationen selbst sollen jedoch im Mittelpunkt stehen, sondern die Schatten, die jene in der deutschen Literatur warfen. Texten von Friedrich Schlegel über Heinrich Heine und Theodor Fontane bis Heinrich Böll sollen dabei französische Reaktionen (Victor Hugo, Guillaume Apollinaire) gegenübergestellt werden, um die Perspektiven deutlicher zu konturieren.

テキスト：

- ・Zur Einführung empfohlen: Der Kölner Dom. Ein literarischer Führer. Hg. v. M-Klein, Insel Taschenbuch 2226, Frankfurt am Main/Leipzig 1998.

履修者へのコメント：

Texte und Materialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt, weitere Literatur wird zu Beginn abgegeben.

スイス・オーストリアの文学と社会 (4)

スイス・オーストリア演劇 助教授 平 田 栄一朗

授業科目の内容：

スイス・オーストリア演劇を代表する作品を紹介し、その意義や時代背景を読み解くことで、ドイツとは異なる両国の現実を理解してもらうのが本講義の第一目標です。また、これらの作品を演出の巨匠たちが舞台化したものも紹介することで、演出方法についての

基礎的知識を身につけてもらうことも視野に入れています。

ドイツの歴史と社会 (4)

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容：

この講義の目的は、ドイツにかかわる基礎的な知識を日本語を通じて習得するという点にあります。従来はドイツ人が担当していたこの科目を日本人スタッフが担当するのは、この習得を学生諸君にとって容易なものにしたいという願いからです。従って、ドイツ語の使用は最低限に抑えることになりますが、それでも多少はドイツ語の使用が求められますので、その点は含んでおいてください。

前期は、ドイツの歴史についての知識を学習することから始めます。受講者には適宜ドイツの歴史の重要な出来事についての報告をしてもらうことになります。この報告（レフェラート）は受講者の全員が必ずおこなうことになります。歴史について基礎知識を習得したのちは、ドイツの地理的状况、都市文化論、現代ドイツの政治的・社会的状況に関する学習に移ります。さらにこれらと平行しながら、ドイツ文化史における重要なモメントもカバーしていきます。宗教的慣習や一般的な習慣【食習慣、衣服習慣、居住習慣】なども学習の対象となります。機会があればドイツ人を招いて話をしてもらいたいと考えています。時間が許せば、ドイツ人にとってタブーとされる習慣で、日本人がなげなく行っている習慣などをピックアップしてみたいと思います。これらの雑多な知識は、将来学生諸君がドイツを訪問したときに必ず役立つものとなることでしょう。

テキスト：

- ・開講時に配布

参考書：

- ・開講時に指示

ドイツ語学演習 (2)

ドイツ語運用能力の強化 経済学部 教授 中山 純

授業科目の内容：

2年程度の学習歴がある学生を対象に、ドイツ語の4技能である「読む・話す・聞く・書く」を強化していきます。比較的短いテキストを読み、その内容を口頭で要約したり、書いたりします。また聞き取ったテキストについて口頭で再現する練習も取り入れていきます。

テキスト：

- ・初回の授業で配布します。

ドイツ語表現演習 I (初級作文) (2)

Schreiben für Anfänger
訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルト

授業科目の内容：

Thema des Schreibkurses ist: Deutschland in Tokyo. Die Teilnehmer lernen, kurze Texte (Nachrichten, Reportagen, Interviews, kleine Geschichten) zu schreiben. Am Ende wollen wir daraus eine eigene Zeitung machen.

テキスト：

- ・プリントを配布します。

ドイツ語表現演習 II A (初級会話) (2)

Konversation für Anfänger
訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルト

授業科目の内容：

初心者のためのドイツ語会話。日常生活に必要なドイツ語を覚えて、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で表現できるようになるのが目的です。

テキスト：

- ・テキストは授業開始時に指示します。

ドイツ語表現演習 II B (初級会話) (2)

Konversation für Anfänger

訪問講師 (招聘) ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルト

授業科目の内容:

初心者のためのドイツ語会話。

テキスト:

テキストは授業開始時に指示します。

ドイツ語表現演習 III (中級作文) (2)

講 師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容:

ドイツ語の表現力のアップを目指し、小テキスト作成の練習をします。Zentrale Mittelstufenprüfung のときに試験の一部としてプライベートな手紙・オフィシャルな手紙・読者の意見・小レポートを書くことが要求されます。このテキストの種類を作成するための書き方や表現を練習します。ネタになるドイツ語のテキスト・グラフ・表などはドイツの新聞やインターネットから取りまでするので、時事ドイツ語にも役に立ちます。テキストを書くことはどうしても時間がかかりますので、テキストの作成は宿題となります。テキストの長さは長い場合 A4 1 枚までです。提出した宿題は評価します。試験はありません。

In diesem Kurs soll das Verfassen von kurzen Texten geübt werden, wie sie z.B. auch bei der Zentralen Mittelstufenprüfung des Goethe-Instituts verlangt werden. Textformen sind dabei persönlicher Brief, offizieller Brief, Leserbrief oder Referat, worin Sie Ihre Meinung ausdrücken oder einen bestimmten Sachverhalt darstellen müssen. Die dazu notwendigen Formen bzw. Redewendungen werden im Unterricht vermittelt und geübt. Als Material werden aktuelle Texte aus Zeitungen oder dem Internet verwendet. Eine schriftliche Abschlußprüfung mache ich nicht, aber die Teilnehmer müssen als Hausaufgabe Texte erstellen, die ich dann bewerte. Keine Angst, die Texte müssen nicht lang sein (bis A4 1 Seite).

テキスト:

・コピー

参考書:

なし

ドイツ語表現演習 IV A (中級会話) (2)

Sprachpraktische Übung, Konversation und Aufsatz für

Fortgeschrittene 教 授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Ziel der Übung ist die mündliche und schriftliche Kommunikationsschulung. Ausgehend vom Hörverständnis und Lesevermögen sollen die Sprechfähigkeiten und Schreibfertigkeiten der Teilnehmer verbessert werden.

Durch den produktiven und reproduktiven Umgang mit aktuellen Themen und Texten aus Deutschland sollen auch die Diskursformen der deutschen Bildungssprache, sie wie in Presse und Medien erscheinen, näher gebracht werden. Thematische Anregungen von seiten der Teilnehmer sind willkommen.

テキスト:

・Die Ausgangstexte werden als Kopien vor dem/im Unterricht verteilt.

ドイツ語表現演習 IV B (中級会話) (2)

Konversation für die Mittelstufe

訪問講師 (招聘) ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルト

授業科目の内容:

In diesem Kurs soll Deutsch hören und sprechen geübt werden. Mit Videos werden Themen aus dem Alltag in Deutschland vorgestellt und

diskutiert. Geplant sind: Familie, Jugendliche, Universität, Beruf, Urlaub und Feste.

テキスト:

・プリントして配布します。

作品研究 I (2)

ヘルマン・ヘッセ論

教 授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容:

ヘルマン・ヘッセの「ラテン語学校生」「幼少時代より」etc. を読みます。

テキスト:

・Hermann Hesse: Der Lateinschüler. Aus Kinderzeiten. (Gesammelte Werke. Bd. 2, Frankfurt am Main 1970)

参考書:

・Berhard Zeller: Hermann Hesse. Reinbek bei Hamburg 1963
・『文学の子どもたち』柴田陽弘編著 慶應義塾大学出版会 2004 年)

作品研究 II (2)

教 授 和 泉 雅 人

授業科目の内容:

残念ながら、このシラバスを提出する時点では、なにを読むかが決定していません。いずれにせよドイツ語中級程度の実力で一冊が一年間で読み終わられる作品 (120 ページ程度) を選ぶつもりです。作品名は、わたくしの研究室の前にある掲示板で三月初旬に掲示してお知らせするつもりです。

素材は素材として、授業内容はすでに決定しています。この授業の目標としては、

- 1) まだ一冊もドイツ語の本を読みきったことのない人を対象にする。
- 2) 受講者の実力は中級程度である。(二, 三年生)
- 3) 中級文法・語法について、プリントを使用してなるべく多く理解・運用できるようにする。
- 4) 単語力を増やす練習もする。
- 5) 作品と作家の世界について知る。

などがあげられます。復習はともかく、予習は必須です。ほんとうに自分の力でドイツ語本を一冊読み終えてみたい人の参加を希望しています。上級への橋渡しのための授業です。

テキスト:

・未定。研究室前の掲示板で三月初旬に告知する。

参考書:

・開講時に指示する

作品研究 III (2)

『若きヴェルターの悩み』とその時代

教 授 斎 藤 太 郎

授業科目の内容:

若きゲーテの代表作『若きヴェルターの悩み』は発表当時たんに一文学作品として受容されたのみならず、「ヴェルター・フィーバー」と称される社会現象を巻き起こした事件でもあった。しかし、発表から 230 年を経た今日この作品を読むわれわれがその「起爆力」や「革命性」を理解するのはなかなか容易ではない。この授業では、『ヴェルター』の初稿 (1774 年) と改稿版 (1787 年) を比較しながら読み進むとともに、作品成立当時の社会的・思想的背景を参照しつつ、この作品の「新しさ」を追体験してみたい。同時に、当時数多く発表されたパロディ作品にも触れながら、社会現象としての『ヴェルター』の概観も試みるつもりである。

テキスト:

・Johann Wolfgang von Goethe: Die Leiden des jungen Werthers, Studienausgabe. Stuttgart (Reclam) 1999.

参考書:

・Thomas Siepmann: Lektürehilfen Johann Wolfgang von Goethe 'Die Leiden des jungen Werther'. Stuttgart (Klett) 2002.

ドイツ語学文学研究会 I (2)	
ファンタジーの世界	教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

- 1 ミヒャエル・エンデ研究
- 2 ドイツ語圏のファンタジー作家たち
- 3 ファンタジー映画と文学
- 4 ホラー映画と文学
- 5 SF 映画と文学
- 6 天使と悪魔
- 7 天国と地獄
- 8 知的生産の技術 etc.

テキスト：

・Michael Ende: Die unendliche Geschichte. München 2001

参考書：

授業中にご紹介します

ドイツ語学文学研究会 II (2)	
塔と廃墟の表象史	教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容：

前期は塔を、後期は廃墟をテーマとする。創造された事物も破壊された（されつつある）事物も、それぞれの仕方での美の感覚をわれわれに惹起する。そのメカニズムの一部をさぐってみたい。

前期はバベルの塔の表象史を中心に学習し、塔とは何か、について考察する。バベルの塔にかかわる表象は紀元前数千年に遡り、それは現代にまで及んでいる。その問題圏は建築、絵画、文学、普遍言語論などにわたる。昨年ウィーンの国立美術史美術館においてバベルの塔にかかわる展覧会が行われたときも、重点は建築表象と言語史の双方に置かれていた。われわれが今年度扱うのは建築的表象を基本としたバベルの塔である。上記美術史美術館で発行された展覧会カタログに掲載された論文を参考にしながら、その歴史の基礎知識を学習する。

後期は、都市、文明、城砦の生成と滅亡を視野に入れながら、廃墟とは何か、なにゆえ廃墟は美となりうるのか、といった問題意識をもちつつ、廃墟表象の解剖をおこなっていく。ローマ型の建築廃墟の絵画的表象から、ドイツロマン派における文学的廃墟表象にいたるまで、ジョン・マーチンなどのイギリスの廃墟関連文献にも目配りしながら進めていく。日本語文献も豊富にあるので活発な議論を期待したい。後期においてはレフェラートを適宜やってもらう場合がある。授業の縦糸として廃墟論のテキストを使用する。使用テキストはこの研究会で卒論を執筆する場合。予定としては以下の通り。1) 5 月初旬、テーマ決定 2) 7 月初旬、中間発表（1 回目） 3) 10 月初旬、中間発表（3 回目） 4) 11 月下旬（三田祭あと）、最終発表、5) 1 月中旬、卒論発表

テキスト：

・テキストはすべてコピーを配布する

参考書：

・開講時に指示する

ドイツ語学文学研究会 III (2)	
Franz Hessel (1880-1941) “Heimliches Berlin. Roman” (1927)	
	教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容：

Franz Hessel, wie der berühmte jüngere Freund Walter Benjamin Liebhaber der modernen Großstadt und ihr flanierender Wahrnehmungsexperte zugleich, hat drei autobiographische Romane geschrieben, die sich zur Großstadt-Trilogie zusammenschließen: Berlin gehen dabei die Stationen München (“Der Kramladen des Glücks”, 1913) und Paris (“Pariser Romanze”, 1920) voraus. Hessels Berlin-Roman “Heimliches Berlin” zeigt durch die genaue Schilderung des erlebten Alltags seines jungen Helden zugleich die gesellschaftlichen Verwerfungen der zwanziger Jahre in der deutschen

Hauptstadt auf.

Das gründliche Lesen des Textes soll zu Kommentar und methodisch gesicherter Interpretation veranlassen.

テキスト：

・Text: Franz Hessel, Heimliches Berlin. Roman, Bibliothek Suhrkamp 758, Frankfurt am Main 1982. Kopien werden auf Wunsch zur Verfügung gestellt.

ドイツ語学文学研究会 IV (2)	
18 世紀末の秘密結社運動とドイツの文学・思想	
	教授 斎 藤 太 郎

授業科目の内容：

ドイツの 18 世紀は「啓蒙の世紀」であり、文学者・哲学者たちは出版メディアを用いた啓蒙思想の普及による社会改良の夢を描いていた。しかし、公共圏に希望を託すこうした動きと裏腹に、この時代は秘密結社が隆盛を極めた時代でもあった。文学史を通じてわれわれになじみ深い文人のなかにも、ゲーテ、シラー、レッシングなど直接・間接に秘密結社と関わりをもった文人は数知れない。この研究会では 18 世紀末における「啓蒙と秘密」の複雑な関係に焦点をあわせ、当時の文学・思想に及ぼした秘密結社思想の影響を探る作業をおこないたい。話題に上るであろう作品はゲーテ『大コフタ』、シラー『ドン・カルロス』、『見霊者』、レッシング『エルンストとファルク』、クニッゲ『人間交際論』、モーツァルト『魔笛』などの予定。

参考書：

・授業内で指示する（秘密結社に関する邦語文献は少なくないが、「フリーメイソン世界転覆の陰謀」の類の「トンデモ本」が多いので要注意）。

ドイツ語学文学研究会 V (2)	
ベンヤミンの芸術論	助教授 平 田 栄一朗

授業科目の内容：

ベンヤミンの芸術論では文学、映画、演劇、建築、絵画などのさまざまな芸術ジャンルが取りあげられ、それらが社会現象としてのメディア、モード、インテリア、都市と結びつけられています。当ゼミナールでは「複製技術時代の芸術作品」や「パッサージュ論」の抜粋を原典で読み、社会における芸術の可能性について考察します。

ドイツ語学文学研究会 VI (2)	
ハインリヒ・フォン・クライスト研究	
	助教授 大 宮 勘一郎

授業科目の内容：

クライストの短篇を読む

- ・Die Marquise von O...
- ・Der Findling
- 他

テキスト：

・コピーにて配布

ドイツ語学文学研究会 VII (2)	
近現代ドイツ文学が描出する諸問題	
	助教授 桑 川 麻里生

授業科目の内容：

近現代ドイツ文学の重要テキストの中から、比較的短めのものを選び、原文、翻訳併用しながら読んでいきます。回が進んだら、各テキストから読み取れる問題について、担当者を決めて、発表をしてもらいます。テキストは、ゲーテ、ヘルダーリン、ハイネ、ニーチェ、ベンヤミン、ツェラーン、H. ミュラー等を予定しています。

テキスト：

・教室で指示する

参考書：

・教室で指示する

○仏文学専攻

必修科目

フランスの文化と歴史 (4)

フランスの起源から現代に至る、歴史、芸術、文化、
社会の一切を網羅する 教授 鷲見 洋一

授業科目の内容：

この授業ではいわゆる「文学」や「フランス語」を意識的に排除し、フランスの文化や歴史を理解するために欠かせない基本知識を、あくまで日本語環境で扱う。慶應義塾大学でおそらく唯一の、フランスについてすべてが学べる講義である。従ってフランス語を習得している必要はまったくなく、フランス文学専攻以外の専攻や学部からの受講生をおおいに歓迎する。たとえば、フランスの美術史や仏史や仏法を研究していて、とりあえず国全体について一通りの常識を身につけたいという向きには過不足ない授業だろう。毎時間の出席を重視する。というのも、授業の約三分の一はDVDやCDなどを中心とした、画像や音像による生きた視聴覚教育を実践するからである。一年間で皆さんはフランスをめぐる夥しい音や光を、それこそシャワーのように浴びるだろう。

テキスト：

・毎時間、かなりの枚数にのぼるコピーを配布し、それに基づいて講義を進める。

参考書：

・約百冊程度の書物をリストにして配布する。

フランス文学と近代 I (4)

教授 小倉 孝誠

〔春学期〕

旅・自然・風景

〔秋学期〕

身体表象

授業科目の内容：

前期と後期で異なるテーマを取りあげます。

〔前期〕

旅・自然・風景—文学作品には何かを描写する場面がたくさん出てきますが、その描写される代表的なもののひとつが「風景」です。風景には自然の風景だけでなく、都市の景観も含まれるでしょう。そして風景の発見はしばしば旅と結びついています。文学において「旅」の主題がどのような機能になっているのか、そして風景はどのように語られてきたのかを、風景画や風景の哲学と関連づけながら考えてみます。

〔後期〕

身体表象—身体はわたしたちにとって身近なもののですが、それを把握するしかたは多様であり、その意味で身体は文化現象と言えるでしょう。フランスの文学や絵画や科学的言説（たとえば医学や生理学）が身体をいかに表象してきたかについて論じます。具体的には、女性の身体とジェンダー論、顔の現象学などのテーマを取り上げる予定です。

テキスト：

・プリントを配布

参考書：

・アラン・コルバン『風景と人間』（藤原書店、2002年）
・柴田陽弘『自然と文学』（慶應義塾大学出版会、2001年）
・小倉孝誠『〈女らしさ〉はどう作られたのか』（法蔵館、1999年）

フランス文学と近代 II (4)

ユートピアと近代 講師 篠原 洋治

授業科目の内容：

本講義ではユートピア思想を扱う。一般論からはじめ、とくにフランス18世紀のユートピア文学、19世紀の共同体構想としてのユ

ートピアを分析し、さらに20世紀のユートピア論を再検討したいと思っている。

テキスト：

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

フランス文学史 I (4)

フランスとベルギーの近代文学 教授 宮林 寛

授業科目の内容：

〔前期〕

いわゆる「フランス文学史」の授業。18世紀から20世紀までの通史です。

〔後期〕

多言語国家ベルギーでフランス語による近代文学が成立する過程を説明します。

テキスト：

・『新版フランス文学史』（白水社）

フランス文学史 II (4)

「考える葦=私」への道 教授 荻野 安奈

授業科目の内容：

中世から17世紀までの通史です。随時プリントを配布し、出来る限り作品の現物に触れてもらおうと考えています。現在の「文学」の輪郭をなぞりつつ、古さの中に新たな可能性を模索する作業になるでしょう。

テキスト：

・『新版フランス文学史』白水社

フランス文学と現代 (4)

経済学部 教授 林 栄美子

授業科目の内容：

この授業が、科目名にふさわしい内容になるかどうか、担当者自身が不安ではありますが、今のところ計画中の内容は以下のとおりです。

- 1) 現代芸術がしばしば取り上げ、向き合ってきたテーマをいくつか取り上げ、代表的な作品を紹介しつつ、その現代的な意味を改めて考えてみます。ジャンルは文学に限りません。ことに19世紀半ばに生まれた写真をはじめとする映像は、極めて「現代」的なジャンルであるだけに、どうしても見過ごせない存在でしょう。まずは、時間と記憶、ものの記号化現象といったテーマから考えてみようと思います。
- 2) 芸術それ自体のなかにある様々な制度性を指摘し、それに抗ってきた、刺激的かつ徒勞に満ちた、現代芸術の試行錯誤の歩みをふりかえってみます。
- 3) 現代において「地域性」とはいかなる意味を持ちうるか？フランスの隣国ながらもまったく異なる精神風土を持ち、フランスを刺激し続けた「スペイン」をサンプルにして、主に芸術の枠内で考えてみます。

テキスト：

・コピー等で適宜配布します。

参考書：

・授業中に紹介します。

フランス語学 (4)

助手 喜田 浩平

授業科目の内容：

フランス語を一つの研究対象とみなし、さまざまな角度から観察していきます。まず初級文法では扱わない高度な文法事項の説明から入り、だんだんと「文法」の枠を超えた言語学的研究の対象・方法にまで話を広げていきたいと考えています。

テキスト：

・プリントを配布します。

参考書：
・教室で指示します。

フランス語学演習 I (X) (2) 講 師 真 屋 和 子

授業科目の内容：
Le Spleen de Paris の名によって知られるボードレールの代表作から何篇かを選んで読みます。彼が「リズムも脚韻もないのに音楽的」であるという「詩的散文の奇蹟」を音読によって感じとります。また、ボードレールの憂うつな根底にあるものを、作品を通じて探ると同時に、彼の生きた時代の背景にあるものについても学びます。初級文法の復習も含めて、文法の説明をします。

テキスト：
・Baudelaire: Petits poèmes en prose 『ボードレール散文詩抄』山内義雄編（第三書房，1200 円）

フランス語学演習 I (Y) (2) 教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：
原則として、Saint-Exupéry を読みます。「人間の土地」の教科書版を用いつつ、他作品にも言及します。片木先生の「星の王子様」の授業とうまくリンクできたらと考えています。

テキスト：
・「人間の土地」町田徳之助編注白水社

フランス語学演習 I (Z) (2) フランス語 2 年目のリーディング 教 授 宮 林 寛

授業科目の内容：
初級文法の復習をしながら読解力を高めるための演習です。テキストには物語、新聞記事などを使います。

テキスト：
・プリント使用。

フランス語学演習 II A (2) 中世フランス語の文学入門 講 師 松 村 剛

授業科目の内容：
中世フランス文学のフランス語の概要を解説します。アーサー王物語、宗教文学、武勲詩、叙情詩など多様なジャンルの特色を、具体的にテキストに沿って理解してもらうことが目標です。

テキスト：
・Albert HENRY, Chrestomathie de la littérature en ancien français (Francke, 1994)

フランス語学演習 II B (2) 19 世紀の詩の流れ 講 師 秋 元 幸 人

授業科目の内容：
Théophile Gautier, *Les Progrès de la Poésie française depuis 1830* (1868) を読む。これによって、フランス 19 世紀前半期の詩の潮流に触れてみることを目的とします。未だ本邦に紹介されていない、本邦では扱われることが少ない、しかし彼地ではしばしばとりあげられる作者も多数登場します。

テキスト：
・Charpentier 版上記テキストをコピーして配布します。

参考書：
・佐藤朔編『世界名詩集大成②フランス篇 I』，1960，平凡社。

フランス語学演習 III A (2) フランス語読解力の強化 助 手 市 川 崇

授業科目の内容：
主に 3，4 年生の既に中級以上のフランス語力を身に付けた履修者を想定し，ある程度の論理性を持ったフランス語の論説文を，正確

に，早く，読み，理解する能力を培うことを目的とした授業です。教材としては，新聞，雑誌の文化，社会問題に関する記事も適宜使用していきませんが，差し当たり Michel Winock の Le siècle des intellectuels の中から，Les années Sartre と題された 300 ページからなる章の 3 分の 1 程度を徐々にスピードを上げながら読んでいこうと思います。翻訳の授業ではありませんから，訳語の彫琢には時間をかけず，正確な文法理解に基づいた論旨の把握に重点を置きます。卒業論文の作成に必要な，参考文献読解の訓練になればと考えています。

テキスト：
・Michel Winock, Le siècle des intellectuels, Seuil, 1997（コピーを配布します）

フランス語学演習 III B (2) ラディゲの小説を読む 教 授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：
去年はシュルレアリスムの作品を読みましたが，今年はひとりの早熟の青年 Raymond Radiguet が書いた小説「Le diable au corps」を読みます。大戦下の不安な時代の中で 16 歳の少年が出征兵士の妻マルトとの恋に落ちる……『肉体の悪魔』のタイトルで邦訳もあるこの小説を，時代との関係，人物の心理の動きなどを議論しながら読んでいきます。映画もビデオで鑑賞してみましょう。

テキスト：
・Raymond Radiguet: Le Diable au corps, 第三書房

フランス語学演習 IV A (2) INITIATION A L'ANALYSE DE TEXTES LITTERAIRES 訪問講師（招聘） シモンー及川，マリアンヌ

授業科目の内容：
Le cours a pour but de se familiariser avec le vocabulaire de l'analyse littéraire, et avec les méthodes du commentaire de texte en français: étude de la structure, du vocabulaire, des procédés stylistiques, etc. Il s'appuiera sur des extraits de romans et des poèmes des XIXème et XXème siècles. L'analyse de chaque texte sera suivie d'exercices systématiques (lecture à haute voix, questions), devant aboutir à l'élaboration d'un court commentaire en français.

テキスト：
Textes distribués en classe

フランス語学演習 IV B (春学期集中) (2) フランス文化とファンタジー 助教授 片 木 智 年

授業科目の内容：
フランス文化史の中に現れるファンタジーをいくつか取り上げて精読し，各種のモチーフについて検討していきます。取り上げる文献は『眠れる森の美女』，『美女と野獣』およびその伝承の歴史，『星の王子さま』と「子供時代」のモチーフなどです。テキスト自体は平易ですのでやる気のある 2 年生も歓迎します。なお，本演習は前期集中で週 2 回行われます。現時点では木・金の 4 時限を予定していますが，時間割表で確認してください。

テキスト：
・Le Petit prince（ペーパーバック）

フランス語表現演習 I (X) (2) 初級フランス語の補完と中級 助教授 片 木 智 年

授業科目の内容：
実用フランス語の基礎づくりを目的にした演習です。急がば回れで，1 年次に習ったはずの知識の徹底から始めます。動詞変化の自動化，基礎語彙の知識，聞き取り能力なくしては，当然のことですがコミュニケーションもままなりません。現代フランスの映像，ポップスなどの紹介にも努めて，息抜きのできるようにはいたしますが，学生諸氏の積極的参加と努力が要求されます。

テキスト：
・プリント

フランス語表現演習 I (Y) (2) 助 手 喜 田 浩 平

授業科目の内容：

フランス語を書く能力を高める授業です。和文仏訳ではなく、フランス語で考えながら自由に文章が書けるようにすることが目的です。

テキスト：

教室で指示します。

参考書：

- ・『ラルース・やさしい仏仏辞典 NIVEAU 1』、『ラルース・やさしい仏仏辞典 NIVEAU 2』、駿河台出版社
- ・松原秀治、松原秀一、『フランス語らしく書く』、白水社
- ・原田、萩原、水林、田嶋、『コレクション・フランス語 7 書く』、白水社

フランス語表現演習 I (Z) (2)

フランス語のライティング練習 教 授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

日吉で学んできた初等文法を活かして、フランス語で書く練習をします。いわゆる和文仏訳ではなく、所定のテーマについて直接フランス語で考え、作文できるようになることが目的です。決して難しいことはありません。フランスの子供が身の回りの事柄について、見よう見まねで喋ったり書いたりするのと同じです。

毎時間、単独で、あるいはグループ作業で、教科書や辞書に助けられながら、やさしいライティングのこつを学習します。

テキスト：

・ *L'immeuble*, Hachette, 1996

参考書：

若干の辞書を紹介します。しかし、新学期に慌てて揃える必要はありません。

フランス語表現演習 II (X) (2)

講 師 ボダン、エマニュエル

授業科目の内容：

Dans ce cours d'expression orale, nous aborderons divers aspects de la culture française à partir de documents authentiques variés (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels et sur un contrôle continu.

テキスト：

・プリント

フランス語表現演習 II (Y) (2)

APPROFONDISSEMENT LINGUISTIQUE

訪問講師（招聘）シモンー及川、マリアンヌ

授業科目の内容：

Entraînement à l'expression orale et écrite. Conversation, exercices grammaticaux, dictée, rédaction.

テキスト：

・ *Initial 2* (Clé international, 2000).

フランス語表現演習 II (Z) (2)

講 師 ベリセロ、クリスティアン・アンドレ

CE COURS SERA ORIENTÉ VERS UNE PRATIQUE DE L' ORAL ET DE L'ÉCRIT. LES MATÉRIAUX SERONT DÉFINIS ULTÉRIEUREMENT.

フランス語表現演習 III (A) (2)

講 師 シャルコフ、スヴェトラナ

テキスト：

・朝日出版社 Georges Simenon, *Maigret et le clochard*

フランス語表現演習 III (B) (2)

仏作文入門

教 授 宮 林 寛

授業科目の内容：

和文仏訳ではなく、最初からフランス語で発想して書くことをめざして演習をおこないます。

テキスト：

・ Odile Chantelauve: *Ecrire*, Hachette

フランス語表現演習 IV (A) (2)

LECTURE ET REDACTION

訪問講師（招聘）シモンー及川、マリアンヌ

授業科目の内容：

A partir d'articles de journaux et de textes littéraires, le cours proposera un entraînement systématique à la lecture et à la rédaction en français. Chaque extrait sera accompagné d'exercices d'écriture (dictée, questions, production de textes d'imagination).

テキスト：

・ Textes distribués en cours.

フランス語表現演習 IV (B) (2)

フランス語で文章書く

教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語で文章を綴る力を養います。文脈のない和文を仏訳するという、文法理解にはある程度役に立ってもフランス語の作文力に直接つながらない練習は排除して、直接フランス語で状況に即した文章を書くために練習を重ねます。そのために、フランスで作られた質の高い作文用の教科書を用いて、模範テキストを理解した後、それを模倣する形で多くの作文エクササイズをします。この授業ではテストはするものの、それよりも出席と多くの宿題の提出を重視するのは、作文は自分で努力して書き、そして添削されることしか上達の方法が存在しないからです。地道な努力さえすれば必ず作文力をつけることが可能ですが、この授業でその方法を学んでください。

なお宮林先生も同じ教科書で表現演習を担当なさいますが、教科書の奇数レッスンを受け持たれるので、偶数レッスンを扱うこの授業とは重ならず、相補的な関係を持ちます。

テキスト：

・ *Ecrire* (Chantelauve 著)

参考書：

・ 仏仏辞典

フランス文学演習 I (2)

青春への訣別と新しい旅立ち

講 師 宮 崎 康 子

授業科目の内容：

17 才にして独自の詩論を編み出し、それを忠実に実践した結果、数年後には詩を捨ててアフリカへ去って行った天才詩人、アルテュール・ランボーが、自らの青春の彷徨を振り返って綴った散文詩「地獄の四季節」を読みます。

テキスト：

・「地獄の四季節」山内義雄編 第三書房

フランス文学演習 II (2)

沈黙と抵抗―『海の沈黙』から―

助 手 峯 村 傑

授業科目の内容：

第2次世界大戦時にナチス・ドイツに占領された体験は、フランスに数多くの抵抗文学を生みましたが、そのなかでも白眉とされるヴェルコール作『海の沈黙』(Le Silence de la mer)を読みます。この作品を入りに、サルトル、カミュ、ジャン・ポーラン等、他の作家たちの文章を参照しながら、抵抗と沈黙の関係、さらには抵抗や沈黙と文学との関係について、考察を深めていきます。人は抵抗できないがゆえに沈黙するのでしょうか、それとも抵抗するためにこそ沈黙するのでしょうか。そして沈黙が抵抗の力を持つのだとしたら、言葉を尽くすものとしての文学には、一体どのような意味があるのでしょうか。

演習授業ですから、講読や講義が中心にはなりません。直訳からよりの確な日本語への推敲、主題を絞った作品分析、自分の主張を説得的に伝えるための論述など、文学を読むということにかかわるいくつかの作業について訓練を行い、最終的には自分で掘り起こした問題についてのレポートをまとめることが本講義の目的です。受講者の人数にもよりますが、可能であれば、最後にレポート集を作成したいとも考えています。

テキスト：

・Le Silence de la mer (Vercors 著、第三書房)。

履修者は生協で購入してください。

参考書：

授業時に適宜紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

フランス文学演習 III (2)

ゾラみたことか

教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

前期は Zola のテキストを原語で読むことから始めます。同時進行で訳を用いつつ「ナナ」の日本における受容(小杉天外「はつ姿」)を検証し、日仏の自然主義を比較します。時間と希望があれば同時代の画家にも言及します。

テキスト：

・「ゾラ短編集」宮下志朗編注白水社

フランス語学文学研究会 (2)

教 授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

担当者が専門とする 18 世紀フランス文学・思想のほかに、広く社会史や文化史の領域、あるいは現代アートなどの試みについて、突っ込んだ調査や研究を進めたい学生のためのゼミ。どんなテーマでも驚かないが、唯一の条件はけっしてフランス語を逃げないこと。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

フランス語学文学研究会 (2)

フランス 19 世紀の舞踊と文学

教 授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

主に次のテーマを中心にして自分の研究をしたり、卒論を指導したりしてきました。

- 1) 19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての詩(象徴主義、ヴァレリー、シュルレアリスムなど)。この時期の詩と音楽(ドビュッシー、ラヴェルなど)、文学と絵画(マネおよび印象主義)。
 - 2) 19 世紀後半における文化、芸術、ジャーナリズム、メディア論。
 - 3) 20 世紀の思想(サルトル、ブランショ)など。
- 今年も春学期はフランス 19 世紀から 20 世紀初めにかけてパレエ

の流れを辿りながら、この身体芸術と文学、造形芸術などのかかわりを、ビデオや図版、フランス語のテキストなどを使いながら勉強します。去年はロマンティック・パレエ、クラシック・パレエ、ロシア・パレエなどについて広く浅く学びましたが、今年はより特化してゴーチエ、マラルメ、ヴァレリーなどの美学と舞踊との関係を考察します。

参考書：

・渡辺守章編：『舞踊評論』、新書館。

フランス語学文学研究会 (2)

フランスのことばと文化

教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

フランス語(などフランスで使われている言語)とフランス文化に興味のある方のための卒論準備のゼミです。フランス語については、フランス語(など)の文法や語彙・言語政策・過去のフランス語・ロマンス語の中のフランス語・フランス語と日本語・翻訳などどのようなテーマにでも対応します。フランス文化では、日常生活をも含めて、フランスの事物を書かれたものを用いて考えていきます。

参考書：

・Universalis など百科事典、Trésor de la langue française, Dictionnaire historique de la langue française などさまざまな辞書、Que sais-je? 文庫などの概説書などの主要な汎用文献については講義で解題をします。図書館を活用して各自に自分のテーマに即した参考文献表を作成してもらいます。

フランス語学文学研究会 (2)

卒論一直線

教 授 宮 林 寛

授業科目の内容：

履修者全員が自分なりに納得のいく卒論を書くことができるように指導します。近代詩、20 世紀後半の文学・思想、映画、絵画などに関心のある学生を歓迎します。

フランス語学文学研究会 (2)

文学コワイ

教 授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

広義の「文学」を対象とします。饅頭こわい、という落語がありますが、文学こわい、の精神で目につくものをバクバクと嚥下・消化しましょう。卒業論文の書き方指導を通して、論じる方法、たしかな目、踏み出す心を磨きたいものです。

テキスト：

・プリントにて配布

フランス語学文学研究会 (秋学期集中) (2)

研究と論文作成へのイニシエーション

助教授 片 木 智 年

授業科目の内容：

わたくしの現在に関心からいって、以下の分野に興味をもつ方は特に歓迎いたしますが、実際には様々な学生諸君をメンバーとした研究会です。

- (1) 演劇的なもの、役者論、マルチメディア芸術、メディアと文化摩擦
- (2) 16 世紀末から 17 世紀にかけてのテキストと歴史
- (3) 民話、民間伝承、おとぎばなし、妖精譚・幽霊譚

なお、就職活動・留学等に配慮し、本ゼミは後期集中で週 2 回開かれます。

テキスト：

・プリントなど

授業科目の内容：

近代（とくに 19 世紀から 20 世紀前半）の文学と文化史を学びたい人のためのゼミです。文学はそれが書かれた時代と社会を映し出すという側面をもっているので、文学（とりわけ小説）をつうじて歴史、社会、文化を全体的に読み解こうというのがねらいです。身体、ジェンダー、メディア、絵画と文学などの問題を考えていきますが、受講生には各自の関心におうじて自由にテーマを見つけてもらいたいと思います。ときにビデオなどの映像資料を用いる予定です。

テキスト：

- ・プリントを配布

参考書：

- ・都立大学仏文研究室編『フランスを知る』（法政大学出版局、2003 年）
これ以外は授業時に指示する。

洋書講読 (A)

休 講

洋書講読 (B) (2)

The Book of Illusions

助 手 吉 田 恭 子

授業科目の内容：

Paul Auster の最新作, *The Book of Illusions* (2002) を講読する。飛行機事故で妻と息子二人を一瞬にして失った大学教授 David Zimmer は、酒びたりの日々を送っていたが、ふとしたきっかけで、謎の失踪を遂げた無声映画時代の名優 Hector Mann の研究に没頭するようになる。そして、ある夜、謎の女性が彼を訪れ、Mann に会ってほしいと言う……スリルと謎に満ちた物語展開、はりつめて無駄のない文章、映画と書物と現実、過去と現在が絡み合って目眩しさをさそう、Auster らしさあふれる小説である。

テキスト：

・ Paul Auster, *The Book of Illusions* (2002)

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○図書館・情報学専攻

必修科目

図書館・情報学基礎（春学期）(2) 教授 細野 公男

授業科目の内容：

図書館・情報学の分野における中心的なトピックを取り上げてその特徴を示し、この分野の基本的な概念・考え方を紹介します。

参考書：

- ・情報社会を理解するためのキーワード2（培風館）

情報サービス基礎 I（春学期）(2)

社会における図書館の存在意義とその機能

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

この科目は、原則として図書館・情報学専攻2年生の必修科目であり、基礎科目の一つとして各種の図書館における情報サービスの概要と意義を学びます。そして、秋学期に開講される「情報サービス基礎Ⅱ」と一体となって、3年次以降に設置される図書館コースへの入門科目となるように位置づけられています。

テキスト：

- ・授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んできてください。

参考書：

- ・菅谷 明子『未来をつくる図書館－ニューヨークからの報告』（岩波新書）岩波書店、2003年
- ・辻 由美『図書館であそぼう』（講談社現代新書）講談社、1999年
- ・まちの図書館でしらべる編集委員会『まちの図書館でしらべる』柏書房、2002年

成績評価方法：

- ・評価方法は未定です。

質問・相談：

授業終了後でも構いませんが、なるべく授業中に質問できるように配慮します。

情報サービス基礎Ⅱ（秋学期）(2)

図書館・情報サービスの基礎理論 教授 高山 正也

授業科目の内容：

図書館を始めとする検索ベースの情報サービスについて、その概要と基礎的な理論の理解を目指します。このためには受講者の豊富な検索ベースでの情報サービス（図書館以外でも文書館や博物館等でも体験できます）の利用体験が前提になります。授業においても、ビデオによる疑似体験をできるだけ取り入れますが、受講者は図書館等での自主的な利用体験が強く求められます。

テキスト：

- ・バックランド, M. 「図書館・情報サービスの理論」 勁草書房、1990, 324p.

参考書：

- ・授業中に適宜紹介します。

情報メディア基礎Ⅰ（秋学期）(2)

情報メディアに関する入門 教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

図書、雑誌、新聞等の印刷メディアを中心に、情報メディアの特性、生産・流通のプロセスについて概説します。電子メディアに関しても、印刷メディアとの比較を通して触れます。毎回、プリントを配布し、それに基づき授業を進めます。

参考書：

- ・その場で適宜、紹介します

情報メディア基礎Ⅱ（春学期）(2)

- (A) 教授 田村 俊作
(B) 講師 菅野 育子
(C) 講師 杉江 典子

授業科目の内容：

目録、書誌、索引というかたちで実現されている資料組織の基本的考え方を学ぶため、目録、主要な書誌・索引類、書誌データベース、参考図書の概説を行うと共に、それらを使った基本的な資料探索の方法の修得を目指します。

参考書：

- ・長澤雅男『情報源としてのレファレンスブックス 6訂版』日本図書館協会 2001

情報検索基礎Ⅰ（秋学期）(2) 教授 上田 修一

授業科目の内容：

この科目は図書館・情報学科2年の必修科目であり、「情報検索演習」で習得しているはずの情報処理技術を用いた問題を出します。

情報と情報システム、情報検索の過程、検索手法、検索の仕組み、検索評価、データベース、索引、情報検索関連用語、さらに図書館目録、分類など書誌コントロールについての基礎的理解を得ることを目的とした授業内容です。

テキスト：

- ・授業時にプリントを随時、配布します。

参考書：

- ・日本図書館情報学会『図書館情報学用語辞典第2版』丸善
- ・岸田和明『情報検索の理論と技法』勁草書房

情報検索基礎Ⅱ（春学期）(2)

- (A) 助教授（有期）色川 進
(B) 講師 石田 栄美
(C) 講師 中島 玲子

授業科目の内容：

図書館・情報学の研究に必要な基本技能であるコンピュータの操作および倫理について習熟することを目標として、各種アプリケーションとネットワークの利用を中心に講義と演習を並行して行います。

原典講読 (A) (2)

図書館情報学分野の基礎的英語文献の講読

- (A) 教授 倉田 敬子
(B) 講師 越塚 美加
(C) 講師 須加 千絵

授業科目の内容：

各クラス少人数で、図書館情報学分野の基本的な英語文献を講読します。図書館情報学分野の基礎的な用語、概念の理解と、専門的な文献を読みこなせる英語力の修得を目指します。基本的に、毎回履修者が発表を行い、適宜必要な補足を行う形で授業を進めていきます。

(A) (B) (C) は同じテキストを使い、ほぼ同じ進度で授業をすすめます。試験も共通問題です。各クラスへの振り分けは4月の専攻別ガイダンスの時に発表しますので、各自確認の上、指示されたクラスを履修すること。履修は原則として図書館情報学専攻の学生に限ります。

テキスト：

- 1) Wilson, Patrick. Second Hand Knowledge. Greenwood Press, 1983. Chapter 1, 2
- 2) Webster, Frank. Information: a skeptical account. Advances in Librarianship, Vol. 24, p. 1-23 (2000)
- 3) Case, Donald O. Looking for information. Chapter 2

図書館・情報学研究法 (L) (秋学期) (2)

教授 細野 公男
教授 高山 正也
教授 上田 修一
教授 田村 俊作
教授 糸賀 雅児
教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

この研究会は文学部図書館・情報学専攻3年生を対象として開講されます。7月ごろ各自の志望をきいた上で担当者への割振を行います。

図書館・情報学の調査研究に必要とされる基礎的な知識技能の習得を目的とした授業を行います。(細野)

館種としては専門図書館、テーマとしては図書館経営論に関心をもつ人を歓迎します。またアーカイヴズ論、アート・ドキュメンテーション論、記録管理論に関心のある人も歓迎です。(高山)

図書館・情報学研究会 (A) (2) 教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディア、情報検索、大学図書館を中心とした卒業論文指導を行います。

図書館・情報学研究会 (B) (2) 教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

卒業論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていくます。

図書館・情報学研究会 (C) (2) 教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

情報メディアによって実現される情報の生産、流通、利用に関わる諸現象をテーマとする卒業論文指導を行います。

図書館・情報学研究会 (D) (2) 教授 高山 正也

授業科目の内容：

この研究会は図書館・情報学専攻の4年生の卒業論文指導のための研究会です。扱うテーマとしては専門図書館をはじめとする各種図書館のサービス、経営管理の問題として、職員・施設や設備、予算・会計・原価、利用者の問題をテーマとする人が多いです。

また、一般オフィスや公的組織における業務文書を対象にした文書館(アーカイヴズ)や記録管理・知識管理をテーマとすることも可能です。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度による評価)

図書館・情報学研究会 (E) (2) 教授 田村 俊作

授業科目の内容：

図書館におけるレファレンス・サービスやその他の利用者サービス、図書館史などの図書館に係わる問題、読書・情報探索行動など図書館利用者・利用に関連する諸問題をテーマとする学生のための卒論指導を行う。

図書館・情報研究会 (H) (2) 教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索や電子図書館などをテーマとし、テーマの設定、資料の収集・評価、調査方法、論文の構成・書き方等についての卒論指導を行う。

選 択 科 目

図書館概論 (秋学期) (2)

生涯学習論の基礎と図書館概説 教授 高山 正也

授業科目の内容：

図書館と生涯学習との関係、図書館の種類、機能、業務、サービス等についての総合的な理解を目指します。

特に現代社会の特徴としての情報化・国際化の状況の中で、さらに生涯学習の必要性が説かれる中で、図書館がいかなる社会的役割を果たすことができるかの検討を行います。

テキスト：

・大堀 哲編、司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論、樹村房、2002、183p.

参考書：

・アーカート、D. 図書館業務の基本原則、勁草書房、1985、145p. その他にも若干授業の中で指示します。

図書館の計画と経営 (春学期) (2)

図書館経営論 教授 高山 正也

授業科目の内容：

生涯学習のための社会教育機関として図書館も一つの非営利組織体としての適切な管理・運営が従来にも増して要請されています。また非営利・文化施設としての図書館は永続的で、情報資源の累積性に対応し、知的創造活動にふさわしい機関としての安定した経営とその計画が求められています。

そこで、図書館がその目的や使命を実現するために、どのようにその運営を計画し、経営されるかについて講義します。

テキスト：

・高山 正也編、改訂図書館経営論、樹村房、2002、183p.

図書館資料論 (春学期) (2)

環境情報学部 教授 澁川 雅俊

授業科目の内容：

図書館の目的は、人びとの知識の獲得と展開をサポートする。その目的の下で図書館は、利用者の知識・情報メディアへのアクセスを確保し、それを促進する役割を果たそうとしている。そしてその役割を効果的に、効率的に果たす仕組み、すなわち、蔵書、施設・設備、サポートサービス、図書館員によって構成される仕組みを整え、日常的には資料を集めて、まとめて、しまっておき、人びとの必要に応じて提供する働きをしてきたし、これからもしていくことになる。

本コースのテーマは、デジタルコンテンツを含め人びとの知識・情報資源としての図書館蔵書の構築と発展にかかわる議論であり、それは同時に人びとの必要に対応する図書館資料をどのように集め、それをどうまとめ、そしてどのようにしまっておけば必要に応じて提供できるかという方法論でもある。

参考書：

・テキストや基本参考書は指定しないが、各セッションに配布するppt シノップス(講義概要)に参考文献を掲載する。

図書館活動論 I (公共図書館) (秋学期) (2)

公共図書館の活動・サービス・法制度

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

「地域の情報拠点」「生涯学習の拠点」としての公共図書館の活動やサービス、そしてそれらを支える法制や基準、政策などを学びます。なお、事例集やスライド、ビデオを教材として併用することで、国内外の公立図書館活動の実態について理解が深まるよう配慮します。

テキスト：

・『図書館による町村ルネサンス ― Lプラン 21』日本図書館協会、

2001 年
参考書：
・文部省『2005 年の図書館像 ― 地域電子図書館の実現に向けて』
2000 年
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/12/12/001260.htm)

図書館活動論 II (大学図書館) (秋学期) (2)

教授 上 田 修 一
講師 酒 井 由紀子

授業科目の内容：

大学図書館の運営と実務に関する基礎的知識を扱います。

テキスト：

・プリントを配布します。

参考書：

・大学図書館実務研究会、大学図書館実務必携。東京、実務必携、1992
・岩猿敏生、大城善盛、浅野次郎、大学図書館の管理と運営。東京、日本図書館協会、1992
・Budd, J.M. The academic library. Englewood, Libraries Unlimited, 1998
・Coughlin, C.M.; Gertzog, A. Lyle's administration of the college library, London, Scarecrow Press, 1997

図書館活動論 III (学校図書館) (秋学期) (2)

講師 高 鷲 忠 美

授業科目の内容：

初等・中等教育における学校図書館の意義と、学校図書館職員によるその活動について考える。日本の学校図書館の現状を理解するだけでなく、求められる学校図書館及び学校図書館職員制度のあり方を各人に考えてもらいたい。今年は、日米の学校図書館を比較することをとおして、以上の目標を達成したい。前半は講義、後半はグループ発表を中心とする。

図書館活動論 IV (専門図書館) (秋学期) (2)

専門図書館活動論 教授 高 山 正 也

授業科目の内容：

専門図書館という館種は多岐にわたる活動を行う図書館を包含しています。主なものに医学、薬学、農学、科学技術、ビジネス、法律、音楽、美術、文学などがあり、それぞれにグループ（協議会を名のるケースが多い）を形成して、公共図書館や大学図書館等とは異なるサービス原則で活動する図書館が多くあります。

各館種の中では最も情報サービスに特化しており、図書館界の将来をいち早く反映している館種でもあります。一般論を講義し、代表的専門図書館の事例をそれら図書館の関係者にも講義してもらいます。

参考書：

・授業の中で紹介します。

コミュニケーション史 (春学期) (2)

人類の情報活動の発達史 講師 村 主 朋 英

授業科目の内容：

科学コミュニケーションの発達史を軸に、人類の情報活動の発達史を概観する。まず、メディア技術（情報・通信技術）、図書館情報サービス機関・情報専門職など情報流通の制度・機構に関わる要因、および情報の蓄積・検索方法の発達過程を講述する。その上で、そうした環境要因に囲まれて、人類が情報や知識をどのように交換し、また蓄積・継承してきたか、展望する。主として科学コミュニケーションを題材とするが、必要に応じて一般的事項（公共図書館やマスメディアなど）に言及する。

テキスト：

・『歴史のなかの科学コミュニケーション』（勁草書房刊、2002 年、

税別 3800 円）その他随時プリントを配布

参考書：

・『歴史のなかのコミュニケーション』（新曜社）ほか、授業で随時紹介

資料組織論 (春学期) (2)

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

この科目では図書館目録の意義、目録規則、目録法、分類、件名、目録機械化、MARC、書誌ユーティリティ、OPAC など図書館目録の業務を中心として扱います。

レファレンス・サービス論 (春学期) (2)

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

図書館のレファレンス・サービスについて、理論と実務を学ぶ。レファレンス・サービスの基本的な考え方、歴史、サービス内容、技術を概観する。講義で得た知識をもとに、個々のレファレンス・サービスの実態の分析を各人が試みる。また、講義と並行して、事例問題によって、問題発生から解決までの調査法の実践を演習し、それを通して調査手順の一般化を試みる。

参考書：

・長澤雅男『レファレンス・サービス』丸善 1995
・伊藤松彦編『新図書館学教育資料集成 4：参考業務』教育史料出版会 1989
・阪田蓉子編『新編図書館学教育資料集成 4：情報サービス論 補訂版』教育史料出版会 2003

図書館実習 (2)

図書館・情報学におけるインターンシップ科目

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

図書館・情報学専攻の学生で、司書資格を取得し、図書館への就職を希望する者のみを対象としたインターンシップ科目です。インターンシップとは「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」とされています。したがって、この科目では各種の図書館や資料室、メディアセンター等においてインターンとして実務を経験することになります。

実習ガイダンスを 3 回開催（第 1 回は 4 月 8 日）しますので、履修者はすべてのガイダンスに必ず出席してください。

情報メディア概説 I (春学期) (2)

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

情報とメディアをめぐる議論、メディアの分類、メディアの流通と保存、メディアの歴史、メディア論とメディア批判、ウェブ、メディアをめぐる事件を扱います。

テキスト：

・授業時にプリントを随時、配布します。

情報メディア概説 II (春学期) (2)

情報メディアに関する専門的概説

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

社会の中で人間は情報メディアを通して情報を生産し、流通させ、利用するという考え方に立ち、次の 3 つの観点から情報メディアを総合的に考えます。

- (1) 物理的属性（技術的側面）
- (2) 社会的制度、機能
- (3) 情報メディアを通じて語られるディスコース

参考書：

・授業時に参考文献リストを配布します

情報認識の基礎（春学期）(2)

人間と情報のいい関係をつくるために

教 授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

現代社会には情報が洪水のようにあふれていると言われますが、あふれているのは単に電氣的な信号や物理的な記号だけではないのでしょうか？

いまあなたが手にしているこの「講義要綱」にしても、たくさんの情報が載っているように見えますが、よく考えてみると、炭素と水素の化合物である紙の上に、ところどころ黒いインクのシミで何かが描かれているだけにすぎません。それを前にして、あれこれ悩んだりしているのは、ある意味ではさきわめて不思議な現象なのです。

人間が信号や記号を入手し、利用し、理解してはじめて、そうしたモノたちは意味を持った情報になります。そう考えると、情報の存在と人間の存在の間には相互作用がはたらくことになります。では、人間にとって記号と情報、メディアの相互関係は、どのように捉えたらよいのでしょうか。さらには、メッセージの意味はどこから生まれてくるのでしょうか、同じメッセージを受け取っても人によって異なった情報を受け取るのはなぜでしょうか、小説や絵画、音楽は本当に情報と呼べるのでしょうか、・・・？

この科目では、こうした人間の情報認識に関わる基本的な問題を提起しながら、学生とともにヒューマンサイズの情報を扱うための本質的な視点を探っていきます。こうした過程を経て、これからの時代にふさわしい、人間の情報環境デザインができる人間を育てたいと考えています。

ですから、単なる note-taking や教科書の理解よりも、常識に対する批判的なまなざしと深い思索、そして何よりもディスカッションへの積極的な参加が求められます。

テキスト：

・授業の進行に応じて、読むべき文献を順次指定しますので、事前に読んできてください。事前に読んでこないことには、ディスカッションへ積極的に参加できません。1 回の授業で論点を 2 つずつ、それも事前に示していく予定です。

参考書：

・池上嘉彦『記号論への招待』（岩波新書）岩波書店、1984 年
・西垣 通『聖なるヴァーチャル・リアリティ』岩波書店、1995 年
・西垣 通『こころの情報学』筑摩書房、1999 年

情報メディアの構造と分析 I（秋学期）(2)

情報メディアの構造的特性を分析する方法の概説と演習

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

情報メディアは、独自の物理的・技術的特性および社会的場としての機能を持ち、さらに

そのメディアに特定のな方法で情報を伝達している。個々の情報メディアが固有に持つその形式的・構造的特性に焦点を当て、その特性を分析する方法を概説します。具体的には「新聞および新聞記事」と「マンガ」を扱います。分析方法の概説の後、実際に新聞記事やマンガ作品を分析してもらいます。

情報メディアの構造と分析 II（春学期）(2)

情報メディアの機能

講 師 菅 野 育 子

授業科目の内容：

情報メディアの機能に関する基礎的な知識を学ぶために、学術情報だけでなく一般社会における情報の流通に関する各種情報メディアについて概説します。

具体的には、新聞（新聞記事）、雑誌（雑誌記事）、図書、特許資料、絵画（美術作品）などを取り上げ、その特徴を概観します。

さらに、各情報メディアの分析を行ないながら、分析結果からどのような情報を得ることができるのかについて議論します。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

情報メディア特殊 I（本）（秋学期）(2)

「モノ」としての書物がもつ表現可能性

講 師 武者小路 信和

授業科目の内容：

「モノ」としての書物がもつ表現可能性について、タイポグラフィ、ブックデザイン、造本構造などの面から解説します。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・その都度、授業時に紹介します。

情報メディア特殊 II（電子媒体）（春学期）(2)

WWW の情報発信とメタデータの応用

講 師 神 崎 正 英

授業科目の内容：

WWW の普及によって、誰もがかつて無い規模の情報にアクセスできるようになったものの、その中から本当に必要な情報を見つけたのは簡単ではありません。また一方で、モバイル、ユビキタス、音声メディアなど利用者の環境の多様化が進むにもかかわらず、特定の対象しか考慮しないコンテンツが氾濫し、有益な情報活用の妨げになっています。

WWW が本来目指していた、異なる環境での情報共有、さらにマシンの力を利用した効率的で的確な情報探索・活用のためには、コンテンツ記述の基本をふまえ、適切なメタデータを用意することが重要になってきます。この講座では、こうした観点で、WWW の基礎から RDF によるメタデータの記述方法とその応用までを取り上げます。

テキスト：

・授業資料はウェブ上で配布します。

情報メディア特殊 III（社会と情報）（春学期）(2)

現代のメディア環境と情報行動

講 師 三 上 俊 治

授業科目の内容：

21 世紀を迎えた今日、インターネット、デジタル衛星放送、携帯電話、マルチメディアなど、私たちの情報環境を大きく変えるようなニューメディアが次々と登場し、身近な日常生活や、地域社会、ビジネス、政治過程、国際関係などにも大きな影響を与えつつある。

本講義では、現代のメディア環境や現代人の情報行動を深く理解するために必要な基礎理論や具体的事例、データを紹介する。

テキスト：

・三上俊治『メディアコミュニケーション学概論』（学文社）

情報メディア特殊 IV（科学）（春学期）(2)

科学コミュニケーションの現状と課題

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

科学コミュニケーションは、送り手も受け手も研究者という閉鎖的な集団内におけるコミュニケーションであり、一般のコミュニケーションとは異なる特性をもっています。ここでは研究者たちが科学研究という社会的行為を、科学コミュニケーションを通じていかに実現させているかを検討します。特に現在、科学コミュニケーションにおいては、「電子化」が非常に注目されています。電子化によって、従来の科学コミュニケーションのあり方が、根本的に変容する可能性があるためです。電子化については、いまだ全貌が見えたとはいいがたい状況ではありますが、最新の動向についても、できるだけ触れたいと思います。

テキスト：
・倉田敬子編著『電子メディアは研究を変えるのか』勁草書房 2000
参考書：
・岡田編著『科学を考える』北大路書房 1999
・ガーベイ『コミュニケーション』敬文堂 1981

情報検索概説Ⅰ（春学期）(2) 教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：
情報検索の発展史と基本的な考え方・理論、情報検索に係わる各種の情報活動・サービスや課題などを解説します。
参考書：
・情報検索論（丸善）、情報社会を理解するためのキーワード2（培風館）

情報検索概説Ⅱ（春学期）(2) 助教授（有期） 色 川 進

授業科目の内容：
データ処理の流れの技術的な仕組み・構造を理解することを目的として、データ構造とアルゴリズムの基礎を学びます。応用としてコンピュータやネットワークで使われる最近の技術動向についても解説します。

情報検索研究（秋学期）(2) 教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：
情報検索理論の全体的な特徴と、中心的な考え方・アプローチ・実験環境を歴史的に紹介し、現在抱えている問題点と将来の研究動向を解説します。
参考書：
・情報検索論：認知的アプローチへの展望（丸善）、情報検索研究（トッパン）

情報探索行動（秋学期）(2) 教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：
人々がどんなときに、どのようにして情報を求めるのか、それがこの講義のテーマである。人々が情報を求める社会的文脈および情報探索の過程についての検討を中心に、情報リテラシーや探索のスキル等について考えてみる。
テキスト：
・特に使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書：
・Varlejs, j, ed.『情報の要求と探索』勁草書房 1993
・田村俊作編『情報探索と情報利用』勁草書房 2001

データベース検索（春 学期）(2)講 師 中 島 玲 子

授業科目の内容：
この授業では、(1) 情報検索に関する基本的な知識の学習、(2) 演習を通じたデータベース検索技術の取得を目的とする。コンピュータによるデータベース検索は、図書館のレファレンスサービスに限らず社会の至るところで利用されており、研究や卒業論文の作成を行うためには、自分で必要な各種のデータベースの所在を知り適切な検索を行う必要がある。演算子を用いた検索式の立て方、国内外の代表的なデータベースの利用方法および各分野の基本的な情報収集法を学び、オンライン情報検索システム、商用データベース、サーチエンジンおよびインターネット上の情報源の実習を通して、情報検索の理論と検索技術を身につける。
前提知識としてデータベースおよび情報検索に関する基礎知識が必要である。また PC 教室使用のため、履修人数に限りがあり希望者全員が履修できない場合がある。定員は 40 名とする。履修人数確定のため履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること（二回目以降からの履修は認めない）。

なお、図書館情報学専攻検索コースの必修科目であるため、当該コース学生を優先とする。ただし、教職課程教科情報登録者 4 年生および教職特別履修生についてはこの限りではない。
テキスト：
・オンラインで資料配布

参考書：
・新現代図書館学講座7 情報検索演習、緑川信之編著、東京書籍
・情報リテラシー入門、慶應義塾大学日吉メディアセンター編、慶應義塾大学出版会

情報検索システム（春学期）(2) 教 授 上 田 修 一

授業科目の内容：
データデースの作成・提供を中心として情報検索システムを取り上げます。具体的には、データベースと情報検索システムの基本的な問題から簡単な文字処理、データベース作成演習、シソーラス作成などです。
テキスト：
・授業時にプリントを随時、配布します。

情報処理技術（A）～（B）（秋学期）(2) 助教授（有期） 色 川 進

授業科目の内容：
学習や研究に必要な基本技術であるコンピュータの操作および倫理について習熟することを目標として、Web ページに関する情報処理技術を中心に講義と演習を並行して行います。

自然言語処理の基礎（秋学期）(2) 情報の検索・分類・抽出・要約に必要な自然言語処理技術の基本を学ぶ 講 師 岸 田 和 明

授業科目の内容：
情報の検索・分類・抽出・要約を効果的かつ効率的におこなうための自然言語処理の理論や技法の基礎を学ぶことがこの講義の目標である。例えば、大規模な文献データベースを効果的に検索するには、検索質問や各文献の標題・抄録（または全文）に対する的確な解析が必要であるが、これにはさまざまな自然言語処理の技法が応用される。この講義では、このような目的で文献のテキストを解析するための統計的な方法や、形態素解析・構文解析・意味解析の方法を解説する。さらには、テキストの自動分類、テキストからの情報の自動抽出、テキストの自動要約などにも焦点を当て、そのなかでどのように自然言語処理の方法（統計的方法を含む）が活用されているかを学んでいく。なお、講義においては、統計学や言語学などのごく初歩的な知識から解説していくので、これらについての予備的な知識がなくとも受講することは可能である。

テキスト：
・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。
参考書：
・岸田和明著『情報検索の理論と技術』勁草書房 1998（図書館・情報学シリーズ3）
・徳永健伸著『情報検索と言語処理』東京大学出版会 1999（言語と計算5）
・長尾 真編『自然言語処理』岩波書店 1996（岩波講座ソフトウェア15）

画像・映像処理の基礎（秋学期）(2) 仮想世界の理解にむけて 講 師 甲 洋 介

授業科目の内容：
ハリウッドではコンピュータグラフィックスがシリコンスターを生み出し、デジタルメディア情報がネットワークを飛び交う。こどもたちは気負うことなくエンターテイメントとしてメディアテクノロジーを享受し、その一方では、仮想現実技術（バーチャルリアリティ）をひとつの基礎とする仮想世界は、わたしたちの常識的

本講義では、メディア情報技術の中で特に視覚情報にかかわる画像および映像処理の基礎について学ぶ。ビデオ資料の検討やディスカッション等を積極的に取り入れながら、テクノロジーの側面だけでなく、人間の側面にも言及していきたい。この講義の狙いは、皆さんがこれらの変容を単なる「お話」としてではなく、われわれの日常生活を構成するための基本的かつ現実的な問題として、主体的に考察を始めるきっかけを与えることにある。

- ・デジタル画像処理入門（産能大学出版，磯博著）
他，適宜紹介する。

・マルチメディア情報学の基礎（岩波書店）
他、適宜紹介する。

古文献・絵画を見る 講師 白石 克

・『図書学辞典（三省堂刊）昭和 54』長澤規矩也著、『日本古刊本図録』拙稿（三田メディアセンター）平成 7～8

講師 安形 麻理

(2) Gaskell, Philip. *A New Introduction to Bibliography*. Winchester, St. Paul's Bibliographies; New Castle, Del., Oak Knoll Press, 1995. 438p.

・中多泰子・穴戸宏・汐崎順子共著「改訂版 児童サービス論」樹村房(2004)

教授 高山正也

・ベネドン, W. 記録管理システム. 勁草書房, 1988, 284p.

138

○社会学専攻

必修科目

社会学概論 (4)	教授 平野敏政
	教授 藤田弘夫
	教授 浜日出夫
	助教授 岡原正幸
	助教授 長尾真理
	教職課程センター助教授 竹村英樹

授業科目の内容：

- I 見えない社会を見るためのレッスン（浜）
- 電車のなかで社会学 (1)
 - 電車のなかで社会学 (2)
 - 電車のなかで社会学 (3)
 - 電車のなかで社会学 (4)
- II 家族・村落（平野）
- 1 家族・家・世帯
 - 2 家・同族団・村の理論（有賀・及川・鈴木・喜多野）
 - 3 近代化と家族・村落の変動
 - 4 フェミニズムと近代家族
- III 都市・国家・公共性（藤田）
- 1 近代化と都市化
 - 2 都市の比較社会学
 - 3 伝統国家と近代国家
 - 4 公共性の比較社会学
- IV 社会的な不平等と差別（岡原）
- 1 「あなたの階級は？」ということ
 - 2 近代化・「人権」・ジェンダー
 - 3 「弱者」の創出と差別の再生産
 - 4 不平等への態度と「新しい社会運動」
- V 発達と教育の社会学（竹村）
- 1 教育拡大の理論
 - 2 学歴社会論
 - 3 発達と社会化
- VI 現代社会と医療（長尾）
- 1 患者の権利
 - 2 先端医療
 - 3 高齢社会と介護
- VII 補論

テキスト：

- ・各担当者が指示します。

参考書：

- ・ギデンズ『社会学』而立書房 他

社会心理学概論 (4)

個人と個人、個人と集団、個人と社会の関係および
集合行動について論じる

教授 榊博文

授業科目の内容：

まず、社会心理学の対象と方法、歴史、心理学的社会心理学、社会学的社会心理学について触れ、対人認知、対人魅力、社会的態度、集団と個人、社会的相互作用、集団の構造と機能、流行、デマ、パニック、マスコミ（広告）の効果など集合現象等の、社会心理学の下位分野における主要な概念や理論、及び個々の実証的研究を講義する。

更に、「説得」、集合現象の一部である「普及」、それを説明する「異文化間屈折」理論、「再発明」概念、「あらかじめ屈折」理論等についても言及する。

テキスト：

- ・青池・榊編著「現代社会心理学」慶應大学出版会（2004、4 発行予定）

- ・榊博文「説得と影響—交渉のための社会心理学」ブレーン出版

参考書：

- ・適時指示する。

文化人類学概論（春学期集中）(4) 教授 鈴木正崇

授業科目の内容：

文化や民族の概念について検討し、文化人類学の学説史に次いで各論に入る。親族、宗教、経済、開発などについて検討する。基本的な概念や考え方について述べる概論である。一・二限連続の前期集中の講義なので履修に注意すること。

参考書：

- ・米山俊直編『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社、1995。
- ・山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣、1997。
- ・綾部恒雄編『文化人類学最新述語 100』弘文堂、2002。
- ・『岩波講座 文化人類学』全 13 巻、岩波書店、1997～1998。

社会学史 (4)	教授 平野敏政
	教授 藤田弘夫
	教授 浜日出夫
	助教授 岡原正幸
	助教授 長尾真理

授業科目の内容：

- I 19 世紀の社会と社会学（藤田）
- 1 社会概念化と社会学の誕生 社会主義・社会科学・社会学
 - 2 社会思想と社会の概念 社会有機体説とマルクス
 - 3 社会調査と社会の概念 ブース、ル・プレー、ゲテス
 - 4 日本における欧米の社会思想の受容
- II デュルケム、ウェーバー、ジンメル（浜）
- 1 1890 年代の世代
 - 2 理解社会学 M. ウェーバー
 - 3 社会学主義 E. デュルケム
 - 4 形式社会学 G. ジンメル
- III 機能主義（平野）
- 1 社会有機体説・規範主義と機能主義
 - 2 初期機能主義理論 マリノフスキー、ラドリック＝ブラウン
 - 3 構造・機能主義 パーソンズ（システム・パターン変数・AGIL）
 - 4 構造機能主義批判 マートン・ダーレンドルフ
- IV フランクフルト学派・ルーマン（長尾）
- 1 批判理論の成立 M. ホルクハイマー W. ベンヤミン
 - 2 近代合理性の行方 Th. アドルノ H. マルクゼ E. フロム
 - 3 批判的理性とコミュニケーション J. ハーバーマス
 - 4 社会秩序とシステム N. ルーマン
- V 象徴的相互作用論・ブルデュー（岡原）
- 1 シカゴ学派と自我論 クーリー、トマス、ミード
 - 2 象徴的相互作用論 現実構成・レイベリング・参与観察
 - 3 ゴフマン 印象管理・自己呈示・アイデンティティの政治
 - 4 ブルデュー 文化資本・象徴暴力・ホモアカデミクス

VI 補論

参考書：

- ・コリンズ『社会学の歴史』有斐閣
- ・那須寿編『クロニクル社会学』有斐閣

社会調査 I (2) (春学期) 教授 青池慎一 (秋学期) 講師 李光鎬

〔春学期〕

授業科目の内容：

社会調査を行うに当たって必要な基本的な考え方と諸技法について講義する。春学期においては、社会調査についての基本的認識、理論と調査、統計的調査法と事例研究法、そして、サンプリング、質問紙、インタビュー、尺度作製法、などのデータ収集にかかわる諸技法について演習をまじえながら講義していく。

テキスト：
・特に指定しません。
参考書：
・特に指定しません。

〔秋学期〕
データの分析

授業科目の内容：
秋学期においては、集められたデータを調査目的に従って集計・分析する様々な方法とその背景にある論理について演習を交えながら講義を行う。
テキスト：
・特に指定しない
参考書：
・授業中に示す

社会調査Ⅱ(2)
フィールドワーク演習 助教授 榎尾直樹

授業科目の内容：
本講義は、社会調査の中でも聞き書きや参与観察を主たる方法とする質的調査の実習を行う。しかし、みんなで野外調査に出かけることはできないので、授業の中で実習を行う。全部で14の実習を予定している。
テキスト：
・桜井厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年
参考書：
・好井裕明他編『フィールドワークの経験』せりか書房
その他授業の中で適宜指示する。

コミュニケーション学(4) 教授 青池慎一

授業科目の内容：
この講義は、基本的社会過程であるコミュニケーション過程について分析、解明していくものである。
まず、今日までに展開されてきた基本的なコミュニケーション・モデルについて検討し、コミュニケーション過程およびそれにかかわりあっている構成要素や諸変数に関する基礎的理解をふかめていく。
その上で、社会過程としてのコミュニケーション過程をインターパーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーションに焦点をあてて検討したい。
なお、インターパーソナル・コミュニケーションに関しては、对人的影響やオピニオン・リーダー概念をめぐる諸論点やコミュニケーション・ネットワーク分析、マス・コミュニケーションに関しては、限定効果論、強力効果論への回帰の問題を特に扱っていく。
テキスト：
・特に指定しません。
参考書：
・授業時に適宜示します。

普及学(4) 教授 青池慎一

授業科目の内容：
いかなる時代、いかなる社会においても、普遍的に存在しているコミュニケーション・プロセスの一つが、イノベーションの普及である。イノベーション（新製品、新しいスタイル、新知識、新思想、新技術など）が発明され、その源泉やそのエージェントから人々にコミュニケーションされているのである。この結果、しばしば、旧来の知識、スタイル、製品などが、イノベーションによって代替され、人々の生活や、社会、文化が変容していくのである。本講は、このようなイノベーションの普及プロセスはいかなるもので、どのような要因がかかわりあっているかについて論じていくものである。
テキスト：
・特に指定しません。

参考書：
・授業時に適宜示します。

教育社会学(4)

休講

日本社会論(4) 教授 平野敏政

授業科目の内容：
日本社会論、日本文化論ではヨーロッパ社会との相違を強調し、日本社会、文化の特殊性を強調する視点がしばしば採用されている。本講義では、なぜそうした特殊性が近代日本社会においても再生産されているのか、という問いに立ち返って、そうした再生産過程の基礎に日本社会におけるイエスの原理の作用が存在しているとの視点に立ち、有賀喜左衛門の「イエ」理論を援用し「全体的相互給付」原理との関連の下に日本社会について考察する。
宗教社会学(4)
スピリチュアリティの社会学 助教授 榎尾直樹

授業科目の内容：
宗教社会学は、宗教の社会的機能や役割といった宗教と社会との関係性や、「宗教社会」、つまり宗教的コミュニティの実態、および社会の宗教的次元を明らかにする学問である。本講義では、授業中の実習によって、宗教性／スピリチュアリティに関する諸概念を参加者各自が構築するとともに、世界のいくつかの地域の「宗教的現象」を映したビデオを観て、その諸概念を検討するとともに、宗教性／スピリチュアリティの実存的諸問題について理解を深めることを目的としている。
テキスト：
・榎尾直樹編『スピリチュアリティを生きる』せりか書房、2002年
・榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、2004年
参考書：
・井上順孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社、
・井上順孝他編『宗教学を学ぶ』有斐閣、
・橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、
・島菌進『現代救済宗教論』青弓社、
・島菌進『精神世界のゆくえ』東京堂出版など。
・その他は授業の中で適宜指示する。

都市社会学(4) 教授 藤田弘夫

授業科目の内容：
都市はさまざまな秩序を隠し持っている。本講義は社会の多様な姿を都市に焦点をあてて析出するとともに、都市の社会学的分析について基本的な力を身につけることを目的としています。
テキスト：
・藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣2000年
参考書：
・藤田弘夫『都市の理論』中公新書 1993年

文化社会学(4) 教授 藤田弘夫

授業科目の内容：
本講義の目的は、われわれが社会生活のなかで生み出すとともに、その社会生活を背後から秩序づけている文化の多様な形態を析出することである。この作業を通じて、文化社会学のダイナミックな分析と論理を教授できればと考えています。
テキスト：
・藤田弘夫・西原和久『現代人の社会学入門』（増補版）有斐閣2000年
参考書：
・藤田弘夫『都市と権力―飽食と飢餓の歴史社会学』創文社1991年

授業科目の内容：

家族社会学の基本理論と基本概念の理解をもとに、現代日本におけるさまざまな家族問題にアプローチする。前期においては、主に構造・機能主義理論を中心に、世帯経済学や歴史人口学、アノール学派の家族史研究などといった家族研究の変遷を学説史的にたどり、家族研究の基本的視点についての理解を作り上げる。後期においては、前期で構築した視点に立って家族における性差別問題を中心に、ジェンダー論やフェミニズム論などを取り上げ、具体的な家族問題を考察する。

社会学特殊 I (4)

ローカル・ガヴァナンスと統治様式のシフト

講 師 植 木 豊

授業科目の内容：

「ローカル・ガヴァナンス」をテーマに、講義を行なう。「市場の失敗」「国家の失敗」、さらには「家族の失敗」等、今日の社会は、多くの「制度の失敗」を抱え込んでいる。こうした中、統治の様式は、〈セントラル・ガヴァメントからローカル・ガヴァナンスへ〉という形で、シフトしつつある。以上の問題意識の下で、ローカル・ガヴァナンスという現象・問題設定が浮上した背景を明らかにし、次に、これを、社会理論・政治理論の様々な観点から吟味する（前期）。さらに、ローカル・ガヴァナンスを分析するための枠組みを提示し、日本におけるローカル・ガヴァナンスの実際・課題を議論していく（後期）。

テキスト：

・特に定めない。

参考書：

・講義中に提示。

社会学特殊 II (4)

農村の家族と地域社会

講 師 重 岡 徹

授業科目の内容：

本講義では、農村社会を農村住民の生活の場ないし生活空間として捉える観点から、日本農村の家族と地域社会について、その歴史的な動向と諸特徴を考察するとともに、現代農村の直面している諸問題について分析を試みる。

進め方としては、①農村社会研究の動向、②農村家族及び農村地域社会の歴史的展開、③生活空間としての現代農村社会の状況、④農村社会の再編・再生への視点について展開する。

本講義では、農村社会学の基礎的理論の理解にはじまって、今日的な農村社会学の課題であるまちづくり・むらづくりへの実践的な取り組みを学生自らが考察し提案できるまでの内容としていきたい。

テキスト：

・講義資料プリントを配布します

参考書：

・講義中に適宜指示します

社会学特殊 III (4)

障害と社会、そして社会福祉

講 師 小 山 聡 子

授業科目の内容：

「障害福祉論」のカバーするトピックを通じて、自己を見つめ、社会のあり方を考えることが目的です。

そのために、「社会福祉」の意味や体系について概説した上で、障害者ソーシャルワークの具体的内容に触れます。これらを通じて「援助する人」と「される人」の関係や「個人を変える（治す）こと」を「社会環境に働きかけること」のバランスについて考えます。（障害者の中には高令による障害を持った方も含まれます）

テキスト：

・特に指定しません。講義資料、プリントを配布します。

社会学特殊 IV (4)

知識と文化創造の人類学

講 師 渡 邊 欣 雄

授業科目の内容：

本年度は文化人類学における2つのテーマを取り上げ、フィールドワークや理論研究に必要な方法論と視点について解説する。2つのテーマとは現地話者と研究者の「知識」の諸性質に関する理論であり、主として前期の講義で解説する。いま一つは「文化創造」の実態と研究の必要性に関してであり、主として後期の講義で解説する。具体例は主として沖縄だが、東アジアにも拡大して述べる予定である。

現地文化は個々人の知識から成り立つが、個々人には知識の違いがあり、知識間の関係のありかたを知って、研究者が「当地の文化」を理解している。当地の文化理解もまた、研究者の知識のフィルターいかにによる。文化創造は個々人による「仮構」としての知識の産物であり、個人的知識の独自性により創出されたものである。こうした個人研究による「文化」のダイナミズムを理解すること、これが本講義の最大の目的である。

テキスト：

・用いない。必要に応じて、プリント配布する。

参考書：

・渡邊欣雄著『民俗知識論の課題』、凱風社、1990年
・渡邊欣雄編『沖縄文化の創造』（アジア遊学 53号）、勉誠出版、2003年 ほか

社会学特殊 V (4)

アニメ・コミックス・ベストセラーに表現される現代社会の諸問題と伝統的叢智の再生および利用

講 師 正 木 晃

授業科目の内容：

この講義では宮崎アニメをはじめ、「エヴァンゲリオン」や「バガボンド」、あるいは「ハリー・ポッター」などアニメ・コミックス・ベストセラーを、現代社会を投影する鏡とみなし、そこに表現されたさまざまな問題を考えていきます。

その際、伝統的な叢智、とりわけ宗教こそ各種各様の知恵の集積の場であり、現代社会がかかえる諸問題を解決に導く可能性があるという視点にたち、現在進行形で展開しつつあるさまざまな危機的状況への対応策を模索します。

取り上げる問題は、閉じこもり（不登校）・精神障害・心身症・癒し・死生観・自然・エコロジー・魔法・科学・暴力・権力・カルト・狂信・ドラッグなどを予定しています。

テキスト：

・正木晃著『はじめての宗教学一風の谷のナウシカを読み解く』（春秋社、2001年、1800円）

参考書：

・正木晃著『魔法と猫と魔女の秘密』（春秋社、2003年、1800円）
・同『性と呪殺の密教』（講談社、2003年、1500円）

社会学特殊 VI (4)

演劇人類学

講 師 宮 尾 慈 良

授業科目の内容：

人類と演劇の関係を人類学の視点から考察をしてみる。ヨーロッパ演劇からではなく、アジアから演劇の本質を解明するために、インドのサンスクリット演劇における演劇理論書『Natyasastra』および舞踏理論書『Abhinayadarpana』を解説する。演劇における身体表現を中心にコスモロジーとして演劇をとらえなおしてみるには、学際的な研究が必要である。アジア各地で行ってきたフィールド調査における舞踏や演劇の行為をテキストと視聴覚教材をもとに講義する。

テキスト：

・宮尾慈良『演劇人類学』双溪書房

参考書：

・Bharara Muni『Natyasastra』, Nandikesvara『Abhinayadarpana』

- ・世阿弥『風姿花伝』『花鏡』、
- ・宮尾慈良『アジア舞踏の人類学』PARCO 出版、『アジア演劇の原風景』三一書房、
- ・アルト『演劇とその形而上学』白水社など。

社会学特殊 VII (4)
アメリカ社会学の構造 講 師 鈴 木 健 之

授業科目の内容：
〔前期〕戦後アメリカを代表する「社会学理論」を紹介する。
〔後期〕〈生老病死〉を社会学する、をテーマとして、戦後アメリカ社会の社会学的分析を試みたい。
テキスト：
・テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。
参考書：
・参考文献は適宜指示する。

社会学特殊 VIII (4)
家族の歴史人口学 講 師 岡 田 あおい

授業科目の内容：
本講義では、歴史人口学の視点、史料、分析方法などを紹介し、社会学との学際研究の可能性について論じ、徳川後期の農民家族に関する実証研究の成果を紹介しながら、当時の中下層を含めた農民は、家制度に組み込まれていたのかを実証していきたい。
テキスト：
・速水融著『江戸農民の暮らしと人生』麗澤大学出版会
参考書：
・速水融編著『近代移行期の人口と歴史』ミネルヴァ書房
・速水融編著『近代移行期の家族と歴史』ミネルヴァ書房
・速水融編『歴史人口学と家族史』藤原書店

社会学特殊 IX (4)
ニュースの社会学 講 師 李 光 鎬

授業科目の内容：
ニュースの生産過程と受容過程に焦点を当て、それぞれの過程にどのような要因が影響を与えているのかという問題を中心に講義を行う。春学期においては、「ニュースの社会学」といわれる研究分野の既存研究を検討しながら、社会的構造物としてのニュースについて考察する。秋学期においては、ニュースの受容過程や受容の結果として現れる効果について考える。
テキスト：
・特に指定しない
参考書：
・授業中に示す

社会学特殊 X (4)
広告論 講 師 水 野 由多加

授業科目の内容：
本科目では通年で現代の広告と広告が社会、人々に与える影響について理解を深めます。従来から広告は「企業の行なうマーケティングの一活動領域として送り手の計画」から理解するアプローチと「社会情報現象として受け手の影響」から理解するアプローチの2つがあるが、本科目ではこの2つのアプローチをともに考えたいと思います。
ベースとして社会学のほか、マーケティング論、経営学、社会心理学、文化人類学などの広範な知識を応用分野の広告は持ちますので継続的な出席と自ら考える姿勢を期待します。
テキスト：
・『統合広告論』（水野、ミネルヴァ書房、2004）
参考書：
・『現代広告論』（岸・田中・嶋村、有斐閣、2000）
・『広告効果論』（仁科、電通、2001）

社会学特殊 XI (4)
中国人のライフスタイルと消費意識 講 師 西園寺 一 晃

授業科目の内容：
現代中国人の思想・意識とライフスタイル、およびその変化について考えると同時に、それが実生活、消費行動の中でいかに具現されているかを考えます。これらを政治と経済、都市と農村、マスメディアと国民意識、消費者意識と購買行動、広告と消費革命、若者と流行、グローバル化と対日感情など諸問題を検討することにより、より実像に近付けるようにします。それは21世紀において、日本人が避けて通ることのできない中国人との交流、交渉、ビジネスなどに役立つにちがいないからです。
テキスト：
・必要に応じて講義資料を配布します。
参考書：
・未定

社会学特殊 XII (4)
休 講
比較文化論 (4) 教 授 鈴 木 正 崇

授業科目の内容：
南アジアのスリランカとインドの民族誌を提示しながら民族問題や人々の生き方について考える。事例研究が主体なので、極めてミクロな問題を通じて、普遍性に至る道筋を求める人に履修を勧める。映像資料などを適宜使用して多くの情報を与えるように工夫する。
参考書：
・鈴木正崇『スリランカの宗教と社会』（春秋社、1996）、『アジア読本スリランカ』（河出書房新社、1999）、『アジア読本インド』（河出書房新社、1998）

対人影響論 (4) 教 授 榊 博 文

対人的影響（インターパーソナル・コミュニケーション）だけでなく、社会的影響（集団・マスコミ・広告コミュニケーション）についても扱う。
授業科目の内容：
説得的コミュニケーションの効果に関する講義をおこなう。説得的コミュニケーションの効果に関する研究は独自の研究の系譜を持っており、その流れに基づいて授業をすすめていく。
まず、説得効果を規定する諸要因、具体的には、説得者の信憑性、類似性、魅力、フットインザドア・テクニック、ドアインザフェイス・テクニック、ローボール・テクニック、EAPH テクニック、恐怖説得、赤頭巾テクニック、プーメラン説得法、場所換え法、催眠オークションテクニック、限定性の原理、報恩性の限理、同調性の原理、強制的承諾法、役割演技法、心理療法（カウンセリング）の応用テクニック、サブリミナル知覚、その他の多くの説得・影響テクニック、及びこれらのテクニックの有効性を説明する諸理論を紹介する。またマスコミ効果、広告、宣伝、大衆操作などの問題も扱う。その過程で、従来の諸研究によって既に明らかにされている部分と、未だ解明されていない部分を十分理解する。その上で受講者自らが興味をもったトピックについて文献で調べ、問題点をレポートにまとめて年度末に提出する。毎回討議時間を設けるので、受講者は積極的に討議に参加することを期待する。
「説得」はあらゆる人々にとって必要不可欠であり、この講義が学問的知識の習得のためだけでなく、日常生活においても有用であることを確信している。
テキスト：
・榊 博文『説得と影響—交渉のための社会心理学』ブレーン出版。
・榊 博文他『日本列島カルト汚染—何故そこまで騙される？勧誘と説得の社会心理学—』ブレーン出版。

参考書：
・適時，提示する。

現代社会論 (4) 助教授 岡 原 正 幸

僕たち、「僕たち」なる集合的な呼称を使用することの政治性は問題にすべきだが、僕たちが生きている「場」についての「語り口」はいくつもあるだろう。

授業科目の内容：

【目的】「現代社会」を感情社会学的に記述・分析すること…①，およびこの作業（感情社会学という営み，感情社会学者というアイデンティティ構築）それ自体を再帰的に捉え返し，「ポストモダン」「ポストコロニアリズム」「フェミニズム」「主体の消失と復帰」「表象・代弁の危機」「構築主義」といった主題系の中で自己批判と自己超越をめざすこと…②，この二つを参加者に理解してもらうのが基本の目的ですが，同時に，この二つの相矛盾する姿をまさに僕自身が参加者に具象的に表現することで，終幕では「他の人について（社会）科学的に語る」事のクライシスを提起したいと思います。

【内容】春学期では，感情社会学概論（以下に掲載）を講義します。感情社会学の歴史，基本的視座や諸概念，社会的事象への感情社会学的な接近などをオーソドックスに講じます。秋学期では，参加者にも「感情的社会学」「実験的，自伝的，フィクション的，マルチメディア的」な自己フィールドワークとその表現を試みてもらいます。そのため初回授業より秋学期開始まで，各人に「感情日記」（毎月一回，各回 1000 字以上の日記を計 6 回）をつけてもらいます。また，「知」は論理的言語の集合体である以上に，ひとつの身体表現でもあること，このことに留意していきたいと思います。

テキスト：

- ・岡原・山田・安川・石川『感情の社会学 ― エモーション・コンシャスな時代』世界思想社
- ・岡原正幸『ホモ・アフェクトス ― 感情社会学的に自己表現する』世界思想社

参考書：

- ・安積・岡原・尾中・立岩『生の技法』藤原書店
- ・S. ネッケル（岡原訳）『地位と羞恥 ― 社会的不平等の象徴の再生産』法政大学出版局
- ・Ellis/Bochner(ed) Composing Ethnography: Alternative Forms of Qualitative Writing. Altamira
- ・A. ホックシールド（石川訳）『管理される心 ― 感情が商品になるとき』世界思想社

知識社会学 (4) 記憶と歴史の社会学 教 授 浜 日出夫

授業科目の内容：

人間にとって過去とはなんであるのか，社会にとって歴史とはなんであるのか，人間と時間のかかわり，社会と歴史のかかわりについて社会学的に考察する。春学期は人間と時間の関係について理論的に考察する。秋学期は博物館の展示などを題材として，社会と歴史のかかわりについて具体的に検討する。

テキスト：

なし

参考書：

- ・講義時間内に紹介する。

医療社会論 (4) 現代社会と医療 助教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

今日，先端医療技術は，バイオテクノロジーや情報処理技術の発達に支えられ，飛躍的な発展を遂げている。しかし同時に，生命の誕生や死をめぐる問題を含め，従来の社会通念からは予測できない多くの難問が引き起こされている。また，先進諸国での高齢化問題は，

「医療資源の運用と配分」とも絡んで深刻さを増している。講義では，こうした現代医療に関わる様々な問題を取り上げ検討する。また，秋学期には，各々の問題関心にに基づくグループ・ワーク，研究発表を行う。受講者は，以上の講義形式を了承のうえ受講すること。

テキスト：

- ・講義資料・プリントを配布する。

参考書：

- ・岩波講座 現代社会学 14『病と医療の社会学』岩波書店 1996 年
- ・進藤・黒田編『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社 1999 年
- ・加藤・加茂編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社 1998 年

社会学特講 I（秋学期）(2) データ分析の概要と実践 講 師 荒 和 志

授業科目の内容：

調査や実験などの観測データをグラフ化し，データがもつ傾向や性質を，ある程度まで把握することができる。さらに，統計解析の理論にもとづいたデータ処理をおこなうことによって，探索的に傾向を理解し，確率的に結果の解釈や予測を導くことができる。ここでは，主に統計解析専用ソフトウェア SPSS を使ったコンピュータ実習を通じて，体験的に統計解析の基本を学習すると共に，各専門分野で SPSS を用いた統計解析手法を充分活用でき，処理結果に対して正しい評価ができるような応用力を養うことを目標としている。

講義では，データの整理，ファイルの取り扱い，度数分布表（調査データ集計），基礎統計量（平均値，分散値，標準偏差など），各種グラフの作成，t 検定，カイ二乗検定，相関係数とその検定，分散分析など，および多変量解析（因子分析，重回帰分析，主成分分析，数量化理論 1，2，3，4 類，判別分析）など具体的にデータを使用し紹介する。また，表計算ソフトの EXCEL 統計に関しても，その特徴や使用方法を含めて紹介する。

テキスト：

- ・講義資料は共有ディレクトリよりダウンロードできます。

社会学特講 II（春学期）(2) 民族音楽学 講 師 勝 村 仁 子

授業科目の内容：

昨年度に引き続き，豊かな発音体として人間が発する「こえ」「ことば」「うた」が，音楽環境の生成にどのようにかわるものであるか，様々な事例をとりあげて検討する。なお，導入として，最初の数回の講義で「民族音楽学」について概説を行なう。「言語を持たない民族がないように音楽をもたない民族はない」と言われるほど，音楽は人間の文化にとって本質的なものであるが，そうした音楽を，文化の違いを越えた視点から考える機会を提供することを目的とする。

テキスト：

- ・使用しない

参考書：

- ・授業中に紹介する

社会学特講 III（春学期）(2) 民俗学の認識方法と理論 講 師 岩 田 重 則

授業科目の内容：

柳田国男・折口信夫・渋沢敬三・早川孝太郎・宮本常一・岡正雄・石田英一郎など，日本の代表的民俗学者・人類学者をとりあげ，順次，それらの学問における研究対象に対する認識方法と分析のための方法論を検討する。

テキスト：

- ・授業中指示する。

参考書：

- ・授業中指示する。

社会学特講Ⅳ（春学期）(2)

現代アフリカ世界への人類学的アプローチ

講 師 坂 本 邦 彦

授業科目の内容：

文化人類学・社会人類学の研究のなかで蓄積されてきた民族誌のなかから主にアフリカをフィールドとするものを取りあげ、文化のコンテクストにそってさまざまなものの考え方を理解していくとはどういうことかを考えていく。これを通じて、多角的様相を呈している現代世界を読み解くための人類学的発想法に触れていきたい。

講義の中心はアフリカに関係することになるが、アフリカに限らずどこかでフィールドワークをやってみたいと考えている学生の受講を期待する。視聴覚資料をできるだけ使用していく予定である。

テキスト：

・使用せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

- ・川田順造編著『アフリカ入門』（新書館、1999年、2400円）
- ・宮本正興編著『新書アフリカ史』（講談社、1997年、1400円）

社会学特講Ⅴ（秋学期）(2)

民族音楽

講 師 山 本 広 子

授業科目の内容：

世界のさまざまな地域・民族の音楽から、社会と文化の相互関係を学ぶ。

テキスト：

・プリントを配布

参考書：

- ・山本宏子『日本の太鼓、アジアの太鼓』（青弓社2002、1600円）

社会学特講Ⅵ（2）

現代韓国宗教事情

講 師 佐 々 充 昭

授業科目の内容：

本講義は、宗教社会学や宗教人類学の基本的理論や考え方をもとに、現代韓国で展開されている多様な宗教運動について考察することを目的とする。現在、韓国では、巫俗（シャーマニズム）などの土着的伝統信仰が根強く残っている一方で、キリスト教・仏教・儒教などの既成宗教や、20世紀初頭に登場した民衆の新宗教、さらに、最近では、インターネットを駆使した「ニューエイジ」的運動団体が急速な勢いで台頭しつつある。本講義では、このように世界でも類い希な多宗教の混淆の共存状態にある現代韓国の宗教事情を読み解きながら、「宗教」というものの本質的理解を深めていく。その際、類似した伝統文化を保持しながらも、相互に異なる発展様相を見せている日本や中国の宗教文化との比較を通じて、広くアジア的霊性（スピリチュアリティ）の本質に迫ってみたい。

テキスト：

・講義時に、適宜資料プリントを配付します。

社会学特講Ⅶ（秋学期）(2)

家族・親族研究の基礎

講 師 吉 野 晃

授業科目の内容：

この授業は、文化人類学における家族・親族研究の基礎的な知識と見方を習得することを目的とし、そのための講義とトレーニングを行う。もう少し具体的にいえば、文化人類学の専門論文の、少なくとも家族・親族組織に関する部分は十分に理解できるレベルの能力を受講生各自が身につけることを目的とする。そのためには、講義のほかに専門論文の講読と具体的な民族誌の分析が不可欠であり、それを授業を通じて行ってゆく。

産業化が進んだ社会でも、家族や親族といった関係は民俗社会の社会組織の骨格となっている。人間が出生後に文化を学習するのは、まず家族・親族の中においてである。文化の身体化の現場は、そのような集団や組織である。いわば家族・親族といった民俗社会の組

織は文化習得の鋳型であるが、この鋳型自体が文化の産物でもあるため、常に変化する。さらに、こうした組織は地域によって大幅な多様性を示している。本講義では、この厄介な、人類の多様な家族・親族組織を分析するための基本的な概念と調査・分析・研究の方法を説明する。一般に、家族とか親族組織といった話題は、難しそうな漢字用語やカタカナ用語が頻出し、且つ〇や△の親族関係図が複雑そうで、取っつきにくい印象があるようだが、そのようなことはない。順を追って理解してゆけば、非常に分かりやすい分野でもある。

講義のほかに、課題論文を予め読んで、要旨や疑問点を書いたペーパーを提出して貰い、そのペーパーに基づく解説やディスカッションも併せて行う。社会組織についての知識・視点・分析のトレーニングを行うとともに、専門論文の読み方と、論文・レポートの書き方のトレーニングも兼ねる。受講生の学習歴や研究関心の在り方などを最初に聴取し、それに合わせて課題を設定して、無理なく課題をこなせるように工夫してゆくつもりである。

テキスト：

・特に指定無し。授業中にプリントを配布する。

参考書：

- ・原ひろ子（編）『家族の文化誌：さまざまなカタチと変化』弘文堂
 - ・綾部恒雄（編）『女の文化人類学』弘文堂
 - ・綾部恒雄（編）『女の民族誌 1：アジア篇』弘文堂
 - ・綾部恒雄（編）『女の民族誌 2：欧・米・中東・アフリカ・オセアニア篇』弘文堂
 - ・フォックス、R.『親族と婚姻：社会人類学入門』思泉社
 - ・前田成文『東南アジアの組織原理』勁草書房
 - ・村武精一『家族の社会人類学』弘文堂
 - ・伊藤重人ほか（編）『現代の社会人類学 1：親族と社会の構造』東京大学出版会
 - ・清水昭俊『家・身体・社会：家族の社会人類学』弘文堂
 - ・清水昭俊（編）『家族の自然と文化』弘文堂
 - ・福井勝義（編）『近所づきあいの風景：つながりを再考する』昭和堂
 - ・吉原一男・鈴木正崇・末成道男（編）『血縁』の再構築：東アジアにおける父系出自と同姓結合』風響社
 - ・レヴィ＝ストロース、C.『親族の基本構造』青弓社
- この他多数。おって授業中に指示する。

選 択 科 目

（社会学専攻設置）

社会学研究会Ⅰ（3年）(2)

教 授 青 池 慎 一

授業科目の内容：

本研究会（ゼミナール）は、インターパーソナル・コミュニケーション、マス・コミュニケーション、イノベーションの普及などのコミュニケーション過程について、理論および経験的レベルの両面において研究を行っていく。

3年生は、まず基礎的な研究に重点が置かれるが、順次、より高度な、より専門的な領域における研究活動を行っていく。

テキスト：

・入ゼミ者に対して適宜示します。

参考書：

・入ゼミ者に対して適宜示します。

社会学研究会Ⅱ（4年）(2)

教 授 青 池 慎 一

授業科目の内容：

本研究会（ゼミナール）における4年生は、3年次における研究活動の成果をふまえ、より専門的研究をすすめ卒業論文を完成させる。

テキスト：

・ゼミナール4年生適宜示します。

参考書：

- ・ゼミナール4年生適宜示します。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2) 教授 平野 敏 政

授業科目の内容：

家族および家の理論の理解を深め、わが国における現代社会の諸問題を家族、および家の視点から分析、考察することを中心的テーマとする。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2) 講 師 李 光 鎬

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2) 教授 鈴木 正 崇

授業科目の内容：

文化人類学と民俗学のゼミで、専門書の講読及び論文作成の指導を行います。

社会学研究会 I (3 年) (2)

教授 野村 伸 一

授業科目の内容：

東アジアの地域研究をめざします。主として民俗文化を考えつつ、日本の周辺に自分の思考の拠点を構築することが望めます。日本を中心としたままで「日本との比較」という座標軸を立てるだけでは視点の限界があります。東アジアという枠組のなかで、「日本を比較の素材」として考える思考こそが求められているといえるでしょう。そのためには現地の言語文化のなかにみずから飛び込む気概が必要です。

ただし、東アジアの文化研究は、従来、朝鮮、琉球、台湾、中国の各地というように縦割りの領域を設定し、他との関連をあまり考慮せずにきた傾向があります。こうした傾向は問題意識の設定の仕方によって変更しうるものです。民俗文化あるいは民衆文化などの枠組のなかでは、互いに関連が生じざるをえないので、視野は必然的に広がるはずですが、どこに拠点を置くかは最終的には個人の作業ですが、大海への船出に当たっての羅針盤作りは共同作業のほうが効果的です。この研究会はそのような場となるはずです。

社会学研究会 II (4 年) (2)

教授 野村 伸 一

授業科目の内容：

卒業論文に向けた個々人の研究発表、報告を中心にします。二週間に一度ほどの発表となります。

同時に論文の章立て、体裁について討議します。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2)

死と追悼の社会学

教授 浜 日出夫

授業科目の内容：

- (1) 共通テーマ
今年度の共通テーマは「死と追悼」である。
- (2) サブゼミ
3～4のサブゼミを設け、共同研究を行なう。
- (3) 個人研究
自分のテーマについて各自研究を行ない、3年生はゼミ論文(12000字以上)、4年生は卒業論文(40000字以上)を作成する。

テキスト：

- ・開講時に指示する。

参考書：

- ・講義時間内に紹介する。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2) 教授 藤田 弘 夫

授業科目の内容：

古本の町として有名な神田神保町とイギリスのヘイ・オン・ワイの比較研究を行います。

今年度の研究会の進め方については、すでに詳しく説明しておりますので、ここでは繰り返し説明いたしません。出席者は研究会IとIIの両方を登録してください。一方は必修、もう一方は自由科目です。

テキスト：

- ・藤田弘夫『都市と文明の比較社会学—環境・リスク・公共性—』(東京大学出版会2003)

参考書：

- ・R. ブース (東訳)『本の国の王様』創元社2001年
- ・川成洋編『世界の古書店』丸善ライブラリー1994年他

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2)

K-Bros.

助教授 榎尾 直 樹

授業科目の内容：

本研究会は文化人類学や宗教社会学をベースとしたスピリチュアリティの社会科学の領域で研究を行う。ここでいう〈スピリチュアリティ〉とは、「自分を越えた何ものかとつながっている感覚、あるいはその何ものかが自分の中で働いている感覚」を意味する。現代社会の共同性のあり方をいっしょに考え、実践しよう。

テキスト：

- ・榎尾直樹他編『スピリチュアリティの社会学』せりか書房、2002年
- ・その他は授業の中で適宜指示する。

参考書：

- ・授業の中で適宜指示する。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2)

《アート》と《社会学》

助教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

〈team Oka〉による実験的社会プロジェクトあるいは社会彫刻の実践です。ゼミの WEB, <http://oka.web.infoseek.co.jp> を参考にしてください。

社会学研究会 I (3 年) (2)

社会学研究会 II (4 年) (2)

現代社会と〈心的外傷〉

助教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

現代社会は、心理的・社会的なストレス要因にあふれている。これらの中には深刻な心的障害を引き起こすケースも少なくない。このように、現代人が日常生活の中で避けることのできない〈こころ〉の問題を取り上げ、多角的に検討することがこの研究会の中心テーマである。

秋学期以降は、受講者の研究テーマ別にグループ・ワークを行い、更に卒業論文の完成をめざして指導する。

受講者には明確な問題意識と共に、自らの研究テーマに主体的に取り組む姿勢が望まれる。

社会学研究会 I (3 年) (2)

教育社会学研究

教職課程センター 助教授 竹 村 英 樹

授業科目の内容：

3 年生の研究会は、教育に関する社会学的研究を行なう。まずは、文献研究を中心に進めるが、各自が関心ある研究テーマを見つけ、フィールドを持ち、4 年時の卒業論文執筆に向けてスタートができるように、支援していきたい。理論的研究と経験的研究をバランスよく取り上げ、教室だけの勉強にとどまらず、各種の見学・観察を取り入れ、進めていきたい。また、共同研究を課し、三田際で発表する。三田際終了後は、社会学の古典を講読する。

テキスト：

・別途指示します。

参考書：

・別途指示します。

社会学研究会 II (4 年) (2)

卒業論文指導

教職課程センター 助教授 竹 村 英 樹

授業科目の内容：

12 月までに最低 4 回の発表を行なう。

原典講読 (英) (2)

講 師 仙 田 幸 子

授業科目の内容：

本講義では英語で書かれた社会心理学の初歩的な入門書を講読する。学術論文を英語で読む能力の養成と社会心理学のエッセンスの理解を目的とする。

テキスト：

・初回の授業で提示する。

参考書：

・社会心理学小辞典 (古畑和孝, 岡隆編, 有斐閣, 2002),
・社会心理学用語辞典 (吉森護ほか編集, 北大路書房, 1995) など

原典講読 (英) (2)

社会調査とイギリス社会学

講 師 松 尾 浩一郎

授業科目の内容：

社会調査論・社会調査史・社会学史をテーマとした文献を講読します。英語の社会学論文を読みこなす力を高めることが主たる目的ですが、単なる英文解釈だけではなく、むしろ議論の内容を理解し批判的に検討するところまでをも含めて「読む」ことを重視するつもりです。イギリスにおける社会調査・社会学の多様な系譜を跡付けることを通じて、さまざまに交錯する「社会学的まなざし」についての理解を深めていきたいと思います。

テキスト：

・Martin Bulmer, *Essays on the History of British Sociological Research* (Cambridge University Press, 1985)

参考書：

・G. イーストホープ『社会調査方法史』(慶應義塾大学出版会, 1982 年)

原典講読 (独) (2)

ドイツ語圏におけるフェミニズム理論・感情社会学

助教授 岡 原 正 幸

授業科目の内容：

【目的】社会学およびその周辺領域に関するドイツ語文献の読解を通じて、学術的内容の理解と、ドイツ語読解力の上達を目指したいと思います。

【内容】フェミニズム・ジェンダー理論の現代的な展開を学説的に紹介した文献①、あるいは感情社会学の文献②を、読み進めたい

と思います。

テキスト：

- ① Regina Bechker-Schmidt/Gudrun-Axeli Knapp
Feministische Theorien zur Einführung. Junius Verlag 2001
- ② Helena Flam
Soziologie der Emotionen. UTB 2003

洋書講読 (英) (2)

助教授 長 尾 真 理

授業科目の内容：

英語の学術文献を直接読み解くことによって、英文の読解力向上と、的確な論旨の把握をめざす。講義では、あらかじめ割り当てられた担当部分を訳出・要約する。テキスト等については、初回の講義で指示する。

洋書講読 (仏) (2)

バリ・モザイク

助教授 榎 尾 直 樹

授業科目の内容：

本授業は、社会学、人類学に関するフランス語文献の講読を通して、1 フランス語文献の読解の能力の向上、2 フランス語圏の社会学・人類学に関する基本的知識の獲得、3 フランス語圏の社会学・人類学の近年の動向に関する情報の獲得、の 3 点を目的としている。

テキスト：

・Michel Pincon & Monique Pincon-Charlot, «Paris Mosaïque», Caimann-Levy, 2001

参考書：

・授業の中で適宜指示する

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

○心理学専攻

必修科目

心理学史（春学期）(2) 教授 渡 辺 茂

授業科目の内容：

心理学には長い過去と短い歴史がある、というのが心理学史の講義の枕の定番であるが、僕に可能な範囲で過去についても言及したい。とはいっても、やはり実験心理学の成立を中心に 1960 年くらいまでの心理学の歴史を勉強することになろう。出来る限り原典の一部を読んで一次資料から歴史を考えてみたい。実験科学としての心理学の勉強と歴史科学としての心理学史の勉強は大変異質なもので、僕自身歴史科学の正規教育を受けていないが、これまた僕のできる範囲で単なる学説の変遷ではなく、歴史科学としての心理学史の授業を目指してみたい。

参考書：

・授業の最初に一覧表を渡します。

心理測定論（春学期）(2)

心の定量化の方法を知る

法学部 教授 鈴木 恒 男

授業科目の内容：

心理学で開発された心の働きを定量的に取られる方法について説明する。その方法は、心の働きを単一の次元として考えて定量化する精神物理的方法、信号検出理論と尺度構成法、多次元の心の働きの裏側にある基本的要素を抽出する統計学的方法である因子分析、及びその方法を使用した心理学で多く使用されている SD 法を主に説明する。

参考書：

・授業で随時紹介する

心理学概論 (4)

休 講

心理統計 (4) 助手 大 森 貴 秀

授業科目の内容：

心理学実験や調査に最低限必要と考えられる統計学の論理、技法を習得することを目標とします。春学期は記述統計、秋学期は推測統計を中心に授業を進めていく予定です。

テキスト：

・山内光哉 1998 心理・教育のための統計法〈第 2 版〉、サイエンス社 2500 円

参考書：

・授業内で随時紹介します。

知覚心理学 I (4)

知覚心理学の基礎

教授 増 田 直 衛

授業科目の内容：

知覚心理学における基本的な概念、方法論、事実を紹介しながら、心理学としての知覚研究を理解することにある。

供覧実験や、AV 機器をできるだけ多く用いて、知覚心理学における具体的な事実を体験しながら理解を得られるようにしたい。

参考書：

・その都度紹介するが、一般的に参考になるものを以下にあげる。
・大山 正（編）「講座心理学 4 知覚」東京大学出版会
・柿崎祐一・牧野達郎（編）「心理学 1 知覚・認知」有斐閣
・松田隆夫（著）「知覚心理学の基礎」培風館

行動分析学 I (4)

行動の科学的制御とは

教授 坂 上 貴 之

授業科目の内容：

行動分析学 (behavior analysis) の方法論的特徴と概念的枠組み、および実験的行動分析によって明らかにされた実験的事実とそれをめぐる最近の理論的展望を中心に講義を行う。

テキスト：

・メイザー（著）磯ら（訳）「メイザーの学習と行動 日本語第 2 版」二瓶社

参考書：

・広田ら（著）「心理学が描くリスクの世界 — 行動的意志決定入門 —」慶應義塾大学出版会。
・佐藤（著）「行動理論への招待」大修館書店
・レイノルズ（著）浅野（訳）「オペラント心理学入門」サイエンス社
・小川（監）「行動心理ハンドブック」培風館
・スキナー（著）岩本（監訳）「人間と社会の省察」勁草書房

認知心理学 I (4)

助手 梅 田 聡

授業科目の内容：

本講義では、人間の記憶、学習、注意、推論、問題解決、感情、言語、加齢、認知発達、およびそれらの神経基盤などに焦点を当てながら、現在までに得られた知見をやや専門的な視点から概観する。

1 年間の講義を通して、認知的なものの見方、タスクデザイン方法、モデル論、構造と機能の関係性などについて詳しく解説する。

生物心理学 I (4) (春学期) 教授 渡 辺 茂 (秋学期) 教授 小 嶋 祥 三

〔春学期〕

授業科目の内容：

生物心理学では心を 1) 神経系の機能として、2) 進化の産物として、捉えます。そのため最初の何時間かは神経科学の基礎を学びます。その後、前期は主として動物に関する講義を行います。このなかで、聴覚に関することがらと運動系に関することがらは後期に学ぶこととして前記ではほとんど取り上げません。

参考書：

・Carlson “Physiology of Behavior”
・Rosenzweig et al. “Biological Psychology”
・渡辺茂「ヒト型脳とトリ型脳」

〔秋学期〕

授業科目の内容：

秋学期には、ヒトの脳の研究が中心になる。機能脳画像や脳損傷の研究を通して、認知機能と脳との関係を理解することを目指す。

テキスト：

・特になし。

参考書：

・Gazzaniga et al., Cognitive Neuroscience(Second edition), W. W. Norton, 2002

発達心理学 I (4)

発達科学の基礎と臨床

教授 山 本 淳 一

授業科目の内容：

(1) 発達心理学と発達臨床についての広範囲の知識を得ることを目的とする。まず、「理論」および、それを支えている「事実（実験、観察、事例）」を理解していく。
(2) ヒトの心的機能の発達を生み出している要因を、「環境と個体の相互作用」という観点から詳細に検討する。知覚、運動、音声、言語、認知的、社会的行動、動機づけ、情動、などの発達を分析していく。そのことで、発達科学 (developmental science)

という領域への展開を探っていく。

- (3) 発達過程の中で子どもたちがもつ様々な問題に対して、その原因を「環境と個体の相互作用」という観点から考究する。発達臨床の現場での事例を詳細に分析していくことで、具体的な支援方法を検討していく。

テキスト：

・バッターワース, G. & ハリス, M. 「発達心理学の基本を学ぶ」 ミネルヴァ書房

参考書：

・「発達心理学辞典」 ミネルヴァ書房

原典講読 (2)	助 手 大 森 貴 秀
----------	-------------

授業科目の内容：

英語文献を精読することで、心理学の学習・研究に必要な用語・表現の知識や論旨の理解能力の獲得を目指します。

前半は専門書、後半は雑誌論文の講読を中心に進める予定です。

テキスト：

・初回の授業で指定します。

参考書：

・特になし

心理学実験 (4)	教 授 山 本 淳 一
	助 手 大 森 貴 秀
	助 手 梅 田 聡
	講 師 増 田 早哉子
	講 師 石 井 拓

授業科目の内容：

心理学の基礎的実験法と実験心理学で研究された基礎的事実についての実験実習を行う。この授業は実験心理学の根幹をなし、且つ卒業実験を行うために必須の知識・技術の習得を計るものであるから、受講者はそれなりの覚悟を持って授業に臨みたい。心理学専攻の学生以外は履修できない。

心理学研究会 I (2) (3 年生)	教 授 渡 辺 茂
---------------------	-----------

授業科目の内容：

実験データの分析を通じて、1) 文献検索、2) 研究目的 3) 実験計画、2) 実験技法、4) データ解析、4) 論文のまとめ方を学ぶ。

授業の計画：

実験室で得られる実際のデータにもとづいて討議をすることで授業を行う。

心理学研究会 I (2) (3 年生)	知覚の心理学	教 授 増 田 直 衛
---------------------	--------	-------------

授業科目の内容：

知覚心理学研究における基本的考え方を身につけることを目的とする。

参考書：

・柿崎祐一「心理学的知覚論序説」培風館
・Goldstein, E. B. *Sensation and Perception*. Brooks/Cole Publishing Company
・Fineman, M. *The Inquisitive Eye*. Oxford University Press.

心理学研究会 I (2) (3 年生)	教 授 坂 上 貴 之
---------------------	-------------

3 年生

授業科目の内容：

実験的行動分析を中心とした論文の発表と、それについての議論を中心に展開する。この授業を受講する者は、心理学研究会Ⅱを続けて受講することが求められる。

テキスト：

・Pear, J. J. (2001). *The science of learning*. Phyladelphia, PA:

Psychology Press.

参考書：

・Catania, A. C., & Himeline, P. H. (Eds.) (1996). *Variations and selection: An anthology of reviews*. Bloomington, IN: SEAB.

心理学研究会 I (2) (3 年生)	教 授 小 嶋 祥 三
---------------------	-------------

授業科目の内容：

ヒトを対象とした認知神経科学の基礎を作ることを目指す。また、近赤外分光法 (NIRS, 光トポグラフィ), 事象関連電位 (ERP) の測定法を習得し、非侵襲的な脳機能計測の予備的な研究をおこなう。

テキスト：

・Gazzaniga et al., *Cognitive Neuroscience* (Second edition), W. W. Norton, 2002.

参考書：

・ボズナー・レイクル, 脳を観る, 日経サイエンス社, 1997。

心理学研究会 I (2) (3 年生)	発達心理学の研究	教 授 山 本 淳 一
---------------------	----------	-------------

授業科目の内容：

- (1) 発達心理学に関する広い範囲での基礎知識を得るために、まず日本語で書かれたテキストを読み、発表し、討議する。その際、特に学術的なレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学んでいく。
- (2) 実験的手法を用いた発達研究、および発達 (障害) 臨床研究の英語論文を読み、自らの研究に生かせるように、それぞれの研究のレビュー、手続、結果の解析方法、を詳細に検討していく。
- (3) 実際に、子どもたちの発達評価の実習を行う。また、子どもたちを対象にした実験を計画、実施し、その成果を発表し、検討する。

テキスト：

・資料を配布します。

参考書：

・資料を配布します。

心理学研究会 I (2) (3 年生)	助 手 梅 田 聡
---------------------	-----------

授業科目の内容：

卒業論文に向けて、研究テーマを特定し、関連論文の精読、およびそれに関する討議を行う。「心理学研究会Ⅱ」とともに履修されたい。

心理学研究会 II (2) (4 年生)	教 授 渡 辺 茂
----------------------	-----------

授業科目の内容：

前期は Carew “Behavioral Neurobiology” の講読、後期は雑誌論文の講読を行う

テキスト：

・Carew “Behavioral Neurobiology”

心理学研究会 II (2) (4 年生)	知覚の心理学	教 授 増 田 直 衛
----------------------	--------	-------------

授業科目の内容：

受講生の卒論テーマを中心とした研究論文を精読し、知覚心理学研究としての問題の所在を確かめる。

心理学研究会 II (2) (4 年生)	教 授 坂 上 貴 之
----------------------	-------------

4 年生

授業科目の内容：

卒業論文の完成を目指し、関連する論文の発表、ならびに研究経過の報告をする。この授業を受講する者は、心理学研究会Ⅰと続けて受講することが求められる。

心理研究会 II (2) (4 年生) 教 授 小 嶋 祥 三

授業科目の内容：

論文などの講読、実験計画の検討により、卒業論文の実験を準備し、実施する。そして、卒業論文を取りまとめる。

テキスト：

・Gazzaniga et al., Cognitive Neuroscience (Second edition), W. W. Norton, 2002.

参考書：

・特になし。

心理学研究会 II (2) (4 年生)

発達心理学の研究

教 授 山 本 淳 一

授業科目の内容：

発達心理学の卒業論文作成のための研究のデザイン発表、中間報告を行い、討議する。また、テーマに関連する論文をレビューし、研究テーマに関する最新の研究動向の発表も行う。

テキスト：

・資料を配布します。

参考書：

・資料を配布します。

心理学研究会 II (2) (4 年生)

助 手 梅 田 聡

授業科目の内容：

卒業論文の実験データをもとに討議を行う。「心理学研究会 I」とともに履修されたい。

選 択 科 目

(心理学専攻設置)

知覚心理学 II (春学期) (2)

講 師 境 敦 史

授業科目の内容：

20 世紀を代表する二人の知覚心理学者、J. J. ギブソンと H. ヘルソンの理論について、その哲学的・歴史的背景にふれながら解説する。

参考書：

・境 敦史・曾我重司・小松英海著『ギブソン心理学の核心』（勁草書房）

発達心理学 II (春学期) (2)

ことばとコミュニケーションの発達

講 師 小 林 春 美

授業科目の内容：

子どもはどのように他者とのコミュニケーション能力を獲得し、言語を獲得するのか。胎児期から児童期に至るまでのコミュニケーションと言語の発達について検討する。近年の胎児および乳幼児研究の進展により、幼い子どもたちが予想外に高い認知能力を持つことが明らかとなってきた。一方、子どもたちを取り巻く養育者を含む環境がきわめて豊かであることも見だされている。本講義では子どもの音声、身ぶり、ことばがどのように立ち上がってくるのか、子どもは周囲の人々の意図をどのように推測でき、適切に行動できるようになるのかについて、現在の知見を述べる。

テキスト：

・「子どもたちの言語獲得」小林春美・佐々木正人編著 大修館書店

参考書：

・「言語発達とその支援」岩立志津夫・小椋たみ子編著 ミネルヴァ書房

行動分析学 II (秋学期) (2)

教育問題を中心に

講 師 中 野 良 顕

授業科目の内容：

〔目的〕応用行動分析の理論と実際を、実験行動分析と理論行動分析との対比において、学習する。

〔内容〕応用領域の中から教育を取り上げ、問題の分析と有効な対策の設計の仕方を探究する。

テキスト：

・手製プリント

参考書：

- ① 中野良顕 (1989) 行動療法 (伊藤隆二編『心理治療法ハンドブック』福村出版, 635-716 頁)。
- ② メイザー／磯ほか訳 (1996), 『メイザーの学習と行動』二瓶社。
- ③ スキナー／河合ほか訳 (2003) 『科学と人間行動』二瓶社。

認知心理学 II (秋学期) (2)

自伝的記憶と感情

講 師 高 橋 雅 延

授業科目の内容：

この授業では、自己に関する過去の出来事の記憶、すなわち自伝的記憶の最新の知見について学ぶために、感情による記憶のゆがみを取りあげる。その際、記憶心理学の枠組みだけにとらわれることなく、臨床心理学、神経心理学、発達心理学、法心理学などの知見を積極的にとりあげる。この授業を履修することにより、自伝的記憶とその方法論についての理解が深まるはずである。

授業は毎時間配布するプリントに基づいた講義形式であるが、各自の講義の理解度を把握するために、毎時間の終わりに 10 分間のクイズを行う。また、授業時間外の学習として、適宜、紹介する参考文献による自学自習を含む。授業の最終回には、授業内試験を行う（詳細は授業第 1 回目のオリエンテーション時に指示する）。

参考書：

・太田信夫・多鹿秀継（編）2000 記憶研究の最前線 北大路書房

生物心理学 II (秋学期) (2)

脳と心と行動

講 師 中 村 克 樹

授業科目の内容：

脳がどのように感覚、運動、記憶といった機能を実現しているのかを、神経科学の立場から解説する。

参考書：

・新脳の探検（ブルーバックス、近刊）、Principles of Neural Science 4th ed. Kandel et. al Elsevier

心理学特殊 I (秋学期) (2)

色彩心理学；色とは何か、その働きは

法学部 教 授 鈴 木 恒 男

授業科目の内容：

色とは何か、非常に身近で、これほど答えに難いテーマはない。この色に関する、問題を歴史的な考え方の変遷、現在の問題を、生理学、心理学、測色学から扱うが、主に心理学的な立場で解説する。その色彩心理学の問題を、感覚、知覚、認知の問題として解説し、更に色の効用までも論じる。

テキスト：

・使用しない

参考書：

心理学特殊 II (秋学期) (2)

助 手 大 森 貴 秀

授業科目の内容：

心理測定論に続き、質問紙による測定方法を習得することを目指します。質問紙の作成の仕方から、実施方法、データの分析と解釈の仕方まで、実習を中心として学んでもらいます。

テキスト：

・特になし

参考書：

・授業内で随時紹介します。

心理学特殊 (4)

行動薬理学（こころとくすり） 講 師 高 田 孝 二

授業科目の内容：

行動薬理学は、薬物の作用機序をヒトや動物の行動を通して捉えようとする一方、薬物効果を通して脳の機能（こころのはたらき）を探る学問領域です。こころのはたらきに影響を与える物質（向精神物質）は治療薬として広く用いられているほか、酒などの嗜好品を介して日常的に摂取され、また乱用など社会問題を生じるものもあります。さらに、われわれは向精神物質を含め、毎日様々な化学物質にさらされており、これら化学物質が生体機能に様々な影響を与えることや、母体を介して次世代の機能にも影響しうることが知られています。本講義ではこれらについて、最新の知見を含め、解説します。

数理心理学（秋学期）(2)

心理現象の数理解析

環境情報学部 教 授 渡 辺 利 夫

授業科目の内容：

数理心理学は、数理モデルを構成することによって、心理現象を解明しようとする分野である。本講義では、学習、記憶、性格、知覚の分野をもとに数理モデルがどのように構成され、そして数理モデル構成によってどのようなことがわかってくるのかについて考えてゆく。

テキスト：

なし

参考書：

なし

クリニカルワーク概説 (4)

思春期の心理と学校臨床心理学 助教授 伊 藤 美奈子

授業科目の内容：

前期：青年期の入り口に当たる思春期の心理的発達に焦点づけながら、生涯発達における青年期（思春期）の意味とその精神病理について講義する。

後期：近年、ますます複雑化・深刻化する子どもの心の問題。学校現場では、そういう問題行動をどのようにとらえ、対処しているのだろうか。スクールカウンセラー制度についても紹介しながら「学校」における教育臨床の現状と課題について考えていきたい。講義に加えて、教育問題についてのディスカッションも行いたい。

テキスト：

・伊藤美奈子著『思春期の心さがしと学びの現場』（北樹出版、2000年、1600円）

参考書：

・授業の中で、適宜、紹介します。

パーソナリティ理論概説 (4)

主要人格理論の比較検討と最新の人格研究の動向について

講 師 鈴 木 乙 史

授業科目の内容：

現代の主要な心理療法の前提である人格理論（精神分析・行動主義・現象学・システム論）について概説し、比較検討する。同時に、受講生は人格発達についての比較文化的研究の成果と、心身相関現象を前提とした人格と適応（健康）の問題についても学ぶことになる。

テキスト：

・鈴木乙史「性格形成と変化の心理学」ブレーン出版

参考書：

・授業中に適宜紹介する。

認知臨床心理学 (4)

休 講

発達臨床心理学 (4)

休 講

言語障害臨床 (4)

高次脳機能障害とその発現機序について

講 師 武 田 克 彦

授業科目の内容：

失語症からみた言語の神経科学について解説します。

失語研究の歴史、失語の分類、失語からみた言語の脳内機構、失語症状の実際認知神経学的アプローチ、読字と書字、失語に対する言語治療などを理解できるようにします。

言語以外の高次脳機能障害（先行、視知覚障害、記憶など）についても学びます。

テキスト：

・講義資料プリントを配布

参考書：

・武田克彦 ベッドサイドの神経心理学，中外医学社。

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

授業科目の内容：

本講義の目的とするところは、これから教育学専攻学生として教育学研究に進みゆく諸君、ならびに教職教養科目ないしは専門選択科目のひとつとして教育学を履修しようとする諸君に対して、「教育問題の科学としての教育学」という考え方、そしてその基礎となる「教育学的な視座」を理解してもらうことを目的として、教育学研究への導入を行うところにあります。その意味で教育学の全領域をカバーする「体系」ないし「構造」を提示することに主眼がおかれているのではなく、いわゆる「入門講義」を展開するものです。

「狭義の近代教育学」は、一般に「教育の世紀」と言われる18世紀に成立したとされています。そしてその際の教育学とは、「教育術」や「教育論」であって、いわゆる「教育科学」ではありませんでした。そしてそこでの教育学的思索は、「どのようにして子どもを善くすることができるのか」という技術的・実践的関心に即したもので、その意味では「教授学」的関心が教育学の中核を形成していたことは言うまでもありません。しかし、それはルソーやカントに見られるように、決して既存の社会への子どもの適応化・組み込みに教育の目標があったわけではなく、むしろ彼らの考察は既存社会に対しては批判的な観点に立った、距離を置いた姿勢と結びついています。すなわち、教育理論の構築においては技術学のメタ理論として「善さとは何か」という反省的思索がセットとなっています。「教育の自律 Autonomie」ないし「教育学の自律性」と言われる事柄は、こうした背景をもつわけですが、現在もまた狭義の教育学は、この伝統、すなわち「善さへの省察を内包した技術学」という伝統を引いているはずですが。

しかし現代の教育学研究は、上述した「狭義の教育学」を大幅に超えて、一般的な「社会化研究」の一環に組み込まれた社会科学のひとつとして考えられるようになりました。その際の中心的な推進役が、主として実験心理学や認知科学に依拠した「教育心理学」と実証的な「教育社会学」であったことは明瞭です。科学化への動きは、時代の要請でもあって止められませんが、問題は、こうした流れの中でややもすると「狭義の教育学」の持っていた「子どもを善くする」「善くするとはどういうことか」「そもそも善さとは何か」といった関心や問い、これらは必ずしては教育学的な思索ではなくなくなってしまうはずの問いがどこかに消えてしまい、「教育＝社会化」という論理と、それを前提とした「効率化」の論理で何の疑いもなく進行してしまう事態にあります。ですから、私たちはまずはこうした問題を改めて考えるところから教育学的思索を始める必要があるわけです。

テキスト：

・田中克佳『教育学』（慶應義塾大学通信教育テキスト）慶應義塾大学出版会 1993

参考書：

・授業の中で適宜指示します。

授業科目の内容：

日本近世・近代教育史：

天皇制教育体制として特徴づけられる近代日本の教育体制の形成過程を中心に、それに先立つ近世日本の教育と学問の概観、また第2次世界大戦後成立した日本の教育体制とその後についての若干の言及を本講の構成内容とする。

テキスト：

・田中克佳『教育史』（慶應義塾大学通信教育教材）、慶應通信

参考書：

・必要に応じて授業の中で指示する。

授業科目の内容：

この講義では「西洋教育思想史」および「西洋教育学史」を扱い、ます。教育や学校の現実の歴史は、ここで紹介する思想や理論の歴史と完全に一致するものではないので、一年間実践と関係ない概念的思想史・学問史を話していると見られてしまうかもしれません。これは、半分当たっていますが、半分違います。というのも、現実で「教育問題」が生じた時、人はまずそれを考えてみなければなりません。その時、ここで紹介する思想や理論、とりわけそこで使われている術語などが、いわば「思考の道具」として強力に議論の磁場を形成し、更には実践の輪郭にも影響を与えるからなのです（たとえばルソーの教育思想）。近代ヨーロッパの人間形成をめぐる諸表象やディスクールを社会的文化的文脈のなかで歴史的に考察することとは、ヨーロッパの教育の「現実」をよりよく見るための不可欠な回り道だと言えます。更には、この教育の影響を受けてきた近代以降の日本教育の特徴を知覚し、かつ現在日本で教育が論じられる時に作用している表象構造を明らかにする方法のひとつとも言えます。ですから、この講義は、我々が教育を論じる時、無意識的意識的に参照している「地図」の構造を、いわば「現地」を歩く前または歩きながら解き明かそうという試みであると言い換えてもよいでしょう。

比較教育学(4)

国際比較から考える日本の教育 教授 松浦良充

授業科目の内容：

「教育」は、すぐれて個別的で具体性の強い活動である。したがって、教育事象を理論化（一般化）する作業には大きな困難が伴う。それどころか、捉え方によっては、教育を一般化・法則化すること自体が大きな矛盾である、と言えるかもしれない。

けれども完璧な客観化が不可能だとしても、教育にかかわる事象や問題を、学問的により正確に把握し検討するための有効な手段は模索できないのか。その一つが、「比較」の方法である。他の文化や社会・国家あるいは時代（歴史）における教育と比較することで、私たちが現在直面している教育にかかわる事象や問題を「相対化」し、これまで「あたりまえ」と思いこんできたことを見直すための視座を獲得することができるかもしれないのだ。また、国際化・グローバル化が指摘される現代では、教育は、他のさまざまな文化や社会・国家からの影響を受けながら、相互に変貌してきている。その意味では、日本の「教育」のなりたちそのものが「比較教育」的なダイナミクスの産物である、と言うことができる。「比較教育学」は、こうした観点から、教育の「ゆくえ」を考える学問である。

とは言っても、比較教育学の方法論や領域は必ずしも確立しているわけではない。このことは逆に、教育のゆくえがますます見えにくくなっている現在、多くの可能性を秘めている分野であることをも意味している。

この授業では、こうした背景をふまえて、比較の手法による「教育」の再検討の作業をさまざまな角度から試みる。春学期では、「比較教育学の方法」をテーマとして、比較大学・高等教育史をたどりながら、比較教育学の基礎的諸理論・方法を検討する。それを通して、西洋近代に発生した「教育」がグローバル化するプロセスを、主として日本を事例として考えることになるだろう。秋学期には「比較教育学の問題圏」として、各問題領域・地域別に履修者の発表と討論を中心に進める。個々の事例研究を通して、日本の教育を「相対化」する視点を身につけてもらう。

参考書：

・石附実編著『比較・国際教育学（補正版）』（東信堂、1998）
・Patricia K. Kubow, et al., *Comparative Education: Exploring Issues in International Context*, Merrill Prentice Hall, 2003.
・その他、授業の進行にともなって適宜紹介する。

教育心理学概論 (4)	
個人差と遺伝・環境問題をめぐって	
教 授 安 藤 寿 康	

授業科目の内容：

教育心理学の核となる「学習」「発達」「動機づけ」「認知」「パーソナリティ」などの諸領域の知見を、とくに個人差に着目し、その形成要因である遺伝的背景とさまざまな環境要因との相互作用をめぐり議論に焦点を当てて概説します。授業はこのように心理学の理論の側面をあえて強調するつもりですが、あわせて教育現場との接点もリアルに意識できるような活動を交えます。

テキスト：

- ・特に指定しません。授業の中で資料等を配布します。

原典講読 (2)	教 授 松 浦 良 充
----------	-------------

授業科目の内容：

昨年に引き続き、教育実践を扱った下記の英語文献を読む。これは、アメリカの教師の実践記録・自己省察のメモを集成したものである。文章自体は平易であるが、「教える」―「学ぶ」関係について、近代的な「教育」概念そのものの再考を迫っている。テキストの内容を具体的な場面に即して正確に把握することをめざすとともに、関連する問題について討論し、各自の「教育」概念を再考することのきっかけとしてもらいたい。

テキスト：

- ・John Holt, *How Children Fail*, revised and expanded edition, 1984.

参考書：

- ・授業の進行にともなって指示する。

原典講読 (2)	助教授 真 壁 宏 幹
----------	-------------

授業科目の内容：

- 英語で芸術教育関係のテキストを読む予定。
- 具体的にどのテキストを選ぶかは初回に指示する。

テキスト：

- ・未定

原典講読 (2)	講 師 榊 原 知 美
----------	-------------

授業科目の内容：

教育心理学の英語文献を講読する。英語で書かれた学術論文から最新の情報を得ることは、教育心理学の研究を進めていく上で必須といえる。そのための準備として、テキストを正確に読みこなし、心理学の論文構成や専門表現についての基礎知識を得ることをめざす。加えて、論文内容についての討論を通し、教育心理学研究における最新トピックへの理解を深める。

テキスト：

- ・初回に指定する。

授業の計画：

- 初回の授業で提示する。

成績評価方法：

- ・出席、発表と討論への貢献、授業内小テストを総合して行う。

原典講読 (2)	教 授 大 村 彰 道
----------	-------------

授業科目の内容：

心理学に関する英語の文献を読み、その内容を理解した上で、討論をおこなう。

テキスト：

- ・テキストは初回の授業で指示する。

教育測定実験 (4)	講 師 大 泉 郷 子
	講 師 小 林 琢 哉

授業科目の内容：

この講義は、教育科学研究を実証的に行なうための方法を習得することを目的とします。

講義内容は、1. 教育心理学の検査の理論・方法、2. 実験・調査の2つから成り立っています。具体的には、心理検査や質問紙調査法の理論的背景および実施の仕方、実施後のレポートの作成法を学びます。また、実験および調査の結果をコンピュータ (SPSS, Excel 等) により統計的に分析する実習を行います。春学期には、幼稚園児を対象とした知能検査実習も予定しています。

テキスト：

- ・特にありません。

参考書：

- ・適宜、講義中に指定します。

教育学演習 I・II (2)	教 授 田 中 克 佳
----------------	-------------

授業科目の内容：

英文テキストの講読 (主に春学期) と学生諸君の研究発表・討論 (秋学期) によって授業を進める。

テキスト：

- ・A. E. Mayer: *The Development of Education in the TWENTIETH CENTURY*, 1939/1949, Prentice-Hall/丸善 (H 15 年度に続く部分)

教育学演習 I・II (2)	教 授 大 村 彰 道
----------------	-------------

授業科目の内容：

教育心理学、認知心理学、発達心理学における実証的な研究方法を理解する

テキスト：

- ・大村彰道監修「文章理解の心理学」(北大路書房, 2001 年。2800 円)

教育学演習 I・II (2)	教 授 舟 山 俊 明
----------------	-------------

授業科目の内容：

本年度のテーマは「教育理論の歴史社会的基礎に関する知識社会的分析」。近代教育理論の歴史社会的規定性に関して、歴史社会的な観点および知識論や認識論の観点から考察することを目指します。授業の当初は、テーマに関連し入門的な講義を行います。その後は参加者各自の報告と討論を中心にします。各自が具体的なテーマを設定し、それに関して文献を調査し、報告し、最終的にレポートを作成することになります。

参考書：

- ・授業のなかで適宜指示する。

教育学演習 I・II (2)	教 授 安 藤 寿 康
----------------	-------------

授業科目の内容：

各自の関心に従いテーマを設定して心理学的な実証研究を行い、すぐれた卒業論文を作成することを最終的な目的とします。そのために内外のさまざまな文献 (特に英語で書かれたもの) にあたり、担当者および他の演習履修者と活発なディスカッションを行い、実験や調査、フィールド・リサーチなどによって一次資料を収集します。履修者はこうした活動を通じて自分の問題意識を深め、その過程で人間の発達と教育に関して証拠に基づいて (evidence based) 論理的・科学的に考えることを学んでほしいと思います。

教育学演習 I・II (2)	教 授 松 浦 良 充
----------------	-------------

授業科目の内容：

この演習は、教育問題を国際・異文化間比較の観点から研究することを目的とする。履修者には、教育事象や教育システムの成立要

因を、比較文化・比較社会論の手法を用いて捉え、やがては自分にとってあたりまえとなっている「教育」概念そのものを相対化する視座や研究態度を習得してもらいたい。

今年度は、研究方法論に関連する以下の共通テキスト（英文）を読み議論する。

テキスト：

・ Wayne C. Booth, et al. *The Craft of Research*, 2nd edition, The University of Chicago Press, 2003.

教育学演習Ⅰ・Ⅱ(2) 助教授 真壁 宏 幹

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、「美的経験と人間形成」をテーマに進めていきます。とくに、今年度は、「生命性」と「反省性」をキーワードに、美的経験と人間形成に関する古典を読みながら、発表形式で行ないます。

テキスト：

・ カント『判断力批判』

教育学演習Ⅰ・Ⅱ(2) 教職課程センター 教授 米 山 光 儀

授業科目の内容：

本演習は「日本の近代化と教育」をテーマとし、日本の近代のあり方、教育のあり方を批判的に検討することを目的とする。具体的には丸山真男・大塚久雄などの諸論文を読むことによって、「近代」を考え、それとの関連で教育史に関する諸論文を読んでいく。使用文献は履修者と相談して決定する。なお、参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育学演習Ⅰ・Ⅱ(2) 言語の認知科学 教授 大 津 由紀雄

授業科目の内容：

言語の認知科学について、文献を読んだり、議論したりする。どの文献を取り上げるかは未定である。言語教育や科学教育に関する担当者の考えについても議論する。議論好き、あるいは、議論好きになりたい学生をとくに歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者はかならず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

・ 第1回目講義時に提示する。

参考書：

・ 第1回目講義時に提示する。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教授 田 中 克 佳

授業科目の内容：

卒業論文作成に向けての指導を行う。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教授 大 村 彰 道

授業科目の内容：

卒業論文作成の指導をする。認知、記憶、教授・学習、動機づけ、認知発達 の領域に関心を持ち、実証的研究をしようとする学生を受け入れる。

参考書：

・ 大村彰道編著「教育心理学研究の技法」(福村出版、2000年、2100円)

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教授 舟 山 俊 明

授業科目の内容：

卒業論文指導。3年生は年度末にリポート(400字×50以上)を、4年生には卒論(400字×100以上)を提出するための様々な準備指導を行います。参加者には各自の作業につき年に2回の報告をしてもらい、相互に検討を行います。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教授 安 藤 寿 康

授業科目の内容：

教育学演習とあわせて、卒論指導を行います。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教授 松 浦 良 充

授業科目の内容：

卒業論文の完成を最終目標とし、その作成に向けて、テーマの設定の方法、先行研究の検討の仕方、資料の検索・収集・整理など、(比較)教育学研究の基礎的手法について学ぶ。具体的には、グループによる共同プロジェクト研究および各自の個人研究の報告と相互検討・討論を行う。

教育の国際・異文化間比較研究、大学・高等教育研究、英米圏における教育問題・歴史研究、および比較教育思想研究のいずれかの領域に関心のある学生を対象とする。

テキスト：

・ 授業時に指示する。

参考書：

・ 授業時に指示する。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 助教授 真壁 宏 幹

授業科目の内容：

卒業論文指導を行ないます。

各学期一回ずつ、各自のテーマに基づく個人発表を行ない、それをレポートとして、毎学期末に提出してもらいます。これを通じて卒論の問題設定や先行研究の扱い方などを学んでもらいます。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 教職課程センター 教授 米 山 光 儀

授業科目の内容：

卒業論文を書くためのチュートリアルを主とする。論文のテーマ設定の方法、先行研究検討、史料調査など、具体的に指導する。日本教育史・日本教育思想史に関心のある学生を対象とする。

教育学研究会Ⅰ・Ⅱ(2) 言語の認知科学 教授 大 津 由紀雄

授業科目の内容：

卒業論文の準備作業および作成指導を行う。言語理論、言語獲得(第一言語、第二言語)、言語理解、言語の脳科学、言語教育(母語教育、外国語教育)、科学教育、認知発達などに関心を持つ、意欲的な学生を歓迎する。

第一回目の講義の際に、このコースの運営の仕方などについてくわしい説明をするので、受講予定者はかならず出席のこと。やむをえない理由で都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

・ 第1回目講義時に提示する。

参考書：

・ 第1回目講義時に提示する。

教育学特殊Ⅰ (4)

ルネサンス人文主義の教育思想 講 師 杉 下 文 子

授業科目の内容：

西洋史上の一大思潮である「ヒューマンイズム」は、その源を 14 世紀から 16 世紀末の時期に遡ります。定義の難しい「ルネサンス」と呼ばれるこの時代の立て役者とも言えるのが、古代ギリシャ・ラテンの古典研究に勤しんだ人文学者（ヒューマニスト）達でした。彼らにとって「studia humanitatis（人文研究）」は、既存の諸権威から人間を解放する自由な精神の表現であり、「humanitas（フマニタス、人間性）」は理想の教育を定義する言葉でした。

本講義では、このルネサンス人文主義に焦点をあて、時代背景への理解を深めながら代表的な人文学者達に触れることを通して、ヒューマンイズムの教育思想とは如何なるものであったかを考察します。そこからヨーロッパの教育的伝統を問い直す為の視点を見い出していくことも目標です。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

教育学特殊Ⅱ (4)

講 師 榊 原 彩 子

授業科目の内容：

前半では、認知心理学における主要なトピックである、知覚、記憶、問題解決等を中心に、過去の具体的研究例を交えつつ、基礎的な理論を講義形式で解説する。日常的な経験と照らし合わせながら、心の働きとしての認知的活動を理解することを目的とする。後半は、演習形式を取り、前半の講義で得た基礎的な知識をもとに、主要な過去の研究を自ら読み（邦文）、理解のもとに発表、そして討論をおこなうという活動を予定している。研究内容の理解に加え、発表および討論の技術を学ぶことを目的とする。認知心理学の基礎的なテーマを軸に、講義、論文読解、発表、討論、（時間が許せば模擬実験）、できるだけ多様な活動をもりこみたいと考えている。

テキスト：

・「認知心理学重要研究集 1・2」（誠信書房）
＊変更の場合もあります。

参考書：

・授業時間内に適宜指示する。

教育学特殊Ⅲ (4)

（春学期）講 師 吉 家 定 夫
（秋学期）講 師 渡 辺 弘

〔春学期〕

福沢諭吉と近代日本の教育

授業科目の内容：

江戸時代の民衆教育の中心は、日常生活の必要から自然に生まれた民間の教育機関、寺子屋であった。その寺子屋では、読み書きの基本、そして場合によってはこれに加えてソロバンの使い方が教えられた。明治時代になって、民衆教育の中心は国家の手によって設計され、公務員たる教師によって運営される公立小中学校に移った。その小学校で教えられる教科には、従来の寺子屋で教えられていた読・書・算のほかに、今日でいう理科と社会科が加えられ、近代的カリキュラムとなった。この公立学校制度の整備によって、やがて全国民に「平等」に「均質」な教育が「無償」で与えられるようになった。しかし同時に、その公立学校での教育内容には、中央集権的教育行政を通じて国家の意向が強く反映されるようになった。日本の教育は、明治以降変質したのである。なぜ、このような変化が生じたのか。このような変化は日本だけで生じた現象なのだろうか。

福沢諭吉は、日本の近代化のためには、学問の中心は従来の臆見（opinion）に基づく儒学ではなく、西洋で生まれた科学（science）でなければならないと考えていた。それゆえ明治政府の洋学路線を支持し、彼自身多くの近代的な内容の教科書を執筆した。しかし同時に、彼は教育を本質的に私的なものと考え、政府主導による学校制度の整備と統制を望ましいことと思わず、教育内容への国家の干渉に反対した。それはなぜだろうか。

今日、われわれが福沢諭吉を学ぶことの意味はどこにあるのだろうか。近代日本の教育について福沢のやり残した仕事は何か。いじめ、不登校、学級崩壊などに象徴されるように、文部省主導の今日の日本の学校教育が大きな曲がり角にきていることは誰の目にも明らかであろう。この日本の教育を改革する上で、われわれは福沢から何を学ぶことができるだろうか。

この授業の目標は、①近代日本における公教育制度の整備の過程と特徴とを理解し、②それを福沢諭吉の教育行政観と対比させて検討し、③最後に今後の日本の教育のあり方について考えることにある。

テキスト：

・富田正文校注『福翁自伝』（2001）慶応義塾大学出版会（又は『福翁自伝』岩波文庫）
・『学問のすすめ』岩波文庫（または『現代語訳 学問のすすめ』現代教養文庫）
・山住正巳編『福沢諭吉教育論集』（1991）岩波文庫
・吉家定夫『日本国学監デビッド・マレー』（1998）玉川大学出版部

参考書：

・最初の授業時に文献リストを配布します。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

本講義では、生涯学びつづける存在としての人間の自立を援助する活動として教育をとらえ、その視点から日本教育の歴史的展開（江戸時代から現代）を人物を中心に検討していく。

取り上げる人物については講義のはじめに紹介する。

テキスト：

・『援助教育の系譜』川島書店、1997 年、2800 円

参考書：

・『援助する学校へ』川島書店、2001 年、2000 円／『一茶・小さな生命』川島書店、1997 年、2000 円

教育学特殊Ⅳ (4)

国際協力と教育・文化政策 講 師 犬 塚 典 子

授業科目の内容：

国際協力を視野に入れて、教育と政治との関係について学習します。春学期は、一次的資料（「国連子どもの権利条約」、「アメリカ教育使節団報告書」など）を読み基礎的な力を身につけます。

秋学期は学生の知的関心・進路希望などを考慮した上で、「開発途上国の教育」「ジェンダー／WID 政策と教育」「国際理解教育カリキュラム」などのテーマについて、参加者各自による調査研究・プレゼンテーションを中心に進めていきます。

テキスト：

・村井実『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫、1979 年。
・国際協力機構『日本の教育経験—途上国の教育開発を考える—』2003 年 11 月（<http://www.jica.go.jp/>よりダウンロードできます）。

参考書：

・江原裕美編『内発的発展と教育—人間主体の社会変革と NGO の地平』新評論、2003 年。

教育学特殊Ⅴ (4)

教育の解説（見立てなし） 講 師 広 石 英 記

授業科目の内容：

「教育」を善きものとして語り、教育問題を「教育」の不備ととらえる従来の教育言説は、どこまでリアルに現実の事態やそれを生起させている状況に迫っているのでしょうか？教育学的まなざしだけで枠付けられてしまう言説（現在の教育様式が自明視される言説）には限界があります。

この講義においては、従来の「教育という意味連関」に様々な諸概念（相互作用・類型的同化作用・自己目的的行為・出来事・意味生成の自由なカリキュラム・協働という学び）という差異を挿入することによって、教育という意味連関の奥行きや幅を自覚的に揺らし、「教育」を異化することが目論まれています。

この見立ての変容によって、私たちは、初めて新たな意味での「教育」の意味を見つめる地平に立つことができるのではないだろうかという見込みを持っているからです。本講義は、私たちが無意識的に抱え込んでいる「教育」や「子ども」といったイメージ（像）を相対化できる様々な解読法を検討することによって、講義参加者の教育や子どもに対する既定の概念を再構成してみるヒントを共に考えていくことを目的としています。

テキスト：

・適宜、参考になるプリントを配布します。

参考書：

・『経験の意味世界をひらく—教育にとって経験とは何か—』市村尚久他編著 2003 東信堂

教育学特殊 VI（春学期）(4)

授業の心理学

教職課程センター 助教授 鹿毛雅治
講師 蘭 千壽

授業科目の内容：

教育の過程において、学ぶことと教えることは有機的に関連しており、両者を切り離して論じることはできません。このダイナミックな教育と学習のプロセスについて、本講義では教育心理学の視点から話題を提供し、ともに認識を深めていきたいと思っています。また、それと同時に、現在の学校が抱える教育方法上の諸問題や教育のあり方を改善する方向性についても、具体的な教育実践を検討する中で考えてみたいと思います。

参考書：

・鹿毛雅治・奈須正裕 1997『学ぶこと・教えること—学校教育の心理学』金子書房

教育学特殊 VII (4)

教授 田中克佳

授業科目の内容：

近世日本教育史研究—洋学教育史を中心に—

近世日本（江戸時代）の代表的学問類型の呼称として儒学・国学とならんで洋学というものがある。それは、南蛮学・蘭学・洋学その他の西洋学術の個別時代的な呼称を包含する類型の呼称であるが、この洋学の伝来、移入、教授・学習などを日本近世教育史研究への関心に立って論述を試みる。

（『蘭学事始』など若干のテキストの履修者全員による会読も試みる予定。）

教育学特殊 VIII (4)

講師 坂本辰朗

授業科目の内容：

本年度の教育学特殊VIIIはアメリカ大学史を取り上げる。1636年のハーバード大学の成立から19世紀末の「ユニバシティの時代」へ、さらには、世界の center of excellence へと、アメリカの大学は350年余の歴史の中で大きく変貌する中、日本を含む各国の高等教育へ理念的にも制度的にも大きな影響をあたえてきた。本コースでは、比較教育史的な視点をも含め、アメリカにおける higher learning の歴史を辿ってゆくことにする。

テキスト：

・Christopher J. Lucas American Higher Education: A History (New York: St.Martin's Press, 1994).

参考書：

・ハンドアウトで指示する。

選 択 科 目

（教育学専攻設置）

文献講読 I (4)

助教授 真壁宏幹

授業科目の内容：

ドイツ語で、ドイツの現代教育 or 教育思想史に関わるテキストを講読していく。何を読むかについては、受講者と相談の上決めます。

テキスト：

・未定

文献講読 II (4)

心理学の英語論文の講読

講師 中邑啓子

授業科目の内容：

心理学の様々な分野（発達心理学、教育心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学、カウンセリングなど）に関連する英語論文を講読します。実証的な研究論文の読み取り方を論文の形式、解析方法、データの解釈の仕方等の異なる視点から学習します。論文は、現代の心理学の基礎となる必読文献や最近書かれた心理学の注目すべき論文などの中から選択します。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

文献講読 III (4)

休 講

教育研究法 I（春学期）(2)

心理教育統計法の基礎

講師 山口陽弘

授業科目の内容：

代表値、散布度などの、ある集団を記述する際に必要な、記述統計学の基礎を完全に身につけてもらいます。それらを基本とした上で、推測統計学の基礎である、t 検定などの検定理論を学習することを本講義の目標とします。

テキスト：

・服部環+海保博之「Q & A 心理データ解析」福村出版

参考書：

・山口陽弘「試験にでる心理学〈心理測定・統計編〉」北大路書房

教育研究法 II（秋学期）(2)

心理教育統計法の応用

講師 山口陽弘

授業科目の内容：

前期で学習したことを踏まえて、様々な検定法や分散分析、多変量解析（因子分析）の基礎について解説します。

前期での学習進度に応じて、後期の進度も変わります。

テキスト：

・山口陽弘「試験にでる心理学〈心理測定・統計編〉」北大路書房

○人間科学専攻

必修科目

人間科学基礎 (4)

助教授 小林 ポオル

授業科目の内容：

現代の都市生活者たる私たちのものの考え方や行動パターンには、どのような特徴があるのだろうか。

私たちはまわりの環境と相互作用を行うことで生活しているから、私たちがつくってきた社会・環境は逆に私たちの行動を構造的に規制してものの考えかたに大きな影響を与え、また人間関係のありかたにも影響を与えてきたはずである。

そこで、まず私たちが当然視することである暗黙のうちに私たちの行動を方向づけているものを考察することから始める。そして、それらが生活環境のどのようなメカニズムによってもたらされてきたのかを考える。具体的には、高度産業社会と規定される現代社会が、科学・技術に支えられたその生産システムをどのように作りあげ、私たちの行動をも組み込みながらどのように精緻化してきたのかを見、その中で人間のイメージがどのように変容してきたのかを考える。

しかし見方を変えれば、環境は自己の構造の投影と考えることもできる。それなら、自己の認識構造の基にある言語構造が自己のイメージを形づくりながらどのように成立し、環境世界をどう成立させているのかを考察する必要があるだろう。そこで次に、このプロセスが現代社会のイメージをどのように構造化したのかという経路も考察したい。

これらを通じて現代社会のさまざまなイメージと自己のそれとの相互性を認識すると、視点の取り方による人間像・世界像の違い、いくつかの視点を総合することの難しさや面白さを経験してほしい。そして各自が人間を理解する道筋を考える出発点としてほしい。

参考書：

・随時配布する資料に明示する。

人間科学研究法基礎 (4)

教授 南 隆 男
助手 北 中 淳 子

授業科目の内容：

人間をその諸活動から理解しようとすれば、研究方法に応じて異なる相を見せる人間像を総合する努力が不可欠となってくる。人間行動・人間性に対する洞察は、複数の視点・視角からの分析を総合する過程を通じて可能になってくる。

したがって、人間科学における研究法とは、それに依拠すれば自動的に研究が進行する便利な手順集ではない。問題解決のためのさまざまな“種”であり“ひな形”である。人間科学を専攻する諸君は、自らの関心・問題認識に応じてそれらを組合わせ、改変しながら、戦略的に研究を進めていかなばならないだろう。

本講義では、上記に向けての履修者各人の具体的研究の出発点を整備したい。そのために有効であろうと思われるいくつかの概念や枠組みについて、また、資料を分析し解析する技法の基礎概念について、学ぶ。

授業は、講義とグループ討議・実習を組み合わせで行う。履修者が課題に関する討議に積極的に参加することで、単に知識や技術の修得に終わることなく、それらに具体的なイメージを持ち、既存の「研究方法」(research methods and methodology) の特質や限界・相対性を理解した上で、自分の問題意識の整理に役立てられるようになることを目的とする。

テキスト：

・実際の「研究論文」(Journal Articles) のいくつかを使用する。

参考書：

・随時に紹介します。

人間科学諸領域 A (4)

助手 北 中 淳 子

授業科目の内容：

「自分はどういった人間か？」というパーソナリティに関する問いは、古今東西、それぞれの文化社会伝統の中で、気質・性格・人格といった概念で語られてきた。しかし近代においてこの問いに重要な視点の変革をもたらしたのは、19世紀末の「無意識の発見」であったといえる。「自己の知りえない自己」の領域があることを唱えたフロイトの説は、西洋における人間観のコペルニクスの転換と呼ばれ、その後パーソナリティ・テストや心理療法といった個人の内面への臨床的接近法にも結実していく。

一方で、精神分析に対する反論として、自己を外側から観察しようする「行動の総体」として捉える行動主義が登場する。また、個人が外部との相互作用の中で変化していく過程に注目した発達の視点や、社会学・人類学からの知見を取り入れた新たなパーソナリティ論も展開されている。特に近年、精神科臨床において「パーソナリティの病い」が問題になる中で、個人の内面をどう捉え、そのころにどう接近できるのかという問いは、ますます重要度を増してきている。

よって本講義では、人間科学を構成する諸領域のなかで、個人の内面から人間を研究する心理学・精神医学の理論に焦点をあわせたパーソナリティ論を紹介する。さらには、文化の違いにかかわるパーソナリティ論や、異文化不適合と治療等の話題にもふれるかたちで、心理人類学・多文化間精神医学の領域の一端も論じたい。学際的・境界領域的な研究動向に照らしながら、「パーソナリティ」とは何かを総合人間科学的に考えることを通じて、私たちは自己や他者をどのようにして理解できるのかについて考察してみたい。

第2学年次に在学中に履修することを原則とする授業科目である。

テキスト：

・詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊著『性格心理学への招待 [改訂版]』サイエンス社 2003 年

人間科学諸領域 B (4)

教授 三 井 宏 隆

授業科目の内容：

現代社会が直面する諸問題のなかから、(イ)セルフ・アイデンティティの問題、(ロ)宗教カルトの問題、(ハ)スポーツを巡る問題の3つを順次取りあげ、近年の研究動向を社会心理学の立場から紹介する。「研究とは、どういうものか」を、授業のなかで取りあげられた研究などから、実感していただきたい。

テキスト：

・その都度、紹介するが、最初は、三井宏隆「ボディ・セルフ・アイデンティティ・セクシュアリティの心理学」(ナカニシヤ出版、2003 年、2200 円)

人間科学諸領域 C (4)

教授 渡 辺 秀 樹
教授 鹿 又 伸 夫

授業科目の内容：

人間と社会、つまり人間の相互影響過程の集積としての社会現象について、どのように理解して説明したら良いのか、社会科学とくに社会学の立場からの基本的な考え方を学んでいく。

この科目は、第2学年次に履修することを原則とする。

参考書：

・授業で指示する。

人間科学諸領域 D (4)

講師 中 村 淳

授業科目の内容：

「文化人類学」というやや耳慣れない学問は、端的には「文化のあり方」「人間のあり方」を多面的にとらえ直しながら、「これまでしたこのないやり方でものごとを考えようとする」ことをその特徴としている。重要なキーワードは、(1) 普遍性、(2) 多様性、(3) 個別性、(4) 相対性であり、講義ではこれらのキーワードをくりかえしながら、

これまで自分が気づかないうちに固めてきた「考え方の構え」を柔軟にときほぐすことを目標とする。

具体的に扱う題材は、下記「授業の計画」を参照してほしい。どちらかといえば、「究極の一つの答えをめざす」ひとよりも、「世の中にありふれた多様性と矛盾、それ自体に興味がある」ひとに向いているかもしれない。

テキスト：

- ・授業中に適宜指示する。講義で配布するプリントは、下記授業用ホームページ上に掲載する。

参考書：

- ・同上

人間科学研究法（調査Ⅰ）（春学期集中）（4）	
教授	南 隆 男
講師	吉 田 悟

授業科目の内容：

調査一質問紙調査や面接調査、などと呼ばれているソレーって何か、を“アタマ”と“カラダ”で「理解」していきます。既存の実際の『調査事例』のいくつかを“眺める”ことから始めて、現象を記述し、その背後に在るメカニズムを析出して、事実間の相互連関を解析していくその「技術」と「戦略」とを“カラダに教え込んで”いきます。

テキスト：

- ・まずは：土田昭司『社会調査のためのデータ分析入門』（有斐閣）。

参考書：

- ・随時に紹介します。

人間科学研究法（調査Ⅱ）（秋学期集中）（4）	
教授	南 隆 男
講師	吉 田 悟

授業科目の内容：

春学期の「調査Ⅰ」に引きつづく授業です。ちなみに、「調査Ⅰ」を履修済みの諸君のみがこの「調査Ⅱ」を継続履修できます。参画者の各人が、問題設定をして、①調査を実行し→②データを収集し→③それを分析・解析して→④「調査報告書」を作成・提出します。

テキスト：

- ・『SPSS マニュアル』（SPSS）

参考書：

- ・随時に紹介します。

人間科学研究法（計量と解析）（4）	
助教授	織 田 輝 哉

授業科目の内容：

この授業では、主として社会学的研究で必要となるコンピュータの使い方、データの取り扱い方を身につけることを目標とする。具体的な内容は次のようなものを予定している。

- ・表計算ソフトの使い方
- ・社会調査の基礎
- ・統計処理の基礎
- ・データ処理とプレゼンテーション
- ・簡単なシミュレーション

なお、授業の性格上出席は必須であり、また人数も制限する場合がある。詳しくは初回の授業で説明する

テキスト：

- ・西平重喜『統計調査法』培風館
- ・馬場浩也『SPSS で学ぶ統計分析入門』東洋経済新報社

人間科学研究法（測定と記述）（春学期集中）（4）	
助教授	小 林 ボオル

授業科目の内容：

意識調査など質問紙による調査を行うことは多い。しかし、これ

により得られたデータを解析し、その内容を的確に把握する、ということは必ずしも容易ではない。本講義では、秋学期に開講する「人間科学研究法」（データ解析）とあわせ、調査結果の解析を行うために必要な基本概念を解説する。また、実際にそれらの基本概念を用いた解析を演習することにより、卒論等の研究上実施した調査を解析する技術を履修者が習得することを目的とする。

質問紙により得られたデータは、便宜的に数値として表現されることが多い。しかし、これらの数値の使い方は名目的であり、一般的な意味での尺度を構成しない。つまり、通常行われている統計的手法の適用はかなり制約を受ける。しかし、最終的には、それらカテゴリーカルなデータから意味のある数量を構成し、項目間の関係を把握することが目的になる。

本講義では、ふたつの項目間の関係につき、その関係の記述・関係の強さの表現の方法を検討する。また、これらの方法を多くの項目間の関係にまで一般化するための基礎概念についても学習する。

人間科学研究法（データ解析）（秋学期集中）（4）	
助教授	小 林 ボオル

授業科目の内容：

春学期講義「人間科学研究法」（測定と記述）で得られた知識から出発し、多くの項目から成る調査データの全体像を明らかにすることを目的とする。これを達成するために、単項目の分析・2項目間の関係の分析を繰り返す行うのは現実的ではない。解析作業が膨大になり、複雑な関係を見誤って間違った解析になる危険がある。このため、解析手段を拡張し、多くの項目から成るデータを一括して視覚的に表現し、全体的構造の把握を容易にする方策を考える。

人間科学研究法（観察・実験）（秋学期集中）（4）	
教授	三 井 宏 隆

授業科目の内容：

特定のテーマのもとに、観察・実験などを行い、実際にデータを収集し、分析する。卒業論文の予行演習を兼ねたものである。

テキスト：

- ・三井宏隆「データのとり方・まとめ方」（垣内出版，1992 年，1900 円）

参考書：

- ・三井宏隆「実験・調査の考え方」（小林出版，1991 年，1500 円）

人間関係学（4）	
休 講	

対人行動学（4）	講 師 小 西 哲 史
----------	-------------

授業科目の内容：

日常生活において、われわれは多くの人と接し、さまざまな関係を持っています。本講義では、こうした対人関係における諸問題を、対人行動学の視点から解説します。取り上げるテーマは、対人魅力、自己呈示、説得、空間利用についてです。

「対人魅力」とは他者に対する好意あるいは非好意的態度をいいます。授業では、好意を生起させる要因を中心に解説します。「自己呈示」とは、相手に好印象を与えるために自分に関する情報を伝達することをいいます。特に弁解や正当化などの釈明行為を取り上げます。「説得」では、さまざまな説得テクニックや、その心理的メカニズムについて考えます。そして「空間利用」ではコミュニケーションにおける空間利用について解説します。なわばり行動、個人空間、座席配置、混雑感などが主なテーマです。

テキスト：

- ・使用しません。適宜プリントを配布します。

参考書：

- ・松井豊『恋ごろの科学』サイエンス社、
- ・奥田秀宇『人をひきつける心』サイエンス社、
- ・安藤清志『見せる自分／見せない自分』サイエンス社、

- ・榎博文『説得と影響』ブレーン出版、
- ・渋谷昌三『人と人との快適距離』NHK ブックス

現代家族論 (4)	(春学期) 教 授 鹿 又 伸 夫 (秋学期) 教 授 渡 辺 秀 樹
-----------	--

授業科目の内容：

本講義では、現代社会における家族の構造とその変動を社会学の立場から検討する。春学期は、まず入門編として家族社会学の基礎知識について概説する。秋学期はいくつかの現代家族に関わる事象を取り上げて論ずる。

参考書：

- ・授業で指示する。

ライフコース研究 (4)	講 師 岩 上 真 珠
--------------	-------------

授業科目の内容：

ライフコースとは、歴史と社会の中で歩まれる、個人の生涯にわたる役割移行の過程である。未婚・晩婚化、少子化、高齢化、および高学歴化や女性の社会進出の影響で、個人のライフコースは大きく変化してきた。その変化は、いつまで学校に行くかという教育経歴、結婚するかしないか、するとすればいつか、子どもをもつかもたないか、いつ、何人もつかといった家族経歴、また、どのような仕事をどのように経験するかという職業経歴などに示される。個人は、特定の時代における社会の枠組みの中で自らの生き方を選び、生涯にわたってスケジューリングする存在としてとらえられる。

近年は男女平等化の趨勢のなかで、とくに女性のライフコースが大きく様変わりしている。その一方、子育てと職業生活の両立、親の介護など、ライフコース中期に新たな課題が登場し、それらをめぐってジェンダーと社会福祉の視点からの検討も重要になっている。

講義では、現代社会と私たちのライフコースの関係について考察し、主要な論点を解説する。

テキスト：

- ・岩上真珠『ライスコースとジェンダーで読む家族』有斐閣、2003

組織行動研究 I (春学期) (2)	
--------------------	--

休 講

組織行動研究 II (秋学期) (2)	
---------------------	--

休 講

コミュニティ心理学 (4)	講 師 久 田 満
---------------	-----------

授業科目の内容：

コミュニティ心理学は、伝統的臨床心理学に対するアンチテーゼとして誕生した。わが国では臨床心理学の下位分野として位置づけられてはいるが、近年欧米では、独立した 1 分野として、産業・組織心理学、公衆衛生学、病院管理学、精神腫瘍学、医療人類学等との連携を深めながら、その地位を確立しつつある。この授業では、「一つの見方」としてのコミュニティ・アプローチの実践例をできるだけ多く紹介し、このアプローチのわが国における応用可能性について論議したい。取り上げる例は、スクールカウンセリング、企業の風土改革、大学病院でのコンサルティング活動、ホスピス病棟での終末期医療、大都市虚弱老人への介入戦略などである。

テキスト：

- ・特に指定しない。

参考書：

- ・授業中に適宜、紹介する。

人間 — 環境系論 (4)	
---------------	--

休 講

社会システム論 (秋学期) (2)	助教授 織 田 輝 哉
-------------------	-------------

授業科目の内容：

社会システム論は、全体社会・国家・企業などの集団現象を一種の実体として把握しようとする方法論的集団主義あるいはマクロ社会学と呼ばれる伝統に連なるものである。この授業では、社会システム論者として、タルコット・パーソンズ、ニクラス・ルーマンらの所論を取り上げ、マクロな社会現象をいかにして科学的方法で把握するかを考えていきたい。また、より一般的なシステム分析の理論枠組み、たとえばシステムの安定性・均衡・境界等についても議論する。さらに、システムのコンピュータ・シミュレーション、ミクロ — マクロ問題についてのゲーム論的なアプローチについても取り上げていきたい。

参考書：

- ・バックレイ『一般社会システム論』（誠信書房）
- ・バルタランフィ『一般システム理論』（みすず書房）
- ・新 陸人・中野秀一郎『社会システムの考え方』（有斐閣）など

比較文化関係論 (4)

アメリカ合衆国とカリブ海社会における黒人表現文化と多文化的状況
講 師 三 吉 美 加

授業科目の内容：

アメリカ合衆国およびカリブ海社会の「エスニック」「人種」集団間の関係と多文化的状況を理解した上で、黒人表現文化とされる活動を考察していきます。

テキスト：

- ・プリントを配布します。

参考書：

- なし

パーソナリティ研究 (4)

パーソナリティ心理学の理論と方法

講 師 岩 熊 史 朗

授業科目の内容：

われわれは、家族や知人のそれぞれを他の誰とも違う唯一無二の個人として認知し、それぞれの“人となり”を多少なりとも理解した上で生活をとめています。このような個人の「人となり」「個性」「性格」などは、心理学において「パーソナリティ」という概念のもとに研究されてきました。この講義では、パーソナリティに関する主要な理論、研究方法、診断・評価技法を概観し、パーソナリティを把握するための視点についての理解を深めます。また、「人間が人間を理解する」ということの意味についても、社会心理学的な視点あるいは認識論的な視点から言及していく予定です。

テキスト：

- ・指定しません。

参考書：

- ・本明寛（編）「性格心理学新講座 1 性格の理論」（金子書房、1989 年）
- ・杉山憲司・堀毛一也（編集）「性格研究の技法」（福村出版、1999 年）
- ・クラウエ、B. （堀毛一也編訳）「社会的状況とパーソナリティ」（北大路書房、1996 年）
- ・ミッシェル、W. （詫摩武俊監訳）「パーソナリティの理論—状況主義的アプローチ—」（誠信書房、1992 年）
- ・バー、V. （田中一彦訳）「社会的構築主義への招待—一言説分析とは何か—」（川島書店、1997 年）

臨床心理学 (4)

— ラカン、ベイトソン、ギブソン、ヴィゴツキーのエピステモロジー —
講 師 若 島 孔 文

授業科目の内容：

本講義では臨床心理学に関わる見立て、介入、会話法などについて論じていきます。「社会的存在」としての人間を対象とする臨床実

践について、皆さんと共に考えていきたいと思います。

テキスト：

・「脱学習のブリーフセラピー」（金子書房）

精神分析論（秋学期）(2)

概論～フロイトを中心に～

医学部 助 手 白波瀬 丈一郎

授業科目の内容：

精神分析学とは、ウィーンの医師ジグムント・フロイトによって約 100 年前に生み出された学問である。当初神経症の治療法として誕生した精神分析学は、その後無意識についての心理学として発展し、さらに人間理解の手段として広くさまざまな文化や思想に影響を及ぼすまでになった。今回は、無意識・防衛・転移・逆転移といった精神分析学の基礎的な概念について講義を行う。そして、精神分析学の基本的な全体像の把握を目指す。

テキスト：

・講義資料プリントを配布します。

参考書：

・小此木哲吾著「現代の精神分析―フロイトからフロイト以後へ」講談社学術文庫、「フロイト思想のキーワード」講談社現代新書

精神病理学（秋学期）(2)

心の病とはなにか 医学部 専任講師 濱 田 秀 伯

授業科目の内容：

心の病は人間が人間であることの病である。精神病理学は心理学的な方法を用いて心の病を知り、精神の健康とは何かを探ろうとする精神医学の一分野である。本講座では心の病の理解に不可欠な精神病理学用語を、症候学の形で抽出して解説する。また具体的な症例を挙げながら、これらの症候がどのように組み合わされて病気が形成されるのかについて述べる。さらに精神障害にかかわるいくつかの理論を紹介し、脳と心、物質と精神の問題を考える。

テキスト：

なし

参考書：

・濱田秀伯「精神症候学」「精神病理学臨床講義」弘文堂

文化と精神病理 (4)

休 講

人間科学特論（キャリア発達論Ⅰ）(春学期集中) (4)

教 授 南 隆 男

授業科目の内容：

- ①「キャリア」って、多少乱暴ですが、「人生」のことです。あなたは、あなたの「人生」を、どのようにしたいって、思っていますか？
- ②たとえば、どういうイキサツで、あなたは今、こうして、慶應大学に居るんですか？そして、卒業後あなたは、何をされますか？つまり(?)、どのような「自分」だったら、あなたは「ハッピー」ですか？
- ③以上のようなことにかかわる、あれやこれやの「説」や「(理)論」や「物語り」、また「事例」を“眺め”て、そして、考えてみまっす、自己言及的に！

テキスト：

・まずは、渡辺三枝子（編）『キャリアの心理学』（ナカニシヤ出版、2003 年）

参考書：

・授業の展開に合わせて、随時に紹介します。

人間科学特論（キャリア発達論Ⅱ）(秋学期集中) (4)

教 授 南 隆 男

授業科目の内容：

- ① 春学期の「キャリア発達論Ⅰ」を履修された諸君のみが、この「キャリア発達論Ⅱ」の履修が可能となります。
- ②「キャリア」(≒人生)についての知的“探索／探検”をさらに進めます。“発達論”的視点に重複させて、“社会構造／社会構築”的視点を、さらには“比較文化”的視点をも意識して、人生の喜怒哀楽(?)を共感的／実感的に理解／了解する、「セッション」を実行していきたい…と念っています。

テキスト：

・夏休み直前に指示します。

参考書：

・授業中に、随時に紹介します。

人間科学特論（卒業研究）(秋学期) (2)

助教授 織 田 輝 哉

助 手 北 中 淳 子

授業科目の内容：

この科目は、コース A（「人間科学研究会Ⅱの履修と卒業論文提出」を卒業要件としないコース）を選択した人間科学専攻 4 年生の必修科目である。

具体的な内容・評価の基準等を説明するので、第 1 回目の授業に必ず出席すること。また、この科目に関する掲示は必ず確認すること。

人間科学特論（芸術と人間）(春学期) (2)

ブルデュー芸術論の基本構造 講 師 田 中 秀 隆

授業科目の内容：

ビエール・ブルデューは、学校を中心とした不平等構造の指摘や晩年のグローバリゼーションへの反対運動で日本では著名であるが、社会学と美学・文学にまたがる分野でも大きな業績を残しており決して無視することができない。この講義では、芸術社会学的な著作の最後に位置づけられる『芸術の規則』の詳細な読解を通じて、近代的芸術観を相対化する視点のみならず、ブルデュー社会学の基本概念に習熟することを目指す。積極的に課題に答えれば、ブルデューに限らず、理論的大著を読解する力を身につけるトレーニングになると考えている。

テキスト：

・P.ブルデュー 石井洋二郎訳『芸術の規則』1・2 藤原書店

参考書：

・P.ブルデュー 山下雅之訳『美術愛好』木鐸社

人間科学特論（現代日本人のライフスタイルⅠ）(春学期) (2)

講 師 林 光

授業科目の内容：

企業が生活者とコミュニケーションを図ろうとするとき、生活者の価値観やライフスタイルなどを把握していれば有効なコミュニケーションを果たすことが出来る。広告コミュニケーションも、いまや一方向的な情報発信ではこと足らず、マルチな手段と多角的な内容が求められている。生活者研究を 20 年続けてきた立場から、生活者把握の多様な方法とその分析手段から表現方法まで、具体的な例を交えながら考察していきたい。

テキスト：

なし

参考書：

なし

人間科学特論（現代日本人のライフスタイルⅡ）（秋学期）(2)

ライフスタイルの多様化 講 師 本 庄 美 佳

授業科目の内容：

本講義では、女性の社会進出によるライフスタイルの変容と、若い世代のライフスタイルの動向に焦点を当てて、ライフスタイルの多様化について考えています。就職・結婚・出産・育児など若い世代のライフスタイルに大きな影響を与えるトピックについて、小学生の子どもを育てつつ電通総研の主任研究員をしている自分自身の経験も生かし、さまざまな素材を提供していきたいです。また、そういうライフスタイルの多様化がもたらす、社会全体の変化の潮流も一緒に考えたいと思います。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・特に指定しません。講義の際に随時紹介します。

人間科学特論：都市生活と景観Ⅰ（春学期）(2)

自然・人間・都市（人間と自然との相互作用としての景観について）

講 師 高 山 啓 子

授業科目の内容：

「都市の時代」といわれる現代において「景観」は大変重要な課題となっているが、人間にとって景観は、文明の発展、社会の形成などの面で、大変重要な意味を持っていた。

景観建築 (Landscape Architecture)、景観計画 (Landscape Planning)、景観工学 (Landscape Engineering) など景観にかかわる学問は、自然科学、社会・人文科学、芸術、工学などさまざまな分野と関連した「境界領域」(interdisciplinary field) の学問であり、総合的あるいは包括的な (holistic) 分野として、注目されている。現代の世界は、高度な文明の発達段階にあるものの、私たちの住む都市の環境に目をやると、このような文明が私たちの幸福の増進にかならずしも貢献しているとは限らないということに気づく。「景観とは何か」、「人間はどのようにして景観を造ってきたか」、「未来の景観づくりはどうあるべきか」について人間と環境との相互作用としての景観という視点から、欧米などの都市景観の変遷、東京都内のフィールドスタディなどを行いながら都市の環境・景観について実践的に学び、考えていく。

テキスト：

・アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著、高山啓子訳、(環境コミュニケーションズ刊 4,300円)

参考書：

・ヒューマニティ & エンヴァイロメント：I.G. シモンズ著、高山啓子監訳、信山社サイテック刊。I. マックハーグ著、下川辺淳監訳、デザインウイズネイチャー。
・I. マックハーグ共生への哲学、緑の読本 Vol.56 環境コミュニケーションズ刊。他（授業の進行に合わせて紹介）

人間科学特論：都市生活と景観Ⅱ（秋学期）(2)

21世紀の景観創造と新たなライフスタイルの構築

自然との共生、快適性、歴史性・文化性に配慮した都市環境の創造

講 師 高 山 啓 子

授業科目の内容：

現在の都市景観は、さまざまな気候風土を舞台とした人間と自然との相互作用の結果であるが、文明のパラダイムが大きく変化する中、都市景観形成の思想、目標の見直しが迫られている。このような状況下での都市環境ならびに景観形成のあり方について、水と緑など都市の自然環境、インナーシティ、郊外、近郊の田園及び自然地域の景観の保全と形成など、具体的な事例を取り上げながら、時間・空間など様々な角度から考えていく。さらに、これとともに社会・文化的環境と景観、安全性・健康性・快適性と景観などについて、新しい都市づくりの視点を取り上げて検討する。テーマ：「都市の森と広場」「インナーシティ」「郊外」「都市近郊林」など。2回

程度のフィールドスタディ（大名庭園、都市再開発など）を実施する予定。

テキスト：

・景観の言語 (A.W. スパーン著) 環境コミュニケーションズ (7月発行予定)

参考書：

・社会文化史に見る都市の自然と公園緑地（連載）「緑の読本」：高山啓子著、環境コミュニケーションズ刊 Vol.49, 51, 52, 53, 55, 57, 58, 60, 61。
・アーバンエコシステム（自然と共生する都市）：A. スパーン著、高山啓子訳、環境コミュニケーションズ刊。ヒューマニティ & エンヴァイロメント：I.G. シモンズ著、高山啓子監訳、環境コミュニケーションズ刊。

人間科学特論（日本論）（春学期）(2)

日本論と文化ナショナリズム 講 師 丸 楠 恭 一

授業科目の内容：

本講座はいわゆる「日本論」を取り扱います。日本・日本人・日本社会が特殊・異質だという認識を持つ人は多いですが、すべての文化は定義的に何らかの意味で「特殊・異質」なのであり、日本だけが殊更に特殊・異質とみられているとすれば、そこには重要な検討課題が存在するはずです。本講座ではこうした問題意識を踏まえ、主に日本人の手による日本論のうち、日本人に多く読まれ影響を与えたもの、現代日本社会を理解するうえで重要と思われるものを中心にその内容を時代背景等も含めて検討し、これを「文化ナショナリズム」の視点から捉えることを試みます。それを通じて、現代世界における日本の位置づけや日本人・日本社会の行方を受講者各自が考えることができるようになることを目指します。

テキスト：

・特定のテキストは用いません。必要な文献・資料等は、その都度配布します。

参考書：

・『日本文化論』の変容 青木保 中央公論社
・『文化とナショナリズムの社会学—現代日本のアイデンティティの行方』吉野耕作 名古屋大学出版会

人間科学特論（現代社会における宗教と人間）(4)

講 師 由 木 義 文

授業科目の内容：

楯円に二つの中心があるごとく、宗教世界にも二つの中心がある。一つは絶対者であり、もう一つは人間である。本講義では、人間に視点をあて、現代社会における宗教と人間との係わりを考えてみるつもりである。

具体的には、最初、研究の方法論を講じ、次いで宗教を創造する教祖、その教義、ならびにそれを受け入れる信者と社会などの方面より、宗教と人間を講ずる予定である。

テキスト：

・由木義文著『宗教学序説』（朝倉書店）

人間科学演習（文献講読）（春学期集中）(2)

英語論文を読む

教 授 三 井 宏 隆

授業科目の内容：

社会心理学の英語論文の閲読を通して、心理学関連の学術用語の理解、さらには心理学的な物の見方、考え方を習得する。

テキスト：

・三井宏隆・中島崇幸（編）「キーワード検索による社会心理学研究案内」（ナカニシヤ出版、2002年、1700円）

人間科学演習（研究方法論）(2)

教 授 南 隆 男

授業科目の内容：

① 社会学／社会心理学／文化人類学領域での内外の主要学術雑誌

に所載の「学術論文」(academic articles)を講読しながら、「研究する」とはどういうことか、が“実感できる”ように、まずは、なっていくこと！

② 研究という行為を支える「戦略」(Research methods and methodology)を、一年間の授業のなかで、“身につけていく”こと！

以上ふたつのことの実践がこの授業での目的です。

テキスト：

・最初の授業時に指示します。

参考書：

・授業の進展に合わせて、随時、紹介します。

人間科学研究会 I (2)	教 授 南 隆 男
---------------	-----------

授業科目の内容：

わたくしの担当するこの「研究会」は、旧来の“学問の区分け”上の用語に照らせば、広くは「行動科学」と呼ばれていた領域、より限定的には「社会行動論」「組織行動論」「ライフコース論／生涯キャリア発達論」(その“中核的”イシューでもある「セックス・セクシュアリティ」をも含みます)と呼ばれる研究領域をカバーするべく“位置付けられて”います。ですが、そのなかで、どのような事象・問題を具体的にとりあげるかは、履修する学生諸君の意向・興味・関心との関係もあり、「これを」というふうには、現時点(2003年12月時点)では、決めていません。「決めている」のは『研究会』を、教師のわたくしを含めて「われ疑う、ゆえに、われ在り」の『時空間』へと、がんばって近づけて行こう！ということ。

蛇足ですが： よっぽど気をつけないと(教師はもちろんだが学生の諸君も気張らないと)「研究会」(“ゼミ”)って呼ばれる授業は「アタマもダレて来てカラダもナエてくるだけの時空間」に成りがちだ。ゆえに、共に頑張りヤルコトをやり抜きましょう！いつもの通り、一年間の「研究会」活動を通して、三年生は「自己の研究課題」を確定してゆくことに、四年生は「卒業論文」を完成することに、努力を傾注・集中させていきます。

人間科学研究会 II (2)	教 授 南 隆 男
----------------	-----------

授業科目の内容：

- ① 人間科学研究会 I (南)と、基本的には同じ、です。
- ② この「研究会 II」のほうは、四年生用 — 「卒業論文」完成への対応・指導—ということですが、三年生諸君も同席し、“つき合い”ます。

人間科学研究会 I (2)	教 授 三 井 宏 隆
---------------	-------------

授業科目の内容：

研究会 I では、卒業論文作成の準備段階として、社会心理学の基本的な物の見方、考え方を学習する。具体的には、新聞記事を題材とみなして、それらをどのように料理するかを考えるなかで、社会心理学の物の見方・考え方を身につけていくことが、期待されている。

テキスト：

・三井宏隆・中島崇幸(編)「キーワード検索による心理学研究案内」(ナカニシヤ出版、2001年、1800円)

人間科学研究会 II (2)	教 授 三 井 宏 隆
----------------	-------------

授業科目の内容：

研究会 II は、ゼミの4年生が履修する卒論コースである。

履修者は、各自の研究テーマに基づいて卒論をまとめることになるが、年度の途中で何回かの中間発表を求められる。

テキスト：

・三井宏隆ほか「心理学・卒論マニュアル」(垣内出版、1999年、1600円)

人間科学研究会 I (2)	家族・子ども・教育・ジェンダー
教 授 渡 辺 秀 樹	

授業科目の内容：

家族・子ども・ジェンダー・教育を中心に社会学的研究の方法を学習する。

研究会 I では、指定文献を輪読し、議論をする。参加者は、毎回、文献についての予習をし、積極的に議論に参加することが期待される。

研究会 II では、卒業論文に向けて、学生個々の研究発表となる。

テキスト：

・その都度、指示する

参考書：

- ・野々山久也・渡辺秀樹編『家族社会学入門』(1999年)
- ・渡辺秀樹編『変容する家族と子ども』(1999年)
- ・目黒依子・渡辺秀樹編『講座社会学 2, 家族』(1999年)
- ・渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編『現代家族の構造と変容』(2004年)

人間科学研究会 II (2)	卒業論文指導
教 授 渡 辺 秀 樹	

授業科目の内容：

研究会 I を参照のこと

人間科学研究会 I (2)	教 授 鹿 又 伸 夫
---------------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的な不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

テキスト：

・授業で指示する。

人間科学研究会 II (2)	教 授 鹿 又 伸 夫
----------------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では、現代社会の変動について社会学の立場から検討する。本年度は、とくに社会的な不平等にかかわる諸問題を取りあげる。具体的には、高学歴化と学歴社会論、女性の就業とジェンダー格差、所得などの経済的格差などを取りあげる。

テキスト：

・授業で指示する。

人間科学研究会 I (3年生) (2)	人間科学研究会 II (4年生) (2)
助教授 小 林 ポオル	

授業科目の内容：

我々を取りまく様々な事物はその表面的な現れ・機能とは別の働きかけを人間に対して行っている。もちろんそれらの事物 — 現代の環境 — を作ってきたのは人間の側であるが、当初想定された機能と環境に組み込まれた現実のそれとは往々にして一致していない。現実には、ほとんどの環境は結果として形成されたものであって、比較的小さな個別的な変化が集積されることにより全く異質の機能を獲得したものである。

このような環境は単に科学技術のみの力によって形成されて来たわけではない。むしろ現代に至る科学技術の発展の原動力となったものが、この環境の変化をも支えてきたと考えるのが妥当であろう。そこでこれがどのような機制によって変遷を遂げて来たのか、またこの過程で起こった人間の側の反発・抵抗がどのような形で現れたかということを探ることからこの原動力と科学技術・現代の環境の間の関係を認識し、その上で我々にとっての人間的な環境を追求することを課題とする。

授業科目の内容：

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会 I (3 年次) では、社会学の重要なテーマである「秩序問題」について、理論社会学、犯罪学、逸脱行動論、法と経済学等多様な視点から議論を深めてゆく。

研究会 II (4 年次) では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

授業科目の内容：

この研究会では、社会学的な視点から、人間にかかわる様々な事象を分析的・科学的にとらえていく方法を身につけていくことを、ゆるやかな目標として設定しておきたいと思う。

研究会 I (3 年次) では、社会学の重要なテーマである「秩序問題」について、理論社会学、犯罪学、逸脱行動論、法と経済学等多様な視点から議論を深めてゆく。

研究会 II (4 年次) では、各自の卒業論文に向けての研究を、発表し、議論をする。

授業科目の内容：

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミは互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとした場でありたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト：

・共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキストは何かを探求するために、時間を費やさなければならない。

参考書：

- ・石井達郎『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』（以上、新宿書房）
- ・石井達郎『アウラを放つ闇』（パルコ出版）
- ・石井達郎『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』（以上、青弓社）
- ・ラリイ・マキャフリイ『アヴァン・ポップ』（筑摩書房）
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社）
- ・市川雅『行為と肉体』（田端書店）、
- ・『シリーズ 性を問う』全 5 巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

授業科目の内容：

卒業論文の計画と作成が主な作業である。以下の内容は、研究会 I と同じである。

1) セクシュアリティ 2) 身体 3) パフォーマンスという大枠のテーマから、ゼミ参加者は自分が関心のある具体的な研究テーマを設定し、探求する。ゼミは発表と討論により進行する。ゼミはお互いの研究テーマを交換し、自由に意見を言いあう生き生きとした場であ

りたい。研究テーマの例として、以下のようなものが考えられる。

- 1) セクシュアリティ：トランスジェンダーの文化、ゲイ・レズビアニズム
- 2) 身体：刺青、身体変工、化粧、ファッション、去勢、フェミニズムと身体論
- 3) パフォーマンス：舞踊論、演技論、非言語コミュニケーション、パフォーマンスアート

テキスト：

・共通のテキストはない。各人が自分の研究にとって良いテキストは何かを探求するために、時間を費やさなければならない。

参考書：

- ・石井達郎『異装のセクシュアリティ』『サーカスのフィルモロジー』（以上、新宿書房）
- ・石井達郎『アウラを放つ闇』（パルコ出版）
- ・石井達郎『男装論』『アジア、旅と身体のコスモス』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』（以上、青弓社）
- ・ラリイ・マキャフリイ『アヴァン・ポップ』（筑摩書房）
- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社）
- ・市川雅『行為と肉体』（田端書店）、
- ・『シリーズ 性を問う』全 5 巻 専修大学出版局
- ・雑誌『化粧文化』

授業科目の内容：

本研究会では、2 年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には、社会心理学のテキストを講読して基礎的な知識を習得した後、秋学期には各自が関心のあるテーマを選んで、関連する文献を選んで発表を繰り返し、それに関する議論を通じて卒業論文の準備を進める。

テキスト：

・社会心理学のテキストを 2 冊ほど指定する

参考書：

・研究法に関する文献を指定する

授業科目の内容：

本研究会では、2 年間の研究活動を通じて各自が選んだテーマの理解を深め、その成果を卒業論文に結実させることを目的としている。春学期には、3 年生を中心に社会心理学のテキストを講読することになるが、4 年生は、昨年度からの研究テーマを掘り下げて、卒業論文制作の準備を具体的に進め、適宜、進行状況を発表する。

テキスト：

・社会心理学のテキストを 2 冊ほど指定する

参考書：

・研究法に関する文献を指定する

※共通科目については、後述の「全専攻共通科目」を参照

全 専 攻 共 通 科 目

現在、文学部は 5 学科 17 専攻を擁する。そのため、そのいずれかに所属する学生諸君はともすれば狭い専門分野にとらわれて、知識や学問に対する広い展望を見失いがちである。そうした不足を補い、学生諸君がより自由で柔軟な知的態度を身につけることができるようにと文学部が考え設置したのが全専攻共通科目である。特定の専攻分野に属さないもの、あるテーマを専攻横断的に扱うもの、諸種の語学、記念・寄附講座として設置されているものなど内容は多岐にわたるが、この多様と混沌にこそ、ある意味では文学部の真骨頂があり、さらには人間そのものの本質があると言えるのではないだろうか。学生諸君はどうかアンテナの数を増やし、感度を高めて、これらの科目の中からこれはというような発見や出会いや感動を拾い出していただきたいと思う。なお、全専攻共通科目は総合教育科目の系列外科目としても履修することができる。

ロシア文学 (4)

20 世紀ロシア語小説

講 師 沼 野 恭 子

授業科目の内容：

20 世紀のロシアは、革命、内戦、スターリン時代、第二次世界大戦、雪どけ、停滞期、ベレストロイカ…と激しい社会変動を体験します。それにともなつてロシア語文学は、本国で出版された文学と亡命文学、社会主義リアリズム文学と反体制文学、多民族の文学などと複雑な様相を呈します。本講義では、こうした事情を具体的な作品に即してわかりやすく解説し、20 世紀のロシア語小説について理解を深めていきます。

テキスト：

- ・講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・川端香男里編『ロシア文学史』（東京大学出版会）

比較文学 I (4)

休 講

比較文学 II (4)

翻訳時の愉しみ

講 師 菅 原 克 也

授業科目の内容：

〔春学期〕

はじめに「翻訳」を論じるための基本的概念を紹介し、種々の実例をもとに理論的考察をおこなう。次に、ヨーロッパ言語で書かれた詩の詩法の一例として、英詩のプロソディに関する基本的知識を紹介し、ヨーロッパ言語で書かれた詩を日本語に翻訳する際に予想される問題点を整理する。その上で、日本近代の訳詩集から『新体詩抄』、森鷗外『於母影』、上田敏『海潮音』を取りあげ、原詩を対照しつつ、具体的に作品を読み味わう。

〔秋学期〕

春学期の講義内容をふまえつつ、日本近代翻訳史上、代表的な訳詩集である上田敏『海潮音』、永井荷風『珊瑚集』、堀口大祐『月下の一群』をはじめ、佐藤春夫、井伏鱒二、山内義雄、小林秀雄、西脇順三郎、金子光晴らの訳詩を取りあげ、原詩との対照をもおこないつつ、こまやかに読み味わう。

参考書：

- ・『上田敏全訳詩集』（岩波文庫）『珊瑚集』（岩波文庫）『月下の一群』（講談社文芸文庫）

名著研究 I (独) (2)

講 師 針 谷 寛

授業科目の内容：

1830～40 年代ドイツの初期社会主義の理論的文献を読む。テキストは受講希望者と会ってから決めるが、ヴァイトリングやヘスの著作の中から選ぶ予定。そこで使われている言葉がその時代の中でもっていた意味を手繰りながら読むことに留意する。

名著研究 II (仏) (2)

休 講

演 劇 史 (4)

滅亡した日本演劇の歴史〔春学期〕

助教授 石 川 透

西洋演劇の流れ〔秋学期〕

理工学部 助教授 小 菅 隼 人

〔春学期〕

授業科目の内容：

現在、世界各地には、さまざまな種類の演劇が伝えられ、演じられている。しかし、これまでの歴史の中で、埋もれてしまい、現在演じられていない演劇も数多く存在している。本講義では、それらのうち、特に日本の古典の作品を取り上げ、いかに作られ、いかに滅んだか、あるいは、どのように、それが再現されるのかを、現存する演劇や資料と関わらせて考えてみたい。

〔秋学期〕

授業科目の内容：

演劇の世界では日々新しい上演が生み出されつつ、同時に、各地域に過去の文化的財産として戯曲や上演伝統が残されています。しかし、どのようなものであっても劇が演じられる時は、常に、目の前に繰り広げられるイベントとして「観客」は舞台の構成要素となります。劇場には、戯曲と俳優と観客が常に同時に存在しているのです。また、演劇においては、言語芸術の要素が舞踊・音楽・美術の要素と半ば整然と、半ば乱雑に混じりつつ総合芸術となります。したがって、演劇史は劇文学の歴史であると同時に、上演と鑑賞の歴史ともなります。この考え方に立つて、秋学期の講義では、主として西洋演劇の流れを言語や地域の枠に限定せず、総合的に扱います。演劇のドラマとしての側面は、映画・テレビ・オペラ・ミュージカルなど様々な芸術と理念を共有するはずですし、パフォーマンスとしての側面は政治・経済・法律・社会・スポーツにおいても見出せるでしょう。その意味では、演劇を知ることは、世界の見方を知ることであります。狭い意味での演劇に限らず、広く演劇的な現象に興味を持つ学生諸君の受講を歓迎します。

テキスト：

- ・プリントを配布します。

参考書：

- ・講義中指示します。

映画演劇論 I (秋学期) (2)

創造の苦しみと欲びをつかむ

講 師 佐 野 語 郎

授業科目の内容：

優れた舞台や映画を観た時の感動はどこから来るのでしょうか？劇作家や映画監督など作り手のエネルギーや精神、私たち受け手側に内在するもの、さらに、両者が共有する時代や社会状況にその源が

在るに違いありません。この講義では、まず、数人の劇作家や演出家、映画監督の仕事を通して、創作の苦闘と欲びをつかみ取っていきたいと思います。さらに、日本と外国の名作戯曲を選び、その作品構造を明らかにし、表現上の技巧を学びます。作品の魅力を具体的に鑑賞するために、上演された舞台や映画化されたビデオも上映します。また、日本演劇学会で発表した「単位制総合高校における演劇の授業」の実践内容を紹介し、脚本・演出・演技の創造過程を解き明かします。

テキスト：

- ・講義資料プリントを配布します。文庫本 2 冊を教材として使用する予定です。

映画演劇論 II (春学期) (2)

日本映画の起源：戦前篇 商学部 教 授 橋 本 順 一

授業科目の内容：

昨年は小津安二郎生誕 100 年に当たる年で、回顧上映・TV での回顧放映の機会も多く、また国際シンポジウムも華々しく開催されたが、わが国が世界に誇るシネアストは彼一人に尽きるものではなく、キラ星のごとき才能は小津も含め、戦前からすでに開花していたのである。しかし、戦時下の体制とその後の占領時代が穿った大きな空白（もしくは暗黒）を境として、日本人の価値観の体系（イデオロギーとは呼ぶまい）は一変し、それと同時に、戦前の政治体制を忌避する余りであろうか、その体制下で製作された作品群は顧みられなくなってしまった。

外国人の評価によって見直される、という機会が訪れるまでは顧みられないであろうこうした作品群を忘却と偏見から救い、現代的な視線のもとに蘇生させ、合わせて「日本的」なるものの本質を問い直すことが本講義の目的である。（秋学期の講義に引き継がれるが、別個に履修できる。）

テキスト：

- ・特になし

参考書：

- ・授業で指示

映画演劇論 III (2) (春学期)

舞踊に関する概念、思想 講 師 松 澤 慶 信

授業科目の内容：

観客の鑑賞を前提にする、劇場芸術としてのバレエやダンスに代表される西洋舞踊を紹介し考察する。しかしここでは舞踊史学のように歴史時間的に時代を追って舞踊の変遷をたどるというよりも、舞踊作品の構造や舞踊ジャンルの特異性など、舞踊という現象および舞踊作品に内在する根本的問題をいくつか取り上げて、それらに美学芸術学的な検討を試みるものである。したがってたんに舞踊にとどまらず、パフォーマンス・アーツ全般に関する基本的な問題点も呈示されることになるだろう。

テキスト：

- ・特になし 授業中にプリントを適宜配布する。文献にも留意して授業時に紹介する。

参考書：

- ・特になし 授業中にプリントを適宜配布する。文献にも留意して授業時に紹介する。

映画演劇論 IV (秋学期) (2)

日本映画の起源：戦後篇 商学部 教 授 橋 本 順 一

授業科目の内容：

終戦後目覚ましい発展を遂げた日本映画は、映画それ自体の「芸術」としての発展の証拠としてではなく、しばしば戦後の日本史（政治史・社会史）と関連づけて論じられてきた。高度経済成長が始まるまでの戦後日本は、極めて政治的な激動の季節を万人が生きていたからであろう。実際、映画に関わることは、多かれ少なかれ政治や社会問題に関わることもあった。それとは別に、政治参加・社会告発を旗印にしようがしまいが、日本人の精神や感受性が、戦

後民主主義の導入という未曾有の体験によって揺すぶられ、経済復興というどめようのない力学が日本の風景を破壊し塗り替えてしまったその軌跡が、戦後映画に刻印されているのも事実である。

占領軍の禁止が解かれて製作を再開した、きわめて日本的なジャンルである時代劇（＝チャンバラ映画）にも戦後社会の変化は色濃く滲み出ている。小津好きの外国人ならばおそらく見向きもしないこの日本特有の活劇ジャンルは、東映の任侠ものに引き継がれるのであるが、このジャンルの盛衰は、日本人の精神のありようと小津作品以上に関わりが深いと思われる。

外国人の評価によって見直される、という機会がおそらくは永遠に訪れないであろうこうした作品群を忘却と偏見から救い、現代的な視線のもとに蘇生させ、合わせて「日本的」なるものの本質を問い直すことが本講義の目的である。（学期の講義の統講となるが、別個に履修できる。）

テキスト：

- ・特になし

参考書：

- ・授業で指示。

日本演劇論 (4)

講 師 渡 辺 保

授業科目の内容：

日本の古典演劇の特徴の一つは、現代劇における演技と違って、「芸」を基本にしていることである。「芸」と「演技」は、俳優の表現上全く違う方法論であり、「芸」の概念は、日本文化を解くキーワードの一つである。

その「芸」の実態を、いまは亡き名優名人たちの映像によってあきらかにしていきたい。この規範を知ること、この実質を知ることが、日本の古典演劇のみならず、日本文化を理解する要諦だからである。例えば、能の梅若実、人形浄瑠璃の豊竹山城少掾、歌舞伎の初代中村吉右衛門の芸の基本を知ることが、これらの古典劇を知るための重要なポイントである。

文章と表現 (4)

文学の現場からの報告

講 師 加 藤 宗 哉

授業科目の内容：

プロの文章とアマチュアの文章には違いがある。プロの書き手たちは暗黙の約束ごとに従って文章を書いている。その約束ごとを本講では説明する。文章は才能で書くのではなくテクニックで書く。具体的には「漢語・和語・外来語の使い分け」「オノマトペ・常套語・記号の危険性」に始まり、「いかに書き隠すか」まで、文学の現場でつねに問われる問題を紹介したい。

テキスト：

- ・コピーを配布します

参考書：

- ・季刊文芸誌「三田文学」

西洋古典学 (4)

教 授 西 村 太 良

エウリーピデースの悲劇におけるトロイア戦争

授業科目の内容：

エウリーピデースの悲劇は当初から様々な論争的となってきたが、残された作品の多くはトロイア戦争に係わりを持つテーマを素材としている。今年はこれらの作品を順次取り上げ、作品間の関連、同時代の政治情勢との関わり、作品の背後に看取される社会的規範、さらには紀元前 5 世紀のアテネにおけるトロイア戦争の意味などについて考えてみたい。参考書等は授業中に紹介していくが、随時プリントを配布する。

ライフサイエンス (4)

休 講

比較精神史 (4)

英語で行う、4人の担当者によるオムニバス授業

助教授 高橋 宣也
助教授 納富 信留
助手 吉田 恭子
助手 北中 淳子

授業科目の内容：

授業では英語のみを用いますが、帰国子女ではない学生を対象とします。自分たちの問題意識を英語によって表明し、討論を行うことによって、英語の能力を鍛えることを目指します。必ずしも英会話が得意でなくとも、英語の運用と英語による意見の発信に関心のある方の参加を期待します。哲学、人間科学、アメリカ文学、イギリス文学の各専攻の教員がそれぞれの関心事をテーマに設定するので、種々の問題について刺激を受ける機会となるでしょう。

漢文講読 I (2)

伝記や批評を読み、唐詩について考える

講師 今原 和正

授業科目の内容：

すでに英語を学んでいる皆さんにとって、漢文の語法はそれほど難しいものではありません。漢文読解の難しさは、ひとつひとつの語の意味を吟味することにあります。授業では、返り点のうってない文章に「語釈」を付け、それにもとづいて文意を読みとり、自分で返り点をうつ練習をします。また、あわせて唐詩全般についての知識を身につけるとともに、通説にとらわれずに詩の解釈をするおもしろさを味わってもらおうと思っています。伝記資料としては「全唐詩小伝」、批評資料としては「唐詩鏡」の評語が主となります。とりあげる作品は初唐から晩唐までの比較的有名なものとししました。

テキスト：

・講義資料プリントを配布します。

参考書：

・『唐詩鑑賞辞典』（前野直彬編）
・『漢文まとめと要点』（森野繁夫等・白帝社）
・『唐代の詩人—その伝記』（小川環樹編・大修館書店）

漢文講読 II (2)

講師 吉永 壮介

授業科目の内容：

『後漢書』『三国志』『晋書』の列伝より何篇かを選び精読し、後漢末から三国、晋にかけての知識人のあり方について考察します。授業は演習形式と講義形式を併用し、漢文法の基礎を確認すると同時に、中国の古典を読む際に必要となる地理・人物・書物等を検索する工具書も随時紹介します。

テキスト：

・プリント使用

英語上級 II (2)

Understanding Drama

講師 竹中 弥生

授業科目の内容：

The ultimate goal of the course is to make students enjoy drama. However, in order to enjoy, one must be able to understand. Therefore, the course will focus on understanding what drama is and how it is made. Each semester, students will read and interpret two to three plays in English (or in English translation) written by world's leading playwrights. The classes will be conducted mainly through class discussion, oral report and group work. Further, students will be required to keep a record of each class to be submitted at the end of each semester.

テキスト：

・ *Oedipus Tyrannus*, Sophocles, Eikosha (英光社)
・ *An Inspector Calls*, J.B. Priestly, Seibido (成美堂)

・ Other texts will be handed out or indicated during class.

英語上級 II (2)

Discussion & Analysis

講師 マラバーン, キース

授業科目の内容：

In this discussion course, video materials consisting of TV and movie extracts as well as recent news articles will form the basis for discussion. Together the class will consider their attitudes and values in relation to a variety of current issues in society. Classroom activities will also include text analysis, vocabulary development and project work. Students will be expected to choose many of the topics for discussion themselves.

テキスト：

・ Course materials to be provided by the teacher.

英語上級 II (2)

DISCUSSION-Advanced course

講師 ハスケル, デル R.

授業科目の内容：

Students must be able to express themselves clearly and confidently in English to participate in this course. Admission to the course will depend on a self-introduction by each student in the first class. We will be discussing a variety of social, cultural and political topics, which will be selected by students at the start of the course.

Class activities will include video viewing, reading, discussion and exchanging opinions. Student presentations each semester will focus on topics chosen by students using a variety of media, presenting relevant information and expressing opinions.

テキスト：

・ All material will be provided by the course instructor.

英語上級 II (2)

“Advanced English for Returnees”

講師 佐藤 ジャックリーヌ

授業科目の内容：

A person's proficiency in a language does not stay static, no matter how much we think or hope it does. It needs to be coddled, worked at and most of all, used—to either be maintained at OR progress beyond its present level. This course is intended to accomplish that with activities involving full use of the language skills you already possess. Be prepared to discuss, to argue, to debate—in short, to keep thinking in the language. Although topics and activities will be decided according to the composition of the class, the objective remains the same...students should expect to be totally involved in the carrying out of any assignment. Presentations, formal and informal, will require some research.

テキスト：

・ Teaching Materials: No required text

英語インテンシブ III (4)

Intensive English

助教授 スネル, ウィリアム J.

Discussing and Writing About Donald Keene's Autobiography

講師 ウェブスター, ダニエル

(スネル)

授業科目の内容：

This will be in course in English debating, covering a number of issues relevant to the present day in Japan and the rest of the world. Topics will be given each week, which must be researched before debate activities in the classroom.

テキスト：

・ No set text is required for this course, but advice regarding how to

research the above topics will be provided on a regular basis. Students will need to keep a notebook / file in which to record their research and notes in preparation for debates.

参考書：

・ Ditto the above, but a good English-Japanese / Japanese-English dictionary will be very useful.

(ウェブスター)

授業科目の内容：

Donald Keene is thought to be one of the best translators of Japanese Literature into English, and is also among the foremost interpreters of Japanese culture in general to the English-speaking world. In this class, we are going to read, discuss, and write about his autobiography, "On Familiar Terms: To Japan and Back, A Lifetime Across Cultures." This course should be of interest to those students who wish to improve their ability speak and write in English about Japanese society and culture.

参考書：

Please bring a good Japanese-English/English-Japanese dictionary to each class.

Arrangements will be made regarding the text on the first day of class.

英語インテンシブ II (4)

Writing and Listening for TOEFL	助 手 吉 田 恭 子
TOEFL PRACTICE COURSE	講 師 星 美 季

(吉田)

授業科目の内容：

This course aims at improving students' skills in essay writing and listening comprehension. It will focus on practical exercises for TOEFL, which the participants are required to take. Every week, you will write a brief essay in class and proofread your classmates' essays as well so as to develop an eye for revision. There are also intensive listening practices every week. The class will be conducted in English, so we do not limit our activities and exercises to writing and listening only-you will have to read and speak in English, too. Your active participation is essential to your success.

テキスト：

・ Lin Lougheed, *Learn to Listen Student Book 3*, Macmillan Language House, 2003. Other materials are provided in photocopies.

参考書：

・ 宮前一廣『コンピュータ受験対応 TOEFLテスト完全対策』The Japan Times, 2002.

(星)

授業科目の内容：

実際に外国で暮らしたり、英語でコミュニケーションを計ろうとする学生を対象に、ティームティーチングにより「使える英語」の習得を目指します。複数のテキストないし教材を使って、読解力を高める一方、語彙、語法に関する増強を行います。TOEFL受験のための準備講座ではありませんが、TOEFL受験を義務とし、TOEFL210~250点(550~600)を目標とします。

テキスト：

・ 初回の授業で提示します。その他各種プリントを配布します。

参考書：

・ 初回の授業で提示します。

ドイツ語(初級)(2)

講 師 中 村 仁

授業科目の内容：

この授業では、初級文法の学習を通して、易しいドイツ語の文章を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりできるようになることを目標とします。

テキスト：

・ 開講時に指示します。

論文フランス語(初級)

初級フランス語文法

教 授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

フランス語を初めて学ぶ学生を対象に初級文法を教えます。一年間でやさしいフランス語の読み物が読めるようになります。

テキスト：

・ 鹿島晃一：フランス語の基本ルール<文法のとびき>、駿河台出版社。

・ できたら付属の発音カセット・テープも購入してください。

参考書：

・ プチ・ロワイヤル仏和辞典、旺文社。

論文フランス語入門(中級)

専門はどうであれ、研究や仕事に仏語論文読解を

必要としている人のための授業 教 授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

昨今、学生諸君の間には、学部や修士の論文執筆のために、第3外国語としてのフランス語を学びたいという者が増えている。「論文フランス語入門」は、そういうモチベーションが高い学生を対象とし、2年間で論文の読解が何とか出来るようになるレベルにまでお世話することを約束するものである。本「中級」クラスは、昨年度「論文フランス語入門(初級)」を履修した者、それ以外にも、文学部および文学研究科、他学部、および他研究科に在籍する学生で、初級フランス語の既習者であり、かつ卒業論文執筆や修士以上の論文執筆にフランス語文献の読解を必要としている者を対象とする。むろん、フランス文学専攻の学部生で、大学院への進学を考えている者にも有益だろう。

テキスト：

・ 適当な教科書がないので、コピーに頼るしかなさそうである。

参考書：

・ 必掲の仏語辞典として、Petit RobertのCDR版を薦めたい。

中国語(初級)(2)

助教授(有期) 表 野 和 江

授業科目の内容：

初級文法を学習します。覚えた文法を用いて会話・作文の反復練習を行い、定着を目指します。

テキスト：

・ 話す中国語—スリム版—(遠藤光暁, 朝日出版社)

参考書：

・ Why? にこたえるはじめての中国語の文法書

中国語(上級)(2)

講 師 陳 浩

授業科目の内容：

本講義はビデオ、オーディオ教材を用いて少し高いレベルの中国語会話を学んでいきます。学習者に中国語の社会状況、文化、風土、人情及び中国人の考え方などについて、中国語で議論出来る能力を身につけ、中国の世界を作り、豊富な表現力を養成したいです。

テキスト：

・ 開講する時学習者のレベルによって決める。

参考書：

なし

中国語会話 I (2)

講 師 小 松 嵐

授業科目の内容：

会話の習得を通じて、中国語の基礎を固め、聞く、話す能力のレベルアップを目指します。

授業時中国語を多く使用し、応対力、表現力を高めるための会話

練習も多く取り入れる考えです。

テキスト：
未定

中国語会話Ⅱ(2)	講師 余 文 青
-----------	----------

授業科目の内容：

本課程の教学目標は学生掌握了一定的の词汇，语法和句式以后，训练学生如何得体地表达自己地想法，提高学生成段表达能力。教材用北京语言大学编的（口语速成提高篇）。教学步骤如下：

- ・训练学生如何用归纳的方法表达一件事情。
- ・训练学生如何转述别人的观点。
- ・训练学生如何统一话题发表不同的看法。
- ・帮助学生掌握一些口语习惯用法。
- ・随时介绍一些中国文化知识，丰富学生的口语表达内涵。

成绩评价的方法： 出席情况，学生作业，期末考试成绩的综合评定。

テキスト：
・プリント

中国語会話Ⅲ(2)	講師 八 木 麗 媚
-----------	------------

授業科目の内容：

発音，会話を中心に広東語の基礎を学びます。基本的文法事項を習得し，簡単な日常会話ができることを目標とします。

テキスト：
・初回の授業で指示します。

中国語会話Ⅳ(2)	講師 小 松 嵐
-----------	----------

授業科目の内容：

入門・初心者向けの閩南語（台湾語）会話クラスです。

「閩」は福建省の古名で，閩地方東南部に分布する言語は閩南語と称されます。同系の閩南語が福建省外及び東南アジア，台湾にも分布しております。台湾では住民の60％以上が閩南語を話すことができることから，台湾第二の公用語とも言われます。本授業は閩南語の音声体系をはじめ，教会ローマ字表記法及び簡単な日常会話をおぼえ，閩南語のことわざや歌も取り入れたいと思います。

テキスト：
・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：
・樋口靖『台湾語会話』（東方書店）

ロシア語（初級）(2)	講師 佐 野 朝 子
-------------	------------

授業科目の内容：

初めてロシア語を学ぶ者を対象とした週一回のクラスです。一年間で基礎文法を終了し，平易なテキストを辞書を使って読んでいきます。

テキスト：
・白水社「ロシア語初級クラス」
・他にプリントを配布します

ロシア語（中級）(2)	講師 佐 野 朝 子
-------------	------------

授業科目の内容：

ロシア語文法をひととおり終了した者を対象とするクラスです。文法を復習しながら現代ロシア語文を正確に読む力をつけていきたいと思います。

テキスト：
・プリントを配布します。

ロシア語（上級）(2)	講師 金 沢 大 東
-------------	------------

授業科目の内容：

日本人に得意な《移動の動詞》の用法，数詞の格変化，副動詞，形動詞の作り方と用法を中心に授業を行う。

テキスト：
・ロシア語教程Ⅱ（東京ロシア語学院，1999年，1800円）

ロシア語（特級）(2)	講師 金 沢 大 東
-------------	------------

授業科目の内容：

上級よりも幾分複雑で高度な内容の，口頭での露文和訳，和文露訳，及びロシア語作文を行う。

テキスト：
・プリント

朝鮮語（初級）(2)	講師 崔 鶴 山
------------	----------

授業科目の内容：

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず，発音と文字体系，文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが，文の構造や語順，漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため，特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により，自己紹介，日常の簡単なやりとり，日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点，出席を重視します。

テキスト：
・「はじめての韓国語」崔鶴山著，白水社

朝鮮語（中級）(2)	講師 李 泰 文
------------	----------

授業科目の内容：

この中級は，1年ほど学習し，基本的な文章体，口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には，現在・過去・未来といった時制や変則活用，連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト：
・慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：
・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版部
・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝鮮語（中級）(2)	教授 野 村 伸 一
------------	------------

授業科目の内容：

この中級は，1年ほど学習し，基本的な文章体，口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には，現在・過去・未来といった時制や変則活用，連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト：
・慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）

参考書：
・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版部
・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝鮮語（上級）(2)	教授 野 村 伸 一
------------	------------

授業科目の内容：

本塾の朝鮮語10単位を終えたていどの学習者を対象とする。具体的には新聞や論文を自力で読み解けることが前提となる。授業では，映画などの映像資料をみながら，そのシナリオを読む。

テキスト：
・いくつかの映像作品・シナリオのなかから選定する。昨年度は

『八月のクリスマス』『JSA』を使用。

イタリア語（初級）(2)	講 師	ジョエ, イニャツィオ
--------------	-----	-------------

授業科目の内容：

初心者向けの会話クラス。

テキスト：

・『エスプレッソ Espresso』

参考書：

辞書：プログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

参考書：『イタリア語の ABC』（白水社）

『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

『イタリア語を学ぶ』（PHP 新書）

イタリア語（初級）(2)	講 師	フォルミサノ, カルラ
--------------	-----	-------------

授業科目の内容：

日吉で「イタリア語入門」を履修した学生、あるいは直説法近過去までの知識があるていどの学生を対象とする会話クラスです。

テキスト：

・『リネア・ディレッタ Linea Diretta』（Guerra）

参考書：

辞書：プログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

参考書：『イタリア語の ABC』（白水社）

『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

『イタリア語を学ぶ』（PHP 新書）

イタリア語（初級）(2)	講 師	望 月 一 史
--------------	-----	---------

授業科目の内容：

実践的な会話表現をベースにしたテキストで、初級イタリア語文法の概略を系統的に学びます。

テキスト：

・『らくらくマスターイタリア語』（郁文堂）

参考書：

辞書：プログレッシブ伊和・和伊辞典（小学館）

参考書：『イタリア語の ABC』（白水社）

『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

『イタリア語を学ぶ』（PHP 新書）

イタリア語（中級）(2)	講 師	竹 内 マテルダ
--------------	-----	----------

授業科目の内容：

昨年度の「イタリア語初級」（会話クラス）に引き続き、さまざまな会話表現、作文などの実践練習を行います。

テキスト：

・『Linea Diretta』（Guerra）

参考書：

・『イタリア語の ABC』（白水社）

・『1からはじめるイタリア語練習』（白水社）

イタリア語（上級）(2)	講 師	フォルミサノ, カルラ
--------------	-----	-------------

授業科目の内容：

Il corso prevede l'approfondimento delle funzioni comunicative e l'introduzione di ulteriori registri della lingua parlata e scritta.

Si cercherà di sviluppare le quattro abilità linguistiche (ascoltare, parlare, leggere e scrivere) utilizzando brani tratti dal panorama letterario e subculturale moderno (giornali, riviste, fumetti, saggi, romanzi) e vedendo filmati originali di TV italiana. Per un migliore svolgimento della lezione è auspicabile una partecipazione costante, e soprattutto attiva, da parte degli studenti.

テキスト：

・プリント

イタリア文学演習 (2)	教 授	白 崎 容 子
--------------	-----	---------

授業科目の内容：

今年度初めて開講される科目ということもあるので、とりあえず、イタリア文学のおおよその流れを時代を追いつつ把握するところから始めたいと思います。あわせて、主要な作品にじかにふれていきますが、その際、今年度は日本語訳も併用します。さいわい、古典から現代作家にいたるまで、すぐれた翻訳のある作品は少なくありません。まずは日本語を窓口にしてイタリア文学の世界を覗いてみることにしましょう。

また、狭義の文学にこだわらず、映画や音楽の分野も視野におさめながら授業をすすめる予定です。

テキスト：

・プリント

参考書：

・『イタリア文学史』（東京大学出版会）

・『カルヴィーノの文学講義』（朝日新聞社）

・I.カルヴィーノ『水に流して』（朝日新聞社）

・I.カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』（みすず書房）

・『エーコの文学講義』（岩波書店）

・『文学の子どもたち』（慶應義塾大学出版会）

特別イタリア語 (2)	講 師	堤 康 徳
-------------	-----	-------

授業科目の内容：

さまざまなジャンルのイタリア語の文章を読み、正確にその内容を把握することを第一の目標とします。春学期は、昔話や神話などを中心に、秋学期は短編小説を講読の中心にします。また1年を通じて、文化、サッカーなど分野を問わず興味深い新聞記事を読むつもりです。

テキスト：

・プリントを配布します。

スペイン語（初級）(2)	講 師	敦 賀 公 子
--------------	-----	---------

授業科目の内容：

この授業は、既に初級文法を一通り学習した学生や初めてスペイン語を学ぶ学生を対象として、スペイン語の初級文法の修得に主眼をおき、平易な内容の文章ならば辞書をひきながら訳読できるようになるのを目標とします。スペイン語を既に履修したことのある学生にとっては、文法の総復習となり、また初めて学ぶ学生にとってはスペイン語とスペイン語圏理解の導入となるよう進めていきたいと思っています。

テキスト：

・ギジェルモ吉川、渕上英二共著『わかるスペイン語入門 ― 文法・演習・ラテンアメリカの話題』（芸林書房、2004年、2000円）

参考書：

・宮本博司 著『超入門スペイン語』（大学書林）

・大貫良夫他 監修『ラテン・アメリカを知る事典』（平凡社）

・『西和辞典』（小学館、白水社 他）

スペイン語（中級）(2)	ラテンアメリカの文化と社会（読解中級） 助教授（有期）	禪 野 美 帆
--------------	--------------------------------	---------

授業科目の内容：

この授業はスペイン語Ⅱを修了した学生、もしくはそれと同等の読解力を有する学生を対象とします。これまで得た文法の知識を応用し、おもに読解力を上げると同時に、ラテンアメリカの文化と社会を理解することを目的として、新聞や雑誌記事を読みます。また民族学や歴史学に関連するテキストも使用します。折に触れ、書かれていることの背景、すなわち、社会事情についても解説します。何回かはビデオも使用します。教材については第一回目の授業でお話ししますが、授業中に配布するプリントが中心となります。授業

は学生の予習が前提となります。必ず予習を行い、宿題を終えてきてください。成績評価は、おもに年数回の試験成績によりますが、授業中発揮される読解力も考慮します。出席回数が年間 3 分の 2 に満たない場合は、成績評価の対象外とします。

テキスト：

・なし。コピー教材を使用する。

参考書：

・授業中に紹介する。

スペイン語圏文化研究 (2)

現代スペイン文化

助教授 坂 田 幸 子

授業科目の内容：

軍事独裁政権が終わり、民政移管が行われた 1975 年以降、スペインは社会においても文化においても激変の時代を迎えます。主にこの時代のスペインを対象とし、社会と文化に関する豊富な資料に接し、それらを比較・検討する作業を通じて、現代スペインで進行しつつある文化的事象についての理解を深めます。

テキスト：

・適宜、プリントを配布。

参考書：

・授業中に指示します。

ラテン語 (初級) (2)

古典期のラテン語文法学習

講 師 平 田 眞

授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：

・樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』（研究社）

参考書：

・逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』（大修館書店）

ラテン語 (中級) (2)

法学部 教 授 マクリン、ニール

授業科目の内容：

In this class we shall develop the ability to read classical Latin texts in the original. A basic knowledge of grammar will be assumed. The choice of texts will depend on the interests of the students.

The class will be given in Japanese or English, according to student preference; students are welcome to use Japanese but must not be afraid to hear some English being spoken by their teacher.

ラテン語 (上級) (2)

講 師 平 田 眞

初等文法を終えた人のための原典講読クラス。年度によって、散文か詩文を読む。

授業科目の内容：

散文の場合は、キケロ、カエサル、タキトゥス等から、詩文の場合は、オウィディウス等から一作品を選んで原典講読。本年は、オウィディウスの “Amores I” の予定。

テキスト：

・テキストはこちらで用意する。

参考書：

・久保正彰著『OVIDIANA－ギリシア・ローマ神話の周辺』（青土社）

古典ギリシア語 (初級) (2)

講 師 高 橋 通 男

古典ギリシア語入門

授業科目の内容：

古典ギリシア語文献を講読する準備として、文法の修得を目指す。

テキスト：

・「ギリシア語入門改訂版」田中美知太郎・松平千秋著（岩波全書）

古典ギリシア語 (中級) (2)

教 授 西 村 太 良

授業科目の内容：

古典ギリシア語の文法を学んだ人を対象としてテキストを講読する。テキストはエウリーピデースの「アンドロメケー」を読みたいと考えているが。

テキスト：

・当初はプリントを配布する。

参考書：

・もし辞書を持っていない場合には下記のものなどが望ましい。

・Liddell & Scott: Greek-English Lexicon Intermediate (Oxford UP)

古典ギリシア語 (上級) (2)

古典ギリシア語原典講読

講 師 高 橋 通 男

授業科目の内容：

プラトン「ソクラテスの弁明」を講読する。

テキスト：

・「原典プラトンソクラテスの弁明」田中美知太郎校註（岩波書店）

参考書：

・「ギリシア語入門改訂版」田中美知太郎・松平千秋著（岩波全書）

現代ギリシア語 (初級) (2)

教 授 西 村 太 良

授業科目の内容：

今年のアテネでオリンピックが開催される年にあたるが、現代のギリシアで話されている現代ギリシア語は文献的には 10 世紀に遡る口語ギリシア語であり、古典ギリシア語とは文法、語彙ともに重なる部分は大きいものの発音、用法において違いも多い。カザンツァキスやセフェリスなどに代表される近現代ギリシア文学を原語で読んでみたい人、東地中海地域の中世以降の複雑な歴史に興味を持つ人、そして単にギリシア旅行を楽しみたい人にもぜひ学んでほしい。

授業はテサロニキ大学の外国人のための現代ギリシア語の教科書を使用して進めていくが、そのほかの教材も随時使うつもりでいる。

テキスト：

・「外国人のための現代ギリシア語」（ギリシア語）テサロニキ大学
辞書はまだ必要ないが、授業中に紹介する。

現代ギリシア語 (中級) (2)

教 授 西 村 太 良

授業科目の内容：

初級に続いて現代ギリシア語の文法、読解、会話を学んでいく。教科書は初級と同じものを使うが、随時プリントを配布し、生きたギリシア語に接する機械を設けていきたい。

テキスト：

・「外国人のための現代ギリシア語」（ギリシア語）テサロニキ大学

参考書：

・D.N.Stavropoulos: Oxford Greek-English Learner's Dictionary
Oxford University press

現代ギリシア語 (上級) (2)

教 授 西 村 太 良

授業科目の内容：

受講者のレベルを考慮しつつ現代ギリシア語の読解、会話、作文を学んでいく。今年度はネイティヴスピーカーのゲストにも参加してもらい、コミュニケーション能力の向上を目指したいと考えている。

参考書：

・D.N.Stavropoulos: Oxford Greek-English Learner's Dictionary
Oxford University press

・D.N.Stavropoulos & A.S.Hornby: Oxford English-Greek Learner's
Dictionary Oxford University press

トルコ語 (2)	講 師 ヤマンラール, アイドゥン
初級会話	

授業科目の内容：

初級文法を学習しながらトルコ語の初級会話を修得する。

テキスト：

・プリントを配布します。

アラビア語 (2)	講 師 ザルイ, マブルーカ
-----------	----------------

ペルシア語 (2)	講 師 ハギギ, セバンタ
-----------	---------------

授業科目の内容：

この授業は初めてペルシア語を学ぶ者を対象とし、ペルシア語の文字、発音から入り初歩的なペルシア語会話の習得を目標とします。実用会話ができるようになるには基本的な文法事項の習得も必要であり、授業の前半は文法、後半では会話の練習を考えています。

テキスト：

・岡崎正孝著 基礎ペルシア語（大学書林、4000 円）

カウンセリング概論 (4)	講 師 平 野 学
---------------	-----------

授業の内容：

心の時代と言われる現代、カウンセリングは様々な点から注目されている。本講ではまず、(1) カウンセリングがどのようなものなのか、歴史的な流れも踏まえつつ、具体的にお話しした後、(2) その訓練手法としてよく用いられている“ロールプレイ”も交えて、話を聴く練習を若干試みたい。そして、(3) 実際に病院や保健所、学生相談、教育相談等でカウンセラー（臨床心理士）として働いている方々、及び精神科医や HIV・エイズ関係者、脱カルト関係者等もゲストとしてお招きし、現場に即したカウンセリングのあり方や資格・訓練等の問題についても考えてみたい（VTR やスライドも多く使用したい）。尚、全体を通して“臨床心理学入門”といった趣きもあるが、受講者自身が自らを見つめ、各々の成長に役立つ時間になるよう心がけたい。同時に、カウンセリングという視点から現代社会のあり方や人間としての生き方等についても考えるきっかけとしたい。

テキスト：

・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
・乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ベリかん社）

参考書：

・河合隼雄『カウンセリングを語る（上・下）』『カウンセリングを考える（上・下）』（共に創元社）『心理療法序説』（岩波書店）
・小此木啓吾他編『精神分析セミナー（I 巻）精神療法の基礎』（岩崎学術出版社）
・大塚義孝・小川捷之編『臨床心理士職域ガイド』（日本評論社）

カウンセリングワークショップ (4)	講 師 平 野 学
--------------------	-----------

授業科目の内容：

現代社会にあっては、知的なものが重視・評価されやすく、何かとアタマでかちになりやすい風潮がある。我々自身も、とかく自らの心や身体、そして体験をぞんざいにして過ごしがちではなからうか。ここではこうした認識のもと、『カウンセリング概論』単位取得者に限定して、実習や体験学習を中心とするワークショップを行いたい。具体的には (1) カウンセリングの実際をデモンストレーションや VTR で見たり、小グループに分かれてロールプレイを行いつつ、じっくり自由な討議を重ねたい（事例検討も試みたい）。加えて (2) 自己理解を深めるための様々なエクササイズ（描画、感受性訓練、心理アセスメント、ヨーガ、サイコドラマ、箱庭、コラージュ他）を体験してもらう中、自らをバランス良く高めるきっかけを提供したい。本講は内容的にカウンセラーや臨床心理士、福祉職、教師等、

人とかわかる仕事に関心を有する学生諸君向けのものとなろうが、それ以外の諸君にとっても“対人コミュニケーション”のあり方等を、学び考えるきっかけにしてもらえたらと思っている。

参考書：

・佐治守夫他編『カウンセリングを学ぶ』（東京大学出版会）
・乾 吉佑・平野 学編『臨床心理士になるには』（ベリかん社）

環境問題と大学（秋学期）(2)	教 授 川 村 晃 生
-----------------	-------------

授業科目の内容：

近年、地球環境は劣化の一途をたどり、しかもその好転の兆しは全く見えない。環境問題は、自然科学のみならず、政治や経済といった社会科学、また人間の精神に関わる人文科学など、様々な分野からのアプローチが可能であり、またそれらを統合することによって解決の道も探り得るように思われる。この講義では、塾内外のそれぞれの分野で環境問題に関心を寄せる講師陣が、正面から環境問題に考察を加え、大学が環境問題にどう取り組んだらよいかについて、議論を深める。講義は聞いて考えてもらうことを主眼とするので、成績を平常点で付ける。講座の内容は以下のとおりである。おおむねこの順で行なう予定。

・環境問題と大学、(文) 川村晃生
・環境問題と生物学、(経) 岸 由二
・原発が抱える諸問題、中野哲彦（予定）
・環境問題と宗教学、(文) 鈴木正崇
・リスク社会の環境問題、(文) 平野敏政
・環境問題と経済学— 足るを知る経済、安原和雄（予定）
・環境問題の現場から、鎌田 慧（予定）
・環境問題と倫理学、(文) 樽井正義
・風景論、(文) 柴田陽弘
・緑の党とその政策、真下俊樹（予定）
・日本文学から環境を読む、(文) 川村晃生
・質疑と討論、(文) 川村晃生

テキスト：

なし

参考書：

・『環境学事始め』（慶応義塾大学出版会 2400 円＋税）、『自然と文学』（慶応義塾大学出版会 3000 円＋税）

情の技法Ⅱ	教 授 坂 上 貴 之
	教 授 巽 孝 之
	教 授 岡 田 光 弘
	助教授 坂 本 光

授業科目の内容：

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」。おなじみ夏目漱石の『草枕』（1906 年）の冒頭である。プラトンからカントを経て現代にまで至る西欧形而上学の伝統は、これまで知・情・意を基本に人間の認識能力を分析し再検討してきたが、それを極東の明治文学者は、限りなくブラックに近いユーモアで洒落のめしてしまった。

さて、昨年 2003 年度以来、わたしたちのオムニバス授業は以上の先人の洞察をふまえつつ、そもそも近代精神の発祥ともされる 18 世紀啓蒙主義時代において、そこで特権化されたのがたんに「知」ばかりでなく「情」でもあったこと、「知」と「情」をともに制御する営みこそ 21 世紀にまで至る現代史の大きな課題であったことを、探求してきた。「知」に関してはいくらかでもその遺産が蓄積され壮大なるアーカイヴが構築されてきたものの、それでは「情」のアーカイヴは構築可能だろうか。「情」には情緒、情熱、感情など多様な表情があるが、さてそれはたとえば emotion や sentiment, sympathy などといかに重なり、いかに食い違うのだろうか。こうした側面に関する研究は、20 世紀後半以後の知的最先端においては心性史の分野を確立したが、それは我が国独自の心性史研究として耕された九鬼周造の『「いき」の構造』などの伝統といかに相互交渉しうのだろうか。昨年度は、『「甘え」の構造』で知られる 土居健郎氏や、「情の技法」の提唱者である 亀井俊介氏など多彩な講師陣を迎えたが、

今年度はその成果に準拠しつつ、さらに深く、「情」の構造と記憶と技術を探る。

テキスト：

- ・坂上貴之、巽孝之、宮坂敬造、坂本光編『幸福の逆説』（慶應義塾大学出版会，2004年）。

参考書：

- ・巽孝之、坂上貴之、宮坂敬造、坂本光編『ユートピアの期限』（慶應義塾大学出版会，2002年）。

人の尊厳（社会と人権）（春学期）（2）

教授 関 場 武
教授 安 藤 寿 康

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

教育学概論（学芸員コース）（秋学期）（2）

おとなの学びについて考える 講師 村 越 純 子

授業科目の内容：

国際化・高齢社会におけるおとなの学びについて考えていきます。海外の U3A の動きなどを紹介しながら、今後の日本の教育課題について考えていきます。

テキスト：

- ・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・パトリシア・クラントン『おとなの学びを拓く』（鳳書房，1999年，3000円＋税）

生涯学習概論（秋学期）（2）

教育問題の創造 講師 白 石 克 己

授業科目の内容：

- ①生涯にわたる学習をライフワイド（生活）、ライフタイム（一生涯）、ライフウェイ（生き方）という三つの視点で分析できる。
- ②生涯にわたる学習機会を通学方式、遠隔方式、寄宿方式、広場方式に分け、その支援のあり方がわかる。
- ③生涯にわたる発達を青少年期、成人期、高齢期に分け、その特徴に応じた支援のあり方がわかる。
- ④生涯にわたって「善く生きる」ための支援のあり方がわかる

テキスト：

- ・白石克己編著『生涯学習論 ― 自立と共生』実務教育出版 1997

参考書：

- ・白石克己著『生涯学習と通信教育』玉川大学出版部 1990
- ・白石克己編著『生涯学習を拓く』ぎょうせい 2001
- ・白石克己編著『IT で広がる学びの世界』ぎょうせい 2001

視聴覚教育メディア論（秋学期）（2）

画像ドキュメンテーションからメディア・リテラシーまで
講師 波多野 宏 之

授業科目の内容：

本講義では、写真、ビデオ、CD-ROM 等の視聴覚資料を見て感じることを重要視する。まず情報伝達手段、視聴覚資料・機材の歴史と現状を概観し、音声情報・音声メディアについて考察した後、画像の収集から利用に至る一連の過程、すなわち画像ドキュメンテーションの主要課題について検討する。第一に写真を中心とした画像資料の管理から画像データベースの構築に至る諸問題、Visual Resources キュレーターの任務を考える。第二に画像の記述や分類、インターネットなどによる画像へのアクセス、デジタル画像の複製・表示や知的財産権について考察する。第三に画像情報の利用を容易にする画像索引からビジュアル・カルチャーの分析に至る〈方法としての画像〉の諸問題を考え、メディアの理解と活用を図る〈メディア・リテラシー〉の検討でまとめとする。

テキスト：

- ・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・波多野宏之『画像ドキュメンテーションの世界』（第2刷）勁草書房，1995
- ・波多野宏之編著『デジタル技術とミュージアム』勉誠出版，2002

応用情報処理 I（テキスト処理）（秋学期）（2）

講師 中 島 玲 子

授業科目の内容：

この授業では、コンピュータおよびインターネット上で扱われる文字（テキスト）に関する様々な問題を扱う。文字の符号化、Perl プログラミングの基礎を含め、テキスト処理の方法やツールについて概説し、演習を通して理解を深める。前半はコンピュータなどの電子情報機器で扱われる文字コードおよびフォントについて学び、漢字コード問題、特殊文字や外国語の表示などの知識についても身につける。後半はテキストを文字列データとしてとらえることにより、単語の切り出しや出現頻度の集計、分析などを行う。ほぼ毎回課題を出題する。受講者は「基礎情報処理」を履修済または同等の知識を持つものとする。Windows およびメールソフトの基本操作に習熟していないと授業への参加は困難である。Word や Excel などのアプリケーションソフトの使い方を学ぶ講義ではないので注意すること。受講者数には制限がある。履修希望者は4月の応用情報処理ガイダンスに必ず出席すること。ガイダンスで許可を受けたもの以外の履修は認めない。また、履修人数確定のため履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。

テキスト：

- ・オンラインで資料配布

参考書：

- ・文字コード「超」研究、深沢千尋著、ラトルズ
- ・インターネット時代の文字コード、小林竜生ほか著、共立出版、その他授業中に適宜紹介

応用情報処理 II（Excel）（秋学期）（2）

Excel を使ったデータ処理と Word を使った論文作成

講師 新 居 雅 行

授業科目の内容：

基礎情報処理を履修したレベルの学生を対象に、データ処理や論文作成につながる表計算ソフトやワープロ利用について説明します。特に、Excel を利用したデータ処理や統計的な処理について、全体の7割近くの時間を割く予定です。Excel についての基本的なワークシート作成ができることと、統計の知識を前提とします。Excel の基本操作の復習、データの扱いの基本、関数を利用した統計処理、グラフ作成、相関、検定について説明します。また、応用的な事例としてアンケートの集計やシミュレーションのようなものも扱います。

ワープロは論文を書くということに絞って操作方法等を説明します。
ワープロや表計算の基本操作ができ、統計についてある程度は知っているが勉強をする意志があることが望ましいでしょう。

テキスト：

・Web ページで用意します。

参考書：

・講義中に示します。

応用情報処理 Ⅲ（情報社会の光と影）（春学期集中）(2)

講 師 中 村 正三郎

授業科目の内容：

IT バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどが、我々の社会に大きなインパクトを与えつつある。この講義では、これらの技術の光と影の両面に焦点をあて、我々の社会のこれからについて考えていく。

参考書：

・拙著「新版インターネットを使いこなそう」（岩波ジュニア新書）、
拙著「ウイルス伝染るんです」（廣済堂出版）

応用情報処理 Ⅳ（情報技術）（秋学期）(2)

助教授（有期）色 川 進

授業科目の内容：

現在、社会や生活の至る所にコンピュータやネットワークを利用する技術が浸透しています。これら情報技術そのものがどの程度安全でどのくらい危険なのか、仕組みを理解した上でわきまえて利用するのとブラックボックスのまま利用するのではその意識には雲泥の差があります。この授業ではコンピュータの動作、通信やネットワークの仕組みの基本的な知識を解説し、各種情報技術を展望します。

応用情報処理 Ⅴ（プログラム言語）（秋学期）(2)

Java によるプログラミングの基礎

講 師 新 居 雅 行

授業科目の内容：

コンピュータを動かすために必要なソフトウェアを作成することをプログラミングと呼んでいます。この講義では、Java という言語を使ってソフトウェアを作成する方法を解説します。パソコンについての基本的な知識や、ファイルの作成や一般的な操作ができるという前提で、講義は進めます。また、インターネットを含むネットワーク利用についての基本知識もあるものとして解説を行ないます。特にテキストファイルを含めた、ファイル処理については、きちんと理解した上で受講してください。ただし、プログラミングそのものについては、初歩から解説します。

まず、プログラミングの概念と、知っておきたいことをまとめます。そして、プログラミングに必要なパソコンの操作を説明します。その後、実際にいろいろなプログラムを作成するといった流れで講義を進めます。テキストは以下のものを利用しますが、Web ページでのレジュメや補足も利用します。

テキスト：

・「チャレンジ！Java JBuilder 編 Win 版」（ローカス、角川書店、2800 円）

参考書：

・講義中に示します。

応用情報処理Ⅵ（ネットワーク技術）（春学期特定期間集中）(2)

ネットワーク技術

講 師 小 川 浩

授業科目の内容：

インターネットの基本技術であるTCP/IPの仕組みとその上で実装されている様々なサービスの仕掛けおよびセキュリティについて学びます。

＊ネットワークの階層構造

＊ネットワークを構成する電線概論

＊Ethernetのはなし

＊インターネットの基盤技術であるTCP/IP

＊TCP/IP上で様々なサービスを提供するためのアプリケーション
プロトコル

＊TCP/IPネットワークにおけるセキュリティの問題
などが主なトピックです。

テキスト：

・「ネットワーク技術」<http://docs.olab.org/>

参考書：

・RFC <http://www.ietf.org/rfc.html>

応用情報処理 Ⅶ（WWW 技術）（秋学期）(2)

助教授（有期）色 川 進

授業科目の内容：

ネットワークで利用できるサービスは様々なものがあります。この授業ではネットワーク機能の一種である WWW (World Wide Web) を中心にサーバの構築と運用の実際を学び、起こりうる問題や問題への対処、どのようなサービスを提供できるか、等、応用を展望します。

情報と職業（秋学期）(2)

現代社会、産業における情報の持つ意味

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

現代社会は情報化社会と呼ばれています。それは、広い意味で「情報」を扱う産業が注目され、その影響力が増大していると考えられているからであり、さらにすべての産業において「情報化」が進んでいるからでもあります。この科目では、情報化社会の定義の再検討からはじめ、政府の情報関連政策、情報産業の実態、「情報」の商品化・ビジネス化のプロセスを考えていきます。

授業全体の約半分においては、実際に情報産業などに従事なさっている方々をお呼びして、「情報化」の実態をお話していただく予定です。実際に塾外から招く講師の方は、未定ですが、2003 年度は、内閣府、松下産業、朝日新聞社、NHK、(株)ハーティネスの方々にお出でいただきました。

テキスト：

なし

参考書：

・授業時に指示します

情報と倫理 Ⅰ（秋学期）(2)

情報倫理

教 授 樽 井 正 義

授業科目の内容：

人間の生活において情報を集積し伝達する手段の変遷によって、つまり活字情報に電子情報が加わることによって、私たちが接する情報の量と質は飛躍的に変化しつつあります。これにともなって情報に関して倫理的に検討すべき対象も、古典的問題からさらに多様で複雑な問題へと広がっています。この時間では、知識と情報の私的所有に関わる問題（プライバシー、知的所有権）と公的利用に関わる問題（説明責任、情報へのアクセス、公共財）を中心に、倫理問題の所在とこれを整理する倫理的原理とを検討します。

参考書：

・越智貢他編、情報倫理学、ナカニシヤ出版 2000

情報と倫理 Ⅱ（秋学期）(2) 助教授（有期）色 川 進

授業科目の内容：

情報は「人が作り出す」ものです。「情報そのもの」や「情報の扱い」には元来から人間の「意志」や「意識」が大きく関わっており「情報」と「倫理」は切り離すことはできません。この授業では「情報」にまつわる様々な「倫理性」をできるだけ具体的な事例を対象

に考察し、「情報」と「人の意思・意識」との関係を提起・意識できるようにします。

言語学関係講座について

本塾文学部には、現在のところ言語学専攻科はないが、文学部共通科目の枠内で、以下のように、言語学関係の科目が設置されている。それは、講座の種類・質・講師陣といった角度からみて、他大学の言語学専攻科に十分に匹敵する（あるいは、それ以上に充実した）内容をもっているといえる。したがって、専攻の如何にかかわらず、言語学に関心をもつ学生は、これらの講座を履修することによって、言語学の専門的な知識を身につけることができるであろう。なお、ここでいう「言語学」は、言語の諸相をあるがままに記述することばかりでなく、「なぜ言語はかくあるのか」という問いに対する解答を与える説明的理論（例えば生成文法理論）の構築をも目標としている学問であることを強調しておきたい。それは言語をめぐる隣接諸科学（心理学、哲学、論理学、コンピュータ・サイエンス、認知科学など）と密接にかかわりをもつものであり、その意味で学問に対する現代的要請に応えるものである。言語学関係の講座は次のようなカリキュラムのもとに構成されている。

- ・ 日吉設置講座：いずれも言語科学入門の役割を果たしている

「言語」（通年）〔文〕

「言語学Ⅰ」（春学期）〔文・経・商 共通〕

「言語学Ⅱ」（春学期）〔文・経・商 共通〕

- ・ 三田設置講座

2 年次での履修が望ましい

言語学概論Ⅰ
言語学概論Ⅱ
言語学概論Ⅲ

言語学特殊Ⅸ
(原典講読)

言語学特殊Ⅰ
(生成文法初級入門)

言語学特殊Ⅱ
(記述言語学)

3, 4 年次での履修が望ましい

言語学特殊Ⅲ
(生成文法中級)
言語学特殊Ⅳ
(意味論・語用論)

言語学特殊Ⅴ
(形態論)

言語学特殊Ⅵ
(音韻論)

言語学特殊Ⅶ
(言語心理学)

言語学特殊Ⅷ
(社会言語学)

なお、言語学関連科目として、英文学、仏文学、国文学、独文学、中国文学の各専攻科目に設置されている個別言語の研究（たとえば、英語学、フランス語学、国語学など）、および、哲学専攻科の「哲学倫理学特殊Ⅳ」（言語哲学）などもあわせて履修されたい。言語学に関して、履修上の問題をはじめ、さまざまな問題が生じた際には、遠慮なく以下の講座の担当者に相談されたい。

言語学概論 I (4)

生成言語学への招待

経済学部 助教授 星 浩 司

授業科目の内容：

この授業では、我々人間を人間たらしめている重要な属性の一つである「言語」とは何かという問題を科学的に考えていく。具体的には、「言語」とは何かという根本的問題から出発し、自然言語に共通して観察される諸特徴を概観した後、各論へと進んでいく。各論では、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論等の基礎を学んでいく。全体を通じて、是非、科学的言語観を理解してもらいたい。

テキスト：

- ・井上和子、原田かづ子、阿部泰明共著「生成言語学入門」（大修館書店、1999、2300 円）

言語学概論 II (4)

言語へのアプローチ〔春学期〕／そしてさまざまな自然言語〔秋学期〕
教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

私たちは言語を使ってコミュニケーションを行い、また言語に支えられて精神生活・社会生活をおくっています。これほど重要な言語ですが、余りに身近な存在なので特別な場合を除いては余り意識することなく、当たり前の存在として、深く考えることもそれほどありません。しかし人間や社会を考える時には言語についての考察を抜かすことは不可能です。この講義では春学期に言語について客観的に語るために必要なメタ言語を学び、それを用いて秋学期にはさまざまな自然言語についてテーマを設けて語っていきます。色々な言語理論に接することは、言語へのアプローチがいかに多様であるかを知る機会となり、1 つの特殊な理論のみで言語を考えることの危険を意識することにつながります。さまざまな自然言語に接することは、一般に目にするいくつかの言語、特に日本語と英語だけの狭い世界から抜け出すことで逆に自分の閉じ込められている言語世界を客観的に眺めることが可能になります。なお、この講義では日本の大学院での言語学関連の入試科目の準備に必要な基礎概念を学ぶことができます。

テキスト：

- ・地図、分類図、解説など適宜プリントで配布します。

参考書：

- ・言語学大辞典（全 6 巻）；The Encyclopedia of Language and Linguistics(10 vol.)

言語学概論 III (4)

経済学部 助教授 松 岡 和 美

授業科目の内容：

このクラスは初学者を対象に、言語学では「言語の何を」「どう扱うのか」についておおまかな理解が得られるように構成されている。言語の研究のツールとして提案されている概念や方法論を紹介し、それがもたらす新しい知見を、世界の様々な言語データの分析を通して理解することを目的とする。各学期末試験においては、知識だけではなく、授業で扱った考え方を用いてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置いた設問が課される。主な内容：語彙論、音声学、音韻論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、心理言語学、脳と言語、母語の獲得、手話学、バイリンガリズム他。

テキスト：

- ・三田メディアセンターリザーブブック（図書館旧館 3 階）に配架
予定の資料を予習文献として使用する。

参考書：

- ・順次、授業支援用ホームページ（URL 後述）に掲載。

言語学特殊 I (4)

生成文法入門

言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容：

子供は、生まれて 4 ～ 5 年のうちに、民族や人種に一切関係なく、生育する環境で話されている言語を、明示的な説明なしに獲得してしまう。子供の言語に関する経験は極めて限られたものであるのに、なぜ、かくも多くの言語知識を獲得できるのか。この問いに答えることが、生成文法理論の目標である。本講義では、生成文法理論が採択する「原理とパラメータ」のモデルの「基本概念及び指導仮説を中心に議論する。

テキスト：

- ・『メノン』（プラトン著、岩波文庫）
- ・『Syntactic Theory』（Poole 2002,Palgrave）

参考書：

- ・開講時に指示する。

言語学特殊 II (4)

東南アジアの言語

言語文化研究所 助教授 三 上 直 光

授業科目の内容：

東南アジア諸言語の諸相を一般的な見地から観察、分析する。取り上げるテーマとしては、系統と分布、文字、音韻・形態・統語などの特徴、言語と文化、言語問題、言語政策などを予定している。授業は、講義と履修者の発表を交えながら進めていく。

テキスト：

- ・特に指定しない。

参考書：

- ・その都度指示する。

言語学特殊 III（春学期集中）(4)

生成文法中級

言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容：

普遍原理とパラメータに基づく生成文法理論の最近の研究は、脳に内在する言語器官の最適性とも言うべき性質を明らかにしつつある。ミニマリスト・プログラムと呼ばれるこの研究プログラムでは、言語器官とそれに隣接するシステムの関係、隣接システムが言語器官に課す最低条件、その最低条件を最も適切に満たす言語器官の性質などが議論されている。本講義では、『The Minimalist Program』（Chomsky 1995, MIT Press）に集約された生成文法理論の枠組みを詳細に議論する。

テキスト：

- ・『The Minimalist Program』（Chomsky 1995,MIT Press）

参考書：

- ・開講時に指示する。

言語学特殊 IV (4)

意味論と語用論の接点

言語文化研究所 教授 西 山 佑 司

授業科目の内容：

聞き手が、話し手の言葉の意味が分かるとは一体いかなることか、文の意味と話し手の意味とはどのような関係があるのか、話し手が明示的に言っている内容と暗に意味している内容との違いは何か、発話解釈を背後で支配している原理や法則は存在するのか、メタファーやアイロニー、メトニミーの解釈はいかにして生じるか、といった意味論 (semantics) と語用論 (pragmatics) にまたがる諸問題を論じる。

テキスト：

- ・特定のテキストは用いない。当方でハンドアウトを用意する。

参考書：

- ・田窪行則 他編『談話と文脈』[岩波講座言語の科学 7 卷]
(岩波書店, 1999 年) の第 1 章「語用論の基礎概念」
- ・西山佑司『日本語名詞句の意味論と語用論

言語学特殊 V (4) 経済学部 教 授 杉 岡 洋 子

授業科目の内容：

最近のレキシコン研究の理論的成果を通して、動詞の意味的特徴が文の統語的なふるまいを決定するしくみについて学びます。具体的には、“She is dying.” はまだ死んでいないが「死んでいる」は死後をさすのはなぜか、といった動詞のアスペクトの問題や、自動詞と他動詞の交替、移動表現の言語による違い、心理動詞の特殊性、主語に課される条件、結果構文、動詞の複合語などを取り上げ、日本語と英語のデータを比較対照しながら、動詞の意味の普遍的側面と個々の言語における構文について、理論的に考察します。講義だけの授業にならないよう、演習形式を取り入れ、課題によるデータの収集・分析も行います。

テキスト：

- ・『日英対照 動詞の意味と構文』（影山太郎編，くろしお出版）

言語学特殊 VI (4)

音声と音韻 講 師 本 間 猛

授業科目の内容：

日本語と英語の音声構造と音韻構造の相違点および共通点を探ることを通して、音声学・音韻論の基本概念を学ぶ。また、分析方法の基礎を理解し、応用できることを目指す。言語研究における音声・音韻の研究の位置付けを概観した後、言語音の産出のしくみを学ぶ。さらに、音素、音節、モーラ、語アクセント、文アクセント、リズム、イントネーションなどの音韻現象とその理論的側面について考察する。また、最近の理論である最適性理論 (Optimality Theory) についても解説する。

授業方法：講義にて基礎的な知識や基本概念を扱い、さらに、練習問題で理解を深めるようにする。

テキスト：

- ・窪田晴夫著 日英語対照による英語学演習シリーズ『音声学・音韻論』くろしお出版

参考書：

- ・窪田晴夫著『語形成と音韻構造』くろしお出版
- ・窪田晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社
- ・窪田晴夫・本間猛著『音節とモーラ』研究社

言語学特殊 VII (4)

言語心理学 言語文化研究所 教 授 大 津 由紀雄

授業科目の内容：

言語の認知科学について講ずる。主なトピックは、言語理論と認知科学、言語獲得、言語理解、言語の脳科学である。昨年度の内容とはできるだけ重複しないよう心がけるので、継続受講も可。受講希望者は第一回目の講義にかならず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

テキスト：

なし

参考書：

- ・適時指示する

言語学特殊 VIII (秋学期集中) (4)

生成文法上級 言語文化研究所 助教授 北 原 久 嗣

授業科目の内容：

ミニマリスト・プログラムが提供する研究上の指針には、(記述的装置のクラスを最小限にするよう求める)「最小設計」指針、及び(演算の操作上の複雑性を縮小するよう求める)「単純演算」指針と呼ぶものがあるが、本講義では、「単純演算」指針に幾分焦点を

おき、操作上の複雑性の縮小と言語のミニマリスト的設計の問題を考えてみたい。具体的には、これら二つの指針に関係する基本概念及び指導仮説を検証し、徹底した派生主義の観点から、操作上の複雑性を縮小する提案の再定式化を試みる。

テキスト：

- ・開講時に指示する。

参考書：

- ・開講時に指示する。

言語学特殊 IX (4)

講 師 外 池 滋 生

授業科目の内容：

I found [the movie interesting] の鍵括弧部分と The movie was interesting に共通する the movie と interesting の間にある関係を主述関係 (Predication) と言いますが、この授業では、主述関係を文構造の中でどのように捉えるかについて重要な提案を行っている John Bowers (1993) “The Syntax of Predication”, Linguistic Inquiry 24:591-656 を読みます。必要な背景知識などについては担当者が補いながら読みますから、特に予備知識は必要ありません。これを読む中から、生成文法理論についての基本的な知識や、考え方を身に付けて行きます。

テキスト：

- ・プリントを配ります。

参考書：

- ・『入門ミニマリスト統語論』（研究社）

遠山記念音楽学講座について

1985 年、音楽評論家で（財）日本近代音楽館（元遠山音楽財団）理事長であるとともに、東京文化会館館長、新国立劇場副理事長などを歴任された遠山一行氏から、当時の遠山音楽財団付属図書館に蒐集された中世・ルネサンス、現代の音楽に関する資料が寄贈された。資料には、図書ばかりでなく楽譜、レコード、マイクロフィルム等が含まれ、慶應義塾図書館（旧館）で「遠山音楽文庫」の名のもとに公開されている。また遠山記念音楽研究基金も慶應義塾に寄贈された。それを記念して開講されたのがこの講座である。

欧米においては、音楽学は総合大学で研究教育されており、遠山氏の寄贈は、我が国においても音楽学の研究教育が総合大学を中心におこなわれるべきとの信念にもとづいたものであった。氏は、慶應義塾こそそれに最もふさわしい大学であると判断された。遠山音楽文庫の開設によって、我が国の総合大学のなかで最大の音楽資料を有することになった慶應義塾は、音楽学に関する講座を充実するために、本講座を設置した。美学美術史学専攻には、すでに西洋音楽史を中心にした一連の講座が開設されているが、それを拡充するものであるとともに、音楽学および関連諸学を専門とするための基礎的スキル獲得のための内容も盛り込まれている。

音楽学 I (4)

音楽理論と分析入門

講 師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

春学期は簡易なピアノ小品を題材に音楽理論の基礎を学ぶ。

秋学期はさらに歴史的様式にもとづく分析を行なう。

テキスト：

・コピーで配布。

音楽学 II (4)

音楽研究入門＝さまざまな領域と文献・資料調査の実習

教 授 美 山 良 夫

経済学部 助教授 石 井 明

商学部 助教授 佐 藤 望

講 師 平 尾 行 蔵

講 師 石 多 正 男

授業科目の内容：

音楽で卒業論文を書こうと考える人のための (1) 音楽研究のさまざまな領域の包括的な紹介、(2) 西洋音楽史を中心にした個別領域の事例紹介と研究の現在、(3) 資料・文献検索の実際（実習ふくむ）を軸にしています。これまで音楽学について学んだことがないひと履修可能ですが、そのジャンルはともあれ音楽で卒論を書くことを視野にいれている人に限定します。美学美術史学専攻に設置されている音楽関連の 3 つの研究会（ゼミ）は、この授業を履修し、一定の成績評価があることが前提ですから、2 年次に履修する必要があります。受講の際の注意、詳細内容などは初回の授業で説明しますが、欠席者は受講ができません。やむをえない事情がある場合は 3 年生でも履修をみとめることがあります。

テキスト：

・日吉メディアアンター編『情報リテラシー入門』慶應義塾大学出版会 2002 年

文化財科学

昭和 54 年財団法人松永記念館は、慶應義塾に文化財研究の振興と普及を計る目的で、松永記念文化財研究基金を寄贈された。本講座は、その主旨を記念し、義塾における文化財研究の普及と発達に資するために、昭和 62 年度より開設されたものである。

文化財科学 I (4)

文化財資料を科学の目で見ると 講 師 富 澤 威

授業科目の内容：

考古遺物や美術資料の化学組成の特徴や、製造の歴史や技法について講義する。また、最近の研究で得られた成果である鉛同位体分析法について紹介する。授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについて述べる。

テキスト：

・テキストは、特に指定しない。

参考書：

・授業の際に紹介する。

文化財科学 II (4)

文化財資料を科学の目で見ると 講 師 富 澤 威

授業科目の内容：

年代測定法や DNA 解析法、アイソトープ食性解析法など、最近の進歩のなかから得られた成果について紹介する。

授業では、自然科学の手法を応用する際の背景となる考え方や原理、適用範囲や留意点などについても述べる。

テキスト：

・テキストは特に指定しない。

参考書：

・授業の際に紹介する。

芸術と文明

戦後の我が国で、学問の学際化の必要が叫ばれて久しい。

中世ヨーロッパの大学では、基本的な三学（trivium すなわち文法、修辭、論理—— trivial という英語の形容詞はここから生まれた）と四学（quadrivium すなわち算術、音楽、幾何学、天文学）を修得すれば、修士号（Magister Artium：現在の M.A.）が与えられた。ところが現代では、学問が「総合から分析へ」と各方面に進歩した結果、領域の専門家とそれによる狭隘化をもたらした。今日では、本塾の文学部を例にとっても、学問は17の専攻に分かれ、専攻内ですらそれぞれの専門分野がより細分化している。そのため、中世のヨーロッパの知識人の目には、学生も教員も狭苦しいタコ壺の中で喘いでいるように見えるかもしれない現状を呈していることも事実であろう。

この閉鎖性を打破する試みがかなり以前から行われてきたことは確かである。比較〇〇学と名付けられた学問の誕生もそのひとつといえよう。また文学部でも、大学の外から一流講師を招いて、「現代芸術」「詩学」と銘打った講座が設けられて来た。本講座も同様の試みとして、学問の名称にこだわることなく、文学部共通の専門科目として、設置されている。文学部の専任教員を中心に、場合によってはテーマを絞り、しかも扱う分野としては文学、歴史、音楽、美術、映画などの人文学（いや必要に応じて社会科学や自然科学の助けをも借りて）を縦横にクロスオーバーする主題を取り上げることが狙いである。

学問を総合的に見直すことが求められる今、「芸術と文明」という大きな枠組の設置には、少しでも学生、教員双方の視野を広げられればという願いが込められている。

芸術と文明 I (4)

休 講

久保田万太郎記念講座

本講座は、慶應義塾の生んだ大文学者、故久保田万太郎がその全著作権を本塾に寄贈されたことを記念して、文学部に設置された科目である。目的とするところは、従来のアカデミズムの枠にとらわれぬ、きわめて自由な発想のもとに、塾生諸君のなかに文学芸術への情熱の火を点ずることである。

それゆえ、本講座の講師には、制度としての大学内の学究にとどまらぬ、幅広い文学・芸術諸分野の第一級の有識者が、伝統的に選定されてきたのだった。本講座は「詩学」と「現代芸術」の二科目にわかれていて、前者は斯界の最高峰、後者は斯界の中堅有力者が担当する建前となっていたが、現在ではこの区分はかならずしも厳密に守られていない。従ってこれら両科目の名称はかなり便宜的なものと解していただきたい。

幸いにして、本講座は義塾内外のまことに輝かしいお名前をお迎えしつづけてきた。その一部をあげるだけで、本講座の伝統の重みを塾生諸君に理解してもらえと思う。本講座は制度上は文学部に設置されているけれども、真に文学芸術を愛する塾生であるならば、在籍する学部は問うところではない。昭和三九年度第一回の講師として佐藤春夫が登壇して以来、西脇順三郎、土岐善磨、小泉信三、高橋誠一郎、河上徹太郎、山本健吉、河盛好藏、吉川幸次郎、五所平之助、等々、わが国において文学芸術界や思想界の最高をきわめた、ほんとうにまぶしいような高名が大山脈のごとく連なっていることに、諸君は気づくだろう。塾生諸君の熱心な受講を期待してやまない。

現代芸術 I（春学期）(2)

美術の多様性

講 師 嶋 田 美 子

授業科目の内容：

現代芸術はさまざまな文化・価値観・世界観によって作られています。専門家によって定義された既存の「美術」ではなく、現在の、現実から生まれつつあるグラス・ルーツの芸術・芸術家を紹介し、ともに「今」を考えていく講座にしたいと思います。

テキスト：

・毎回資料プリント配布

現代芸術 II（秋学期）(2)

「バービー考現学」～バービーに始まるファッション・ドールの成立と変遷～

講 師 茅 野 裕 城 子

授業科目の内容：

世界的に大人の間で人形およびフィギュアが大ブームとなっていますが、20世紀人形界最大のヒットといえる Barbie およびその周辺のファッション・ドールを掘り下げることによって、アメリカや日本そして世界各国の様々な状況が見えてくるようにするのが目標です。

テキスト：

- ・『バービーから始まった』茅野裕城子著（新潮社）
- ・各回のはものはプリントとして配付いたします

参考書：

- ・『バービー・クロニクル』ヨナ・ゼルディス・マクダナー編（早川書房）
- ・『永遠のバービー』M.G. ロード著（キネマ旬報社）
- ・『夢の死体』笹野 頼子著（河出書房新社）

現代芸術 III（秋学期）

休 講

詩学 I（春学期）(2)

日本語放棄論の系譜と地上ユートピア主義

名誉教授 鈴 木 孝 夫

授業科目の内容：

明治以来、日本語は劣等言語であるから、日本語を捨てて他の外国語を国語としなければ、日本は世界の流れについて行けないという主張がしばしばなされてきた。私の見るところ、この日本人の日本語放棄願望は日本人が自己の肉体的特徴を嫌悪し、これを改造しようとする願望と同根であって、それは1500年もの外界との隔離から生まれた地上ユートピア主義にもとづく外国の崇拜と過度の美化、およびその反動としての自己卑下、自己否定の精神の現れに他ならない。世界ではむしろ一般的である「夜郎自大」の意識とは正反対のこの自己認識は、日本が文字通りの弱小後進国である間は、日本の発展に非常に役立ったが、日本がUSとEUに並ぶ世界の経済技術大国となった現在、すべてがマイナスに働きだした。いま日本人は自己認識の転換に迫られている。それはどのようにして可能かを、この講義で考えて行くことにしたい。

テキスト：

- ①『日本人はなぜ英語ができないか』岩波新書 鈴木孝夫著
- ②『人にはどれだけの物が必要か』中公文庫 同

参考書：

- ・鈴木孝夫『日本語は国際語になり得るか』講談科学術文庫
- ・同 『アメリカを知るための英語、アメリカから離れるための英語』文藝春秋社

詩学 II（秋学期）(2)

味覚と文学

講 師 南 條 竹 則

授業科目の内容：

味覚・食文化を題材とした東西の文学作品を読み、“食”と人間のかかわりについて認識を深めることを目的とする。英国、フランス、中国、日本の作家を扱う予定。

テキスト：

- ・ヒュー・ロフティン『ガブガブの本』南條竹則訳 国書刊行会

参考書：

- ・ブリア・サヴァラン『美味礼讃』岩波文庫

文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金

福沢諭吉は、「国光発於美術」と書いたことがある。国の光は芸術によって発するというわけである。現在、日本では芸術が大量に消費されている。だが、自由な創造活動を取りまく状況は厳しい。この矛盾を解決して、芸術創造を社会に解放してゆくためには、アーティスト、行政、企業、そして大学などの教育研究機関が、新しいパートナーシップを構築しなくてはならない。そのなかから、新しいアート・シーンを築き、本当に価値のあるものを後世に残すことを、実践的に考えるのが、この講座の目標である。

そのために、講師の他に、芸術とかかわりながら、各セクターで多くの問題を抱えつつも第一線で活躍中の人々がゲストとして登場、いま現在の問題を語る。それは講師との討論に発展することもある。

この種の講座が日本の大学に開設されたのは、慶應義塾が最初である。平成3年、本講座が開講されるや、企業、行政等も含め多くの人々がこの講座に強い関心を寄せた。なかでも大日本印刷株式会社 (DNP) は、慶應義塾におけるアート・マネジメントの研究と教育の発展のために「慶應義塾大学文学部アート・マネジメント講座 DNP 基金」を寄贈された。本講座はこの基金を活用して運営されている。

履修しようとするものは、最初の授業時に年間授業計画、レポート、受講についての詳しい説明をおこなうので必ず出席すること。

アート・マネジメント (4)

教授 美山良夫
講師 南條史生
講師 岩渕潤子

授業科目の内容：

展示系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

- 第1部：変貌する文化装置：制度としての「美術館」と脱美術館
文化展示の多様な様態（日本および欧米における多様な文化展示とその目的）、美術館という「制度」の成立、空間の文化装置化：その多様な仕掛け（オルタナティブ・スペースなど）
- 第2部：美術品の流通と交流
美術品の特性と画廊の仕事、最近の美術市場・美術館の問題点、オークションの仕組みと社会的役割、アート・フェアの役割・仕組み、古美術品の流通システムなど
- 第3部：美術展の企画と諸制度
美術をめぐる文化政策、芸術支援（企業による事例の紹介と基本的な考え方）、美術展の企画から開催まで、美術品と著作権、保険
- 第4部：美術をめぐる活動のひろがりと市民
美術館の活動のひろがり — 研究・情報・修復・美術館教育・ボランティア、市民による活動事例

テキスト：

・「アート・マネジメント入門」（慶応大学出版会）

参考書：

・「美術から都市へ」（鹿島出版会）

アート・プロデュース (4)

教授 美山良夫
講師 川又啓子

授業科目の内容：

上演系のアートを軸にしたアート・マネジメントの概説。以下の4つのフレームで構成される。履修上の諸注意は、最初の授業時に配布するので、それらをふまえて履修登録を検討すること。

- 第1部：変貌する文化装置：制度としての「劇場」と脱劇場
日本のホール — その歴史と現状、劇場運営の基本、空間の文化装置化：その多様な仕掛けなど
- 第2部：文化装置のマネジメント
公立ホールの運営、民間のホール運営、劇団の運営とマーケティング（劇団「四季」を例に）、舞台芸術の国際交流
- 第3部：芸術及び芸術家（団体）をめぐる制度と支援
日本の文化政策と芸術支援・概説、財団の芸術支援とその課題、舞台芸術の市場規模と今後、イベントと保険
- 第4部：上演芸術をめぐる活動のひろがりと市民
企画づくりの実際：コンサート・ホールを例に、アートとNPO、ボランティアなど

テキスト：

・「アート・マネジメント入門」（慶応大学出版会）

極東証券寄附講座

本年度は極東証券の寄附により、以下の2科目が開講されることになった。

翻訳の世界（秋学期）(2)

教授 西村 太良

授業科目の内容：

文学部からはこれまで多くの優れた翻訳そして翻訳家が生まれてきたが、この講座では今日、第一線で翻訳家として活躍されている方々をお呼びして、英語、フランス語、ドイツ語、中国語その他の言語の翻訳の現場、あるいは翻訳をめぐる諸問題についてお話していただきたいと考えている。今年度は特に日本文学を外国語に翻訳している方々に焦点を合わせて、講座を進めて行く予定であり、将来、翻訳を志している、あるいは翻訳に関心を持っている学生諸君の参加を期待している。

講師と内容の詳細は後日、掲示の形でお知らせする。

古文書の世界（秋学期）(2)

教授 西村 太良

授業科目の内容：

現在、加速度的にテキストの電子化、デジタル化が進みつつある。しかし、一方で古文書、写本などの一次資料に直接触れる機会は少なくなってきている。この講座は三田メディアセンターなどに収蔵されている貴重な資料の中から代表的なものを選び、それぞれについて実物を目の前において内外の専門家の方々に手ほどきしていただくことを目的としている。今年度は和漢東洋の古文書資料を取り上げるが、講座の性質上、受講者の数は30名前後に限らせていただくことになる。

講師と内容の詳細は後日、掲示の形でお知らせする。

JASRAC 寄附講座「音楽と現代社会」

— 著作権がひらく豊かな世界 —

いまや世界有数の音楽消費国になった日本。音楽ユーザーの拡大のなかで、デジタル機器、ネットワーク音楽配信の普及、いわゆる着メロなどの新しい音楽利用形態の登場など、音楽に限っても著作権をめぐる環境は大きく変化しつつある。とりわけ昨今の諸問題は、著作権あるいは音楽著作権だけでは解決できない広範囲に及び、著作隣接権を含めた問題域は、芸術、学術活動から文化消費のさまざまなフェーズに深くかかわるようになった。

こうした状況のなかで、現在すでに音楽ユーザーのコアを形成し、今後も個人あるいはサークル活動で、ユーザー、またクリエイター、インターメディエーターとして、音楽をはじめとする文化的財と多面的な関わりをもつであろう大学生が、著作権について広い視野と正しい理解をもち、創造者・著作権者への敬意とルールにそった利用方法を学び、著作権の精神をふまえた豊かな文化環境実現に寄与することが期待されている。

顧みれば、わが国へ著作権思想を紹介したのは福沢諭吉であった。福沢は、文化的な所産を創り出した者は、尊敬と利益が受けられるシステムが整えられるべきであると主唱した。それもあるって整備された著作権法は、いまや 100 年をこえる歴史を刻んだ。しかしわが国の大学や一般社会には、啓蒙的であれ専門的であれ著作権や知的財産権に関する講座はいまだに極めて少ない。

本講座は、法律専門の学生のための法律解釈や法制史ではなく、文学部設置に鑑み、「引用」、「模倣と創造」、「パロディ」、「伝統と革新」など芸術文化と関連した広範な諸問題を中心に据え、創造者、芸術家の営みへの尊敬と著作権のもつ役割に関する具体的事例をふまえ、理解を深めることを目的とする。

社団法人日本音楽著作権協会 (JASRAC) は、国内の作詞家、作曲家、音楽出版社などの権利者から著作権の管理委託を受けるとともに、海外の著作権管理団体とお互いのレパートリーを管理し合う契約を結んでおり、国内海外あわせて約 580 万曲程度の音楽著作権を管理している。また公益法人として、著作権思想の普及や音楽文化振興などを目的とした講演会やコンサートなどの文化事業にも力を入れている。(http://www.jasrac.co.jp)

音楽と現代社会Ⅰ（春学期）(2)

教 授	美 山 良 夫
講 師	川 又 啓 子

授業科目の内容：

本講座は「引用」、「模倣と創造」、「パロディ」、「伝統と革新」など芸術文化と関連した広範な諸問題を縦軸に、商品としての音楽がもつ生産・流通・消費の流れを横軸に、2つの軸が交差する場をとりあげ、現在アーティストがおかれている環境、音楽創造の営みや大学生の音楽消費の様態、著作権のもつ役割に関する具体的事例をふまえて構成される。

春学期、秋学期とも、音楽や著作権関連諸分野にかかわるさまざまな立場で活躍されているゲスト・スピーカーを招聘する。

春学期：基本的な問題と今日的課題の理解を主眼とする内容。
例：現代の日本とアジアにおける音楽消費の様態と課題、音楽を中心とした著作権文化の概要、福沢諭吉と著作権思想の導入、音楽産業と著作権など。

昨年度までの講座の概要は、文学部ホームページの寄附講座の項で紹介されています。

音楽と現代社会Ⅱ（秋学期）(2)

教 授	美 山 良 夫
講 師	川 又 啓 子

授業科目の内容：

本講座は「引用」、「模倣と創造」、「パロディ」、「伝統と革新」など芸術文化と関連した広範な諸問題を縦軸に、商品としての音楽がもつ生産・流通・消費の流れを横軸に、2つの軸が交差する場をとりあげ、現在アーティストがおかれている環境、音楽創造の営みや大学生の音楽消費の様態、著作権のもつ役割に関する具体的事例をふまえて構成される。

春学期、秋学期とも、音楽や著作権関連諸分野にかかわるさまざまな立場で活躍されているゲスト・スピーカーを招聘する。

秋学期：別記の「授業の計画」に示した内容を、講義、演奏、シンポジウム、発表の形式によりおこなう予定。

昨年度までの講座の概要は、文学部ホームページの寄附講座の項で紹介されています。

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

サンスクリットⅠ（初級）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

教科書：ヤン・ホンダ著・鎧淳譯『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

参考書：辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリットⅡ（中級）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト等は参加者の希望で決める。

アラビア語Ⅰ（基礎）

言語文化研究所 助教授 野 元 晋

アラビア語初学者を対象とし、アラビア語文法の初級文法の修得を目的とします。春学期はアラビア文字の書き方、基本的な発音、単語の表記法、名詞、形容詞など、秋学期は動詞を中心に講義し、基礎的な文法事項を一年かけて学習していきます。下記の教科書、参考書以外にも、多くの補助的プリントを用いる予定です。

教科書：佐々木淑子著『改訂版アラビア語入門』（青山社）

参考書：David Cowan, *An Introduction to Modern Literary Arabic* (Cambridge University Press)

アラビア語Ⅱ（現代文講読）

言語文化研究所 講師 稲 葉 隆 政

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。テキストについては、履修者と相談して決めます。

アラビア語Ⅱ（古典）

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

初級文法を終えたばかりの人を対象に文法の復習に重点を置きながら平易な散文を読みます。文法の初歩以上の予備知識や経験は要求致しません。

テキストはプリントを準備します。はじめは母音符合のついたやさしいものにします。

アラビア語文献講読

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

定評ある古典をあたりまえに読めるようになることを目標にやってみようと思います。

テキストは履修者と相談して決めます。

ヴェトナム語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 春 日 淳

ヴェトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能なる程度を目指す。

教科書：『ベトナム語入門Ⅰ』（慶應義塾外国語学校）

ヴェトナム語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋 尾 稔

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋 尾 稔

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。テキストは、受講者と相談して決める。

ベルシア語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 関 喜 房

岡崎正孝著『基礎ベルシア語』（大学書林）を使い、現代ベルシア語文法を全くの初歩から講義します。

文法は前期で終え、後期からは易しい文章を読むつもりです。履修希望者は必ず最初の時間から出席してください。

教科書：岡崎正孝著『基礎ベルシア語』（大学書林）

ベルシア語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

初級文法を学び終えた人を対象に文献講読を行います。ベルシア語は文法で押さえるというより、読み慣れが大きな働きをする言葉なので、散文をたくさん読みたいと思います。テキストはネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』を予定しています。

教科書：ネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』

タイ語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 教授 三 上 直 光

タイ語の初級文法及び初級会話を学ぶ。タイ語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。

テキスト：プリント

参考書：三上直光著『タイ語の基礎』（白水社）

タイ語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 ボンシー・ライト

このクラスでは、主にタイの小学校の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの向上を目指します。

更に、スピーキング、リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

トルコ語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

教科書：プリント使用

トルコ語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキストは履修者と相談して決めます。

朝鮮語文献講読

文学部 教授 野 村 伸 一（春学期）

言語文化研究所 講師 李 泰 文（秋学期）

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、図像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませ

んが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。

分野別のリストは開講後に提示します。後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが、一点にしなければならないはいはこちらから提案します。設置講座の性格上、受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭会話の能力は必要ありません。テキストは受講者と相談して決めます。

カンボジア語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 教授 三 上 直 光

カンボジア語の初級文法及び初級会話を学ぶ。カンボジア語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。
テキストは開講時に指示する。

ヘブライ語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

旧約聖書のヘブライ語の初歩。テキストはルツ記を用いるが、プリントを授業で配布する。英語ないしドイツ語による辞書（¥2,500～¥10,000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

ヘブライ語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

サムエル記の講読。テキストはクラスで配布する。

古代エジプト語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

後期エジプト語の初歩。テキストは授業で配布する。5月頃から辞書（約¥9,000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

古代エジプト語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

中期エジプト語の初歩。テキストは「難破した水夫」。辞書は Raymond O. Faulkner, *A Concise Dictionary of Middle Egyptian* Oxford (Amazon US で \$ 45) が必要となる。秋学期には後期エジプト語テキストも合わせて講読する。

アッカド語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 高 井 啓 介

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

教科書：Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

アッカド語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 高 井 啓 介

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

〔参考〕平成16年度言語文化研究所特殊講座

科 目 名	教 員 名	単位数
サンスクリットⅠ（初級）	土 田 龍太郎	通年 2 単位
サンスクリットⅡ（中級）	土 田 龍太郎	
アラビア語Ⅰ（基礎）	野 元 晋	
アラビア語Ⅱ（現代文講読）	稲 葉 隆 政	
アラビア語Ⅱ（古典）	岩 見 隆	
アラビア語文献講読	岩 見 隆	
ヴェトナム語Ⅰ（初級）	春 日 淳	
ヴェトナム語Ⅱ（中級）	嶋 尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋 尾 稔	
ペルシア語Ⅰ（初級）	関 喜 房	
ペルシア語Ⅱ（中級）	岩 見 隆	
タイ語Ⅰ（初級）	三 上 直 光	
タイ語Ⅱ（中級）	ボンシー・ライト	
トルコ語Ⅰ（初級）	アイドゥン・ヤマンラル	
トルコ語Ⅱ（中級）	アイドゥン・ヤマンラル	
朝鮮語文献講読	野 村 伸 一（春学期） 李 泰 文（秋学期）	
カンボジア語Ⅰ（初級）	三 上 直 光	
ヘブライ語Ⅰ（初級）	笈 川 博 一	
ヘブライ語Ⅱ（中級）	笈 川 博 一	
古代エジプト語Ⅰ（初級）	笈 川 博 一	
古代エジプト語Ⅱ（中級）	笈 川 博 一	
アッカド語Ⅰ（初級）	高 井 啓 介	
アッカド語Ⅱ（中級）	高 井 啓 介	

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和 21 年（1946 年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年（1996 年）に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたことになります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていましたが（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりも研究生（新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年（1996 年）には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年（1999 年）10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップブルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成 12 年 4 月より）。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名（2～4 年生）の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってほしいと思います。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2 年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱い、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上
- ※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。
- 3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成16年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科 目 名	単位数	講 師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	玉木 明
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	河野 武司
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	手塚千鶴子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	畠 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ	春2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅱ	秋2	内山 隆
日吉設置科目	メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	伊藤 高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	小川 恒夫
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	萩原 滋

＊研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）（新規募集なし）	春2／秋2	渡辺 秀樹
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	小澤 太郎

＊特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	上野 邦治
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	池田 諸苗
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	前澤 哲爾
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2／秋2	小川 浩一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	佐藤公正・大石裕
日吉設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	菅谷実・金山智子

＊基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	村上久仁子
三田設置科目	放送制作Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	碓井 広義
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	酒井由紀子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅲ・Ⅳ	春2／秋2	酒井由紀子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	金山 智子
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

マス・コミュニケーション論Ⅰ	大石 裕
マス・コミュニケーションと政治 授業科目の内容： 本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。 テキスト： ・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会 ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣 参考書： ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部 ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社	
マス・コミュニケーション論Ⅱ	大石 裕
政治コミュニケーションの理論と分析 授業科目の内容： 本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それを用いて現実の政治社会（主として戦後日本社会）について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。 テキスト： ・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房 ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣 参考書： ・大石 裕『コミュニケーション研究』 ・ルークス『現代権力論批判』未来社	
マス・コミュニケーション発達史Ⅰ	大井 眞二
近代化の位相とマス・コミュニケーション 授業科目の内容： 日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパスベクディブから振り返ってみたい。近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程にいれて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。 テキスト： 特に指定しない。適宜資料を配付する。 参考書： ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年	
マス・コミュニケーション発達史Ⅱ	大井 眞二
デモクラシーとマス・メディア 授業科目の内容： 日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。 これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。 テキスト： 講義の際に指示する。 参考書： ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社	
国際コミュニケーション論Ⅰ	内藤 耕

国際報道の現状とニュースの流れの構造

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくにⅠでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中にご案内します。

参考書：

・鶴木眞『情報政治学』三嶺書房、2002年

国際コミュニケーション論Ⅱ	内藤 耕
メディアのグローバリゼーションと文化摩擦 授業科目の内容： グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Ⅰを受講している必要はありません。 テキスト： 学期中に案内します。 参考書： 適宜、授業中に紹介します。	
メディア法制Ⅰ	林 紘一郎
授業科目の内容： 本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。 テキスト： ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定） 参考書： ・松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年	
メディア法制Ⅱ	林 紘一郎
授業科目の内容： 本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。 テキスト： ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定） 参考書： ・松井茂記『インターネットの憲法学』岩波書店、2002年	
ジャーナリズム論Ⅰ	玉木 明
授業科目の内容： 明治以来のジャーナリズム史を概観し、日本のジャーナリズムの特殊性を考察する。	

テキスト：
・玉木明著「ゴシップと醜聞」（洋泉社 680 円）
参考書：
・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

ジャーナリズム論 II	玉 木 明
-------------	-------

授業科目の内容：
中立公平・客観報道の限界が露呈してきた 1960 年代、アメリカで起こったニュー・ジャーナリズムに注目し、その具体的な成果（作品）の分析を通して、新しいジャーナリズムの在り方を考察する。
テキスト：
・玉木明著「言語としてのニュー・ジャーナリズム」（洋泉社 2000 円）
参考書：
・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

世 論 I	河 野 武 司
-------	---------

世論と政治
授業科目の内容：
デモクラシーは、世論による政治と言われる。しかし世論とは一体全体何なんだろうか。国民の多数が賛成する意見なのであろうか。国民の多数が賛成する意見は正しいものなのだろうか。本講義では、世論についての定義や概念を明らかにした後、政治や社会を動かす原動力とみなされている世論が、今日において相応しく機能しているか否かといった問題を考察します。
テキスト：
特に指定しません。
参考書：
授業中に適宜紹介します。

世 論 II	河 野 武 司
--------	---------

世論調査データの分析
授業科目の内容：
今日いわゆる世論の方向と量は、世論調査によって測定されますが、本講義では世論調査データの分析方法の基礎を、コンピュータ室における実習を通して、身につけることを目的としています。実習にあたっては統計解析ソフトである SPSS を用います。
テキスト：
特に指定しません。
参考書：
・酒井麻衣子『SPSS 完全活用法—データの入力と加工』（東京図書、2001 年、2800 円）
・西澤由隆、西澤浩美訳『誰にでもできる SPSS によるサーベイリサーチ』（丸善株式会社、1997 年、2900 円）
その他授業中に適宜紹介します。

情報行動論 I	福 田 充
---------	-------

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題
授業科目の内容：
高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容に関して、具体的なメディア利用の現象を社会学的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎編である。
テキスト：
・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。
参考書：
・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会
・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

情報行動論 II	福 田 充
----------	-------

ユビキタス社会における情報行動の変容
授業科目の内容：
現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。
テキスト：
・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。
参考書：
・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会
・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

異文化間コミュニケーション	手 塚 千鶴子
---------------	---------

日本人学生と留学生との交流をめざして
授業科目の内容：
グローバル化下での世界的な人口移動の激しい現代、日本人は、国内外で初めて多様な外国人と広範囲にしかも日常的な接触を持つようになっていく。この授業では、近代の「知識」「情報」「モノ」の欧米からの一方的な異文化受容の歴史が、日本人の異文化コミュニケーションに与えた負の遺産をふまえつつ、双方向で普段着の異文化コミュニケーションをめざす現代の日本人にとっての課題を明らかにし、異文化コミュニケーションの基本的概念、枠組みを理解しながら、実際に日本人学生が、キャンパスの留学生達とどうコミュニケーションしていけばよいのか、留学生との授業内外の交流体験を通して、異文化コミュニケーションの基本的態度やスキルを身に付けることを目的とします。
テキスト：
特に指定せず資料を配布します。参考書：
・「異文化コミュニケーション・ワークブック」（三修社）
・「異文化への理解」（東京大学出版会）

メディア文化論 I	鳶 信 彦
-----------	-------

各種メディアの特質とメディア・リテラシー
授業科目の内容：
テレビ、新聞、ラジオ、インターネットなど各種メディアの特色とその影響力を検証し、メディアリテラシーの重要性を考える。学生たちに構想力や現場主義について体験論を講義。
テキスト：
・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。
参考書：
・鳶信彦著「ニュースキャスターたちの 24 時間」（講談社 α 文庫、1999 年）

メディア文化論 II	白 水 繁 彦
------------	---------

メディアが作りだす地域や集団のイメージ
授業科目の内容：
地域や集団のイメージ作りに欠かせないメディアのあり方を具体的に且つクリティカルに検討する。内容は；まず、観光地イメージの形成とメディアの働き例としてハワイをとりあげる。つぎにイメージ作りに欠かせない手段である広告の分析手法を学ぶ。次いで、一般になじみにくいエスニック・メディアの実態分析を通して、マジョリティの外国人イメージを逆照射する。
テキスト：
・山中速人『ハワイ』岩波新書 1993 年 740 円、その他プリント
参考書：
・白水繁彦『エスニック文化の社会学』
・同『エスニック・メディア』

メディア産業と政策 I 菅 谷 実

メディア政策基礎理論とメディア・コンテンツ

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半はメディア産業の個別政策課題（本年度は映画を中心とした映像コンテンツ産業を取り上げる）を中心に論じる。

テキスト：

・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002 年

メディア産業と政策 II 菅 谷 実

米国のメディア政策

授業科目の内容：（講義回数の目安）

本講義では米国のメディア産業の発展史、放送、通信、ケーブルテレビを含む各メディアの市場および産業構造、政策の変容などを体系的に明らかにする。

情報産業論 I 宿 南 達志郎

授業科目の内容：

情報産業について、とりわけ技術革新により変化の激しい、コンピュータ、通信、放送、出版等を中心に講義します。大きな流れとしては、デジタル化（電子化）、ネットワーク化、パーソナル化、ブロードバンド化などがあります。

これらのメディア間の競合・補完について、最新の情報に基づき、普及状況や利用形態を含め、日本と海外との比較を交えながら解説します。例えば、地上波デジタル放送、携帯電話への放送受信機能の搭載、映像のインターネット配信、ウェアラブル・コンピュータなどについて学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料はプリントの配布または Web サイトでの閲覧とする予定です。

参考書：

・総務省（編）「情報通信白書 平成 15 年版」ぎょうせい 2003 年
・野村総合研究所「これから情報・通信市場で何が起ころのか 2004 年版」東洋経済新報社 2003 年

情報産業論 II 内 山 隆

経営戦略と政府政策

授業科目の内容：

情報産業といわれたときにイメージされる業種、一例えば放送・通信、新聞・出版、映画・映像、などには二面性があります。それは先進国では一大産業セクターとなること、そして文化・思想の育成機関であることです。産業が持続可能であるためには、これらの一面だけを追求するのではなく、その両立を図ることを考えなければなりません。本講義では産業としての側面から、情報産業の他産業に対する特色を考え、同時に豊かな文化を築くという経営使命を達成する方法としての経営戦略と政府政策を考えていきます。なお講義トピックとして、以下のことを中心に講義を進める予定です。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・菅谷実・中村清編『放送メディアの経済学』中央経済社、2000 年
・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002 年

メディア・コミュニケーション論 I（日吉）伊 藤 高 史

メディアと公共性の変容と情報社会

授業科目の内容：

メディア・コミュニケーションという言葉は、個人と個人が顔をつきあわせて行う「対面的」コミュニケーション（パーソナル・コミュニケーション）に対して使われる言葉です。ですから、まずは、対面的コミュニケーションとメディア・コミュニケーションの関係などについて議論から講義を始めます。そして、情報社会と言われ

る今日において、両者の関係がどのように変化しつつあるのか、また、メディア・コミュニケーションそのものがどのように変容しつつあるのかについて、社会学および法律学的な観点から解説します。

参考書：

・鶴木真編『客観報道』成文堂
・阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房

メディア・コミュニケーション論 II（日吉）伊 藤 高 史

情報社会時代の情報操作と表現の自由

授業科目の内容：

秋学期は特に、メディアの送り手という視点に立って、メディア・コミュニケーションについて講義します。昨今では、個人がインターネットを利用して、一般に向かって広く情報発信をすることが容易になりました。その一方で、欧米での政治キャンペーンの場などでは、既存のマスメディアを利用する広報専門家「スピンドクター」の存在が大きな関心と呼んでいます。情報化社会になり、誰でもが情報発信できる時代だからこそ、有力なメディアを利用する能力が必要になっているのかもしれませんが。こうした状況の変化について、表現の自由に関する議論や既存のマスメディア研究、ジャーナリズム研究の視点を踏まえて、講義していきます。

参考書：

・津金澤聡廣、佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』ミネルヴァ書房

マス・コミュニケーション論 I（日吉）小 川 恒 夫

政治とメディアの相関図

授業科目の内容：

極めて遠く離れた場所に、ただちにメッセージを送ったり、また何百人もの人々に同じような意味を伝達するといった、今日われわれがもっている驚くべき能力は、私達にとってきわめてなじみ深いものであるために、ともするとそのような能力を当然のことのように見なししてしまう。しかし、このような能力が、個人的に、あるいはまた集会的に、われわれにどんな影響を与えているのか、またこれがわれわれの未来をどのようなものにしていくのか、こうしたことについて明確な予測をすることは難しいのが現状である。

本授業の中心的課題は、これらの問題に答えるべく、これまでに現れてきた主要な論述を概観し、1) マス・コミュニケーションはどのようにして発生したか、その結果、2) 個人や社会秩序に対してどのような結果がもたらされたかの点について考察を行うことにある。

参考書：

・大石裕著「コミュニケーション研究」慶應大学出版会

社会心理学 I（日吉）萩 原 滋

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題、すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

参考書：

適宜、指示する

社会心理学 II（日吉）萩 原 滋

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」の過程を取り上げるが、前者に関しては「説得的コミュニケーションと態度変容」、後者に関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

参考書：

適宜、指示する

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	萩原 滋
----------	------

メディア利用と社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2 年ないし 3 年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

・田崎篤郎・児島和人編著 (2003) マス・コミュニケーション効果研究の展開[改訂新版] 北樹出版（もう 1 冊は、追って指示する）

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	菅谷 実
----------	------

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究（2003 年度は、「LOVEMUSIC 変わり行く音楽産業」）、4 年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ (www.mediacom.keio.ac.jp) を参照のこと。

成績評価方法：

- ・授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。
- ・なお研究会Ⅵは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	宿南 達志郎
----------	--------

授業科目の内容：

本研究会では、インターネット及び携帯電話などの情報通信メディアを中心に、メディアの発展の歴史、情報通信産業の構造、情報通信政策の変化、経済・社会の変化などについて実証的に研究していく。

テキスト：

- ・春学期：岡田・松田（編）「ケータイ学入門」有斐閣選書 2002 年
- ・秋学期：研究生の皆さんと議論して決定

参考書：

- ・林紘一郎「電子情報通信産業」コロナ社 2002 年
- ・総務省（編）「情報通信白書 平成 15 年版」ぎょうせい 2003 年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	金山 智子
----------	-------

授業科目の内容：

本研究会は、情報コミュニケーション技術 (ICT) の普及が社会や個人に与える影響をテーマにさまざまな観点から研究します。技術普及と社会との関係をクリティカルに考察し、分析する力の養成を目指します。また、これまで議論されてきた情報化や ICT の活用にとらわれることなく、市民や NPO による創造的なメディアや ICT の活用についても考察します。

テキスト：

現在未定ですが、基礎文献リストを用意します。

参考書：

折々のテーマに即して紹介します。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	伊藤 高史
----------	-------

メディアと表現の自由にかかわる諸問題についての学際的研究

授業科目の内容：

メディア論やコミュニケーション論は、様々な学問分野からアプローチされるべき学際的分野です。春学期には、社会学、法学、政治学といった各分野からメディアあるいはコミュニケーションにアプローチした諸論文を提示しますので、担当者にそれら論文について報告してもらい、互いに討論します。これを通じて、学問的な考え方や研究方法を身につけてもらいたいと思います。また適宜、メディアとコミュニケーションに関連した事件を取りあげて、解説、討議してもらいます。秋学期には履修者の修了論文完成に向けて、メディアをとりまく具体的な問題等についての、出席者の個人研究発表を中心に進めます。

参考書：

- ・『コミュニケーションの政治学』（鶴木真編、慶應大学出版）

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	伊藤 陽一
----------	-------

情報化と近代化

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

- ・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」
- ・関口一郎（編）「コミュニケーションのしくみと作用」大修館、1999 年

参考書：

- ・稲葉三千男「コミュニケーション発達史」創風社、1989 年
- ・竹内成明「コミュニケーション物語」人文書院、1986 年
- ・香内三郎「活字文化の誕生」晶文社、1982 年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	渡辺 秀樹
----------	-------

映画の社会学

授業科目の内容：

映画を素材とする社会学的考察がテーマ。ビデオを見ながら社会学的視点、枠組に慣れ、社会学的なものの考え方 (Sociological way of thinking) を育てることを目的とする。

参考書：

- ・田中直毅・長田弘「この百年の話 ― 映画で語る二十世紀」ほか多数

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	大石 裕
----------	------

ジャーナリズムについて考える

授業科目の内容：

- ・ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的文献や論文を輪読する。
- ・各グループごとに新聞報道を中心に分析を行う。
- ・修了論文の発表を行う（4 年生中心）。

テキスト：

- ・大石裕他『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・田村紀雄他編著『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社
- ・リップマン『世論』岩波文庫

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	小澤 太郎
----------	-------

電子社会の公共選択論

授業科目の内容：

情報通信社会の光と影を、学際的に検討したいと思います。春学

期は、「技術」と「米国の国家戦略」を軽視する、我が国の通信行政の歪みを取り上げます。秋学期は、電子政府の可能性と弊害について考えてみたいと思います。

テキスト：

春学期：石黒一憲『電子社会の法と経済』岩波書店、2003 年（秋学期は未定）

参考書：

春学期

- ①石黒一憲『IT 戦略の法と技術』信山社、2003 年
- ②中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2003 年
- ③金子郁容編『総合政策学の最先端Ⅱ：インターネット社会・組織革新・SFC 教育』慶應義塾大学出版会、2003 年

放送特殊講義Ⅰ 上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅰ

授業科目の内容：

テレビ番組はこんなことをしていいのか？世論の厳しい目が光る中、テレビ界にも自主・自律の動きも出てきた。テレビ界にいるものの立場から、現状（問題番組）を実例検証し、テレビのあるべき姿を考察する。

放送特殊講義Ⅱ 上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅱ

授業科目の内容：

（教材 ビデオ・テープ）

放送特殊講義Ⅰに続いてテレビ番組の現状（問題番組）を、そのつど実例検証し、テレビ界のあるべき姿を考察する
メディア規制の動きが強まる中、テレビ界は、自主、自律を守るため、どうすべきか提議し、学生とともに検討する。

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ 河原理子

授業科目の内容：

- ・事件報道（特に被害者への取材報道）を軸に、新聞の現状、役割と課題を学ぶ。
 - ・多角的な視点を身につけ、より良き読み手になる。
（借り物の批判でなく、自分の目で見て考えられるように。また、自分だったらどう書くか、まで考えたい）
 - ・自分で調べ、当事者の話を聞き、説得力ある文章を書くことを目指す。
 - ・ひとを取材するのに最低限必要なマナーと配慮を学ぶ。
- ★Ⅰで基礎となる視点を鍛え、Ⅱはできるだけ実践的に進めたい。

テキスト：

- ・プリントを配布

参考書：

- ・河原理子著「犯罪被害者」（平凡社新書、1999 年）
- ・William Cote, Roger Simpson 著 “Covering Violence”（Columbia Univ. Press 2000 年）

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ 池田諸苗

授業科目の内容：

広告業界に身を置く者としての観点から、(1) 経済システムにおける「広告」の役割、(2) 広告会社の今日的業務の実態、(3) 最新の広告業界動向と将来見通し、の 3 点を学んでいただくことを目的としたプログラムを編成。講師は、内容ごとの専門家によるオムニバス形式を基本とし、適宜池田による「まとめ」を織り交ぜる。春学期は主に「過去～現在」、秋学期は主に「現在～未来」を対象領域とする。

メディア特殊講義Ⅰ 境真良

コンテンツ財の経済からエンタメビジネスの産業構造を「読む」

授業科目の内容：

娯楽系コンテンツ財の経済という視点から、資金調達とビジネス

モデルを二つのキーワードに、現在のエンタメ・コンテンツ産業のしくみを再解釈します。単にお金の運動として説明するのではなく、関係者の慣習や主観がどのような理由で形成されるかを重視します。IT 二重革命や、国際化に代表される地殻変動の中で、今後エンタメ・コンテンツ産業がどこへ行くのかを考える基本的な力を身につけることが目標です。

テキスト：

特にありません。講義資料プリントを配付します。

参考書：

- ・映像コンテンツ産業論（菅谷実、他、2002、丸善）
- ・経済産業省メディアコンテンツ課の各報告（www.meti.go.jp からダウンロード可能）

メディア特殊講義Ⅱ 前澤哲爾

映画産業と映画振興～2004 年、今起っていること

授業科目の内容：

現実の映画を取り巻く環境を国際的な視野で学ぶことの中から、実態を把握する力と主体的に考える力を自ら発見します。

参考書：

適宜、推薦します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 映画産業の構造 (2)
3. 日本の映画状況
4. アジアの映画状況
5. 世界の映画状況
6. 世界の映画祭 (2)
7. 映画振興策 (2)
8. フィルムコミッション (2)
9. これからの展望

履修者へのコメント：

常に疑問を持ち、積極的に質問する学生を希望します。ノートだけ取る学生は不用です。

成績評価方法：

- ・平常点（参加度、積極性、出席率）

質問・相談：

常に OK です。maezawa@film-com.jp

特殊研究Ⅰ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本社会の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアは如何なる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

- ・沢山あるので授業時に指示しますが、岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了すること。

特殊研究Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアはいかなる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

- ・岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了しておくこと。

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ (三田)宿南達志郎 (日吉)菅谷実 (日吉)金山智子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の 2 週間以上、各企業のインターンシップに参加す

る。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度メディア産業実習Ⅱを登録し、インターンシップに参加することができる。

ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	佐藤 公正 大石 裕
----------------	---------------

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講義は、第一線で活躍中の朝日新聞の記者をお招きし、ジャーナリズムの諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

- ・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

参考書：

- ・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

時事英語Ⅰ・Ⅱ（三田・日吉）	小林 雅一
----------------	-------

外国メディアの報道から学ぶ現代社会と世界情勢

授業科目の内容：

英字紙・誌の記事を無理なく読解・咀嚼できるようになることが基本的な狙い。時にはビデオを教材にし、放送英語にも接する。「時事」英語なので、英語を通して世界の最新情勢を学ぶ。それによって、より実践的な英語力が養われる。

テキスト：

- ・特に指定しません。教材を配布します。

参考書：

- ・講義が進む中で、順に指定します。

文章作法Ⅰ・Ⅱ	村上 久仁子
---------	--------

「伝わる」文章を書く

授業科目の内容：

文章を書く、ということは「伝える」ということと同時に自分の思考や感性を突き詰める作業でもあります。それだけに個性が強く表れます。その個性を活かしつつ、伝えようとする内容が効果的に読み手に届く、そのような作文能力を引き出すことを目指します。

参考書：

- ・本多勝一「日本語の作文技術」（朝日新聞社）

放送制作Ⅰ・Ⅱ	碓井 広義
---------	-------

映像制作で考えるテレビ・メディア

授業科目の内容：

2003年12月から始まった地上デジタル放送。送受信のシステムが変化しても、そこで流されるコンテンツ（番組）の重要性は変わりません。むしろ、これまで以上に「創ること」に対する認識が高まると思われます。この授業では映像制作をしながらテレビ・メディアを考察してゆきます。

テキスト：

- ・碓井広義「テレビの教科書」（PHP新書・2003年・700円）

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ	酒井 由紀子
-------------------	--------

映像編集の技術

授業科目の内容：

インターネット放送に必要な、ノンリニア編集を学びます。

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ	酒井 由紀子
-------------------	--------

インターネット放送の仕組みを学ぶ

授業科目の内容：

- ・インターネット放送の仕組みを学び、実際に配信を体験します。

メディア・コミュニケーション実習Ⅲ	酒井 由紀子
-------------------	--------

映像制作を通して学ぶインターネット放送（初級）

授業科目の内容：

- ・映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。（初級編）

メディア・コミュニケーション実習Ⅳ	酒井 由紀子
-------------------	--------

映像制作を通して学ぶインターネット放送（初中級）

授業科目の内容：

- ・映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。（初中級編）

電子ネットワーク調査法Ⅰ（日吉）	金山 智子
------------------	-------

授業科目の内容：

インターネットの普及は、現代社会に生きる人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。本講義では、人々がサイバースペースで繰り広げるコミュニケーション行動やヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを研究するための調査方法について学びます。春学期は電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。

教科書：

- ・特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

- ・池田謙一『ネットワーキング・コミュニティ』東京大学出版会

電子ネットワーク調査法Ⅱ（日吉）	金山 智子
------------------	-------

授業科目の内容：

秋学期は主に質問調査、内容分析、インタビュー、及び参与観察の調査方法について学びます。調査方法の選定、各調査方法を実施する際の留意点、さらにデータの分析方法も身につけます。実際に小グループで電子ネットワークに関する調査を実施し、クラスで発表してもらいます。

教科書：

- ・特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

- ・スティーブ・ジョーンズ『ドゥーイング インターネット リサーチ』セージ

文章作法Ⅰ（日吉）	栗田 亘
-----------	------

「天声人語」流に

授業科目の内容：

- ・各自が実際に「書く」ことを通じて、文章の上達をめざす。

文章作法Ⅱ（日吉）	栗田 亘
-----------	------

文章作法Ⅰの成果を発展させて

授業科目の内容：

- ・文章作法Ⅰ以上に実践を重んじ、さまざまな実戦に備える。

外国語教育研究センターは、語学視聴覚教育研究室を改組して、昨年の10月に発足しました。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語およびスペイン語の6外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、毎年夏休みに慶應立科山荘で行われていた集中セミナーに替わる集中講座を新たなコンセプトのもとに企画しています。計画が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者の募集をする予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

ガイダンス日程：4月5日（月）12：20～12：50 533 番教室
受講料は無料です。

定員を超えた場合は抽選となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧（三田）

- * 科目名に (A) (B) と表記されている科目は春 (A)・秋 (B) をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に (1) (2) と表記されている科目は春 (1) と秋 (2) のどちらかひとつを履修しても、あるいは両方履修することも可能です。
- * 英語 Grammar in Action: Speaking and Writing と英語アカデミックライティングは春または秋のどちらかの履修のみ可能です。

語 種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	アドバンスト英語 (A) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春	火・4	25	半期	1
	アドバンスト英語 (B) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	秋			半期	1
	アドバンスト英語 (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春 秋			通年	2
	英語TOEFL 対策 (1) (Developing TOEFL Skills I)	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1
	英語TOEFL 対策 (2) (Developing TOEFL Skills II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1
	英語TOEIC 対策 (1) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	春	月・2	30	半期	1
	英語TOEIC 対策 (2) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	秋			半期	1
	英語アカデミックライティング (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春 秋	月・5	25	半期	1
	経済・金融英語 (1) (130パターンでおぼえる経済英語の常識)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	経済・金融英語 (2) (130パターンでおぼえる金融英語の常識)	日向 清人	秋			半期	1
	法律・法務英語 (1) (130パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	法律・法務英語 (2) (130パターンでおぼえる契約関係の英語)	日向 清人	秋			半期	1
ド イ ツ 語	ドイツ語表現技法Ⅳ (A) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅳ (B) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	秋			半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅳ (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春 秋			通年	2

語 種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時間	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法Ⅴ (A) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ (B) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルド	秋			半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ (中・上級文章表現法)	ドゥッペル・タカヤマ, メヒティルド	春 秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法Ⅱ (1) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅱ (2) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ (1) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ (2) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ (1) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春	木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ (2) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法Ⅰ (1) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅰ (2) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	秋			半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ (1) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋	木・4	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ (2) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋			半期	1
中国語	中国語リスニングⅡ (1) (最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春	月・3	25	半期	1
	中国語リスニングⅡ (2) (最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	秋			半期	1
	中国語ライティングⅡ (1) (最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語ライティングⅡ (2) (最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法Ⅲ (1) (上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	春	月・2	25	半期	1
	スペイン語表現技法Ⅲ (2) (上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	秋			半期	1

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00～10:30		10:45～12:15		13:00～14:30		14:45～16:15		16:30～18:00	
月			英語TOEIC対策 (1) スペイン語表現技法Ⅲ (1) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (1) フランス語表現技法Ⅱ (1) 中国語リスニングⅡ (1) (最上級)	日向 ルカウ・エ 山下	法律・法務英語 (1) ドイツ語表現技法Ⅳ (A) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (1)	日向 三瓶 ルカウ・エ	中国語ライティングⅡ (1) (最上級) 英語アカデミックライティング	蔭 和田
火							ドイツ・ハンスト英語 (A) (最上級) ドイツ・ハンスト英語 (最上級) ドイツ語表現技法Ⅴ (A) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイザイト トウツアヘ ルータカヤマ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (1)	ベリセロ					ロシア語表現技法Ⅱ (1)	宮澤	英語TOEFL対策 (1)	ハロウス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (1)	熊野谷				
土										

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00～10:30		10:45～12:15		13:00～14:30		14:45～16:15		16:30～18:00	
月			英語TOEIC対策 (2) スペイン語表現技法Ⅲ (2) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (2) フランス語表現技法Ⅱ (2) 中国語リスニングⅡ (2) (最上級)	日向 ルカウ・エ 山下	法律・法務英語 (2) ドイツ語表現技法Ⅳ (B) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (2)	日向 三瓶 ルカウ・エ	中国語ライティングⅡ (2) (最上級) 英語アカデミックライティング	蔭 和田
火							ドイツ・ハンスト英語 (B) (最上級) ドイツ・ハンスト英語 (最上級) ドイツ語表現技法Ⅴ (B) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイザイト トウツアヘ ルータカヤマ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (2)	ベリセロ					ロシア語表現技法Ⅱ (2)	宮澤	英語TOEFL対策 (2)	ハロウス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (2)	熊野谷				
土										

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立ただけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月2日（金） 2時限目（10：45～12：15） 513番教室

2 受講申し込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申し込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月 9日（金） 9：00～16：00

4月10日（土） 9：00～14：00（11：30～12：30は昼休み）

4月12日（月） 9：00～16：00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申し込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申し込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室（日吉学事センター内） 045-566-1019

5 平成16年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要ですが、文学部、経済学部、法学部、商学部生については当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目（文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報処理Ⅰ）を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ（パソコンによる情報整理学）」を申し込む場合には受講料（12,000円）は免除されます。申し込み方法は変更ありませんが、必ず学生証を提示してください。

平成16年度 情報処理教育室設置講座（三田）

講 座 名	クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12 A 藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13 B 江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14 A 田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A 鴻巣 努				

開講曜日・時限は学部の時間割ではなく、情報処理教育室設置講座の時間割に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日（木）から開始されます。

参考：平成16年度 情報処理教育室設置講座（日吉）

講 座 名	クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅰ	11 A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	13 A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。基本情報技術者試験 (FE) 午後の Java の問題に取り組めるレベルを到達目標とします。

教科書：

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業科目の内容：

ITC のパソコンを利用して、コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。けれども、それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出ても役立たせることが目的である。したがって、パソコンの使い方を憶えるのではなく、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みについて理解し、ネットワークを用いたコミュニケーションについても理解することが大切である。この講義では、できるだけ多くの実習をとりいれる予定であるが、限られた時間の中で細かな点までを教えることは到底できない。諸君が空いた時間を利用して、自発的に実習することが前提になっている。

教科書：

・ Computer System Workbook 「日本語文書処理」, 同「表計算 1」, (株) コンピュータ教育工学研究所

参考書：

・ Computer System Textbook 「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業科目の内容：

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

教科書：

・ 大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 ― JIS 1992 年版準拠 ― サイエンス社

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

教科書：

・ 室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

・ 東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
・ 田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏 崎 千佳子	経済学部助教授
大 串 尚 代	文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する必要があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間： 2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容： ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各 A4 一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students. (柏崎 千佳子 経済学部助教授)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前 野 隆 司 理工学部助教授
池 田 幸 弘 経済学部教授

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 ― ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があります。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Ancient Greece and Western Civilization および Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火）Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探究します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 国際研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

*いずれも日吉は 10:00～11:30, 12:30～16:00

*土曜日は 10:00～11:30, 12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板（日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板）に掲示されます。

I 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

異文化研究：文化、価値と自己理解

(2 単位) (春 火 3)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE

(2 Credits) (Spring Tue 3)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Culture has two sides, a visible side - food, clothing, architecture - and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.

Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

世界政治におけるラテンアメリカ

(2 単位) (春 火 5)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(2 Credits) (Spring Tue 5)

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW: ISSUES, PROCEDURES, AND ADVOCACY, STRATEGIES REGARDING THE
PROMOTION AND PROTECTION OF HUMAN RIGHTS WORLDWIDE

(2 Credits) (Spring Tue 5)

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer International Center

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, *International Human Rights: Law, Policy and Process* (3rd ed. 2001) and supplement *Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law*

DEATH AND LOSS IN AUSTRALIAN SOCIETY: A CULTURAL INTRODUCTION

(2 Credits) (Spring Wed 2)

ケルヒア, アラン

国際センター講師 (ラトロブ大学教授)

Allan Kellehear

Lecturer, International Center (Professor, La Trobe University)

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape - and are shaped by - experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict - race, gender and class - that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

グローバルビジネスにおける革新と戦略	(2 単位) (春 金 3)
INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	(2 Credits) (Spring Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert I. Tobin	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy-and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel
 Supplementary Reading Materials and Case Studies
 Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

産業史各論 (科学技術政策史)	(2 単位) (秋 月 1)
HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	(2 Credits) (Fall Mon 1)
ルイス, ジョナサン	商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)
Jonathan Lewis	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.
 Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.
 Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.
 L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.
 Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.
 Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.
 Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.
 Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.
 加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000
 中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

アジアの政治, 宗教, 文化	(2 単位) (秋 月 4)
POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
秋尾沙戸子	国際センター講師 (ジャーナリスト)
Satoko Akio	Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

アメリカ研究：アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史	(2 単位) (秋 月 4)
AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
奥田暁代	法学部助教授
Akiyo Okuda	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2 単位) (秋 月 4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR-Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
 山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店2000年

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(2単位) (秋 火 4)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY

(2 Credits) (Fall Tue 4)

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
 Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

カナダという国とカナダの国際的な役割

(2単位) (秋 火 5)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(2 Credits) (Fall Tue 5)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

比較映画論：映画における過去観の諸文化比較

(2単位) (秋 水 2)

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

(2 Credits) (Fall Wed 2)

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to "re-create" past events, and present a "window on the past", others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)

FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)

HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)

JFK (U.S.A., 1991)

THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)

QUILOMBO (BRAZIL, 1984)

REDS (U.S.A., 1981)

SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)

TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

WALKER (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味		(2 単位) (秋 木 5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA		(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師 (関西外国語大学助教授)	
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)	

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント		(2 単位) (秋 金 3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES		(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授	
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

国際開発協力論	(2 単位) (秋 金 4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年。

青木健・馬田啓一 (編)『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年。

後藤一美 (監修)『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年。

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2 単位) (秋 土 2)
EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, *Japan and the European Union*, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s - 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
Chapter 7 Addressing Global Agendas
Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £ 3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

Ⅱ 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1	—日本のコミュニケーションパターンから見た場合—	(2 単位) (春 月 5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE COMMUNICATION PATTERNS		(2 Credits) (Spring Mon 5)
手塚 千鶴子	国際センター助教授	
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center	

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/ joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra
Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba
Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson
Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff
An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef
Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

日本の金融ビッグバン	(2 単位) (春 火 3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E.	商学部非常勤講師
Graham Harris O.B.E.	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2 単位) (春 火 3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンズ, アール H.	国際センター講師 (大正大学教授)
Earl H. Kinmonth	Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

多民族社会としての日本	(2 単位) (春 火 4)
MULTIETHNIC JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 4)
柏崎 千佳子	経済学部助教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

日本企業の経営戦略と管理手法	(2 単位) (春 火 4)
CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies	(2 Credits) (Spring Tue 4)
稲葉 エツ	国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)
Etsu Inaba	Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

浮世と道行き	(2 単位) (春 水 3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Armour Andrew	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/ukiyo.htm)

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

日本の経営	(2 単位) (春 水 3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津 光弘	商学部専任講師
Mitsuhiro Umezu	Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Readings:

TBA

美術を「よむ」－日本美術史入門	(2 単位) (春 水 4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Wed 4)
河合 正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師 (セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師 (ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)

Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory

Todaiji and the Shosoin

Courtly Literature and Kana Calligraphy
 Zen Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Japanese trade and relations with China and Europe
 Rinpa Painting and Calligraphy
 Literati Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Kabuki and 17th Century Genre Painting
 Kazari, Japanese Design and Decoration
 Ukiyo-e and Surimono
 Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), *The Burghley House Porcelains*. New York: Japan Society, 1986.
 Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," Positions: East Asian Cultures Critique vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.
 Fontein, Jan and Money Hickman, *Zen Painting and Calligraphy*. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.
 Guth, Christine, *Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868*. New York: H.N. Abrams, 1996.
 Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), *Porcelain for Palaces*. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.
 Mason, Penelope, *History of Japanese Art*. New York: H.N. Abrams, 1993.
 Mikami Tsugio. *Japanese Ceramics*. New York: Heibonsha International, 1977.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.
 Pearson, Richard, *Ancient Japan*. Washington, DC: Smithsonian Institution.
 Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, *Decoration and Display in Japan 15th - 19th Centuries*. London: British Museum Press, 2003.
 Singer, Robert, *Edo, Arts of Japan*. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.
 Wilson, Wilson, *Inside Japanese Ceramics*. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)
 The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983
 The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

日本の政治と外交	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
添谷 芳秀	法学部教授
Yoshihide Soeya	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, shown in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

ジャパニーズ・エコノミー	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE ECONOMY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
小島 明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all

discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap - Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession - Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

エコノミー・オブ・ジャパン	(2 単位) (春 土 2)
ECONOMY OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US — Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

太田 昭子

Akiko Ohta

法学部教授

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 ―異文化接触における日本人のアイデンティティー

(2単位) (秋 月 5)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

手塚 千鶴子

Chizuko Tezuka

国際センター助教授

Associate Professor, International Center

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherheel, 1991.

Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.

Foreign Studies (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

日本の文学	(2 単位) (秋 水 3)
JAPANESE LITERATURE	(2 Credits) (Fall Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jilt.htm)

Recommended Readings:

A list reference works and useful links are available on-line.

20 世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響	(2 単位) (秋 水 5)
THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION	(2 Credits) (Fall Wed 5)
レイサイド, ジェイムス	法学部教授
James M. Raeside	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』
English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour
 Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』
English Translation: A strange Tale from East of the River
 Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』, 『地獄変』, 『河童』
English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa
 Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』, 『蓼喰う虫』
English Translation Naomi: Some Prefer Nettles
 Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』, 『憂国』
English Translation: Thirst for Love: "Patriotism"
 Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』
English Translation Silence
 Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』
 (There Stands my Pagoda)
 Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』
English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!
 Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』
English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－	(2単位) (秋 木 4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A Critical Look at the Unique Features of Japanese Regulations and Government Involvement	(2 Credits) (Fall Thu 4)
伊藤 規子	商学部助教授
Noriko Ito	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家，詩人，評論家	(2単位) (秋 金 3)
THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS UNDER THE WARTIME STATE	(2 Credits) (Fall Fri 3)
ドーシー, ジェームス	国際センター講師 (ダートマス大学助教授)
James Dorsey	Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.

Kawabata Yasunari, *Snow Country*, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000円.

Ishikawa Tatsuzō, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500円.

All other readings will be made available in copy form.

日本経済の展望	(2単位) (秋 金 4)
ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
市川 博也	国際センター講師 (上智大学教授)
Hiroya Ichikawa	Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

NPO/NGO 実践講座 ―日本のケース	(2 単位) (秋 金 4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明	国際センター講師 (ピース ウィンズ ジャパン 渉外)
Hiroaki Ishii	Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?”

This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO's activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

日本の宗教：救済の探求	(2 単位) (秋 金 4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as “Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion - Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities - art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle - “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

体 育 科 目〔三田設置〕 (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間制変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、8 科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

- (1) 体育学講義 (2 単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位)..... 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位).....「身体活動」実技 A~D の 4 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の 2 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ..... 週 1 回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ..... 夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 5 日(月) 2 限 および 5 限 519 番教室(西校舎、いずれの時限も同じ内容です。)

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください(制限内容の記載のあるもの)。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重） 視力 検尿 血圧
胸部X線 ヘルスチェック 内科（指示された者） 心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30
4月14日	水	男子(10時開始)	男子
15日	木	女子	女子
16日	金	男子	男子
17日	土	女子	男子
19日	月	男子	女子

(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30
4月20日	火	男子	男子
21日	水	女子	男子
22日	木	男子	男子
24日	土	男子	男子
26日	月	男子	

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（木）から14日（水）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。第2週目以降は、各授業担当者より許可証を受け取ってください。
- (ウ) 履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 日吉設置科目の履修者数の調整

日吉設置の体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

（日吉設置科目）

調整結果発表 4月24日（土）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、定員に余裕のある体育実技および体育学演習は追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受 付 日 時	受 付 場 所
4 月 26 日（月） 9:15～11:30, 12:30～16:00 27 日（火） 9:15～11:30, 12:30～15:00	体育研究所（陸上競技場側）
4 月 28 日（水） から 5 月修正申告期間終了まで （平日） 8:45～17:00 （土） 8:45～14:15	日吉学事センター 7 番窓口

（注）以上のいずれかで「体育研究所許可証」を取得してください。

② 修正申告（学事センター）

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①，②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ（合宿科目）の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式 6 科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実 技 費 用 納 入 科 目
アウトドアレクリエーション，山岳，スキー，スケート，馬術，ヨット

① 実技費用納入日時

4 月 24 日（土） 8:45～14:15

26 日（月）～ 30 日（金） 8:45～17:00（祝日を除く）

② 実技費用納入場所（証紙貼付）

日吉学事センター 7 番窓口（納入用紙交付）

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます（実技費用納入順，前 (5) 項参照）。

体 育 実 技 実 施 要 項 〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(初級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

テニスの技術だけでなく、マナーやルールを学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット、テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(中級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

いままでの技術のさらなる向上を目指し、試合に生かせるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット・テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ (ハードまたはオールコート用)

体育実技 A (テニス)

(中級～打ち合いで安定して 10 往復以上続けられる方)

村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために必要な技術・戦術を学びます。また、エチケット、ルールを再確認します。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

- ・テニスシューズ
- ・テニスラケット

体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを

促進する。生涯スポーツとして楽しめるようにバレーボールを実践する。

〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装、屋外シューズ

体育実技 A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの基本的技術、戦術を習得するとともに、フットサルの楽しさを味わってもらうことを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

〔服装・携行品・その他〕

スポーツのできる格好。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふく為)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバック等

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリー・スポーツの授業は、射法、射術の習得を目標とします。スポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対するのに対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館 (正巳弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装 (ボタンや胸ポケットのないもの)。靴下または足袋を持参すること。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者までのすべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の实力アップを図りましょう。そ

して、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

【服装・携行品・その他】

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可） 手ぬぐい

※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

体育実技 A（柔道）

（初心者、経験者を問わない～男女共習） 安藤 勝英

【授業の目的】

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。

更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

【服装・携行品・その他】

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〈個人種目〉

体育実技 A（ダンス）

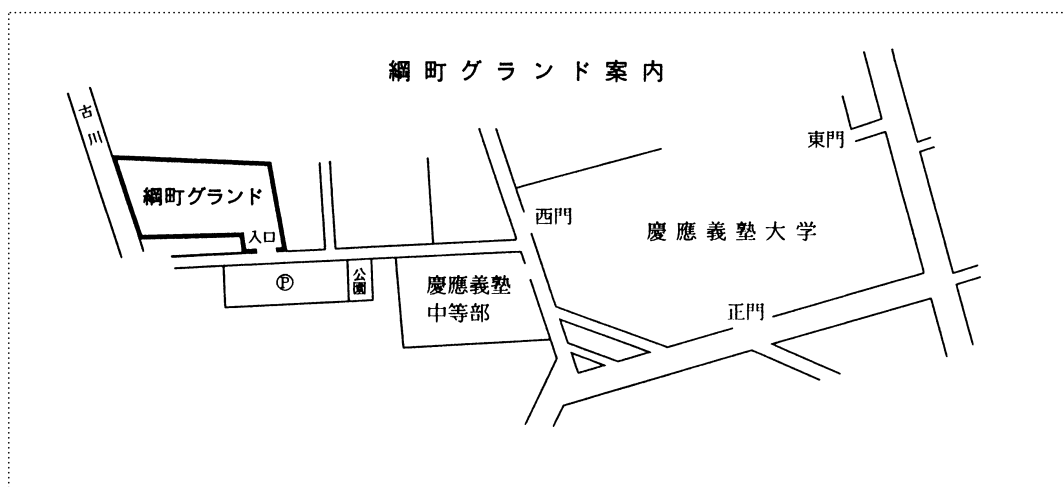
「ボールルームダンス」（入門及び初級） 篠原 しげ子

【授業の目的】

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり、組んで踊るので相手の動きも理解し、協力して動けるようになる。

【実施場所】

綱町グラウンド 武道館（剣道場）



平成 16 (2004) 年度 **体育実技 A・体育実技 B (シーズン・スポーツ) 実施要領一覧**〔日吉設置科目〕

実施月 (学期)	科 目	定員	実 施 日 程 (開始時間)	実 施 場 所	備 考
7・8月 (春)	体育実技 A (空手)	40	7/28 (水) ~ 8/4 (水) 日曜を除く 7 日間 (10:00)	空手部道場 (蝸谷)	
	体育実技 A (弓術)	40	〃 (9:00)	志正弓道場 (〃)	¥500 (教本)
	体育実技 A (少林寺拳法)	30	〃 (9:00)	拳法道場 (〃)	
	体育実技 A (水泳)	50	〃 (13:00)	日吉プール	
	体育実技 A (軟式野球)	40	〃 (9:30)	日吉台野球場 (蝸谷)	
	体育実技 B (山岳) (合宿)	50	8/3 (火) ~ 6 (金)	八ヶ岳連峰 (長野)	¥35,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (馬術) (合宿)	36	7/29 (木) 8:00 日吉 ~ 8/1 (日)	馬術競技場 (山梨)	¥49,000 ※ (交通費含む)
	体育実技 B (ヨット) (合宿)	40	8/2 (月) 14:00 ~ 5 (木)	ヨット部合宿所 (神奈川・三浦)	¥37,000 ※ (交通費除く)
9月 (秋)	体育実技 A (器械体操) (新体操含む~女子のみ)	30	9/13 (月) ~ 22 (水) 土曜・日曜・祝日を除く 7 日間 (15:00)	日吉記念館	
	体育実技 A (端艇)	20	9/15 (水) ~ 24 (金) 日曜・祝日を除く 7 日間 (9:00)	端艇部戸田艇庫 (埼玉)	埼京線戸田公園駅 下車 10 分
	体育実技 B (バレーボール) 「夏のバレーボール」	30	9/15 (水) ~ 22 (水) 日曜・祝日を除く 6 日間 (10:00)	日吉記念館	
	体育実技 B (アウトドア レクリエーション) (合宿)	50	9/2 (木) ~ 6 (月)	慶應義塾立科山荘 (長野)	¥26,000 ※ (交通費除く)
2月 (秋)	体育実技 B (スキー) (合宿)	150	2/8 (火) ~ 11 (金)	志賀高原発着温泉スキー場 (長野)	¥45,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (スケート) (合宿)	40	2/7 (月) ~ 10 (木)	軽井沢スケートセンター (長野)	¥27,000 ※ (交通費除く)

※ 合宿科目費用納入

納入日時 4月24日(土) ~ 30日(金) 8:45~17:00 (ただし、土曜は、14:15 まで)

納入場所 日吉学事センター 7 番窓口

(費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。)

○ 終了時間等の質問については、初回授業で担当者に聞いてください。

知的資産センター設置講座（平成 16 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎 1 階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清 水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ペンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質疑の時間を設けます。

日本語・日本文化教育センター設置講座

日本語教育学講座

外国人における日本語教育が一つの専門分野として確立されている現在、日本語教育に携わる者には、言語教育に関する専門的かつ体系的な知識ならびに教授法上の技能が要求されています。また、今後はさらに本塾内外における国際交流が活性化し、外国人留学生に対する日本語教育プログラムの必要性は高まることが予想され、それに伴い優れた日本語教員を養成することが本センターの重要な使命となっています。本講座は、かかる時代の要請に応えるべく設置されています。

学部学生は、所定の条件を満たした場合、本講座の基礎科目（全6科目）を受講することができます。受講資格、選考試験、受講料、単位等についての詳細は以下のとおりです。また、本講座の募集要項を本センター事務室で配布しています。（募集要項の内容は、<http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/jp/tjf/index.html>でも公開しています。）

受講資格

慶應義塾大学学部在籍学生で、文学部設置科目「日本語学Ⅰ」または「日本語学Ⅱ」から1科目、および「日本語教授法Ⅰ」または「日本語教授法Ⅱ」から1科目の合計2科目を履修し、単位を修得した者。かつ、日本語・日本文化教育センターが実施する所定の選考試験に合格した者。

募集人員

若干名

ガイダンス

新規出願者は、所定のガイダンス（2004年度は4月7日（水）16:30～教室は後日掲示）に必ず参加してください。参加できない場合は、事前に日本語・日本文化教育センターに必ず連絡をしてください。

手続方法

所定の選考試験を受けて合格した場合、受講が認められます。

履修申告以外の諸手続は、全て日本語・日本文化教育センター事務室にて行ってください。

- ・出願手続：2004年4月8日（木）9:00～16:00 日本語・日本文化教育センター事務室にて必要書類および審査料
 - ・志願書（所定用紙）
 - ・履歴書（用紙は任意。カラー写真1枚を必ず貼付のこと。）
 - ・成績証明書（最新のもの）
 - ・審査料 3,000円
- ・選考試験：2004年4月9日（金）18:10～ 教室は日本語・日本文化教育センター掲示板で発表
- ・合格者発表：2004年4月12日（月）午後（予定） 日本語・日本文化教育センター掲示板
- ・受講手続：2004年4月14日（水）、15日（木）9:00～16:00 日本語・日本文化教育センター事務室「履修届（所定用紙）」および受講料（1単位15,000円）が必要。
- ・履修申告：以上の手続を終えた後に、学事センターにて必ず履修申告を行ってください（履修申告期間に注意）。なお、履修登録番号は、合格発表時にお知らせします。
履修申告にあたっては、春学期開講科目だけでなく、秋学期開講科目についても行ってください。

単位の取り扱い（文学部生）

文学部において、本講座基礎科目の単位は、「専門教育科目（選択科目）」の単位として取り扱われます。必ず学事センターで履修申告をしてください。

受講方法

基礎科目はどの科目から受講しても構いません。専門科目は、学部学生は受講できません。

受講料（2004年度）

受講料（1単位）15,000円（1科目 30,000円）

2004年度 日本語教育学講座時間割

*教室は、各学期のはじめに日本語・日本文化教育センター掲示板でお知らせします。

	科目名	単位	担当者名	開講学期	曜日・時限
基礎科目	日本教育学1	2	重松 淳	春	火・5
	日本教育学2	2	市川 保子	春	月・5
	日本教育学3	2	田中 妙子	秋	水・5
	日本教育学4	2	長谷川 恒雄	秋	火・5
	日本教育学5	2	村田 年	春	木・5
	日本教育学6	2	村田 年	秋	木・5

問い合わせ先

慶應義塾大学

日本語・日本文化教育センター（国際センター内）：三田キャンパス大学院校舎1階311番教室

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1614

FAX: 03-5427-1638

URL: http://www.ic.keio.ac.jp/nncenter/j_index.html

日本語教育学1 日本語の音声

重 松 淳 総合政策学部教授

授業科目の内容：

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行なうため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観する。

教科書：

担当者作成

参考書：

『日本語の音声』窪蘭晴夫著 岩波書店

『日本語教育をめざす人のための 基礎から学ぶ音声学』鹿島央著 スリーエーネットワーク

授業の計画：

1. ガイダンス（1回）
 2. 日本語音声の基礎知識
 - 2-1 音声学の専門用語（計2回）
 - 2-2 音声記号（計2回）
 - 2-3 実音声の記号化（計2回）
 - 2-4 日本語の韻律（アクセント・イントネーション）（計2回）
 3. 音声教育の基本技能
 - 3-1 学習者の音声の諸問題（1回）
 - 3-2 学習者の音声における音素・異音等の指摘（1回）
 4. 音声教育の実践
 - 4-1 教材作成のアイデア（1回）
 5. 最終発表とレポート提出（1回）
- 以上計13回の予定

履修者へのコメント：

なるべく遅刻・欠席のないようにしてください。4回以上欠席した場合は、単位を出さない可能性があります。

成績評価方法：

平常点（出席と参加度）、期間中の課題提出、最終発表および最終レポートによる総合評価

質問・相談：

授業時間外の質問はE-mailにて受け付けます。

日本語教育学 2 日本語教育のための日本語文法について

市 川 保 子 日本語・日本文化教育センター非常勤講師

授業科目の内容：

- ・「外国人に対する日本語教育のための日本語文法」とは何か、どうあるべきかについて実例を通して学びます。
- ・日本語文法の体系的なとらえ方とともに、個別の文法項目についても学習します。
- ・日本語文法に対する理解を深めるとともに、日本語教育の指導に結びつけていくための、基本的な力を身に付けることが本講義の目標です。

教科書：

- ・日本語教育指導参考書 22『日本語教育のための文法用語』国立国語研究所 600 円

参考書：

- ・『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- ・『続・日本語誤用例文小辞典 ― 接続詞・副詞 ―』凡人社

日本語教育学 3 日本語教育における会話の指導方法

田 中 妙 子 国際センター専任講師

授業科目の内容：

日本語の会話に関する諸問題を概観した上で、日本語教育における会話能力の育成について、特に初級段階での指導内容・指導方法の検討、教材の分析等を行う。また、待遇表現についての基礎的知識、指導上の問題点についても触れる。

教科書：

開講時に指示

参考書：

開講時に指示

日本語教育学 4

長谷川 恒雄 国際センター教授

授業科目の内容：

本科目は、日本語教育についての基本的な知識を提供することを目的としている。授業は、第2言語教育・教授活動の史の変遷を俯瞰し、その枠組みから日本語教育の歴史を考える。また、この視点に立ち、現在の日本語教育を学習者・学習目的・日本語学習支援者・施策等の諸側面から再把握し、これからの日本語教育に言語管理論・コースデザイン論・異文化理解教育等が求められる必然性を理解し、多様な日本語教育の実態の理解を再考察する。時間があれば、これからの日本語教育のあり方、例えば国際協力・開発、地域支援に絡む日本語教育についても触れたい。

教科書：

自作プリントを授業時に配布

日本語教育学 5

村 田 年 国際センター教授

授業科目の内容：

日本語教育における実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級前半レベルの教材分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、文型教育を柱とした授業の方法、教材・教具の扱い方を学ぶ。

教科書：

『初級 日本語 新装版』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

参考書：

『ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房

授業科目の内容：

日本語教育学 5 の内容をふまえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、文型教育を柱とした授業の展開方法、教材・教具の扱い方を学び、同時にシラバス作成、コースデザインの立て方を考える。

教科書：

『初級 日本語 新装版』東京外国語大学日本語教育センター編 凡人社

参考書：

ここからはじまる日本語教育』ひつじ書房